鳥取県教育文化財団調査報告書28

一般国道９号（羽合道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ

鳥取県東伯郡泊村

UTANI

宇谷第１遺跡

鳥取県東伯郡羽合町

MINAMIDANIOONARU

南谷大ナル遺跡

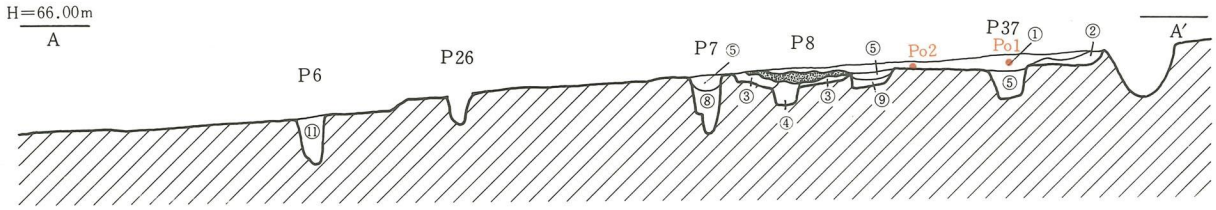
1992

財団法人　鳥取県教育文化財団

建設省　倉吉工事事務所

正　誤　表

頁	行	誤	正
序　文	19	発掘発掘委託契約	発掘委託契約
序　文	23	幸に	幸いに
目　次	21	堅穴	竪穴
図版目次（1）	図版14 3行目	完振	完掘
〃(2)	図版19 2行目	SI 完掘	SI01完掘
〃(2)	図版21 2行目	（東より）	（南より）
〃(2)	図版21 3行目	（西より）	（東より）
〃(2)	図版25 1行目	Po55～Po58、Po	Po55～Po58
〃(2)	図版25 4行目	Po 89)	Po89、Po90)
〃(2)	図版42 4行目	Po455)	Po445)
1	19	1992年４月～1993年３月	1991年４月～1992年３月
1	25	堅穴	竪穴
2	11	堅穴	竪穴
2	26	溝状機構	溝状遺構
10	24	Ｐ６（26×26－32）	Ｐ６（26×26－32）cm
17	挿図６	Ａ － Ａ′断面	



20	挿図７	△勾玉	△砥石
21	41	Po190	トル
51	32	やや古い	やや新しい
56	挿表４	（SK15）0.70×0.34×チェック	0.70×0.34
56	挿表４	（SK16） 0.89×0.30×チェック	0.89×0.30
63	2	ＳＤ00	ＳＤ02
109			
			S=1/3 0 10cm
図版21		SD02完掘状況（西より）	SD02完掘状況（南より）
図版25		Po71	Po71
図版40		Po403内面	Po40３

序

東郷池周辺は、古くから遺跡の宝庫として知られています。東郷池の北東に位置する羽合町には、国史跡の橋津古墳群や砂丘下の大集落であった長瀬高浜遺跡など全国に知られた遺跡があります。また泊村では、集落跡や古墳のほか銅鐸などの貴重な遺物も出土しています。さらに、東郷町では国史跡の北山古墳をはじめとする古墳群や集落跡などがあります。なかでも、伯耆国(鳥取県西部)の一宮であった倭文神社では、経筒・金銅仏などの遺物が出土し、「伯耆一宮経塚出土品」として国宝に指定されています。

このような遺跡地帯を、当財団が昨年度にひきつづき建設省の委託を受け、「一般国道9号(羽合道路)改築工事に伴う発掘調査」として泊村と羽合町で行いました。

その結果、集落跡2か所などが発掘され、砂丘下の大集落であった長瀬高浜遺跡の空白期間を埋める時期の集落跡が丘陵地で調査されるなど、郷土の歴史を解き明かしていくうえで貴重な資料を得ることができました。今回、この貴重な調査成果を報告書にまとめ刊行することができました。

本報告書が教育および学術研究のため広く活用され、歴史の解明の一助になればと期待するとともに、文化財に対する理解や認識がより深まり、その成果が永く後世に伝えられれば幸いです。

最後に、建設省倉吉工事事務所ならびに交通の不便な所にもかかわらず調査に参加してくださった地元の方々をはじめ、ご協力いただいた方々、その他関係各位に対して心から感謝し、厚くお礼申し上げます。

平成4年3月

財団法人 鳥取県教育文化財団

理事長 西 尾 邑 次

序　文

建設省が管理する一般国道９号は、京都市を起点として福知山を経由し、蒲生峠から山陰地方へ入り、日本海に沿って鳥取・島根両県を西走し、山口県下関に至る延長約609㎞の路線であり、山陰地方の産業・経済活動の動脈として大きな役割を果たしています。

このうち建設省倉吉工事事務所では、東伯郡泊村から米子市(鳥取・島根県境)まで約80㎞を管理しており、各種の道路整備事業を実施しています。そのうちの一つに東伯郡羽合町及び泊村地内において、将来の国土開発幹線道路として当面、活用できる機能を有する高規格な自動車専用道路である羽合道路の整備を進めています。

羽合道路は、泊村原地内でインターチェンジにより現道９号及び㊟倉吉青谷線とアクセスし、羽合町長瀬でインターチェンジによって北条道路一般部とアクセスしますが、途中東郷湖が見渡せる位置にサービスエリアが予定されている延長６㎞の県中部地方ではじめての高規格道路で、昭和61年度に国道９号のバイパス事業として事業に着手しましたが、63年度に高規格な機能を持たすよう構造変更を行い、同年用地買収に着手しました。平成２年度からは、羽合高架橋下部工事に着手し、今年度は６基を残して完了しました。

このルートには、全部で10か所の古墳・散布地がありますが、鳥取県教育委員会と協議を行い、文化財保護法第57条の３の規定に基づき文化庁長官へ通知した結果、事前に発掘調査を行い記録保存を行うこととなりました。

このうち今年度は、工事の予定工程等を考慮し調整した結果、「宇谷第１遺跡」「南谷大ナル遺跡」「南谷大山遺跡」の３か所について財団法人鳥取県教育文化財団と発掘委託契約を締結し、鳥取県教育委員会の指導のもとに発掘調査が行われました。残りの箇所についても４年度に引続き発掘発掘委託契約を締結し、発掘調査を進めていただく予定です。

本書は、この調査結果に学術的な考察を加え、「記録」として保存するためにまとめられたものです。この貴重な「記録」が文化財に対する認識と理解を深めるため、並びに教育及び学術研究のために広く活用されることを期待するとともに、建設省の道路事業が、文化財保護に深い関心を持っていることに御理解をいただければ幸に存じます。

おわりに、事前の協議をはじめ現地での調査から報告書の編集に至るまでご協力をいただいた鳥取県教育委員会及び財団法人鳥取県教育文化財団の関係各位のご尽力に対し感謝いたします。

平成４年３月

建設省 倉吉工事事務所長

岡　田　清　彦

例　　言

1．本報告書は、1991年度一般国道９号(羽合道路)改築工事に伴う泊村大字宇谷字宇野谷地区（宇谷第１遺跡)、羽合町大字南谷字大ナル地区(南谷大ナル遺跡)の埋蔵文化財発掘調査記録である。

2．本報告書に収載した宇谷第１遺跡は周知の名称であるが、南谷大ナル遺跡は新発見の遺跡の為、周知の南谷遺跡と区別するために大字と小字名を並べて命名したものである。

3．本報告書に収載した遺跡の所在地は、宇谷第１遺跡が泊村大字宇谷字宇野谷474-1、字清水563-5他４筆、南谷大ナル遺跡が羽合町大字南谷字大ナル263-1、263-5である。

4．本報告書で示す標高は建設省の道路センター杭を基準とし、宇谷第１遺跡は№60＋20(X：－55420.9577　Y：－37781.9886)、57.412m、南谷大ナル遺跡は№89(X：－56047.4965　Y：－40429.8712)、54.148mを起点とする標高値で方位は磁北である。X：、Y：は国土座標第５系である。

5．本報告書に記載の地形図は国土地理院発行の１／50000地形図「青谷・倉吉」、調査区位置図は羽合町の１／2500地形図「都市計画計画図５」、泊村の１／2500地形図「地区再編農業構造改善事業計画樹立現況平面図５」を使用した。

6．本報告書の作成は調査員の討議に基づくものである。

報告書本文については調査員が分担して執筆し、執筆担当者名は目次に記載した。

挿図のうち、遺構実測は調査員、補助員、及び業者委託して行った。

遺構の浄写は中部埋蔵文化財調査事務所で、遺物の実測・浄写は、鳥取県埋蔵文化財センターで行った。

遺構写真は発掘担当調査員が、遺物写真は牧本・岸本が撮影した。

本書の編集は米田が行った。

7．出土遺物、図面、スライド等は鳥取県埋蔵文化財センターに保管されている。ただし、出土遺物は将来的に泊村教育委員会及び羽合町教育委員会に移管する予定である。

8．今年度調査で確認した竪穴住居跡の構造とこれからの住居跡の調査の方法についての指導助言を奈良国立文化財研究所の浅川滋男研究官から頂いた。

9．宇谷第１遺跡の住居内土坑出土の炭化物を京都産業大学理学部年代測定室の山田治教授にC^{14}測定をお願いした。

10．鳥取県工業試験所の佐藤公彦研究員に宇谷第１遺跡の竪穴住居内より出土した炭化物の樹種鑑定をお願いした。

11．本年度調査区出土の石器、玉類を鳥取大学教育学部の赤木三郎教授に材質鑑定をして頂いた。

12．現地調査及び報告書作成にあたって、下記の方々に指導助言・協力して頂いた。

伊藤　和彦、木村　良夫、国田修二郎、小原　貴樹、真田　廣幸、
清水　真一、瀧川　友子、土井　珠美、中野　知照、西尾　克己、
根鈴　輝男、根鈴智津子、広江　耕治、松本美佐子、宮本　正保、
森下　哲哉

（五十音順、敬称略）

凡　　例

1．発掘調査時における遺構番号と報告書の番号は、基本的に一致する。

2．本報告書における遺構記号は次のように表す。なお、掘立柱建物跡の柱穴のピット番号は、建物毎の番号とピット群の番号がある。

ＳＩ：竪穴住居跡　ＳＢ：掘立柱建物跡　ＳＫ：土坑・土壙　ＳＤ：溝状遺構　ＳＳ：段状遺構

Ｐ：柱穴・ピット

3．本報告書における実測図は下記の縮尺で掲載した。

(1)　**遺構図**ー竪穴住居跡：１／60、掘立柱建物跡：１／60、土坑・土壙：１／30、溝状遺構：１／60・１／100・１／400、段状遺構：１／60、ピット群：１／60・１／300

(2)　**遺物実測図**ー土器：１／３、土玉：１／２、鉄製品：１／２、勾玉・管玉：１／１、石器：１／１・１／２・１／３

4．ピットの規模は(長径×短径ー深さ)cmで表した。竪穴住居跡の規模は、壁溝を除いた床面の規模である。

5．遺構図における表示は以下の通りである。

：焼　土、　：貼　床

6．本報告書における遺物記号は次のように表す。

Ｐｏ：土器・土製品　Ｓ：石器・玉製品　Ｆ：鉄製品

7．土器実測図のうち、弥生土器・土師器は断面白抜き、須恵器は断面黒塗りで表現した。遺物実測図中における記号は以下の通りにする。

⟶：ケズリの方向(砂粒の動きで判断した)、┈┈┈：擦り範囲、―――：敲打範囲

：敲打面、●Ｐｏ：床面出土土器

8．遺物には、遺跡名、遺構名もしくはグリッド名、取り上げ番号、取り上げ年月日を基本的に記載した。遺跡名は次の略号を用いた。宇谷第１遺跡＝ＵＴ１、南谷大ナル遺跡＝ＯＮ。実測した遺物については、実測者の頭文字を使った実測者番号(ＫＲ－１、ＮＡ－１等)を２×５mm程度のシールに記し、それを個体ごとに貼り付け、実測原図にもその番号を記した。

9．遺物観察表については以下の通りとする。

(1)　法量の欄の番号は次の通りとする。

①口径②器高③胴部最大径④底部径⑤複合口縁立ち上がり長⑥須恵器坏蓋稜径⑦須恵器坏蓋口縁高⑧須恵器坏身基部径⑨須恵器坏身立ち上がり長である。その他の計測値については、その都度計測位置を記載した。また、実測の際に復元した計測値には、数値の後に※印、残存値は同様に△印を付した。

(2)　手法の欄に記載されている成形・調整・施文の方向は、実測図で表された方向である。

(3)　備考欄に記載してあるＫＲ－１等の番号は実測者番号である。

目　　次

序
序　文
例　言
凡　例
目　次
第１章　調査の経緯
　第１節　調査にいたる経緯 …… (米田)　1
　第２節　調査の経過と方法 …… (米田)　1
　第３節　調査体制 …… (米田)　4
第２章　位置と環境
　第１節　地理的環境 …… (岸本)　5
　第２節　歴史的環境 …… (牧本)　6
第３章　宇谷第１遺跡の調査
　第１節　宇谷第１遺跡の概要 …… (米田)　10
　第２節　宇谷第１遺跡の調査結果 …… (米田・牧本・岸本)　10
第４章　南谷大ナル遺跡の調査
　第１節　南谷大ナル遺跡の概要 …… (牧本)　57
　第２節　南谷大ナル遺跡の調査結果 …… (牧本)　57
第５章　遺構と遺物の検討
　第１節　宇谷第１遺跡の変遷と性格 …… (牧本)　65
　第２節　竪穴住居跡 …… (米田)　69
註・参考文献 …… 72
遺物実測図 …… 73
遺物観察表 …… (米田・牧本・岸本)　111
写真図版

挿　図　目　次

挿図１　道路建設ルートと調査区位置図 …… 3
挿図２　泊村・羽合町の位置 …… 5
挿図３　周辺遺跡分布図 …… 7
挿図４　宇谷第1遺跡調査前地形測量図 ……11・12・13
挿図５　宇谷第1遺跡遺構全体図 ……14・15・16
挿図６　宇谷第1遺跡SI01遺構図 ……17
挿図７　宇谷第1遺跡SI02・10遺構図 ……19・20
挿図８　宇谷第1遺跡SI03壺・甕類他出土状況図 ……22
挿図９　宇谷第1遺跡SI03高坏出土状況図 ……22
挿図10　宇谷第1遺跡SI03遺構図 ……23・24
挿図11　宇谷第1遺跡SK14遺構図 ……24
挿図12　宇谷第1遺跡SK15・16遺構図 ……24
挿図13　宇谷第1遺跡SI04・05遺構図 ……27・28
挿図14　宇谷第1遺跡SK12遺構図 ……29
挿図15　宇谷第1遺跡SK13遺構図 ……29
挿図16　宇谷第1遺跡SI06遺構図 ……31
挿図17　宇谷第1遺跡SI07遺構図 ……32・33
挿図18　宇谷第1遺跡SI08遺構図 ……36・37
挿図19　宇谷第1遺跡SI09遺構図 ……38・39
挿図20　宇谷第1遺跡SB01遺構図 ……41
挿図21　宇谷第1遺跡SB02遺構図 ……42
挿図22　宇谷第1遺跡SB03遺構図 ……43
挿図23　宇谷第1遺跡ピット群遺構図 ……44
挿図24　宇谷第1遺跡SK01遺構図 ……45
挿図25　宇谷第1遺跡SK02遺構図 ……46
挿図26　宇谷第1遺跡SK03遺構図 ……47
挿図27　宇谷第1遺跡SK04遺構図 ……48
挿図28　宇谷第1遺跡SK05・06遺構図 ……48
挿図29　宇谷第1遺跡SK07遺構図 ……49
挿図30　宇谷第1遺跡SK08遺構図 ……49
挿図31　宇谷第1遺跡SK10遺構図 ……49
挿図32　宇谷第1遺跡SK09遺構図 ……50
挿図33　宇谷第1遺跡SK11遺構図 ……50
挿図34　宇谷第1遺跡SD01遺構図 ……52・53
挿図35　宇谷第1遺跡SD04遺構図 ……54
挿図36　南谷大ナル遺跡調査前地形測量図 ……58・59
挿図37　南谷大ナル遺跡遺構全体図 ……58・59
挿図38　南谷大ナル遺跡SI01遺構図 ……60
挿図39　南谷大ナル遺跡SD01遺構図 ……61
挿図40　南谷大ナル遺跡SD02遺構図 ……62
挿図41　南谷大ナル遺跡SD03遺構図 ……62
挿図42　南谷大ナル遺跡SS01遺構図 ……63
挿図43　南谷大ナル遺跡ピット群遺構図 ……64
挿図44　宇谷第1遺跡の変遷過程図 ……67
挿図45　住居跡平面プラン変遷図 ……70
挿図46　宇谷第1遺跡SI01（Po1・Po2）
SI02（Po3～Po15）遺物実測図 ……73
挿図47　宇谷第1遺跡SI02（Po16～Po18・S1～S3）
SI10（Po19～Po22）遺物実測図 ……74
挿図48　宇谷第1遺跡SI03（Po23～Po29）遺物実測図 ……75
挿図49　宇谷第1遺跡SI03（Po30～Po43）遺物実測図 ……76
挿図50　宇谷第1遺跡SI03（Po44～Po58）遺物実測図 ……77
挿図51　宇谷第1遺跡SI03（Po59～Po74）遺物実測図 ……78
挿図52　宇谷第1遺跡SI03（Po75～Po90）遺物実測図 ……79
挿図53　宇谷第1遺跡SI03（Po91～Po97）遺物実測図 ……80
挿図54　宇谷第1遺跡SI03（Po98～Po104）遺物実測図 ……81
挿図55　宇谷第1遺跡SI03（Po105～Po112）遺物実測図 ……82
挿図56　宇谷第1遺跡SI03（Po113～Po125）遺物実測図 ……83
挿図57　宇谷第1遺跡SI03（Po126～Po147）遺物実測図 ……84
挿図58　宇谷第1遺跡SI03（Po148～Po158）遺物実測図 ……85
挿図59　宇谷第1遺跡SI03（Po159～Po168）遺物実測図 ……86
挿図60　宇谷第1遺跡SI03（Po169～Po179）遺物実測図 ……87
挿図61　宇谷第1遺跡SI03（Po180～Po197）遺物実測図 ……88
挿図62　宇谷第1遺跡SI03（Po198～Po222）遺物実測図 ……89
挿図63　宇谷第1遺跡SI03（Po223～Po239）遺物実測図 ……90
挿図64　宇谷第1遺跡SI03（Po240～Po258）遺物実測図 ……91
挿図65　宇谷第1遺跡SI03（Po259～Po261・F1・F2・S4～S6）
遺物実測図 ……92
挿図66　宇谷第1遺跡SI03（S7～S9）
SI04・05（Po262～Po271）遺物実測図93
挿図67　宇谷第1遺跡SI04・05（Po272～Po283、S10～S13）
遺物実測図94
挿図68　宇谷第1遺跡SI06（Po284～Po296）遺物実測図 ……95
挿図69　宇谷第1遺跡SI06（Po297～Po300）
SI07（Po301～Po310）遺物実測図 ……96
挿図70　宇谷第1遺跡SI07（Po311～Po320）遺物実測図 ……97
挿図71　宇谷第1遺跡SI07（Po321～Po330、S14）遺物実測図98
挿図72　宇谷第1遺跡SI08（Po331～Po344）遺物実測図 ……99
挿図73　宇谷第1遺跡SI08（Po345～Po360）遺物実測図 ……100
挿図74　宇谷第1遺跡SI08（Po361～Po374）遺物実測図 ……101
挿図75　宇谷第1遺跡SI08（Po375～Po389）遺物実測図 ……102
挿図76　宇谷第1遺跡SI08（Po390～Po407、S15）遺物実測図103
挿図77　宇谷第1遺跡SI08（S16・S17）
SI09（Po408～Po413、S18・S19）遺物実測図　104
挿図78　宇谷第1遺跡SK02（Po414）
SK03（Po415～Po418・F3）
SK04（Po419～Po421）
SK06（Po422）
SK07（Po423～Po424）遺物実測図 ……105
挿図79　宇谷第1遺跡SK09（Po425）
SK11（Po426）
SD01（Po427～Po439）遺物実測図 ……106
挿図80　宇谷第1遺跡SD02（Po440～Po452）
SD03（Po453～Po459）遺物実測図 ……107
挿図81　宇谷第1遺跡SD03（Po460～Po461）
SD05（Po462）

SB03(Po463)
遺構外(Po464～Po476・S20・S21)遺物実測図 108
挿図82 南谷大ナル遺跡SI01(Po1～Po7・S1)
SD02(Po8～Po12)遺物実測図…109
挿図83 南谷大ナル遺跡遺構外(Po13～Po25・S2)遺物実測図…110

挿表目次

挿表1 宇谷第1遺跡竪穴住居跡一覧表 ……55
挿表2 宇谷第1遺跡ピット群一覧表 ……55
挿表3 宇谷第1遺跡掘立柱建物跡一覧表 ……56
挿表4 宇谷第1遺跡土坑・土壙一覧表 ……56
挿表5 南谷大ナル遺跡ピット群一覧表……64
挿表6 宇谷第1遺跡出土土器観察表① ……111
挿表7 宇谷第1遺跡出土土器観察表② ……112
挿表8 宇谷第1遺跡出土土器観察表③ ……113
挿表9 宇谷第1遺跡出土土器観察表④ ……114
挿表10 宇谷第1遺跡出土土器観察表⑤ ……115
挿表11 宇谷第1遺跡出土土器観察表⑥ ……116
挿表12 宇谷第1遺跡出土土器観察表⑦ ……117
挿表13 宇谷第1遺跡出土土器観察表⑧ ……118
挿表14 宇谷第1遺跡出土土器観察表⑨ ……119
挿表15 宇谷第1遺跡出土土器観察表⑩ ……120
挿表16 宇谷第1遺跡出土土器観察表⑪ ……121
挿表17 宇谷第1遺跡出土土器観察表⑫ ……122
挿表18 宇谷第1遺跡出土土器観察表⑬ ……123
挿表19 宇谷第1遺跡出土土器観察表⑭ ……124
挿表20 宇谷第1遺跡出土土器観察表⑮ ……125
挿表21 宇谷第1遺跡出土土器観察表⑯ ……126
挿表22 宇谷第1遺跡出土土器観察表⑰ ……127
挿表23 宇谷第1遺跡出土土器観察表⑱ ……128
挿表24 宇谷第1遺跡出土土器観察表⑲ ……129
挿表25 宇谷第1遺跡出土土器観察表⑳ ……130
挿表26 宇谷第1遺跡土製品観察表……131
挿表27 宇谷第1遺跡鉄製品観察表……131
挿表28 宇谷第1遺跡石製品観察表……132
挿表29 南谷大ナル遺跡出土土器観察表……133
挿表30 南谷大ナル遺跡石製品観察表……133

図版目次

図版1 宇谷第1遺跡調査前全景(西上空より)
宇谷第1遺跡全景(南上空より)
図版2 宇谷第1遺跡SI01完掘状況(西より)
宇谷第1遺跡SI01焼土検出状況(北より)
宇谷第1遺跡SI02・10完掘状況(北より)
図版3 宇谷第1遺跡SI03土器出土状況(南より)
宇谷第1遺跡SI03完掘状況(南より)
宇谷第1遺跡SI03完掘状況(西より)
図版4 宇谷第1遺跡SI03南側仕切り溝完掘状況(北より)
宇谷第1遺跡SI03内SK15・16完掘状況(西より)
宇谷第1遺跡SI03甕(Po91)出土状況(南より)
図版5 宇谷第1遺跡SI03高坏(Po190)甕(Po26)出土状況(南より)
宇谷第1遺跡SI03甕(Po30)小型丸底壺(Po241)出土状況(北東より)
宇谷第1遺跡SI03刀子(F2)出土状況(北より)
図版6 宇谷第1遺跡SI04・05完掘状況(北より)
宇谷第1遺跡SI04・05完掘状況(西より)
宇谷第1遺跡SI04・05貼床除去後完掘状況(西より)
図版7 宇谷第1遺跡SI05内SK12炭化物出土状況(東より)
宇谷第1遺跡SI05内SK13炭化物出土状況(東より)
宇谷第1遺跡SI05内SK13完掘状況(東より)
図版8 宇谷第1遺跡SI06・07完掘状況(北より)
宇谷第1遺跡SI06ピット検出状況(北より)
宇谷第1遺跡SI06甕(Po284)出土状況(南より)
図版9 宇谷第1遺跡SD04完掘状況(北より)
宇谷第1遺跡SI07完掘状況(西より)
宇谷第1遺跡SI07内砥石(S14)出土状況(北より)
図版10 宇谷第1遺跡SI08完掘状況(北より)
宇谷第1遺跡SI09完掘状況(南より)
宇谷第1遺跡SI09柱穴位置(北より)
図版11 宇谷第1遺跡SI09柱穴位置(南より)
宇谷第1遺跡ピット群完掘状況(その1)(南より)
宇谷第1遺跡ピット群完掘状況(その2)(東より)
図版12 宇谷第1遺跡SB01完掘状況(北より)
宇谷第1遺跡SB02完掘状況(西より)
宇谷第1遺跡SB03完掘状況(北より)
図版13 宇谷第1遺跡SK01完掘状況(北より)
宇谷第1遺跡SK02完掘状況(東より)
宇谷第1遺跡SK03完掘状況(西より)
図版14 宇谷第1遺跡SK04遺物出土状況(東より)
宇谷第1遺跡SK04内台付鉢(Po421)出土状況(東より)
宇谷第1遺跡SK05(右)・06(左)完振状況(西より)
図版15 宇谷第1遺跡SK07検出状況(北より)
宇谷第1遺跡SK08遺物出土状況(南より)
宇谷第1遺跡SK09完掘状況(南より)
図版16 宇谷第1遺跡SK10完掘状況(北より)
宇谷第1遺跡SK11検出状況(南より)
宇谷第1遺跡SD02検出状況(南より)
図版17 宇谷第1遺跡SD01検出状況(南より)
宇谷第1遺跡SD01完掘状況(南より)
宇谷第1遺跡SD03検出状況(東より)

図版18 宇谷第1遺跡SD05検出状況(西より)
南谷大ナル遺跡調査前全景(東より)
南谷大ナル遺跡全景(北上空より)
図版19 南谷大ナル遺跡SI01検出状況(南より)
南谷大ナル遺跡SI完掘状況(南より)
南谷大ナル遺跡SI01貼床除去後完掘状況(南より)
図版20 南谷大ナル遺跡ピット群完掘状況(北西より)
南谷大ナル遺跡SS01石検出状況(北より)
南谷大ナル遺跡SS01完掘状況(北より)
図版21 南谷大ナル遺跡SD01完掘状況(北より)
南谷大ナル遺跡SD02完掘状況(東より)
南谷大ナル遺跡SD03完掘状況(西より)
図版22 宇谷第1遺跡SI01(Po1、Po2)・SI02(Po4～Po7、Po12～Po14、Po16、Po18、S1～S3)
図版23 宇谷第1遺跡SI03(Po23、Po24、Po26、Po27)
図版24 宇谷第1遺跡SI03(Po25、Po28～Po 39)
図版25 宇谷第1遺跡SI03(Po44～46、Po52、Po55～Po58、Po Po62、 Po66,Po67、Po71～Po74、Po76、Po78、Po81、Po83、Po84、Po 89)
図版26 宇谷第1遺跡SI 03(Po91～Po97)
図版27 宇谷第1遺跡SI 03(Po98、Po99、Po104～Po110、Po119)
図版28 宇谷第1遺跡SI03(Po121～Po123、Po142～Po144、Po 151、Po153、Po157)
図版29 宇谷第1遺跡SI03(Po148、Po150、Po152、Po158～Po 161)
図版30 宇谷第1遺跡SI03(Po162～Po169)
図版31 宇谷第1遺跡SI03(Po170、Po171、Po173～Po179)
図版32 宇谷第1遺跡SI03(Po182、Po186～Po188、Po190、Po 191、Po193、Po194、Po198)
図版33 宇谷第1遺跡SI03(Po195、Po197、Po203、 Po210、 Po 212～Po218、Po224～Po227、Po236、Po239)
図版34 宇谷第1遺跡SI03(Po228、Po230、Po240～Po243、Po 245～Po250、Po252、Po254～Po257)
図版35 宇谷第1遺跡SI03(Po244、F1、F2、S4～S9)
図版36 宇谷第1遺跡SI04・05(Po263～Po266、Po270～Po283、S10～S13)
図版37 宇谷第1遺跡SI06(Po284、Po288、Po295、Po297、Po 301、Po302、Po304、Po306、Po307、Po314)
図版38 宇谷第1遺跡SI07(Po311～Po313、Po320～Po326、Po 328、Po330、S14)
図版39 宇谷第1遺跡SI08(Po331～Po348、Po353)
図版40 宇谷第1遺跡SI08(Po352、Po354、Po355、 Po357、Po 359、Po360、Po368、Po382、Po384、Po388、Po395～Po403)
図版41 宇谷第1遺跡SI08(Po406、Po407、S15～S17)
SI09(Po408、Po412、Po413、S18、S19)
図版42 宇谷第1遺跡SK03(Po417、Po418、F3)・SK04(Po419～Po421)・SK06(Po422)・SK11(Po426)・SD01(Po429、Po436、Po438、Po439)・SD 02(Po440、Po444、Po455)
図版43 宇谷第1遺跡SD03(Po453、Po454、Po460、Po461)・SD 05(Po462)・SB03(Po463)・遺構外(Po464、Po465、S20、S21)・炭化種子
図版44 南谷大ナル遺跡SI01(Po1～Po4、S1)・SD02(Po10、Po11)
遺構外(Po17、Po18、Po20、Po22～Po 24、S2)

第１章　調査の経緯

第１節　調査に至る経緯

羽合道路　鳥取県中部地域の交通混雑緩和を図るために、1973年より一般国道９号改築工事として北条バイパスの建設が進められ、1990年11月に全面開通した。さらに、この工事の一環として羽合道路が1986年度に自動車専用道路として都市計画決定され、事業に着手し、その後、1988年度に高規格道路として計画変更された。この道路は、現道９号の泊村原地内のインターチェンジから、羽合町長瀬のインターチェンジを抜け北条バイパスに結ぶものである。

周辺遺跡　計画地内とその周辺は橋津・南谷・宇野(羽合町)、園(泊村)などの古墳群、南谷遺跡・乳母ヶ谷遺跡(羽合町)、宇谷第１遺跡・原第２遺跡(泊村)などの土器の散布地が丘陵上に存在し、文化財の宝庫である。

試掘調査　工事計画地内は、このように多くの遺跡が密集している地域でもあり、建設に先立って計画地内の遺跡の広がりを確認する必要性が生じた。そこで、1988～1990年度に亘って羽合町教育委員会が、1988年度には泊村教育委員会が、それぞれ国庫補助事業として各丘陵の尾根を中心に試掘調査を行った。そのうち、今年度調査にかかわる調査結果としては、羽合町地内においては、南谷大ナル遺跡（南谷所在遺跡）で溝状遺構１(Ｔ７)、南谷大山遺跡(イ)(南谷大山所在遺跡群)で竪穴住居跡・掘立柱建物跡各１・古墳２・周溝１・土壙２(Ｔ３～Ｔ７・Ｔ９）が確認され[(1)]、泊村地内においては宇谷第１遺跡で竪穴住居跡２・貯蔵穴１(Ｔ８・Ｔ10）が確認された[(2)]。

調査計画　これを受けて、建設省中国地方建設局倉吉工事事務所は、鳥取県教育委員会文化課と協議し、財団法人鳥取県教育文化財団に記録保存のため事前調査を委託した。委託を受けた当文化財団が調査計画を作成し、それに基づき、1992年4月～1993年3月の予定で中部埋蔵文化財調査事務所が発掘調査を担当することになった。今年度は宇谷第１遺跡4642㎡、南谷大山遺跡9932㎡、南谷大ナル遺跡342㎡の調査を実施した。

調査予定　来年度以降には、南谷ヒジリ遺跡、南谷大山遺跡(ロ)(ハ)、宇谷第１遺跡、原第２遺跡、園７号墳の調査が予定されている。

第２節　調査の経過と方法

宇谷第１遺跡　泊村教育委員会の行った宇谷第１遺跡の発掘調査で、弥生時代の貯蔵穴と竪穴住居跡、古墳時代の竪穴住居跡が確認報告され、この丘陵上に集落が営まれていたことが想定された。

本調査にかかるにあたって、４月２日より発掘用具の搬入を行い、まず、土層の確認と遺構の広がりを確認するために、６本のトレンチを設定して掘り下げた。その結果、調査区の北側の表土が15㎝と薄く、ＤＫＰ層がすぐに検出された。また、遺構の広がりとしては土坑状の遺跡が見られたが、耕作による攪乱がひどく、トレンチだけでは判断できない落ち込みが多く全面を調査することにした。次に、業者委託によって調査前の地形測量を行い、並行して、地区設定を行った。地区設定の方法は、(ア)〔Ｘ＝－55340.568：Ｙ＝－37724.913〕杭と（イ)〔Ｘ＝－55377.079：Ｙ＝－37770.699〕杭の２点を結ぶ直線を東西軸とし、(ア)杭を通り東西軸と直行する直線を南北軸とした。さらに、この２つの軸線を基準に10ｍごとに杭を打ち、調査地区全体を10ｍ方眼に区画した。基線は東西方向を西からＡ～Ｐとし、南北方向を北から１～５と設定した。杭名はその基線の交点で表し、グッリド名は南西隅方向の

杭名を用いた。従って、(ア)杭はO－3杭となった。さらに、4月4日に調査前の航空写真撮影を行い、本調査にかかる準備作業を終了した。

本調査は4月4日から調査区北側の表土の薄い部分より人力によって表土剝ぎを始めた。表土の厚い部分については4月9日から重機によって表土剝ぎを行った。また、排土置場を建設省と協議の上、南側の比較的急勾配の斜面に設けた。このため、排土の流出の危険性を考慮し、安全を期するために土留め柵を建設省に依頼して設置した。

遺構検出作業によって、竪穴住居跡、ピット群、土坑、溝状遺構が検出され、弥生時代後期後半から古墳時代中期前半にかけての期間に、この高地に集落が存在していたことが明らかになった。さらに、各遺構について詳細に考察できるように、奈良国立文化財研究所の浅川滋男研究官に2度にわたって調査指導を受け、特に竪穴住居跡の構造について詳しく検討した。また、遺構検出が進む中で、調査区外の方に延びていく竪穴住居跡が1棟検出されたため、鳥取県教育委員会文化課を通して建設省と協議した結果、予定面積の中で調査が可能という結論に達し、調査を開始した。しかし、この住居跡の調査範囲の中に現行の農道があり、調査期間中は使用不能になるという問題が起こってきたが、道板を使い調査区内を迂回する仮設道を敷設することによって、この問題は解決できた。本遺跡の調査は平成3年7月25日に遺構実測が終わりすべて終了した。調査面積は4642㎡であった。

南谷大ナル遺跡　羽合町教育委員会の行った南谷大ナル遺跡の試掘調査で、古墳時代後期の古墳の存在が想定されていた。

本調査にかかるにあたって、7月17日に調査前の地形測量を行い、並行して〔X＝－56054.224：Y＝－40425.816〕杭と〔X＝－56063.370：Y＝－40438.451〕杭の2点を結ぶ直線を基準として、宇谷第1遺跡と同様に地区設定を行った。基線は東西方向を西からA～Eとし、南北方向を北から1～3と設定した。従って、前者の杭はE－2となった。表土剝ぎは調査面積が狭かったため手剝ぎで行うことにし、7月30日に調査を開始した。しかし、調査区が農農道に囲まれているため、排土場所が確保できず、梨園の近くに排土することになり、建設省と協議の上、土留め柵を設置し土砂が流出しないよう安全を期した。

遺構検出作業によって竪穴住居跡、溝状機構、段状遺構が確認された。遺構は弥生時代後期後半から古墳時代後期後半の期間の時期であった。溝状遺構については耕作による攪乱が著しかった。

本遺跡の調査は、平成3年9月10日に遺構実測が終わりすべて終了した。調査面積は342㎡であった。

南谷大山遺跡　本年度調査として南谷大山地区も行ったが、この地区については来年度も継続して調査を実施するため、報告は来年度調査分と合せて行う。本年度の調査面積は9932㎡（墳丘下143㎡を含む）であった。

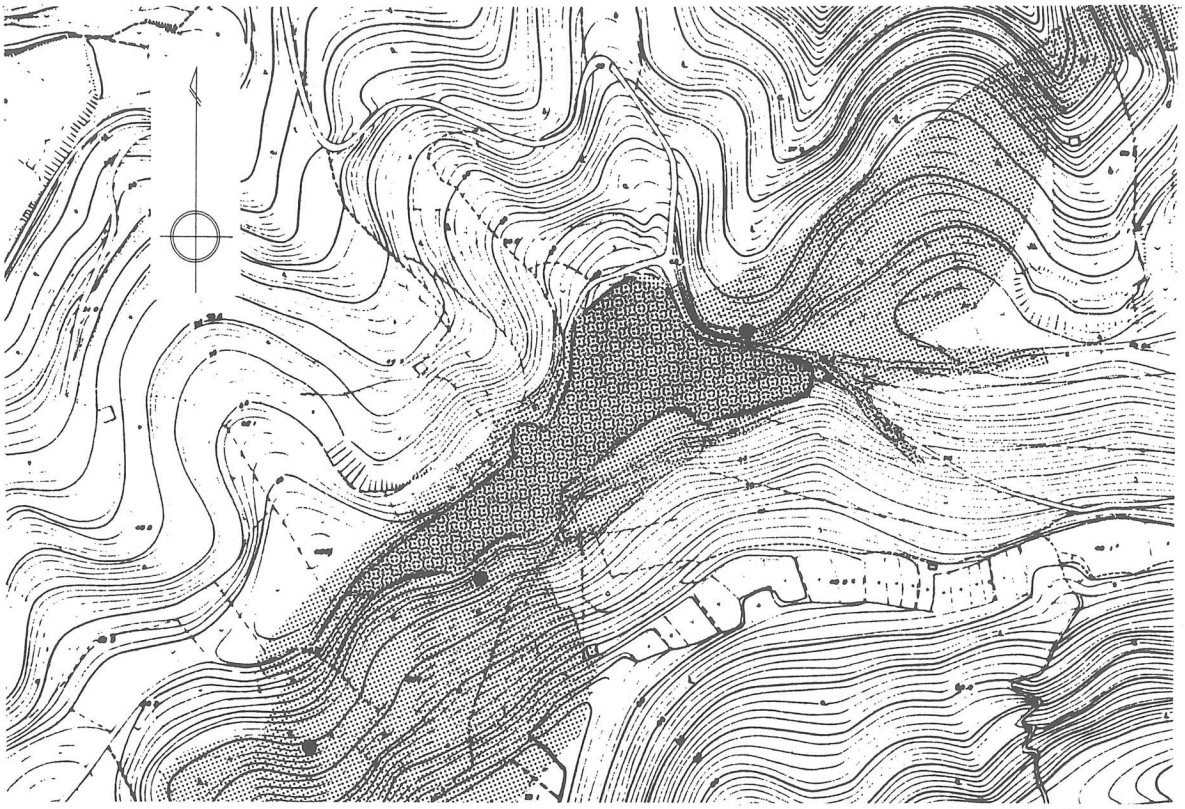
調査日誌（抄）

4月4日　宇谷第1遺跡の掘り下げ開始。
4月19日　SI03・04・05・09を検出。
4月30日　SI03より勾玉、SI05より管玉出土。
5月1日　SI03より多量の土器が出始める。
5月13日　SD05検出、掘り下げ。
5月30日　SB01・02・03を確認。
6月1日　宇谷第1遺跡現地説明会を開く。
6月7日　SI02で勾玉出土。
6月18日　SI03より管玉出土。
6月21日　SI03の床面土器実測開始。
7月11日　SI03実測終了。
7月16日　奈良国立文化財研究所浅川滋男研究官、宇谷第1遺跡を視察、調査を指導される。
7月23日　SI05の貼床除去、新たにピット確認。
7月25日　宇谷第1遺跡の調査終了。
7月30日　南谷大ナル遺跡の調査開始。
8月2日　C-3グリッドで溝状遺構検出。
8月9日　SI01・SS01を確認。
8月19日　SD02・SS01を掘り下げ。
8月20日　SD02・SS01の掘り下げ終了。
8月23日　SS01土層断面・石実測。
8月29日　SS01・SD02完掘状況写真。
9月2～6日　記録的残暑。
9月10日　南谷大ナル遺跡調査終了。

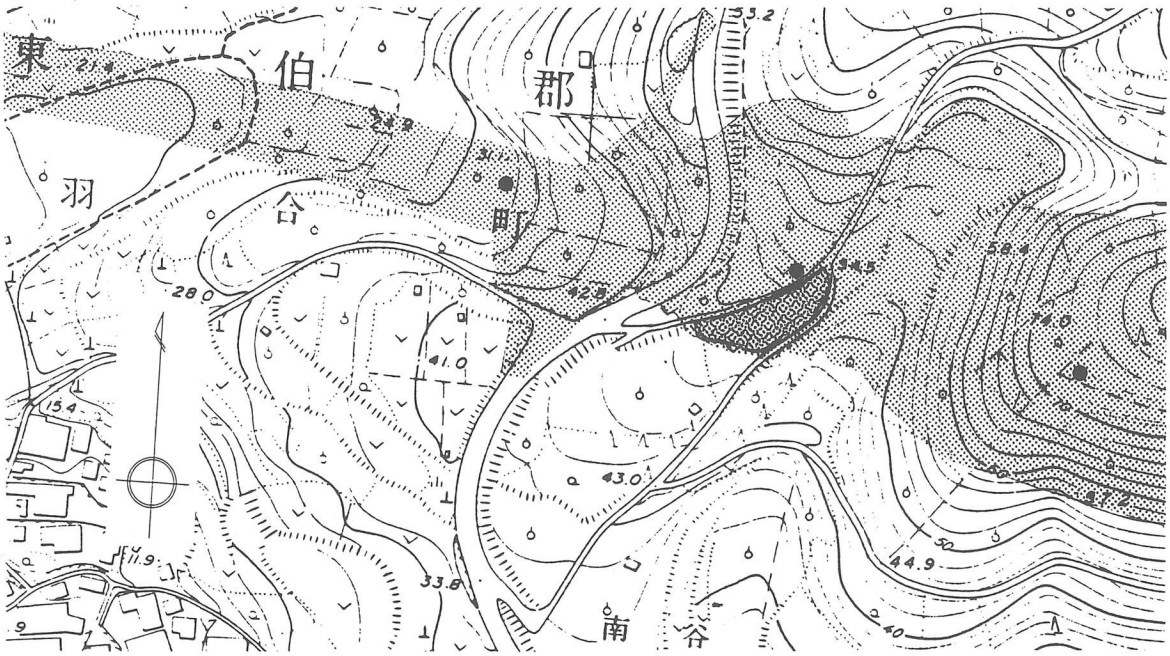
写真１　重機による表土剝ぎ

写真２　実測作業風景

写真３　整理作業を終えて



宇谷第１遺跡



南谷大ナル遺跡

挿図１　道路建設ルートと調査区

第3節　調査体制

調査は鳥取県教育委員会、鳥取県埋蔵文化財センターの指導のもと下記の体制で実施された。

○調査主体　財団法人鳥取県教育文化財団

理事長　西尾邑次（鳥取県知事）
副理事長兼常務理事　坂田昭三
事務局長　若松良雄

財団法人鳥取県教育文化財団　埋蔵文化財センター

所長　土井田憲治（鳥取県教育委員会文化課長）
次長　山根豊巳
調査指導係長　田中弘道（鳥取県埋蔵文化財センター次長）
庶務係長　中村金一（鳥取県埋蔵文化財センター庶務係長）

○調査担当　財団法人鳥取県教育文化財団中部埋蔵文化財調査事務所

所長　入江輝三
主任調査員　米田規人
調査員　牧本哲雄・岸本浩忠
調査補助員　山根雅美

○調査協力

下記の方々に発掘調査作業員、整理作業員として協力していただいた。

青木輝明、朝倉郁雄、綾女勝子、池原美代子、市橋貴志子、伊藤義輝、入江淑恵、岩室紀男、植原昭典、浦木伊都子、大嶋貞夫、大嶋由起枝、奥田和美、小倉厚子、上本明子、河口智津子、吉川久子、木戸孝行、久野洋子、倉益和美、蔵本重信、桜井きみ子、嶋崎久子、清水房子、杉原光雄、杉村秀吉、陶山勝利、竹田　肇、竹本富美代、谷本美智恵、高浜とし子、田伏敏子、丹波　稔、角田勲雄、角田磨智子、津村勝子、中田　都、中原千恵、中村勝恵、中村博子、中本和子、西垣吟枝、西本てる子、羽田政夫、浜口みち子、林　博、福田延子、藤田広子、藤田恭人、船越トシ子、前條一重、前　宮子、前田二三枝、松井久雄、松田悦雄、松田澄子、松本美重、村口いつ子、森脇幸子、安田成行、山上道訓、山崎定雄、山田暉美、山本さわゑ、若杉道子　（五十音順、敬称略）

写真4　発掘参加記念写真

第２章　位置と環境

第１節　地理的環境

鳥取県　鳥取県は本州の西部、中国地方の北東部に位置する。北は日本海、東は兵庫県、南は標高1200ｍを越える中国山地を県境として岡山県・広島県、西は島根県と接する。鳥取県の県域は東西126km、南北61.85km、面積349.269㎢で、日本全体の約1％を占める。鳥取県は、鳥取市を中心とする東部、倉吉市を中心とする中部、そして米子市・境港市などからなる西部の三地域に分けられる。各地域とも地勢は山がちで、山地が県総面積の86.3％を占める。それぞれの地域には千代川(東部)、天神川(中部)、日野川(西部)の県下を代表する河川が流れ、その下流域に東部の鳥取平野、中部の倉吉・北条・羽合平野、西部の米子平野が発達している。また各平野の海岸線には鳥取平野の鳥取砂丘、北条・羽合平野の北条・長瀬砂丘、米子平野の弓が浜半島などの砂丘、砂州が発達している。その中でも代表的なものは鳥取砂丘で、東西長15km、南北幅最大２kmの規模を持つ。[3]

泊　村　泊村は鳥取県の中央部を占める東伯郡の東端に位置し、東は気高郡青谷町、西は東伯郡羽合町、南は東郷町に接し、北は日本海に面している。人口約3400人、面積15.5㎢の村である。

地形は、中国山地より北方に伸びた100～300ｍの低平な山地が海浜まで迫っており、平地が少ない。分岐した尾根と尾根の間を流れる小河川沿岸には、水田化された小平野が見られる。海岸線は砂丘と岩石海岸からなっており、いくつかの漁港がある。[4]

羽合町　羽合町は、鳥取県の中央部に位置し、東には泊村、東郷池をはさんで東郷町、西には天神川を境に北条町、南は倉吉市と接している。北には日本海が、その波頭を光らせている。人口約7000人、面積12.4㎢の田園風景の広がる町である。地形は、馬ノ山の低い丘陵と天神川の河口部に発達した長瀬砂丘、天神川から東郷池に向かって広がる羽合平野、東郷池とからなる。[5]

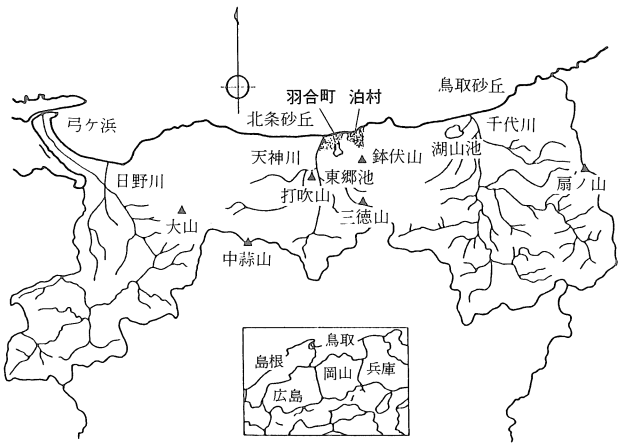
東郷池　東郷池は、約420haの汽水湖で、 かつては日本海の内湾だった。縄文海進の後、河川の土砂の運搬などにより、北条・長瀬砂丘が発達した。その結果、湾口が塞き止められてできた潟湖である。最深部は4.6ｍで、湖底より温泉が湧き出る。

現在、東郷池には舎人川・東郷川・羽衣石川・埴見川が流れ込み、その水は橋津川を通って日本海へ至る。古代においては天神川も、流路の変動はあったものの同池に注いでいた。

池には淡水魚だけでなく、橋津川を逆流して流入する海水にのって海産の魚介類が入る。[6][7]

調査地域　泊村宇谷の東西に伸びる丘陵上にあるのが、宇谷第１遺跡である。ここは宇谷海岸から600ｍほど南で、日本海を望むことができる。

前述の東郷池の北東にある丘陵から、東郷池に向かって伸びる尾根上に存在するのが、南谷大ナル遺跡である。東郷池・羽合平野・日本海はもとより、遠く島根半島まで視野に入れることができる。



挿図２　泊村・羽合町の位置

第2節　歴史的環境

旧石器時代　東郷池周辺に限らず鳥取県において遺構を伴う旧石器遺跡は確認されていないが、大山山麓の丘陵上でいくつかの旧石器が見つかっている。淀江町小波で出土した黒曜石製の東山・杉久保型系統のナイフ型石器[8]、関金町野津三の黒曜石製ナイフ型石器[9]、倉吉市和田の石刃[9]、倉吉市上神及び鋤の細石刃石核[9]、倉吉市国府の掻器[10]、倉吉市中尾遺跡の国府型のナイフ型石器[11]などである。このうち、野津三のナイフ型石器・中尾遺跡のナイフ型石器は県下では唯一のローム層中の発見であり、大変貴重なものである。

縄文時代　縄文時代早創期に盛行するとされる隆線文土器群は県内では発見されていないが、石器類は二十数カ所で確認されている。中部地区では有茎尖頭器が、大栄町穂波、東伯町槻下、関金町笹ケ平などで見つかっている[8]。やはり大山山麓の丘陵上での発見であり、低地ではこの時期のものは見つかっていない。早期でも丘陵上・台地上に遺跡が確認されている。倉吉市取木遺跡では竪穴住居跡・炉跡・押型文の深鉢などが見つかっている[13]。東郷池周辺においても、南谷19号墳(2)の旧表下より安山岩製のスクレイパーが見つかった[14]。正確な時期は特定できないが、縄文時代人が海岸部の丘陵上にも足跡を残していたことが窺える。前期になると気候が温暖になり海進が進み、この地域では広いラグーンが形成され、この周辺で遺跡が確認されるようになる。北条町島遺跡は、前期から晩期の貝塚を伴う遺跡で、土器のほかに石器、丸木舟、貝、人骨、動物骨が検出されている[15]。丸木舟は県内でも数例知られるに過ぎず、貴重なものである。また、花粉分析の結果や貝の種類から古環境の変化の様子を復元することができるようになった。中期の遺跡は、倉吉市平ル林遺跡[9]、北条町船渡遺跡[16]、羽合町南谷ヒジリ遺跡[14]などが知られるにすぎず、遺跡の密度も少ない。後期になると遺跡の数は増加し、倉吉市津田峰遺跡[17]・東伯町森藤第2遺跡[18]・関金町横峰遺跡[19]ではこの時期の住居跡が見つかっている。これらの住居の中央には、石組の炉が作られている。この周辺では、倉吉市天神川下流遺跡[16]、東郷町北福第3遺跡[20](49)で磨消縄文土器などが表採されている。晩期では、倉吉市松ケ坪遺跡[21]で配石墓、土器棺墓、土壙が見つかっている。なかでも、土器棺墓は県内においても岸本町林ケ原遺跡[22]とここにしか見つかっておらず、この時期の葬制を知る貴重な資料である。長瀬高浜遺跡[23]では刻目突帯文土器、北条町北尾遺跡[24]でもこの時期の土器を出土している。時期ははっきりしないが、東郷町別所第2(34)・第6遺跡(35)、福永第3遺跡(52)、野花第2遺跡(28)、白石第1遺跡(43)でも縄文土器が表採されている[20]。泊村宮の山遺跡[4](63)では、漁撈具としての石錘が見つかっており、縄文人が海や湖で盛んに魚を獲っていたことが想像される。

早創期

早期

前期

中期

後期

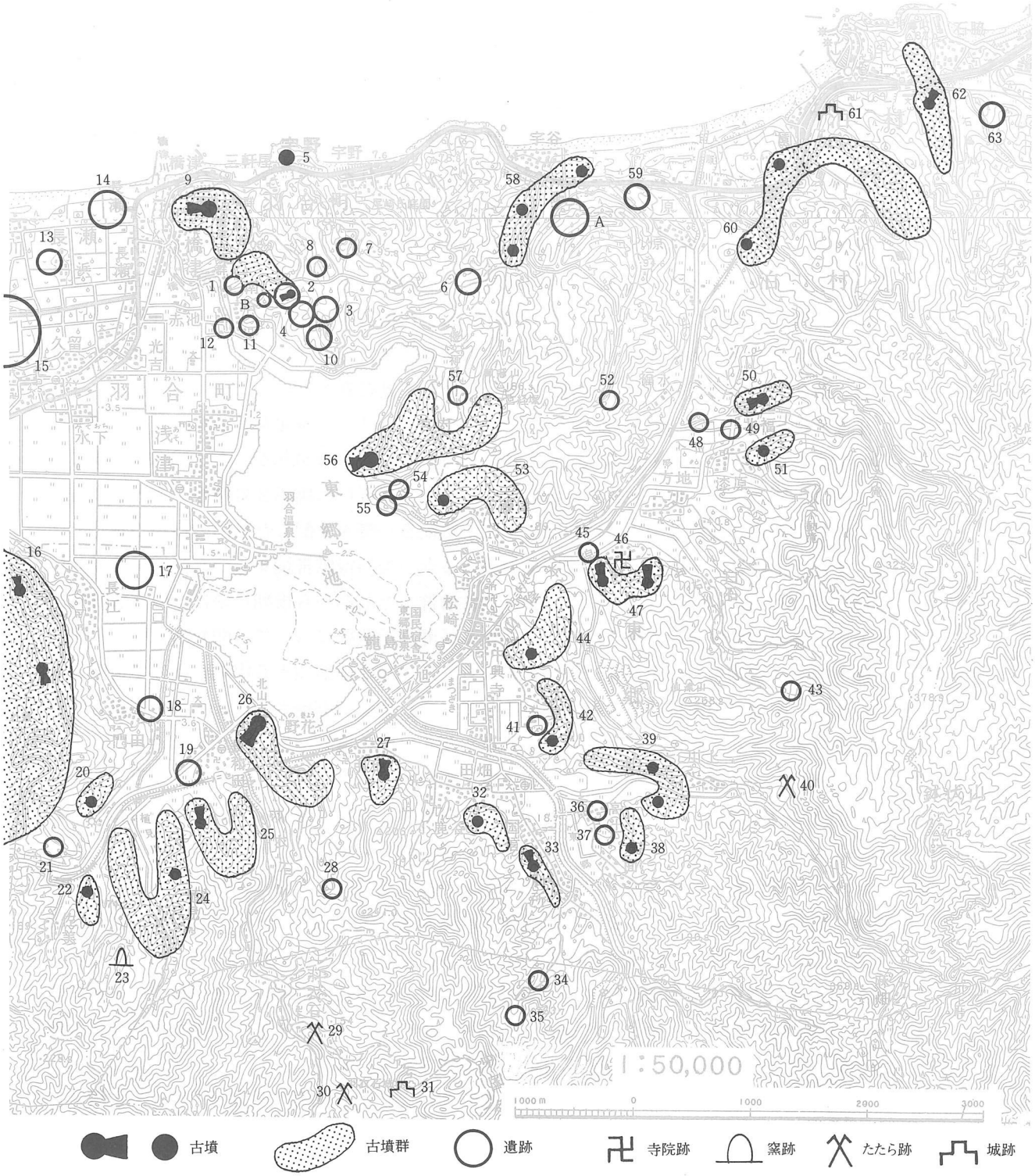
晩期

弥生時代　大陸から伝播した稲作は、日本列島をかなりの速さで北上したと考えられ、鳥取県でも前期には米子市目久美遺跡[25]で水田跡が確認されている。東郷池周辺では水田跡は確認されていないが、稲作に伴う遺物が各所で見つかっており、弥生時代水田の調査が行われるのも近いものと思われる。この時期には、天神川の沖積作用と日本海からの風によって形成された砂丘上に、長瀬高浜遺跡[23](15)が現われる。この遺跡は弥生時代前期から中世までの複合遺跡であるが、この時期の遺構には4棟の玉作工房跡のほか、土壙墓などがある。玉作工房跡は日本で最も古いものの一つである。

前期

中期　長瀬高浜遺跡では中期の土壙墓がわずかに見られるが、後期の遺構は全く見られず、古墳時代に入ってからが最も栄える。東郷池周辺では、この時期の遺構は長瀬高浜の土壙墓を除いては確認されておらず、遺跡の密度が少なくなっている。かわりに、丘陵上での遺跡の密度が増すと推定される。

後期　後期においても同様の現象が見られ、焼失住居が見つかった倉吉市福庭遺跡[26]、炭化米・貝



A 宇谷第1遺跡　B 南谷大ナル遺跡　1 南谷ヒジリ遺跡　2 南谷19号墳・南谷夫婦塚遺跡　3 乳母ケ谷第2遺跡　4 南谷大山遺跡　5 泙古墳　6 宇野第1遺跡　7 宇野第4遺跡　8 宇野第5遺跡　9 橋津(馬ノ山)4号墳　10 乳母ケ谷遺跡　11 南谷遺跡　12 南谷貝塚　13 和助北遺跡　14 橋津台場　15 長瀬高浜遺跡　16 大平山古墳群　17 隈ケ坪遺跡　18 門田遺跡　19 津浪遺跡　20 片平4号墳　21 佐美遺跡　22 佐美古墳群　23 埴見中ノ谷古窯跡　24 埴見古墳群　25 長和田古墳群　26 野花北山1号墳　27 引地古墳群　28 野花第2遺跡　29 羽衣石第1生産遺跡　30 羽衣石第2生産遺跡　31 羽衣石城跡　32 小鹿谷古墳群　33 別所古墳群　34 別所第2遺跡　35 別所第6遺跡　36 高辻第1遺跡　37 高辻第3遺跡　38 高辻古墳群　39 川上古墳群　40 川上生産遺跡　41 久見古瓦出土地　42 久見古墳群　43 白石第1遺跡　44 中興寺古墳群　45 野方第3遺跡　46 野方・弥陀ケ平廃寺　47 野方古墳群　48 北福第1遺跡　49 北福第3遺跡　50 北福古墳群　51 漆原古墳群　52 福永第3遺跡　53 藤津古墳群　54 大鼻遺跡　55 船隠遺跡　56 宮内狐塚古墳　57 伯耆一宮経塚　58 宇谷古墳群　59 原第2遺跡　60 園古墳群　61 河口城跡　62 石脇2号墳(尾尻古墳)　63 宮の山遺跡

挿図3　周辺遺跡分布図

殻などを包蔵する4基の貯蔵穴が見つかった大鼻遺跡(54)、竪穴住居が調査された南谷ヒジリ遺跡(1)・南谷大ナル遺跡(B)・南谷夫婦塚遺跡(2)・乳母ケ谷遺跡(9)・乳母ケ谷第2遺跡(3)・南谷大山遺跡(4)・宇谷第1遺跡(A)など、丘陵上の遺跡の密度が増加する。低地においては、和助北遺跡(13)で祭祀関係の土器と思われる、赤色塗彩された脚付注口土器が見られるのみである。この地域は銅鐸の出土例が多く、倉吉市小田で2口(外縁付鈕Ⅱ式・扁平鈕式)、北福第1遺跡(48)・長瀬高浜遺跡で小銅鐸がそれぞれ1口、泊村池ノ谷で2本の舌とともに1口(外縁付鈕Ⅰ式)、北条町米里で1口(外縁付鈕式)、やや離れて東伯町八橋で1口(扁平鈕式)が見つかっている。そのほかにも、伝伯耆国とされるもの1口(外縁付鈕Ⅰ式)がある。東伯耆においては、弥生時代における集団墓から卓越した倉吉市阿弥大寺1～3号墓、藤和墳丘墓などの四隅突出型弥生墳丘墓が計4基存在する。

古墳時代前期　主な前期古墳には、三角縁神獣鏡を含む多数の副葬品をもつ、復元全長100mを測る前方後円墳である橋津(馬ノ山)4号墳(9)がある。橋津4号墳を含む24基からなる橋津古墳群のうち22基は、国の史跡に指定されている。さらにこの古墳群には橋津2号墳などの大型前方後円墳が築造され、東郷池周辺だけではなく広く東伯耆一帯を支配した集団の存在が想定できる。また、泊村には小規模な前方後円墳ではあるが仿製斜縁獣帯鏡をもつ石脇2号墳(尾尻古墳)(62)がある。北条町には土下古墳群・曲古墳群など前期から後期にかけての古式群集墳がある。橋津古墳群を仰ぎ見る砂丘に立地する長瀬高浜遺跡において、160数棟の竪穴住居、40棟の掘立柱建物をもつ大集落が再び現われる。この集落は前期から中期にかけて造営されているが、中期の中頃にはその規模も縮小している。集落が廃絶されると古墳が築造されるようになる。また、性格は不明であるがおびただしい数の器財型埴輪群が見つかっている。他に田下駄・刀状木製品・火きり臼・彩色礫・手捏ね土器など祭祀に伴う遺物が出土している津波遺跡(19)が知られている。この時期の住居跡は、佐美古墳群において4号墳に切られるかたちで検出されたもの(22)など丘陵上でも確認されている。

中期　橋津4号墳以後もこの地域では、東郷池の東岸には全長90mを測る前方後円墳である宮内狐塚古墳(56)、南岸には山陰最大級の規模を誇る全長110mを測る前方後円墳である野花北山1号墳(26)と大型前方後円墳が累々と築造される。このように、墳丘規模及び内容で他の古墳をはるかに凌駕する古墳が存在する東郷池周辺は、古墳時代前期から中期にかけて東伯耆の中心的な地域であると考えられる。この地域は子持勾玉の出土が多く、東郷町高辻第1遺跡(36)1例、泊村堀1例、倉吉市でも計2例が知られている。

後期　後期になると大型の前方後円墳は見られなくなるが、中小規模の前方後円墳が各古墳群においても見られるようになる。また、従来の竪穴系の埋葬施設に代わって、横穴式石室が採用される。片平4号墳(20)は基底部を箱式石棺状に組み、板石を持ち送りながら小口積みにするもので、東伯耆では倉吉市大宮古墳とならび導入期の横穴式石室である。その後、この地域で比較的容易に手に入れることができる板状摂理の安山岩を使用する横穴式石室が後期群集墳に取り入れられ、爆発的に増加する。片平1・5号墳、長和田20号墳(25)、中興寺1号墳(44)、久見17号墳(45)、北福23号墳(50)、宮内31号墳、橋津9号墳、福庭古墳、園古墳群(60)、宇谷古墳群(58)などで知られている。このうち中興寺1号墳などのように各壁が一枚石で構成されている石室や、福庭古墳に見られるような切石石室は終末の様相を示す。古墳以外では、埴見中ノ谷古窯跡(23)がある。6世紀前葉の窯跡で、この地域の須恵器を生産した数少ない遺跡の一つである。また、各所で土師器・須恵器が表採されており、各古墳群を造った集団の集落の存在が確かめられる日も近いであろう。

歴史時代白鳳期～　この地域は古代寺院跡がたくさん見つかっている。白鳳期には、大御堂廃寺、野方・弥陀ケ平廃寺(46)、大原廃寺が造営される。大御堂廃寺は法起寺式の伽藍配置であったと考えら

奈良時代　れている。礎石の中央には柱を据えた穴が穿たれており、炭化した柱の一部が残っていたという。この寺院は、発掘された墨書土器より8世紀後半頃には久米寺と呼ばれていたようである。野方・弥陀ケ平廃寺からは川原寺式の瓦の他に、塔心中央に柱穴をもつ塔心礎・礎石が見つかっている。大原廃寺からは、柱穴をもつ塔心礎、川原寺式の瓦が見つかっている。また、発掘調査により塔の基壇の一部が明らかになり、法起寺式の伽藍配置であったことが確認された[49]。久見(41)でも7世紀後半頃と8世紀後半頃の瓦が見つかっており[48]、寺院跡か官衙跡の存在が考えられる。奈良時代には現在の倉吉市国府に伯耆国衙[50]、伯耆国分寺[51]、国分尼寺[52]も建立されるなど、東伯耆は奈良・平安時代の政治の中心地であった。この地域は律令体制下にあっては伯耆国河村郡にあたり、河村郡は笏賀、舎人、多駄、埴見、日下、河村、竹田、三朝の八郷から成る。郡衙の所在地は不明であるが、河村郷、舎人郷、多駄郷の三か所が候補地として考えられている[5][6][53]。この地域には古代律令体制の名残りとしての条里遺構が残っている。天保地図[54]などには整然と並んだ方格地割りがあり、当時の名残りを留めていると考えられている。

平安時代　平安時代に入り自墾地系荘園が現われ律令体制が崩壊し、次第に封建制社会が形成されるようになる。このようななか、力を得てきたのが国司・郡司・寺社であった。東郷池周辺では、伯耆一宮、東郷氏である。東郷氏は、中央の貴族や寺社に所領を寄進して、地方豪族としての地位を高めていった。伯耆一宮である倭文神社は「伯耆六社」の一つで、承和4(837)年に従五位下の神階が与えられていたが、広大な社領を経済基盤として在地領主層の信仰を集めながら伯耆一宮の地位を獲得したものと考えられている[6]。平安時代末期になると、末法思想が広まる。伯耆一宮の境内に隣接した山林で経塚(57)が発見された[53]。経塚のなかには石室があり、そのなかに金銅製経筒、金銅製観音菩薩立像、銅製千手観音立像、銅板線刻弥勒立像などが安置されていた。経筒には「(中略)康和五年癸未(中略)」銘が刻まれている。これら出土品は国宝に指定されている。

中　世
鎌倉時代　地頭の勢力は鎌倉幕府権力の伸長を背景に次第に強大になった。大阪府柳沢真次郎氏所蔵の正嘉2(1258)年銘の「伯耆国河村郡東郷荘下地中分絵図」によって地頭の荘園侵略の様子が窺われる。長瀬高浜遺跡[23]では約80基の火葬墓や土壙墓が調査され、この時期の葬制が明かとなった。

室町時代　中世城郭も数多く知られており、南条貞宗によって築城された羽衣石城(31)、山名氏によって築城された河口城(61)などがある。応仁の乱後は各地で騒擾戦乱が絶えず、この地においても大永4(1524)年尼子経久によって羽衣石城が落城し、また馬ノ山で尼子氏と山名氏が合戦をするなど争いの跡をとどめている。天正9(1581)年には羽柴秀吉と吉川元春が対陣した。秀吉は御冠山に、元春は馬ノ山に陣を設けたが、馬ノ山にはこの時に築かれた土塁状遺構が残っている。また、乳母ケ谷第2遺跡で調査された土塁状遺構[14]も馬ノ山のものと類似しており、この対陣の際に築かれたと思われる。山間地にはこの時期と思われるタタラ跡が数カ所確認されている。また、橋津川改修にともない、中世の貝塚が検出された。南谷貝塚[55](12)は、ヤマトシジミなどの貝類のほか、漆器などの木製品が出土している。

近世近代　文久3(1863)年には外国に対する海岸防備のために砲台が設置された。鳥取県には由良、橋津、赤碕、淀江、境などに台場が建設され、海岸防備にあたった。橋津の台場(14)建設にあたって馬ノ山4号墳の前方部が削られたといわれている[5]。

第３章　宇谷第１遺跡の調査

第１節　宇谷第１遺跡の概要

位　　置　宇谷第１遺跡は、泊村宇谷地内の御冠山から北に派生する、標高61～67ｍの狭い丘陵頂部に位置し、北側では日本海が一望できる。

遺　　構　本遺跡は弥生時代後期後半、古墳時代中期前葉～中葉を中心とした時期の遺構を持つ遺跡であり、確認した遺構数は竪穴住居跡10棟、掘立柱建物跡３棟、ピット群、土坑・土壙16基、溝状遺構５条であった。竪穴住居跡は弥生時代後期のもの５棟、古墳時代中期前葉～中葉のもの４棟、不明のもの１棟であった。弥生時代後期のＳＩ05・09は柱穴だけでなく壁溝のすぐ内側に太い柱状の杭を多数配置し、構造的にかなり強固に造られていたと思われる。古墳時代中期のＳＩ03はたくさんの遺物を包含し、埋土上面から床面までびっしりと遺物が出土した。遺物は、高坏(70点以上)、小型丸底壺(20点程)が多数あり、勾玉、管玉、砥石、鉄製方形板工具刃先、刀子が出土した。その他の遺構で、掘立柱建物跡１棟、土坑10基、溝状遺溝４条は弥生時代後期であることを確認した。この内、土坑６基は屋外貯蔵穴であり、土坑２基は屋内貯蔵穴であった。また、溝状遺構の１つは区画性を持つものであり、本遺跡で重要な意味を持つものであると考えられる。

第２節　宇谷第１遺跡の調査結果

１．竪穴住居跡

ＳＩ01（挿図６・46、図版２・22）

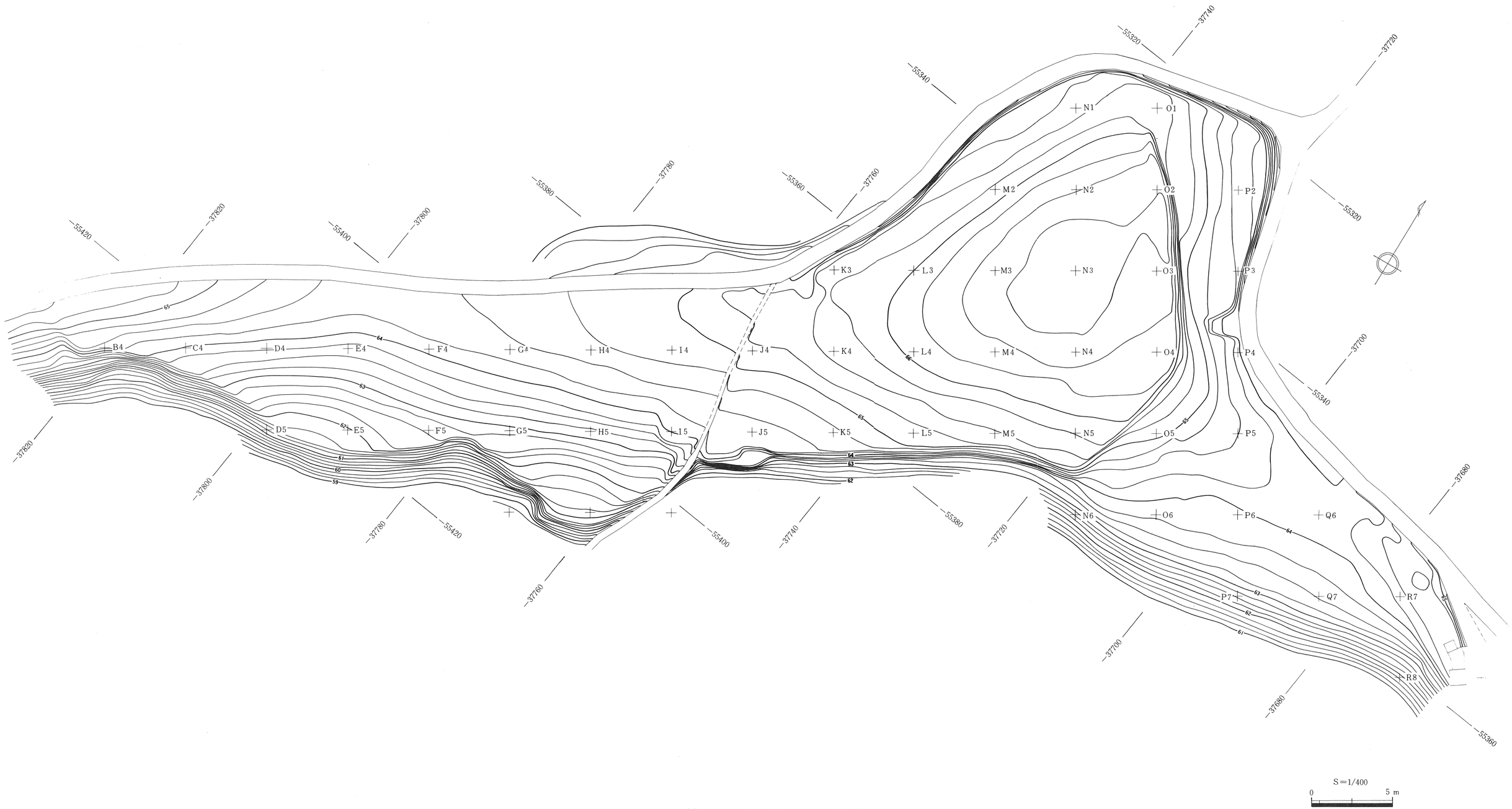
位　　置　調査区のほぼ中央、Ｋ５グリッドの北東隅、尾根の頂部で標高65.5ｍ付近に位置する。

形　　態　住居全体が後世の削平でかなり失われている。特に、南西側半分は埋土が認められなかった。平面は六角形と考えられる。規模は南西側を復元して考えると長軸7.0ｍ×短軸6.4ｍ、床面積44.8㎡と推定される。残存壁高は最も遺存の良い東壁で最大0.11ｍである。壁溝は南東隅と北西隅でだけ認められた。規模は幅20cm程、深さ6.1cmあり、断面Ｕ字形を呈する。

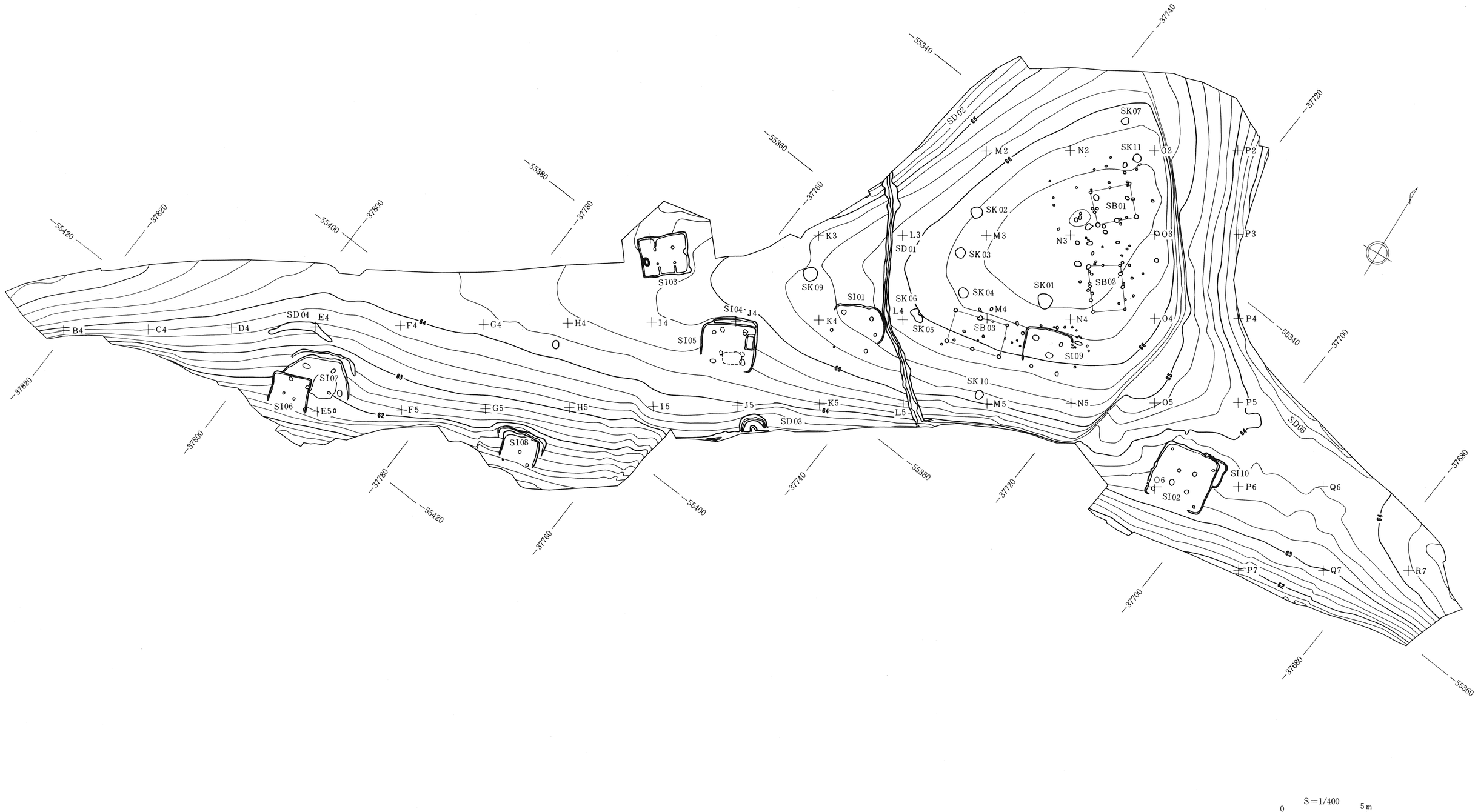
柱穴は床面上で34個確認することができたが、主柱穴はＰ１～Ｐ６の６個である。それぞれの規模はＰ１(56×45－62)cm、Ｐ２(41×38－62)cm、Ｐ３(40×31－56)cm、Ｐ４(32×32－38)cm、Ｐ５(40×28－37)cm、Ｐ６(26×26－32)である。主柱穴間距離はＰ１－Ｐ２間から順に、3.3ｍ、2.0ｍ、2.2ｍ、3.0ｍ、2.7ｍ、2.6ｍである。さらに、Ｐ９、Ｐ12は補助柱、Ｐ35、Ｐ36は杭の可能性があり、Ｐ10、Ｐ11、Ｐ13～Ｐ14はしっかりしたものであるが、用途は不明である。

中央ピット　中央ピットは攪乱で土層とプラン共に確認できなかったが、深さは45.3cmと推定される。

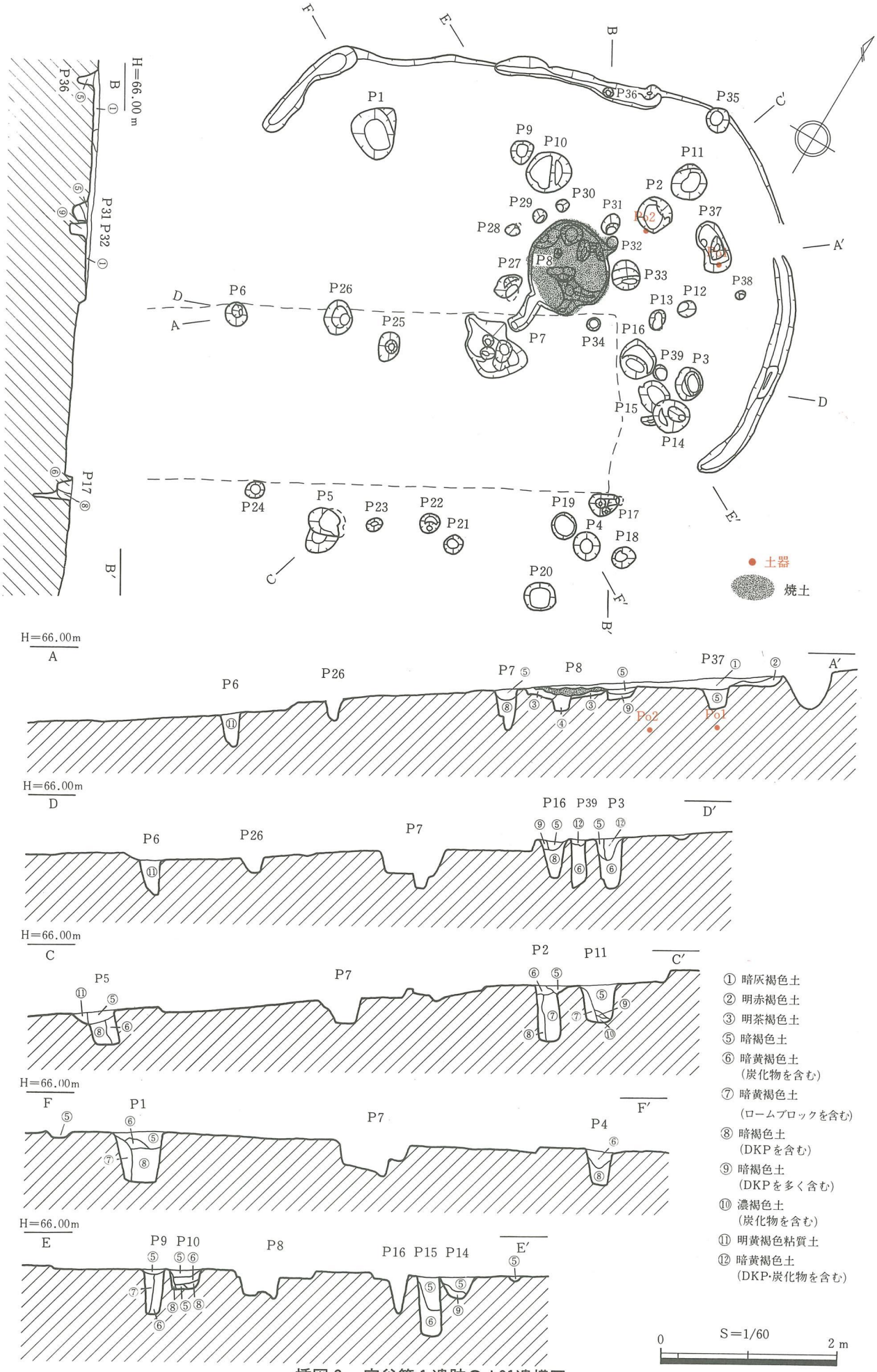
焼　　土　床面の中央北側には平面が直径90cm程の円形の焼土面が確認できた。この焼土は厚さが10cmあり、その下層もさらに掘り下げることができ、継続的に使用されていたような焼土であった。この周囲には、柱穴がＰ27～Ｐ34の８個あり、規模はそれぞれ順に(34×22－31)cm、(18×15－36)cm、(16×16－36)cm、(15×13－37)cm、(23×20－58)cm、(13×13－20)cm、(32×32－45)cm、(13×13－17)cmであった。これらの柱穴はＰ８(102×90－22)cm上面にある焼土を囲むような状況で確認されたことから、床面を少し掘り下げて作られた炉のような施設に係わるものである可能性が考えられる。中央南東側にも15cm×20cmの焼土があった。



挿図４　宇谷第１遺跡調査前地形測量図



挿図５　宇谷第１遺跡遺構全体図



挿図6　宇谷第1遺跡SI01遺構図

埋　土　遺構埋土はほとんど削平されて残っていなかったが、隣接して掘られたSD01より遡ると考えられる。

遺物出土状況・時期　遺物は、甕口縁Po1、甕の平底の底部Po2が床面より出土した。時期は、床面出土土器により弥生時代後期後半と考えられる。

ＳＩ02・10（挿図７・46・47、図版２・22）

位　置　調査区東端、Ｏ６～７グリッドの南西隅、尾根が緩やかに南側に向かって下がり始める標高64.5ｍ付近に位置する。

ＳＩ02は耕作により攪乱を受けていて、北側の壁が明瞭に確認できなかったが、サブトレンチを入れ、土層によって確認した。また、ＳＩ10と重複して建てられていた。

形　態　ＳＩ02は平面が方形を呈していた。また、規模は南側に残る壁溝の延びを繋いで復元すると長軸6.7ｍ×短軸6.6ｍ、床面積44.9㎡と推定され、大きな住居跡であることが分かった。残存壁高は北壁の最も遺存状態の良い所で最大0.69ｍである。壁溝は北側の一部と南側の中央部で検出できなかったが、北側の場合は床面が削りとられて壊されたと考えられる。規模は幅が最大で28cm、深さが18.6cmであり、断面はＵ字形である。

ＳＩ　02

柱穴は床面上で36個確認できたが、主柱穴はＰ１～Ｐ４の４個である。それぞれの規模はＰ１(32×32－12)cm、Ｐ２(58×41－49)cm、Ｐ３(54×52－53)cm、Ｐ４(72×54－37)cmである。主柱穴間距離はＰ１－Ｐ２間から順に2.0m、2.2m、2.2m、1.8mである。これらの柱穴は住居跡の各隅の壁溝から2.6～3.2ｍ内側に位置する。また、主柱穴を繋ぐ対角線のほぼ延長線上にＰ７～Ｐ10の４個の柱穴があり、それぞれの柱穴は各隅の壁溝から30～80cm内側に位置することから、４隅に向かう垂木を支える補強柱と考えられる。規模はＰ７から順に、(35×31－14)cm、(36×29－14)cm、(27×25－29)cm、(50×44－29)cmである。その他、P12・Ｐ29・Ｐ34は補助柱、Ｐ35・Ｐ36は側板を押える杭の可能性がある。

中央ピット　中央ピットはＰ５と思われるが、Ｐ１、Ｐ４、Ｐ５の周辺は床面より深い所で33cm程削り込まれ、皿状に下がっている。従ってＰ５の残存の規模は長軸38cm、短軸34cm、深さ22.7cmで、平面は円形である。また、Ｐ５のすぐ南東にあるＰ６も深さが39.3cmあり、しっかりしたピットであった。

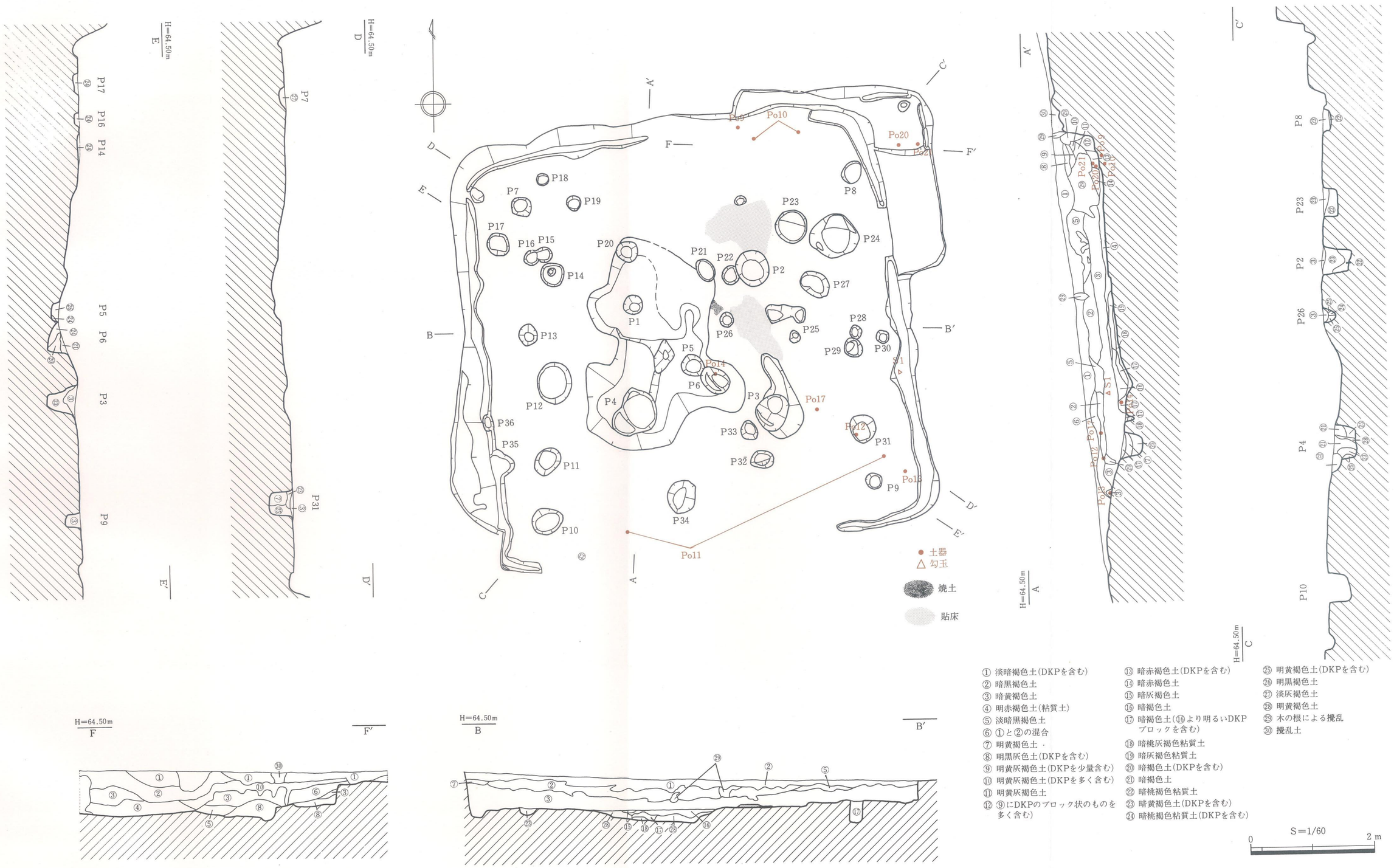
ＳＩ02では貼床が２箇所部分的に残っており、１箇所は中央の北東寄り、もう１箇所は中央の東寄りにあった。そして、その周りは貼床面より、２～９cm程削り込まれており、住居を放棄するときに床面を壊したと考えられる。また、中央の東側には焼土もあった。

ＳＩ　10　ＳＩ10は主柱穴と中央ピット共に確認できなかったが、平面は隅丸方形で、規模は南西側を復元して考えると、長軸、短軸共に3.0ｍと推定され、残存壁高は北壁で0.48ｍで、床面積は9.0㎡であり、小型の住居跡であった。壁溝は北東隅に一部残っており、規模は幅が10cm、深さ4.6cmであり、断面はＵ字形を呈する。

埋　土　中央ピット付近の皿状の落ち込みの部分だけに暗褐色土が入る。

遺　物出土状況　ＳＩ02では、床面上で高坏底部Po14が中央付近から、大型高坏Po16が中央ピット(Ｐ5)から出土し、さらに、石製品として敲石S1が北西隅から、勾玉Ｓ３がＰ28からそれぞれ出土しした。また、埋土中で図化できたものは、壺口縁Po４、高坏Po９～Po13・Po17があり、Po10・Po11・Po13は床面近くで出土している。Po４は中央東より出土しているが、SI10床面出土土器と接合した。埋土中から甕口縁Po3・Po5～Po7、高坏Po8、砥石Ｓ２が出土している。Po15は遺構外より出土している。ＳＩ10では、床面上で壺口縁Po４、甕口縁Po20、高坏Po21が出土している。埋土中で、甕口縁Po19、甕底部Po22が出土している。

時　期　ＳＩ02、ＳＩ10の時期は、共に床面出土土器により古墳時代中期前葉から中葉であり、２



挿図７　宇谷第１遺跡SI02･10遺構図

つの住居跡はほぼ連続して立て替えられたものと思われる。

ＳＩ03（挿図8～12･48～66、図版3～5･23～35）

位　置　調査区のほぼ中央部北側のＨ４グリッド・Ｉ４グリッドにあり、標高64.7ｍのほぼ平坦面に位置している。

形　態　ＳＩ03は、西側が耕作によって攪乱されてはいるが、比較的周壁の遺存状態は良く、長軸5.35ｍ×短軸4.25ｍを測り、床面積は約22.7㎡で平面は長方形を呈す。

残存壁高は、最も遺存状態のよい南壁で、最大0.69ｍである。

壁溝は、北壁、東壁際でとぎれる部分はあるもののほぼ全周し、幅７～25cm、深さ５～10cmを測り、断面逆台形状を呈す。

南壁際及び北壁際では、壁溝に接続して中央にむかって延び出す溝が検出された。南側のものは1.7m離れて平行して延びるもので、長さ0.9m、幅14～20cm、深さ８cmを測る。北側のものは１本で、長さ1.0m、幅15cm、深さ7cmを測る。これらは住居を仕切る溝と考えられる。

柱穴は11個検出されているが、それぞれの規模はＰ１(60×34－97)cm、Ｐ２(38×34－93)cm、Ｐ３(29×25－83)cm、Ｐ４(24×20－89)cm、Ｐ５(53×53－16)cm、Ｐ６(41×36－43)cm、Ｐ７(45×36－33)cm、Ｐ９(55×37－９)cm、Ｐ10(70×45－９)cm、Ｐ11(27×25－41)cm、Ｐ12(24×24－21)cmである。主柱穴はＰ１～Ｐ４の４個で、主柱穴間距離Ｐ１－Ｐ２間から順に、2.1m、1.7m、2.1m、1.7mである。他の柱穴については、Ｐ５・Ｐ６が主柱穴の対角線上に並ぶことから補助柱穴と考えられる。また、Ｐ７は仕切り溝の間にあり、特別な用途をもったものと考えられる。Ｐ10内には粘土が入っていた。

中央ピット・焼土面　中央ピットと考えられるものはＰ８で、規模は(55×37－16)cmである。住居の中央部に位置し、不整形のものである。埋土は暗褐色土で、炭化物は認められなかった。Ｐ８に接して50×40cmに広がる焼土面があるが、炉として機能したとは考え難い。

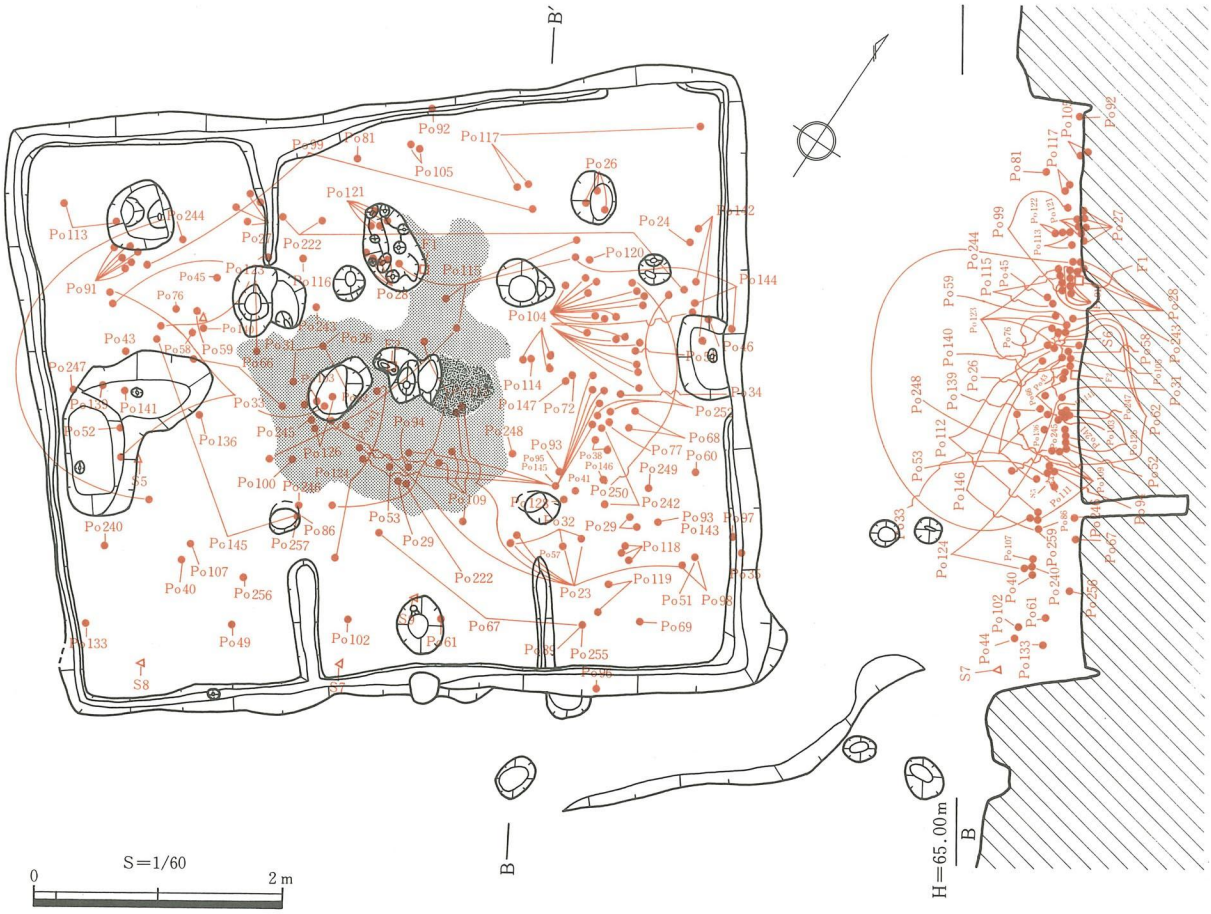
土　坑　東側壁際にＳＫ14及び西側壁際にＳＫ15・16が検出された。SK14は長軸0.65m×短軸0.38m、深さ15cmを測り平面は長方形を呈す。SK15はSK16によって切られていた。規模は、長軸0.92m×短軸0.46m、深さ38cmを測り平面は長方形を呈す。ＳＫ16はSK15の北側を切っている。規模は、長軸1.15m×短軸0.7m、深さ13～18cmを測り平面は不整形を呈す。これらの土坑は、規模の面から屋内貯蔵穴とは考え難く、ＳＫ16を除いて特殊土坑と考えられる。

貼　床　住居のほぼ中央部に、ＤＫＰに粘土粒を含む土が不整形にやや高く貼られていた。貼床部分は固く締まっていた。

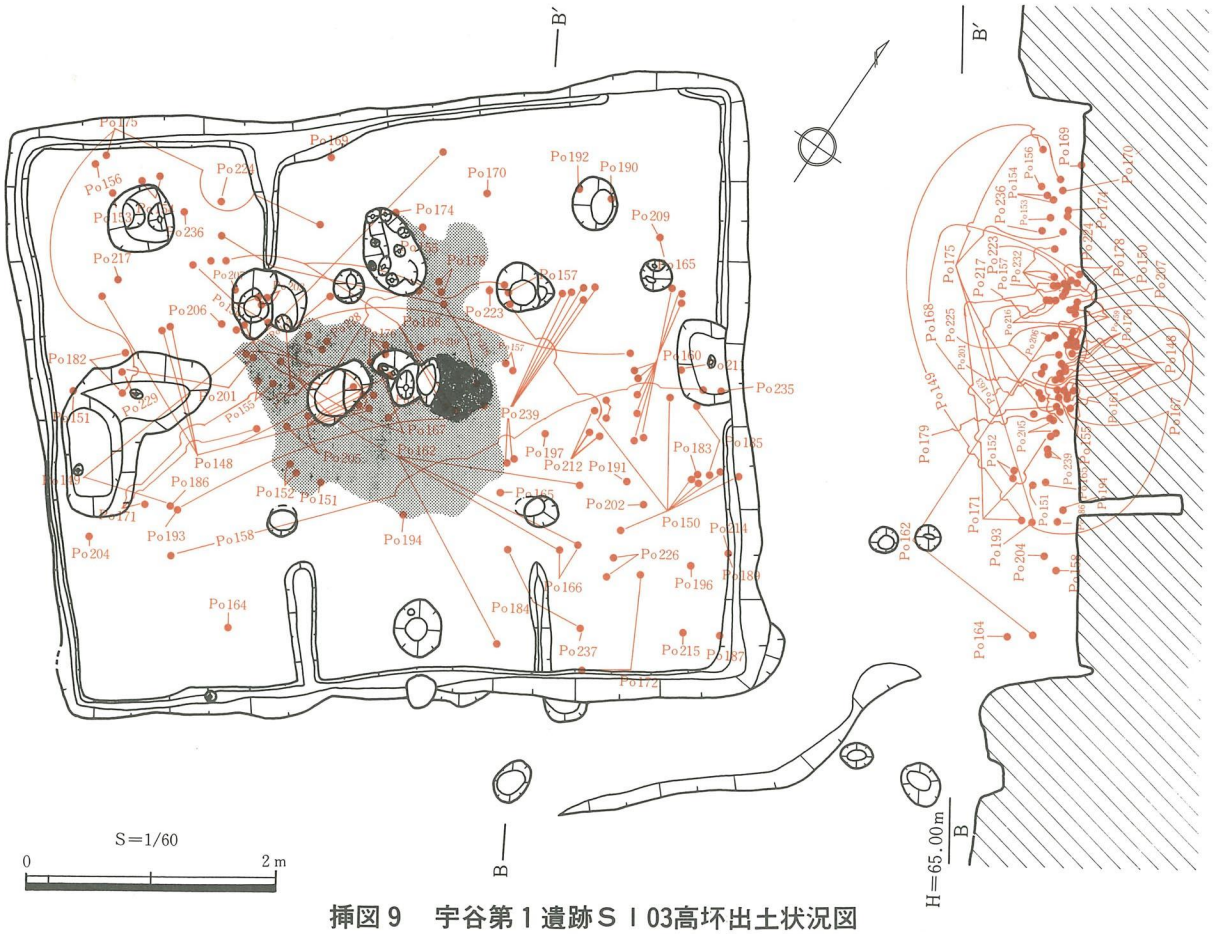
土　層　埋土は耕作土・攪乱土を除いて８層に分層できた。これらは住居の中央部に傾斜しており、自然堆積の状況を示す。

周辺ピット　SI03の南東隅に４個のピットが検出された。規模はそれぞれ、Ｐ13(21×21－24)cm、Ｐ14(20×20－39)cm、Ｐ15(26×21－５)cm、Ｐ16(36×27－28)cmを測る。Ｐ13・14、Ｐ15・16と並んでおり、これらは垂木または垂木を支える柱のためのものと考えられる。

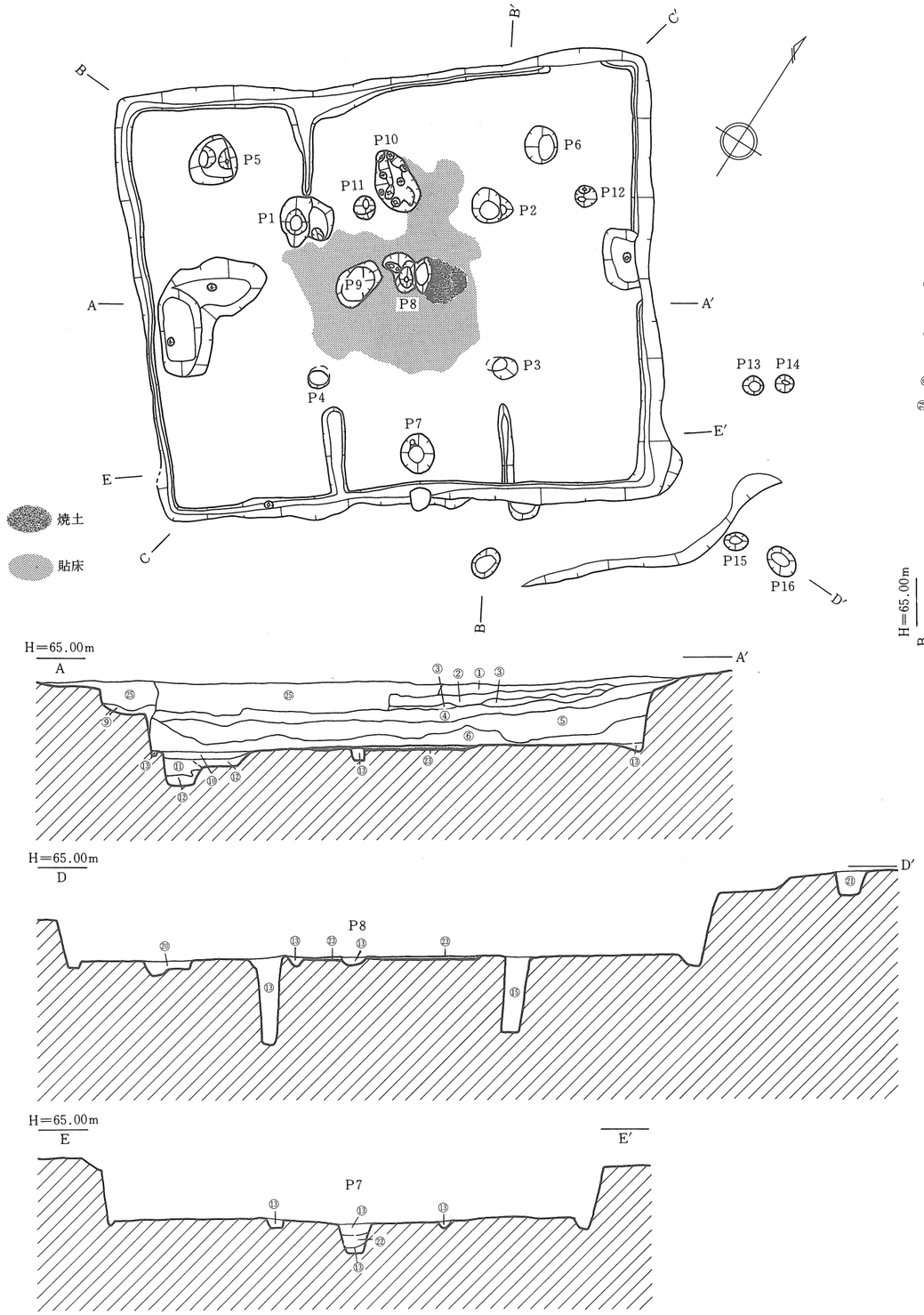
遺物出土状況　SI03からは、埋土および床面から大量の土器・鉄器・石器が出土している。図化できたものには、壺Po23～Po25の３点、甕Po26～Po142の117点、高坏Po148～Po239の92点、小型丸底壺Po240～Po258の19点、直口壺Po143～Po147の５点、鉄製方形板耕具刃先Ｆ１、鉄製刀子Ｆ２、瑪瑙製勾玉Ｓ４、軟玉製管玉Ｓ５・Ｓ６、砥石Ｓ７・Ｓ８、凹石Ｓ９、摺鉢Po259、把手付鉢Po260、須恵器甕Po261である。これらのうちPo24、Po26、Po27、Po28、Po91、Po92、Po105、Po121、Po123、Po148、Po161、Po169、Po174、Po175、Po176、Po178、Po190、Po190、Po224、Po244は床面上から出土した。その他の土器の出土状況を見ると、埋土上方から弥生土器Po89・Po90など時期が遡るものや、Po259～Po261など後世混入したもの

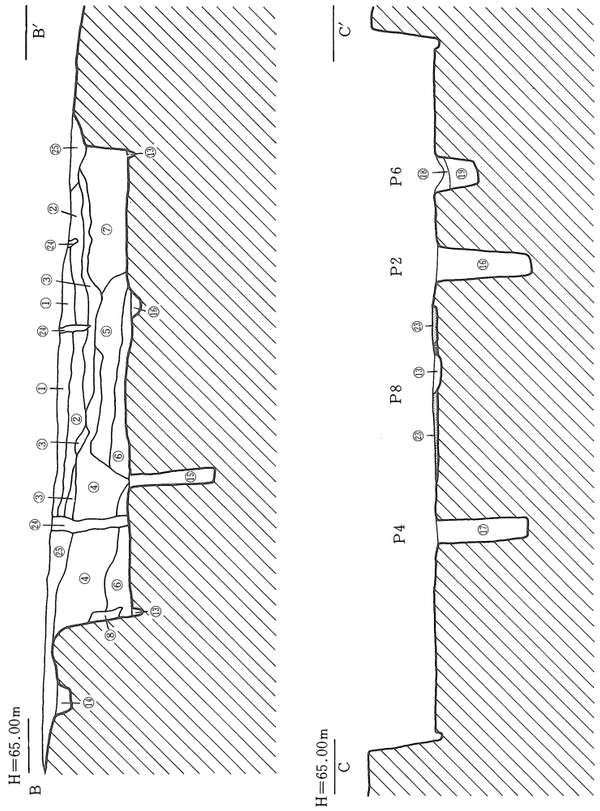


挿図８　宇谷第１遺跡ＳＩ03壺・甕類他出土状況図



挿図９　宇谷第１遺跡ＳＩ03高坏出土状況図

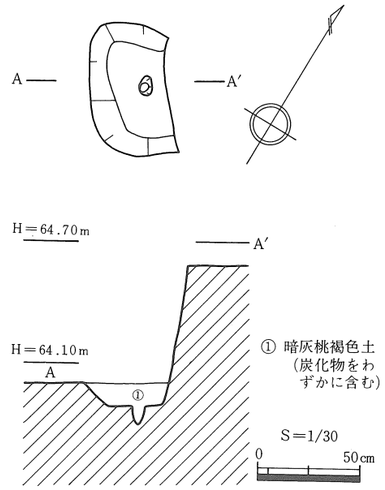




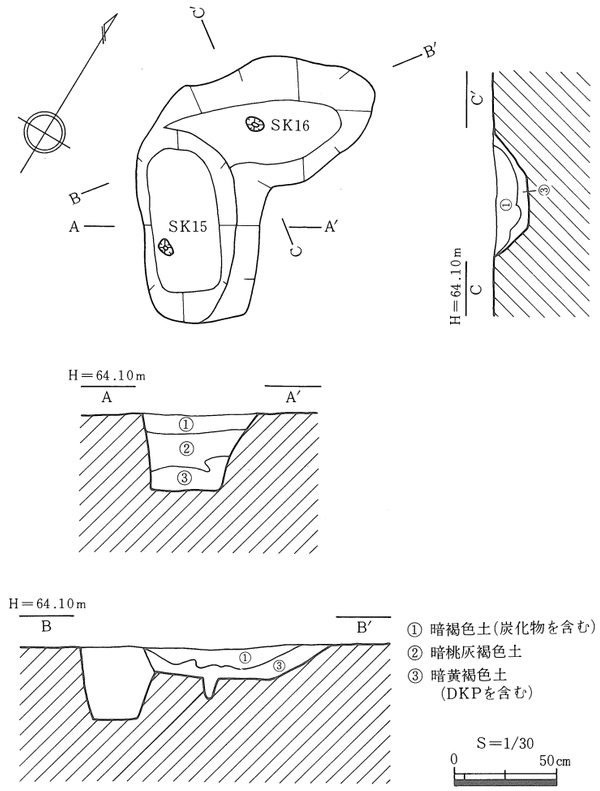
① 暗褐色土(耕作土)
② 黒褐色土
③ 暗褐色土
④ 暗黄灰褐色土
⑤ 暗褐色土(土器片を含む、ブロックをわずかに含む)
⑥ 暗黄灰褐色土
⑦ 暗黄褐色土
⑧ 明黄褐色土
⑨ 明黄褐色粘質土
⑩ 暗褐色土(炭化物を多量に含む)
⑪ 暗桃灰褐色土
⑫ 暗黄褐色土(DKPブロックを含む)
⑬ 暗褐色土
⑭ 淡褐色土(しまりがない)
⑮ 暗褐色土(炭化物をわずかに含む、しまりがない)
⑯ 暗褐色土(炭化物、DKPブロックをわずかに含む)
⑰ 暗褐色土(しまりがない、DKP粒をわずかに含む)
⑱ 暗褐色土(炭化物をわずかに含む)
⑲ 暗黄褐色土(しまりがない)
⑳ 淡黄褐色土(DKPブロック、粘土粒を含む)
㉑ 暗褐色粘質土(よくしまる)
㉒ 淡暗褐色土
㉓ 淡暗黄褐色土(貼床、粘土粒を含む、よくしまっている)
㉔ 木の根の攪乱
㉕ 耕作による攪乱

S=1/60
0 2m

挿図10　宇谷第１遺跡SI 03遺構図



挿図11　宇谷第１遺跡SK14遺構図



挿図12　宇谷第１遺跡SK15･16遺構図

もある。これらの土器は一括廃棄されたものと考えられる。

時　期　ＳＩ03の時期は、床面出土の土器から古墳時代中期前葉～中葉頃と考えられる。

ＳＩ04・ＳＩ05（挿図13･66･67、図版6･36･43）

位　置　調査区の中央、標高64.25m～65m、Ｉ５・Ｊ５グリッド付近で、２棟の住居跡が切り合って検出された。これらの住居跡は北から順次構築されており、順にＳＩ04・05とした。

形　態　両者の立地場所は、南側に緩やかに下る斜面であるために、後世の削平等が及びやすいと思われ、いずれの住居跡も南周壁は検出されなかった。

ＳＩ04　ＳＩ04は大半をＳＩ05に切られており、遺存状態が悪い。わずかに残っている北壁および床面北部付近から推測すると、平面は隅丸方形を呈していたと思われる。残存規模は、長軸5.0m×短軸0.54mである。残存している床面積は2.7㎡である。残存壁高は、北壁で最大0.37mである。

ＳＩ04にはピットが10個存在する。そのうち主柱穴はＰ１～Ｐ４の４個である。規模はＰ１(66×54－60)cm、Ｐ２(68×64－62)cm、Ｐ３(64×47－73)cm、Ｐ４(50×39－73)cmとなっている。主柱穴間距離はＰ１－Ｐ２から順に、2.6m、2.6m、2.8m、2.9mである。当遺構では中央ピットと壁溝は、検出されなかった。

ＳＩ05　ＳＩ05も平面は隅丸方形を呈している。その規模は長軸6.1m×短軸5.4mである。残存する床面積は32.94㎡で、ほぼ全面に貼床が施されている。

残存壁高は北壁で、最大0.39mである。ピットは63個検出されている。主柱穴はＰ１～Ｐ４の４個である。規模はそれぞれＰ１(43×41－107)cm、Ｐ２(49×46－81)cm、Ｐ３(72×61－84)cm、Ｐ４(64×40－93)cmとなっている。主柱穴間距離はＰ１－Ｐ２から順に、3.7m、3.3m、3.7m、3.4mである。

中央ピット　中央ピットＰ５は床面中心の僅かに東南に位置する。上縁部は円状で、規模は(40×39－53)cmである。埋土は６層に分けられ、そのほとんどが炭化物を含む。

杭　列　ＳＩ05にも壁溝は存在しない。しかし、周囲を杭列で囲まれた強固な造りになっていたと思われる。杭列に相当するのは、以下のピットである。東壁付近Ｐ56～Ｐ63、西壁付近Ｐ11～Ｐ22、南側Ｐ23・Ｐ24・Ｐ55、北壁付近Ｐ25～Ｐ27・Ｐ32～Ｐ36・Ｐ48～Ｐ50である。

土　坑　また、ＳＩ05の遺構内で土坑ＳＫ12とＳＫ13を認めた。これらの詳細については項を改めて述べることにする。

焼　土　SI05の貼床上には焼土面が８箇所存在する。多くは楕円状である。Ｐ６付近のものが規模が大きく長軸70cm×短軸38cmである。厚さはＰ10付近のものが３～４cmに達している。

埋　土　ＳＩ04・05の埋土を観察すると、ＳＩ04がＳＩ05に切られていることがわかる。さらにＳＩ05の貼床の下から、ＳＩ04のピットが出てきている。よって、ＳＩ04のほうがＳＩ05よりも古い時期に建てられていたことが確実になる。

ＳＩ04の埋土のうち、残っていたのは３層である。中でも２層目の淡褐色土は、炭化物を含んでいる。

ＳＩ05については、炭化物・焼土粒を含む埋土がかなり上から検出されている。とりわけ、床面中央付近の淡黒褐色土・暗褐色土は炭化物・焼土粒を多く含んでいる。このことより、ＳＩ05は焼失した可能性が強いといえる。

遺　物出土状況　出土遺物としては、ＳＩ04で高坏Po272・土玉Po274～Po283がある。この他、甕胴部も北壁東付近で見つかったが図化できなかった。

一方ＳＩ05では、甕口縁Po263～268･270、甕底部Po271、高坏Po273、管玉S10、砥石S13がみられる。

この中で甕Po264は暗褐色土中より、甕口縁Po270はＰ４の埋土中より、砥石S13は貼床中より出土した。

甕Po269はＳＩ04・ＳＩ05境界付近の上方の埋土より出土した。他の土器の出土状況などから推察して、Po269はＳＩ04・05に伴う土器と考えるのではなく、後の時期の流れ込みとした。

時　期　ＳＩ04では時期を決定する土器がみつからなかった。

ＳＩ05は、Ｐ４内の甕口縁Po270から判断して、弥生時代後期後半と思われる。よって、ＳＩ04は弥生時代後期後半のＳＩ05に切られているため、弥生時代後期後半よりも時期が遡かのぼるといえる。

ＳＫ12（挿図14、図版7）

位　置　SK12はSI05床面東側の壁際に位置する。当遺構にはSI05の貼床がかかっていないことから、SK12はSI05に伴うものと考えられる。

ＳＩ05の床面を検出した際、貼床のない落ち込んだ面から炭化物片を多数検出した。四分割して、北東部・南西部より、ベルトを残して掘り下げた。

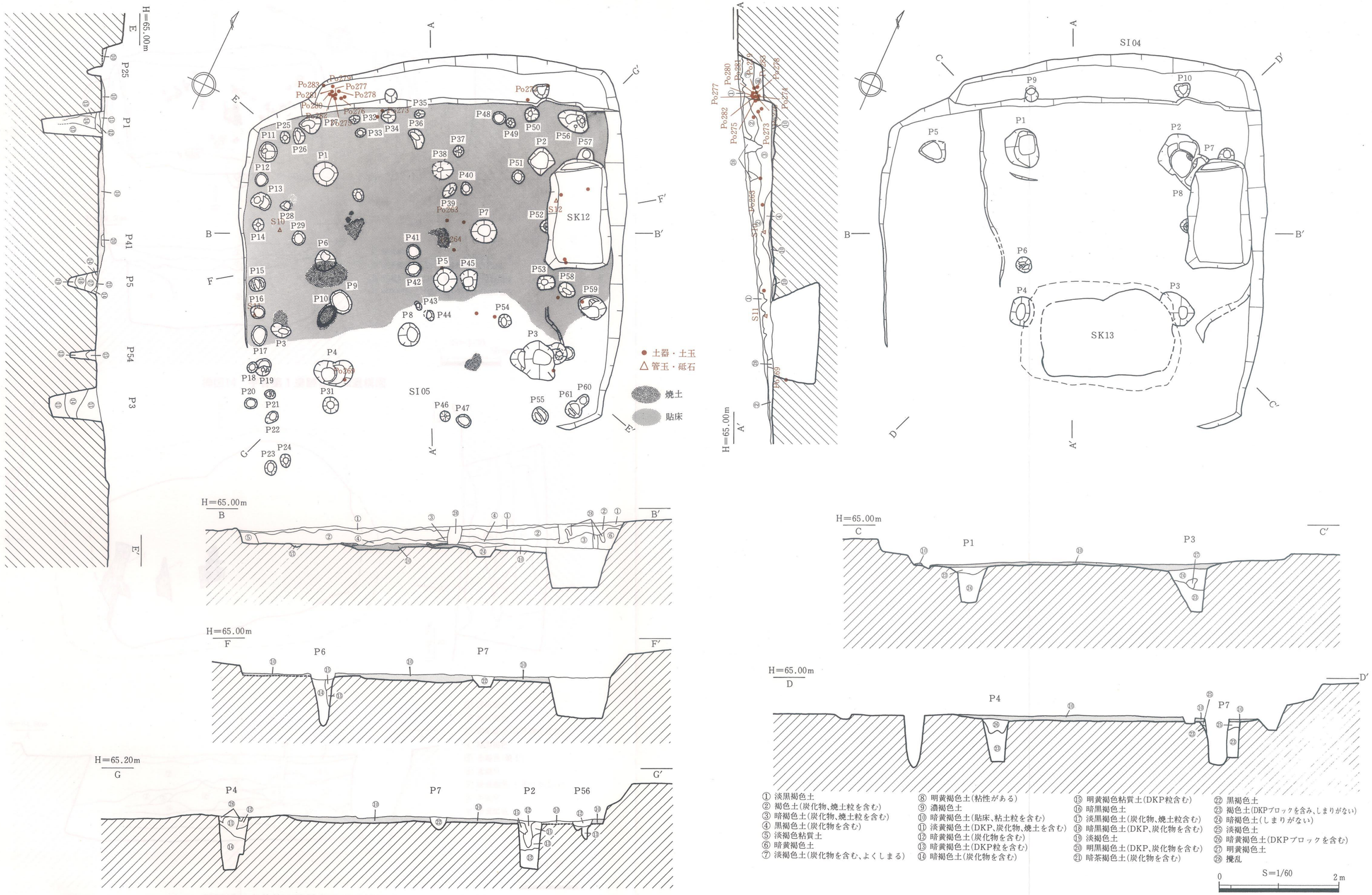
形　態　平面は長方形で、断面は逆台形状をしている。底面は硬い粘土層まで掘り込まれている。

規　模　規模は上縁部で長軸1.85m×短軸1.08m、底面で長軸1.64m×短軸0.83mとなっている。深さは、最も残りのよいところで0.73mである。長軸はほぼ南北方向を向いている。

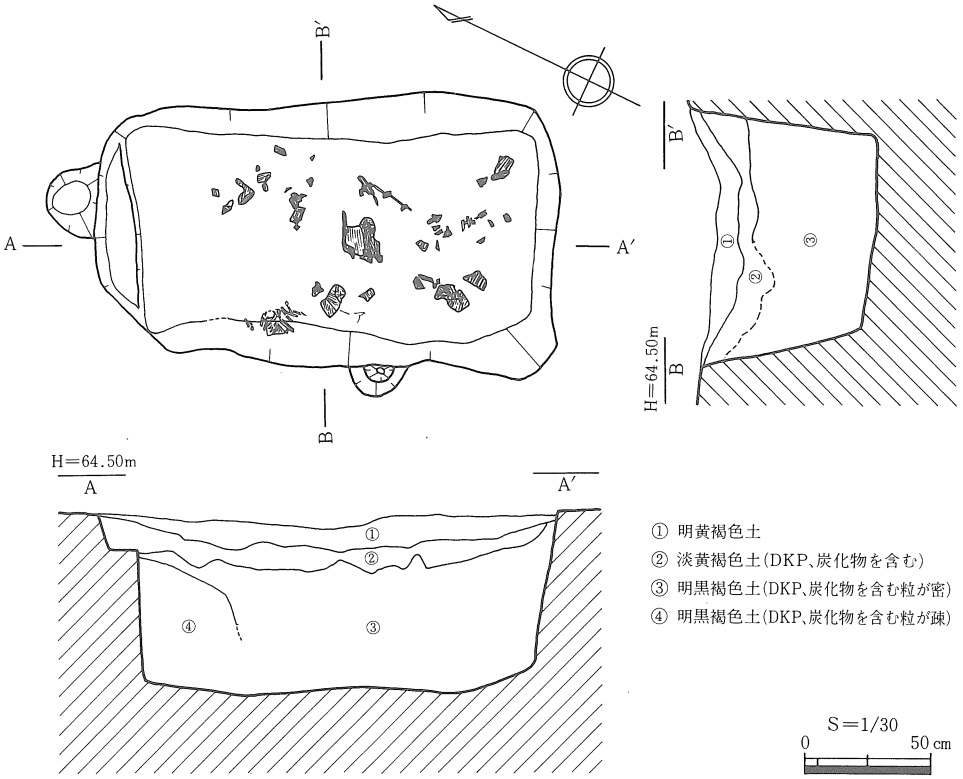
埋　土　埋土は４層に分けられる。②～④層は炭化物を含んでいる。なかでも③・④層は大量の炭化物を伴っていた。

遺　物出土状況　遺構全域で、炭化物が検出された。構造材の他に、茅も含まれていた。特に茅材は焼土と密着しており、ＳＩ05の屋根がＳＫ12に焼け落ちたものと思われる。この他に埋土中より敲石S12と土器片が確認された。後者は図化することができなかった。

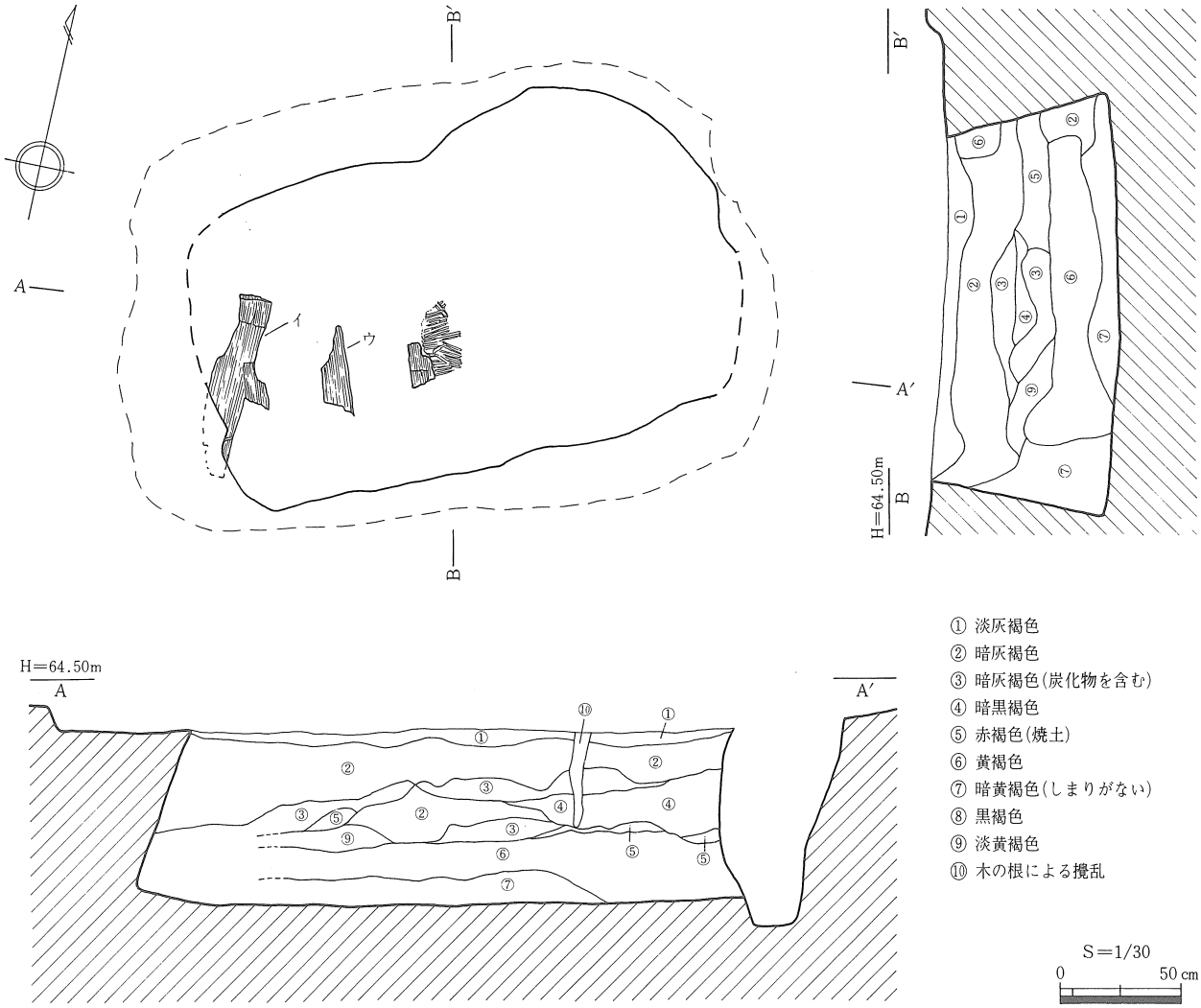
時　期　ＳＫ12はＳＩ05に伴うものである。よって、ＳＫ12は弥生時代後期後半のものである。また京都産業大学山田治教授によるC^{14}の分析結果によると、当遺構より出土した炭化物アは、1590±20BPとなる。



挿図13　宇谷第１遺跡ＳＩ04･05遺構図



挿図14　宇谷第１遺跡ＳＫ12遺構図



挿図15　宇谷第１遺跡ＳＫ13遺構図

ＳＫ13（挿図15、図版7）

位　置　ＳＩ05南側の貼床下で、ややいびつな長楕円の淡灰褐色面を検出した。四分割して、北東・南西区より掘り下げを始めた。

形　態　貼床の下にあったものの、東側をＳＩ04の主柱穴Ｐ３とＳＩ05の主柱穴Ｐ３に、西側をＳＩ04の主柱穴Ｐ４に切られている。遺存状態が悪かったため、当遺構とこれらのピットとの切り合い関係はわからなかった。平面は方形で、断面は袋状を呈する。規模は上縁部で長軸2.30m×短軸1.47m、底面で長軸2.76m×短軸1.84mである。深さは、最も残りのよいところで0.73mとなっている。長軸はほぼ東西方向を向いている。

埋　土　埋土は全部で９層に分けられる。③層暗灰褐色土・⑤層赤褐色土など炭化物や焼土を含む埋土が見られる。当遺構の埋土も、焼失による堆積と思われる。

遺物出土状況　遺構全域で炭化物が検出された。とくに、中央部③層暗灰褐色土・⑨層淡黄褐色土中で茅が、南西区で垂木と思われる炭が３つ出土した。三者はともに南壁からＡ－Ａ′ベルトに向って下がるようなかたちで検出された。これらのうち炭化物イは、鑑定の結果スギである。同様に炭化物ウは、樹種は不明だが広葉樹である。この他の炭化物は図化できなかった。また、甕口縁Po262も埋土中より出土した。

時　期　ＳＩ05の貼床の下から検出されたことから、当遺構はＳＩ05よりも古いと思われる。前項より、ＳＫ12はＳＩ05に伴うものである。よって、ＳＫ13はＳＫ12よりも時期が古いといえる。

また、C^{14}の分析結果によると、ＳＫ13の炭化物イは1680±20ＢＰである。これに対しＳＫ12炭化物アの時期が1590±20だから、ＳＫ12とＳＫ13の新旧関係が土層のみならず、遺物の面でも再確認される。

ただ、ＳＫ13とＳＩ04との新旧関係ならびにＳＩ04・05との従属関係については、明らかにできなかった。当遺構はＳＩ04・05の主柱穴に切られていることから、これらとは別の住居に伴っていたとも考えられる。

ＳＩ06（挿図16・68・69、図版8・37）

位　置　調査区の西側のＤ５グリッドの、標高62.0m～62.5mのなだらかな斜面に位置する。SI07の南西側を切って作られている。

形　態　ＳＩ06は、南側が流失しており原形を留めていなかったが、平面は方形を呈す。

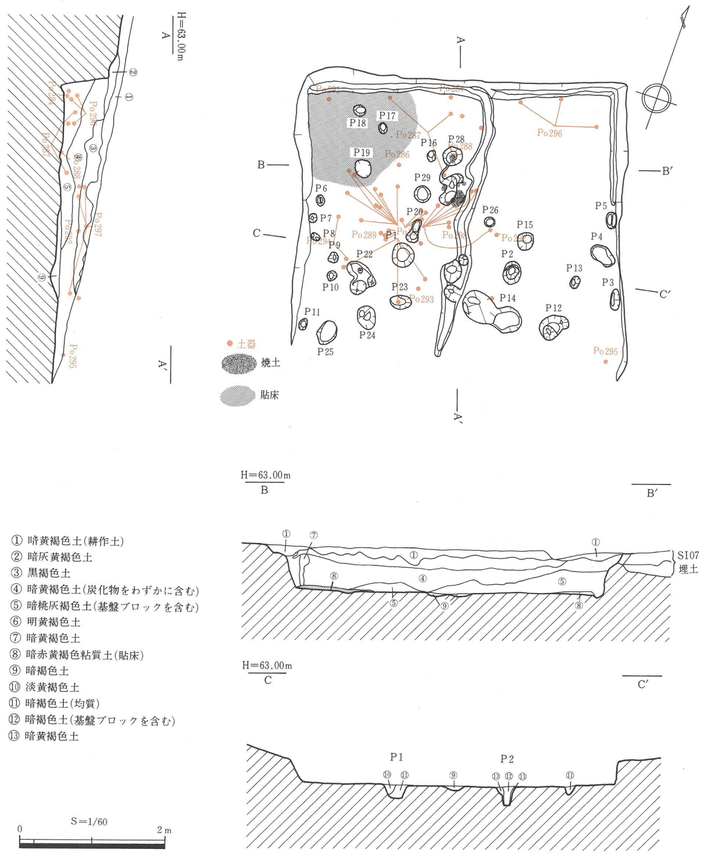
規模は、南側を復元して考えると、東西4.2m、南北4.0mを測り、床面積約16.8㎡と推定される。残存壁高は、最も遺存状態の良い北壁で最大0.63mである。

壁溝は北側壁際及び東側壁際にのみ残っており、幅15～20cm、深さ３～６cmを測り、断面は逆台形状を呈す。

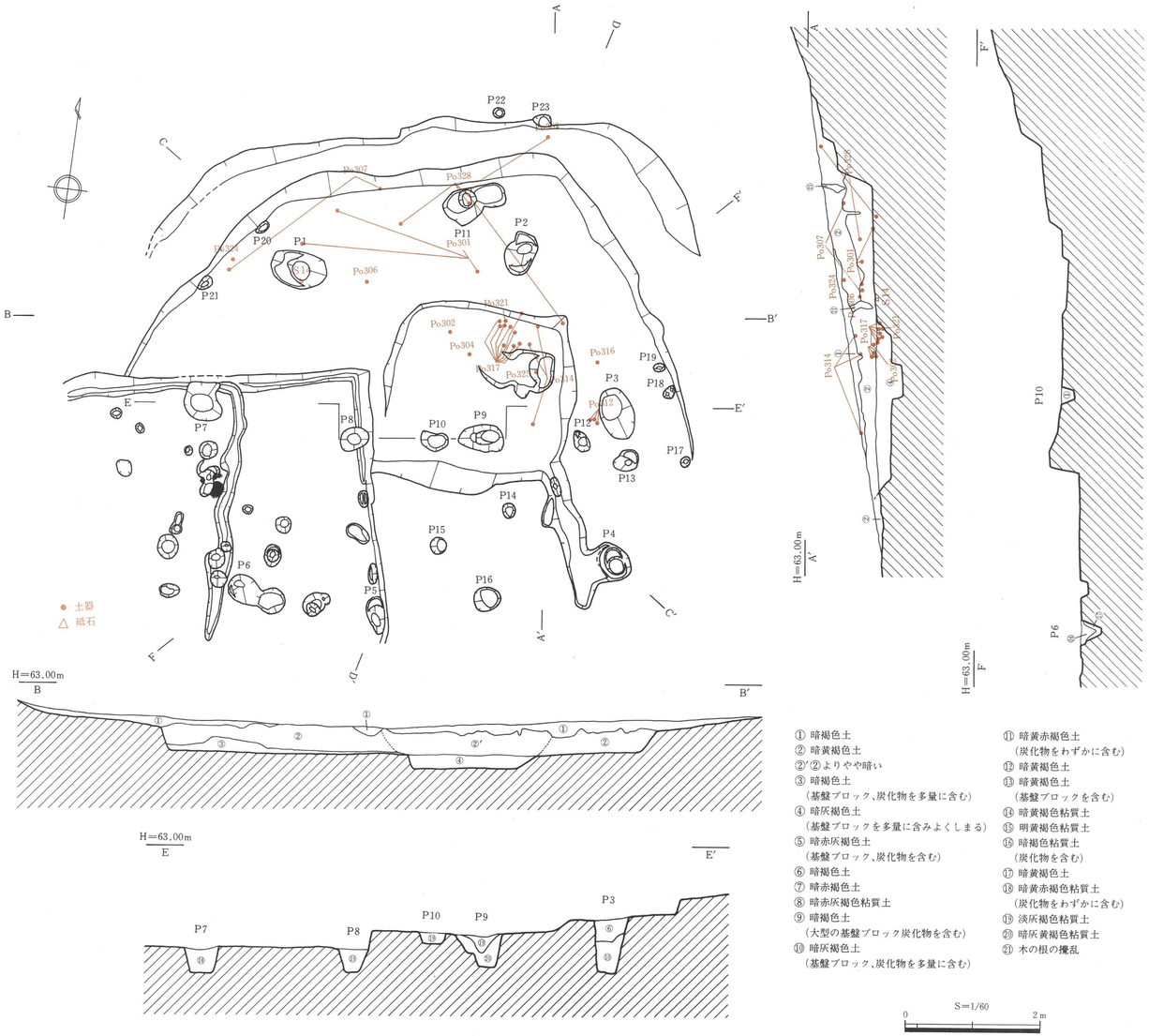
柱穴は床面上で29個検出されたが、主柱穴と考えられるものはＰ１、Ｐ２である。それぞれの規模はＰ１(34×30－19)cm、Ｐ２(31×25－27)cmで、主柱穴間距離は1.6mである。他の柱穴については、Ｐ３～Ｐ11が壁際にあり、杭を立てて壁を補強したものと考えられる。それぞれの規模は、Ｐ３(30×13－10)cm、Ｐ４(37×20－11)cm、Ｐ５(23×13－13)cm、Ｐ6(15×10－13)cm、Ｐ７(14×11－14)cm、Ｐ８(14×10－15)cm、Ｐ９(16×13－９)cm、Ｐ10(14×14－６)cm、Ｐ11(13×11－３)cmである。

中央ピット・焼土　中央ピットと思われるものは確認できなかった。Ｐ21、28、29の周囲または上面に焼土面があったが、炉として機能したものとは考え難い。

貼　床　住居の北側半分の部分で赤褐色粘質土の貼床が認められたが、埋土との区別がつかず除去



挿図16　宇谷第１遺跡ＳＩ06遺構図



挿図17　宇谷第１遺跡ＳＩ07遺構図

してしまい、正確な範囲を知ることができなかった。

埋　土　埋土は耕作土を除いて6層に分層でき、自然堆積の状況を示すが、西壁で暗黄褐色土が立ち上がる部分があり、壁際のピットと合わせて杭が立っていたと考えられる。

遺物出土状況　床面からは、甕Po284・Po288、小型丸底壺Po295が出土している。埋土中からは、黒褐色土中で須恵器長頸壺Po297がばらばらの状態で、また、須恵器短頸壺Po298、須恵器甕Po299・300が出土している。そのほかにも、暗黄褐色土中から甕Po285～Po287・Po289～Po294、高坏Po296が出土している。

時　期　ＳＩ06の時期は、床面出土の土器から古墳時代中期頃と考えられる。黒褐色土中の須恵器類は、奈良時代のものと考えられる。

ＳＩ07（挿図17・69～71、図版8・9・38）

位　置　調査区の南西側のＤ５・Ｅ５グリッドにあり、標高62m～62.75mのなだらかな斜面に位置している。ＳＩ07の東側約20mにはＳＩ08がある。

形　態　ＳＩ07は、南西側がＳＩ06によって大きく切られ、また、南東側が流失しており原形を留めていなかったが、平面は六角形を呈すと思われる。

規模は、南西側、南東側を復元して考えると、東西7.7m、南北7.4mを測り、床面積約57㎡と推定される。住居の一辺は約3.8mを測る。北側には、幅0.3～0.7mのテラスが住居のプランに添って作られている。残存壁高は、最も遺存状態の良い北壁で最大0.85m(上縁～テラス0.25m、テラス～床面0.60m)である。

壁溝は認められなかった。

柱穴は床面上でＰ１～Ｐ４、Ｐ９、Ｐ11～Ｐ21の16個検出されているが、その他にも、ＳＩ06の床面上でＳＩ07に伴うと考えられる深いピット、Ｐ５～Ｐ８の４個を検出することができた。それぞれの規模はＰ１(83×54－74)cm、Ｐ２(60×42－70)cm、Ｐ３(76×50－82)cm、Ｐ４(52×43－81)cm、Ｐ５(56×25－45)cm、Ｐ６(51×39－33)cm、Ｐ７(66×48－42)cm、Ｐ８(44×32－33)cm、Ｐ９(65×40－51)cm、Ｐ11(42×36－７)cm、Ｐ12(34×21－18)cm、Ｐ13(38×32－25)cm、Ｐ14(23×18－10)cm、Ｐ15(25×23－27)cm、Ｐ16(40×35－22)cm、Ｐ17(15×14－13)cm、Ｐ18(21×13－９)cm、Ｐ19(16×14－11)cm、Ｐ20(22×13－６)cm、Ｐ21(22×16－22)cmである。

主柱穴はＰ１～Ｐ７の７個で、主柱穴間距離はＰ１－Ｐ２間から順に3.3m、2.7m、2.4m、3.7m、2.1m、2.7m、2.5mである。他の柱穴については、Ｐ８・Ｐ９が棟持柱の柱穴と考えられる。Ｐ17～21は壁際にあり、杭を立てて壁を補強したものと考えられる。

周辺ピット　テラスの周辺にもＰ22、Ｐ23の２個のピットを検出した。規模は、Ｐ22(16×15－16)cm、Ｐ23(27×18－11)cmである。これらは垂木を立てたものと考えられる。

中央ピット　中央ピットと思われるものはＰ10で、Ｐ８・Ｐ９間にある。周辺は後述する不明遺構によって削平されており完存していなかったが、規模は(40×26－18)cmを測る。埋土は暗灰褐色粘質土で、炭化物等は認められず、炉として機能したとは考え難い。

不明遺構　ＳＩ07の中央部に、2.8m×2.8mの隅丸方形を呈す掘り込みが検出された。土層断面では確認できなかったが、この掘り込みの埋土から出土した甕Po317、高坏Po321から判断すると、この掘り込みはＳＩ07の廃絶後に掘り込まれたものと考えられる。

埋　土　埋土は４層で、自然堆積の状況を示すが、最下層は炭化物を多量に含むものであり、焼失した可能性がある。

遺物出土状況　床面及びピット内からは、壺Po301・Po302、甕Po304・Po311・Po312・Po319・Po320、鼓形器台Po322、蓋Po328、砥石S14が出土している。埋土中及び南側斜面からは、甕Po303・

Po305～Po310・Po313～Po316・Po318、高坏Po323～Po326、小型丸底鉢Po327、須恵器高坏Po329、土玉Po330が出土している。

時　期　ＳＩ07の時期は、床面出土の土器から弥生時代後期後半頃と考えられる。また、中央部の不明遺構の時期は、古墳時代中期前半頃と考えられ、ＳＩ06に関わるものとも考えられる。

ＳＩ08（挿図18･72～77、図版10･39～41）

位　置　調査区の南西部、Ｇ５グリッド・Ｈ５グリッドにあり、標高62.5ｍ辺りの尾根がなだらかに下った斜面に位置する。ＳＩ08の西側約20ｍのところにＳＩ07が位置している。

形　態　ＳＩ08は、南側が流失しているものの比較的周壁の遺存状態は良く、南西側を復元して考えると長軸4.5m×短軸4.0mを測り、床面積は18㎡と推定され、平面は方形を呈す。北側には住居のプランに沿ってテラスが作られている。

残存壁高は、最も遺存状態のよい北壁で、テラスも含めて最大0.98m(上縁～テラス0.38m、テラス～床面0.6m)である。

壁溝は、北東コーナーでとぎれる。幅８～12cm、深さ２～４cmを測り、断面はＵ字状を呈す。

柱穴は、床面上ではＰ１～Ｐ４・Ｐ６～Ｐ８の７個、貼床下ではＰ９～Ｐ10の２個が検出されている。それぞれの規模はＰ１(27×26－７)cm、Ｐ２(38×34－93)cm、Ｐ３(36×36－19)cm、Ｐ４(27×25－20)cm、Ｐ６(27×21－13)cm、Ｐ７(21×16－７)cm、Ｐ８(22×20－7)cm、Ｐ９(89×64－24)cm、Ｐ10(16×７－９)cmを測る。主柱穴はＰ１・Ｐ２の２個と考えられ、主柱穴間距離は、3.1mである。Ｐ３・Ｐ４は、補助柱穴と考えられる。

中央ピット　中央ピットと考えられるものはＰ５で、住居の中央部に位置する。規模は、(50×44－26)cmを測り、ほぼ円形を呈す。埋土は２層に分層でき、上層は暗赤褐色土、下層は暗赤褐色粘質土で、炭化物等は認められず、炉として機能したとは考え難い。

焼土面　Ｐ１とＰ６との間に、45×32cmに広がる焼土面が検出された。

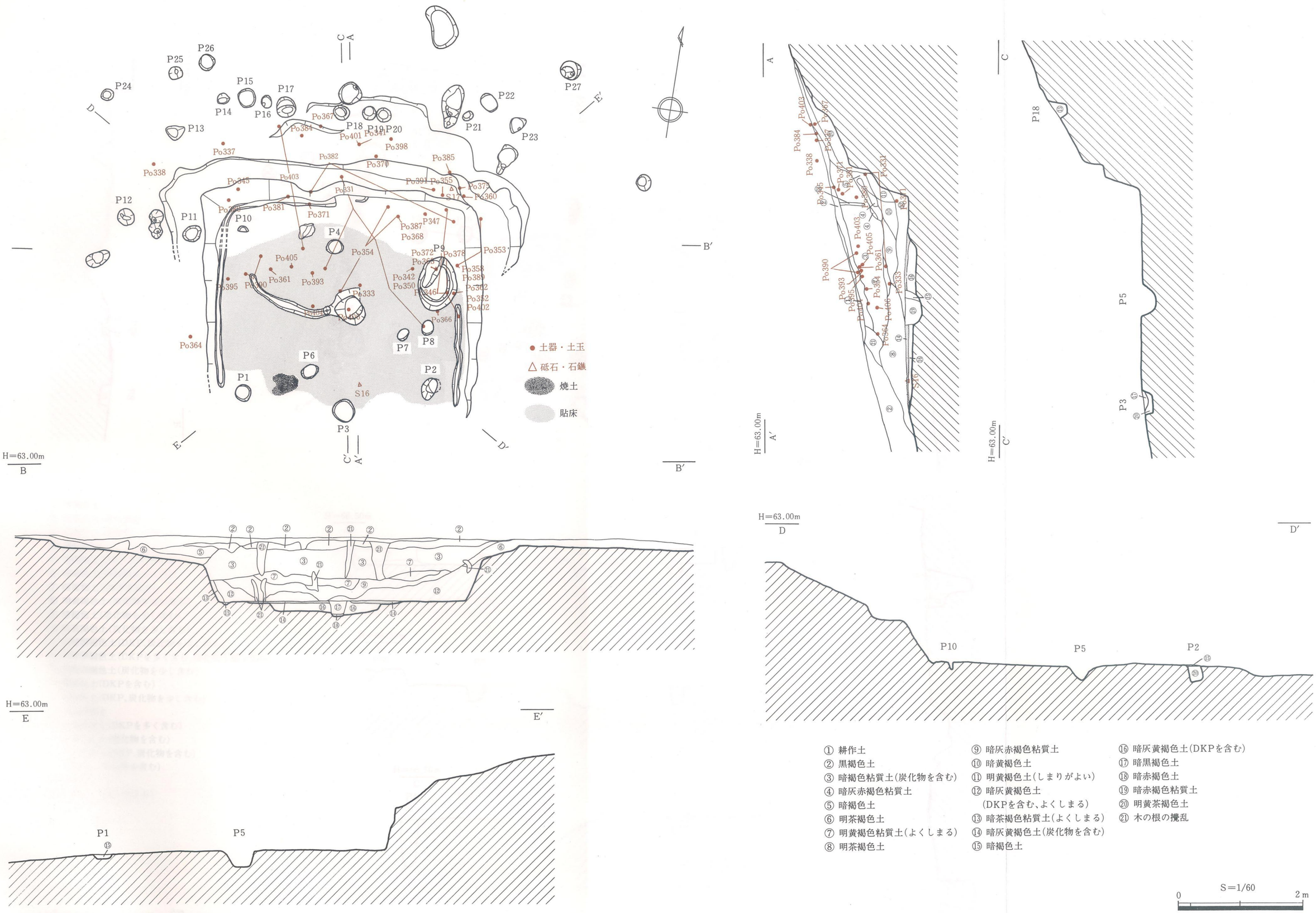
貼　床　住居のほぼ中央部の基盤層を深さ約10cm掘り込み、層で埋め戻した後に暗灰黄褐色土で貼床がなされていた。

埋　土　埋土は、耕作土を除いて12層である。このうち、③層下面がほぼ平坦で、⑦層がよく締まる土層であった。平面では確認できなかったが、この面で再利用されたものと考えられる。⑦層以下は自然堆積したものと考えられる。

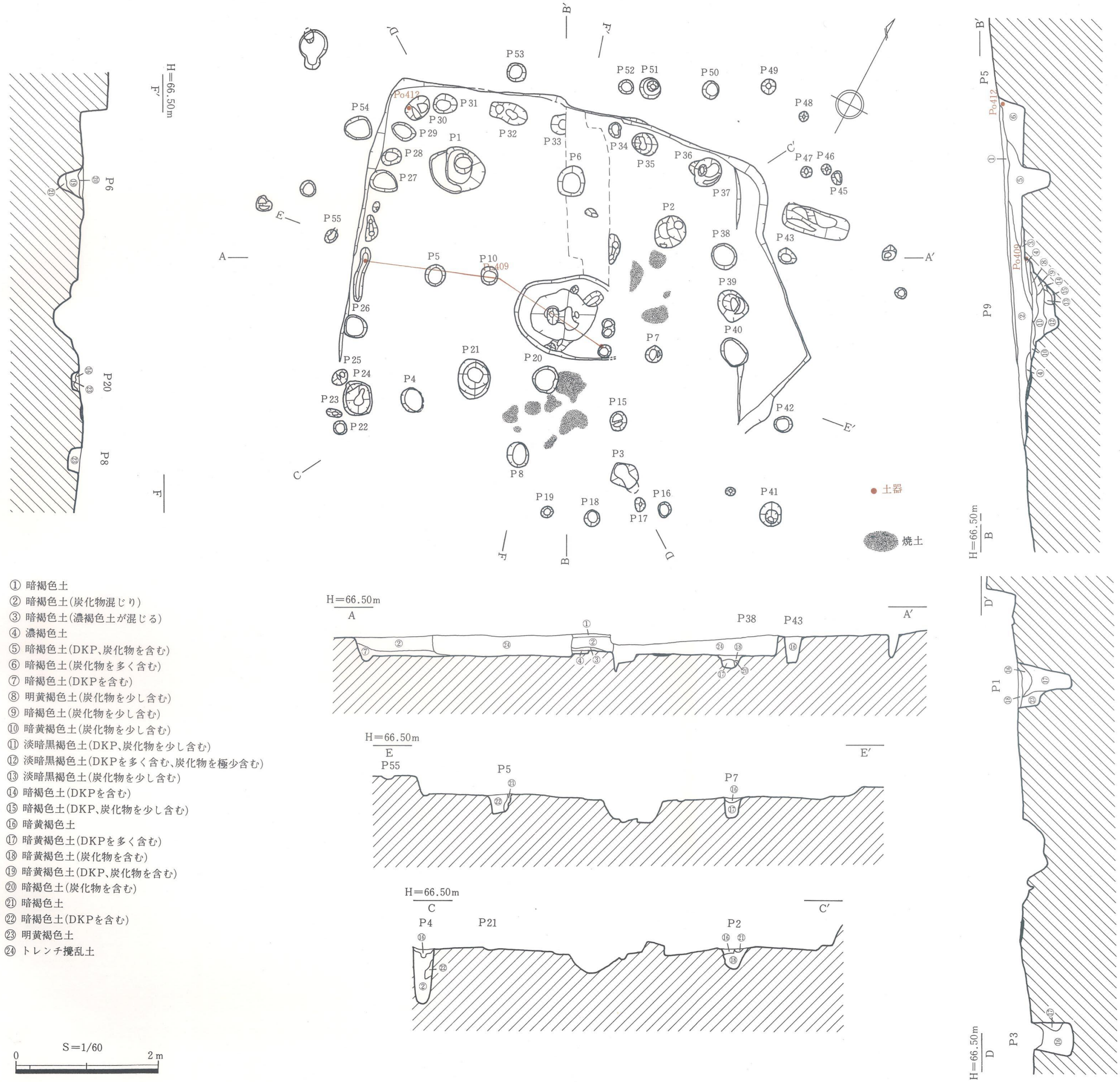
周辺ピット　ＳＩ08の北側には、Ｐ11～Ｐ28の計18個のピットが検出された。規模は、径20～30cm、深さ５～20cmのものが殆どである。これらは、垂木を立てたピットと考えられる。

遺　物
出土状況　ＳＩ08からは、埋土から多くの土器・石器が出土している。図化できたものには、壺Po332・Po352・Po353、甕Po331・Po333～Po351・Po354～Po382、高坏Po384～Po405、小型丸底壺Po406、土玉Po407、石鏃Ｓ15、砥石Ｓ16・Ｓ17、瓦質土器底部Po383がある。これらの内、床面から出土したものはＳ16だけである。土器の出土状況を見ると、③層を境に土器の様相が異なっている。①～③層上層ではPo337、Po338、Po345、Po354、Po364、Po367、Po384、Po390、Po393、Po395、Po403、Po406、③層下層以下ではPo331、Po333、Po371が出土している。

時　期　ＳＩ03の時期は、上層の土器が古墳時代中期頃のもの、下層の土器が弥生時代後期頃と考えられるものが多いことから、ＳＩ03は弥生時代後期後半に作られ、古墳時代中期頃に再利用されたものと考えられる。



挿図18　宇谷第１遺跡ＳＩ08遺構図



挿図19　宇谷第１遺跡SI09遺構図

ＳＩ09（挿図19･77、図版10･11･41･43）

位　　置　調査区の中央、Ｍ５グリッドの北東隅、屋根が緩やかに南側に向かって下がり始める標高66ｍ付近に位置する。周辺には貯蔵穴群、掘立柱建物群、ピット群が位置する。

形　　態　この住居跡は試掘調査（泊村Ｔ８）[2]によって確認されており、すでに床面の検出も一部行なわれていた。東側と南側で正確な壁が検出できなかったが、平面は方形である。規模は壁際に掘られたピットをもとに復元すると、長軸5.7ｍ×短軸5.6ｍ、床面積31.5㎡と推測される。残存壁高は最も遺存状態の良い北壁で最大0.53ｍである。西側の壁際ほぼ中央で２つに短く切れた壁溝が検出され、その両端にＰ26とＰ27がある。規模は南側の溝が長さ80cm、幅10cm、深さ6.6cm、北側の溝は長さ39cm、幅17cm、深さ８cmである。

柱穴は床面上で40個、周辺で14個が確認されている。床面のピットを観察すると、主柱穴はＰ１～Ｐ４の４個である。規模はＰ１から順に(78×68－79)cm、(48×42－59)cm、(41×41－58)cm、(36×30－81)cmである。主柱間距離はＰ１－Ｐ２間から順に、3.3ｍ、3.5ｍ、3.2ｍ、3.5ｍである。それぞれの主柱穴を結ぶ直線のほぼ中間の外側に、Ｐ５～Ｐ８の４個の柱穴があり、これらは棟持柱または補助柱であろう。深さはＰ５から順に29cm、34cm、29cm、20cmである。また、この住居跡で最も特徴的なことは、Ｐ22～Ｐ40の18個の柱穴が壁際に並ぶことである。規模は径が最大40cm程、最小20cm程のもので、深さが10～35cmである。これらのピットは側板を押さえる杭の穴と考えられるが、柱状の太い杭が想定され、構造上、柱に匹敵するほどの役目を果たしていたと考えられる。周辺のピットはＰ41～Ｐ54である。垂木を差し込んだ柱穴と考えられるが、規模は最大径のものが(40×30)cm、最小径のものが、(14×13)cmであり、深さは71～29cmである。

中央ピット　中央ピット（Ｐ９）は２段に掘り込まれ、平面が楕円形である。規模は１段目が長軸1.4ｍ以上×短軸1.2ｍ、２段目が長軸0.94ｍ×短軸0.74ｍ、深さが最大0.42ｍである。また、１段目と２段目の間にはテラスが巡り、東側のテラスにはＰ11～Ｐ14の４個の浅いピットが掘り込まれていた。

焼　　土　焼土は床面上の東側と南側に集中して11箇所確認され、すべて主柱穴を繋ぐ線上もしくはその内側で検出された。規模は最大(40×35)cm、最小(12×９)cmである。

埋　　土　東西ベルトの埋土は試掘トレンチによって大半が失われていたが、埋土は自然堆積であり、壁から中央に向かって流れ込んだ様な状態である。また、焼土面が多いことと埋土の大半に炭化物が含まれていることから、この住居は焼失したと考えられる。

遺　　物　甕口縁Po410は床面から、甕口縁Po409、軽石は中央ピットの埋土中から出土している。⑤

出土状況　層中から壺口縁Po408・甕底部Po412が出土し、①層中から甕口縁Po411も出土している。また、砥石Ｓ18がＰ20から、砥石Ｓ19、土玉Po413が埋土中からそれぞれ出土している。さらに、北西隅の埋土中から炭化した種子が見つかった。

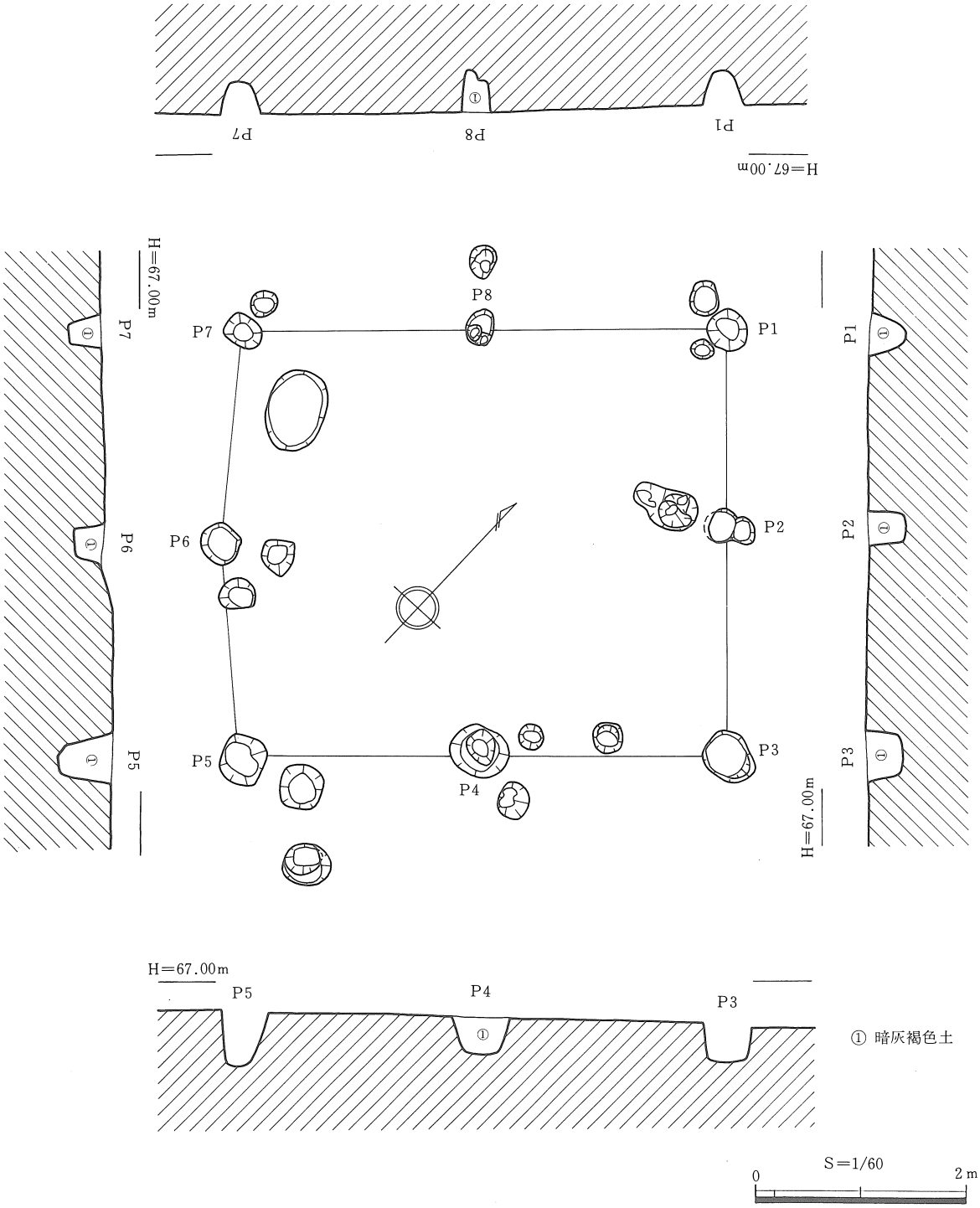
時　　期　時期は、床面出土土器Po410、中央ピット出土土器Po409により、弥生時代後期後半と考えられる。

2．掘立柱建物跡

ＳＢ01（挿図20、図版12）

位　　置　調査区のほぼ中央やや北側のＮ３グリッドに位置している。周辺には多数のピットが存在している。

形　　態　桁行２間・4.6m、梁行２間・4.0mの掘立柱建物跡である。主軸方向はＮ-46°30′-Ｅである。柱穴は8個で、規模はそれぞれＰ1(40×38−33)cm、Ｐ2(34×24−36)cm、Ｐ3(50×42−37)cm、Ｐ4(56×46−43)cm、Ｐ5(47×42−54)cm、Ｐ6(38×38−30)cm、Ｐ7(38×28−31)cm、Ｐ8(34×26−37)cmを測る。柱穴間距離は、Ｐ1−Ｐ2間から順に、1.8m、2.1m、2.3m、2.3m、2.0



挿図20　宇谷第１遺跡ＳＢ01遺構図

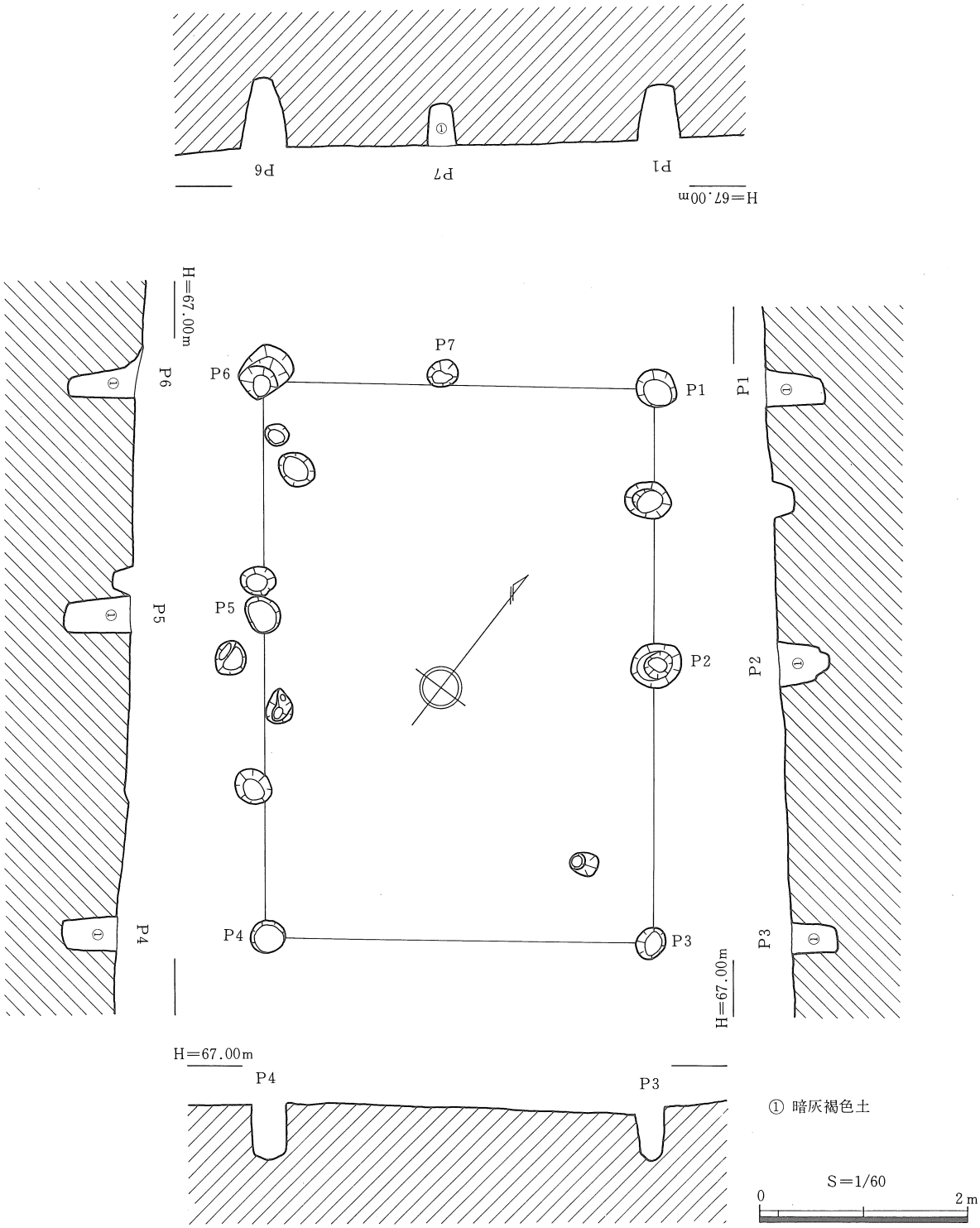
m、2.2m、2.3mである。しかし、P6とP2の外側のピットが近接棟持柱の柱穴の可能性もある。

埋　土　ピットの埋土は、いずれも締まりのあまりない暗灰褐色土で、炭化物をわずかに含む。

時　期　P4内から土器片が出土しているが図化できず、時期は不明であるが、掘立柱建物跡はSD01以東にだけ存在し、このうちSB03から弥生時代後期後半の土器が出土しており、同時期のものと考えられる。

SB02（挿図21、図版12）

位　置　調査区のほぼ中央部のN4グリッドに位置している。周辺には多数のピットが存在し、北側約5mにSB01がある。

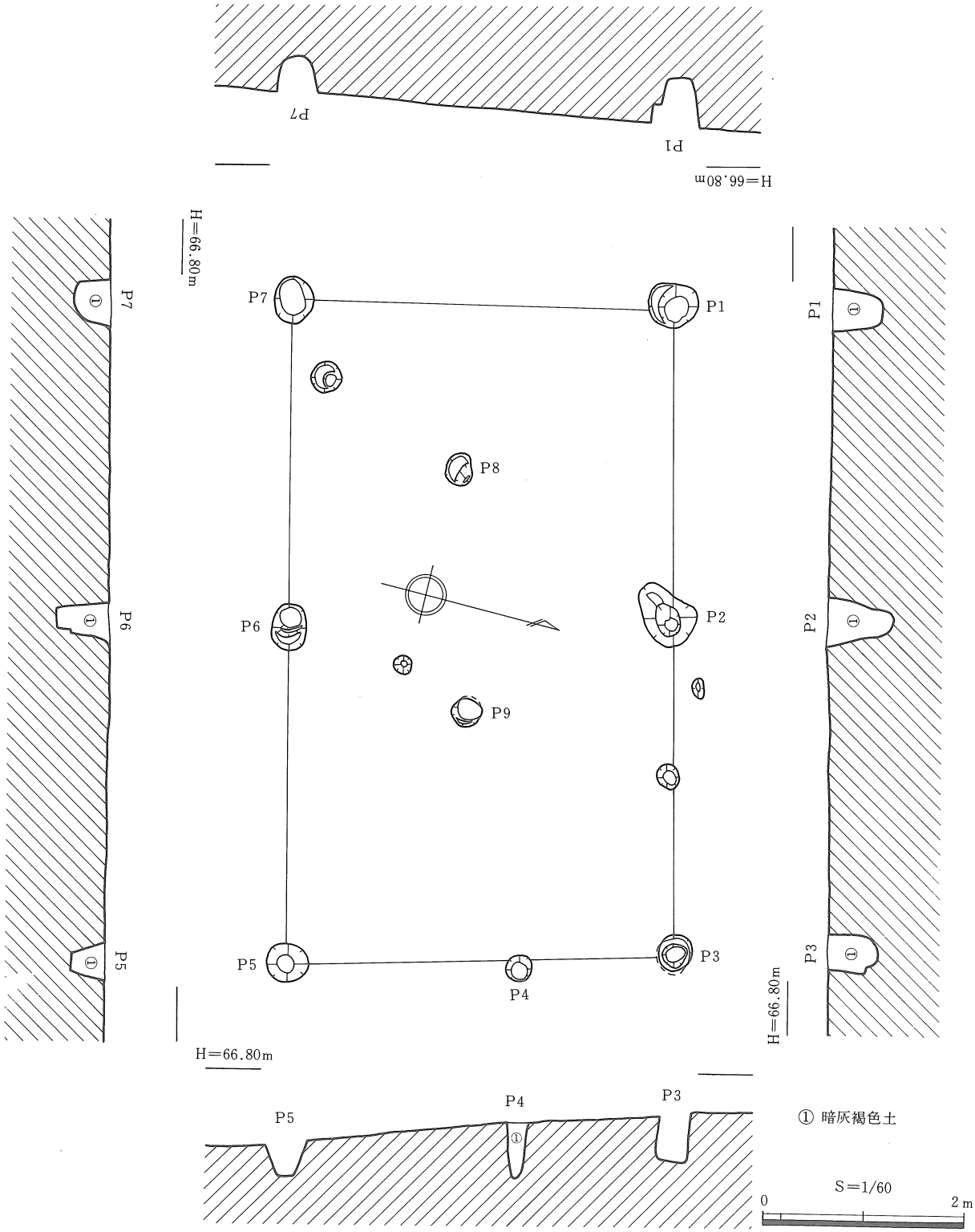


挿図21　宇谷第1遺跡SB02遺構図

形　　態　桁行２間･5.2m、梁行１間･3.8mの掘立柱建物跡である。主軸方向はN-38°-Wである。柱穴は７個で、規模はそれぞれＰ１(40×36－56)cm、Ｐ２(50×42－47)cm、Ｐ３(32×26－46)cm、Ｐ４(33×30－54)cm、Ｐ５(38×32－67)cm、Ｐ６(52×40－72)cm、Ｐ７(30×24－38)cmを測る。柱穴間距離は、Ｐ１－Ｐ２間から順に、2.6m、2.7m、3.7m、3.1m、2.2m、1.7m、2.1mである。Ｐ７は、梁のラインからやや外側にあり、近接棟持柱の柱穴と考えられる。

埋　　土　ピットの埋土は、いずれも締まりのあまり無い暗灰褐色土で、炭化物をわずかに含む。

時　　期　遺物は全く出土しておらず時期は不明であるが、掘立柱建物跡はＳＤ01以東にだけ存在し、このうちＳＢ03から弥生時代後期後半の土器が出土しており、同時期のものと考えられる。



挿図22　宇谷第１遺跡ＳＢ03遺構図

ＳＢ03（挿図22･81、図版12･43）

位　　置　調査区のほぼ中央部南側のＬ４・Ｌ５・Ｍ５グリッドに位置している。周辺のピットの密度はＮ３・Ｎ４グリッドほど高くない。ＳＢ03の東側約1.9mにはSI09がある。

形　　態　桁行２間･6.6m、梁行１間･3.8mの掘立柱建物跡である。主軸方向はN-75°15′-Eである。主柱穴はＰ１～Ｐ６の６個で、各主柱穴の規模はそれぞれＰ１(48×40―50)cm、Ｐ２（67×45―65)cm、Ｐ３(42×32―51)cm、Ｐ４(42×38―46)cm、Ｐ５(46×34―54)cm、Ｐ６(46×41―38)cmを図る。柱穴間距離は、Ｐ１―Ｐ２間から順に、3.1m、3.3m、3.8m、3.4m、3.2m、3.8mである。Ｐ７は、Ｐ３・Ｐ４間にあり、やや外側に位置するもので、規模は、(26×26―54)cmを測る。Ｐ８・Ｐ９は建物内にあり、規模は、Ｐ８(32×24―21)cm、Ｐ9(30×25―45)cmを測る。Ｐ７は近接棟持柱の柱穴、Ｐ８・Ｐ９は屋内棟持柱の柱穴と考えられる。

埋　　土　ピットの埋土は、いずれも締まりのあまり無い暗灰褐色土で、炭化物をわずかに含む。

遺　　物　Ｐ１内から甕Po463 が出土している。そのほかにもＰ９内から土器片が出土しているが図化できなかった。

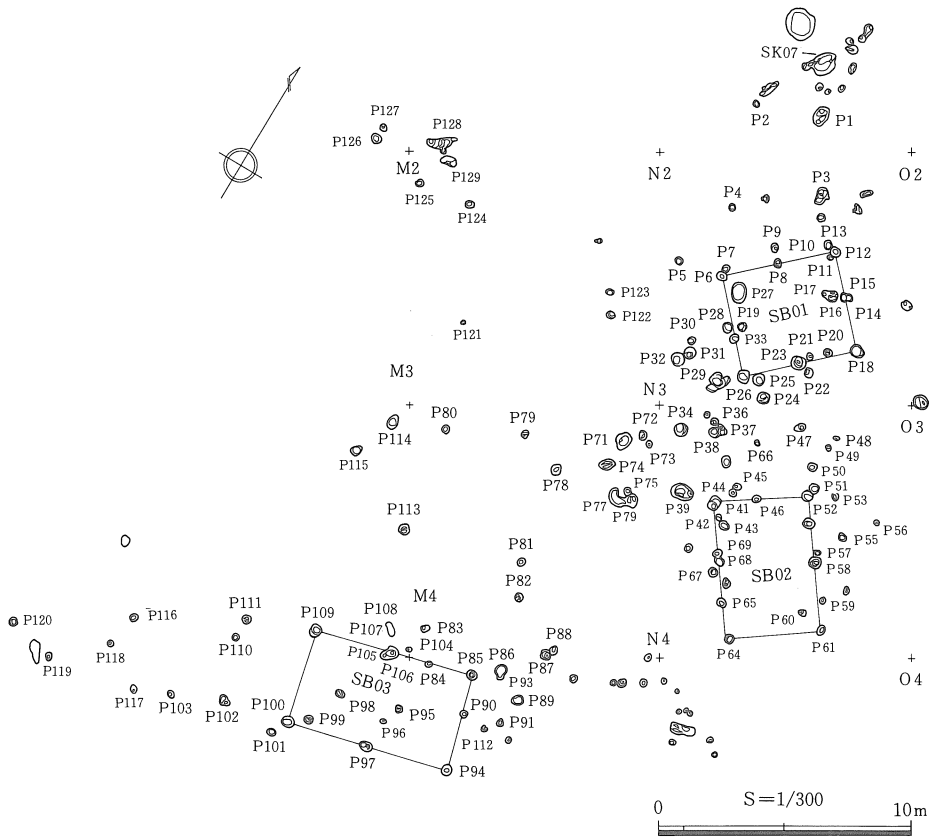
出土状況

時　　期　ＳＢ03の時期は、弥生時代後期後半頃と考えられる。

ピット群（挿図23、図版11）

位　　置　調査区の中央、標高65.75m～66.75m辺り、尾根頂部の平坦部と南側緩斜面に129個のピットを検出した。Ｎ3、Ｎ4、Ｎ5、Ｍ5、Ｌ4、Ｌ5、グリッドにほぼ収まる範囲にピットが集中している。その広がりは南北約25ｍ、東西約30ｍである。

各ピットの詳細については、ピット群一覧表(挿表2)のとおりである。



挿図23　宇谷第１遺跡ピット群遺構図

3．土坑・土壙

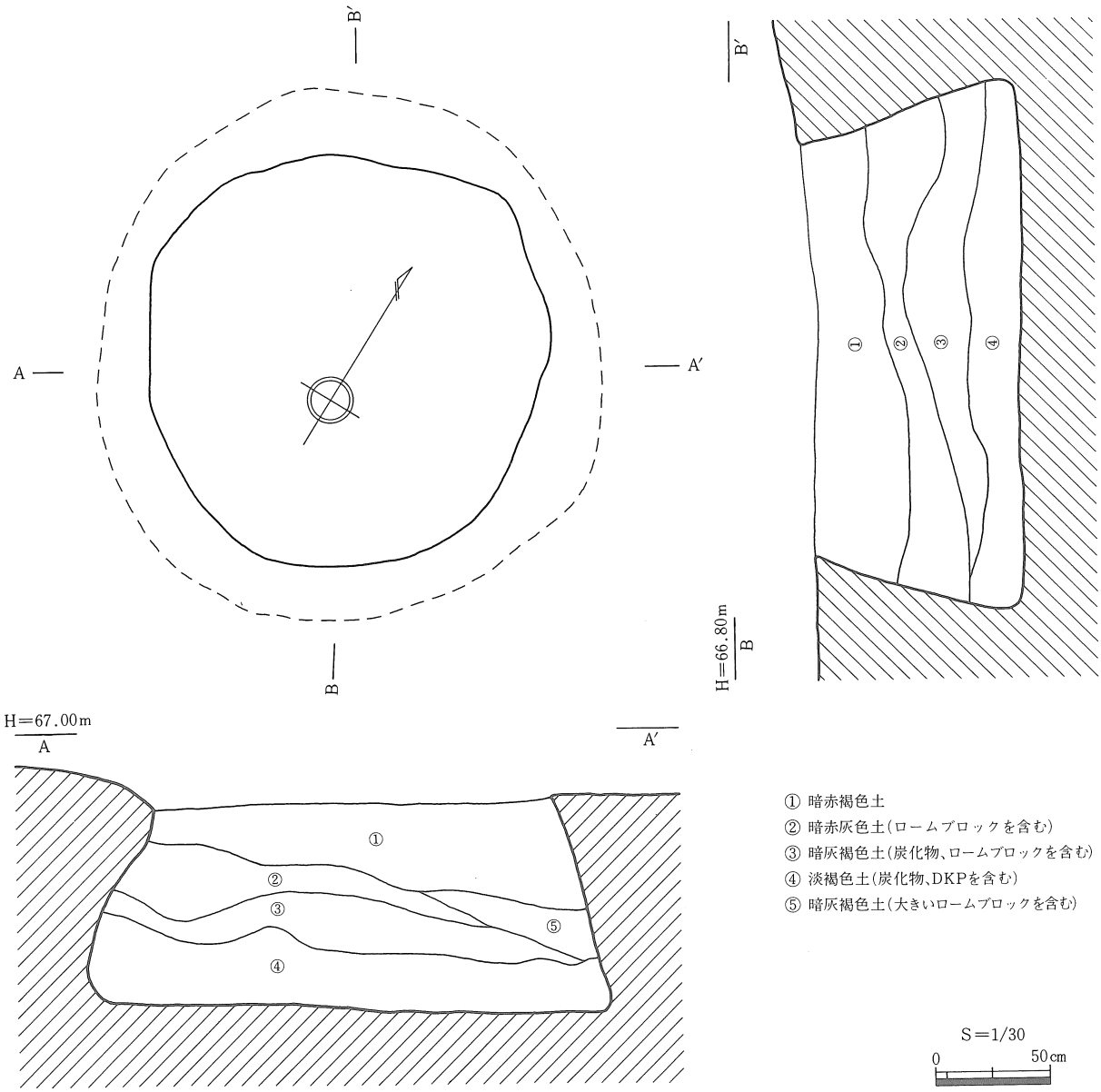
ＳＫ01（挿図24、図版13）

位　　置　調査区のほぼ中央、Ｍ４グリッドの南東隅で尾根の頂部が広くなった最上部辺りで、標高66.5m付近に位置する。すぐ南側にはＳＩ09がある。試掘調査によってすでに底面の調査が行われていた。

形　　態　非常に遺存状態がよく、本遺跡最大の土坑である。上縁部、底面共に平面はほぼ円形を呈し、断面は上縁部から16～34cm壁面が内彎する顕著な袋状である。規模は上縁部が長径1.80m、短径1.76m、底面が長径2.31m、短径2.20mである。残存する部分の最大の深さは0.94mである。

埋　　土　層は５層に分層できる。細かい炭化物が③④層中に含まれており、断面が袋状を呈すことなどを考え合わせると、この土坑は貯蔵穴に使われていたと考えられる。また、この土坑はＤＫＰ層を掘り込み、その下の淡赤褐色の粘土層まで達している。

遺　　物　土器片が③層中から出土しているが、図化できなかった。



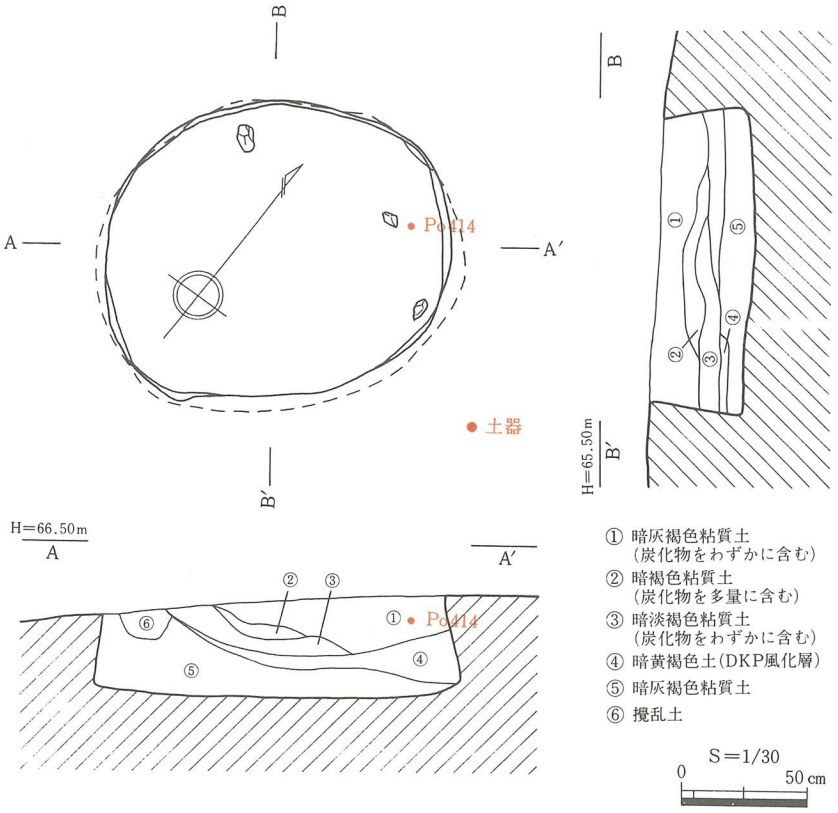
挿図24　宇谷第１遺跡ＳＫ01遺構図

時　期　時期は他遺構との位置関係、形態、出土土器片などから推察すると弥生時代後期後半と思われる。

ＳＫ02（挿図25･78、図版13）

位　置　調査区ほぼ中央、Ｌ３グリッドの南東隅で尾根頂部が広くなって、尾根が緩やかに西側に下がり始める標高66.25m付近に位置する。すぐ南側にSK03がある。

形　態　上縁部、底面共に平面はほぼ円形を呈し、断面は上縁部から最高９cm程壁面が内彎する袋状である。規模は上縁部が長径1.34m、短径1.23mあり、底面が長径1.47m、短径1.30mある。残存する部分の最大の深さは0.47mである。



挿図25　宇谷第１遺跡ＳＫ02遺構図

埋　土　埋土は５層に分層できる。比較的粒の大きい炭化物が①～③層中に含まれており、断面が袋状を呈すことを考え合わせると、この土坑は貯蔵穴に使われていたと考えられるが、この土坑はＤＫＰ層中で掘り込みが終わっている点は、他の貯蔵穴と異なる。

遺　物　土玉Po414は①層中から出土している。また、①⑤層中から土器片や石が出土しているが、図化できなかった。

時　期　時期は他遺構との位置関係、出土土器片より推察すると弥生時代後期後半と思われる。

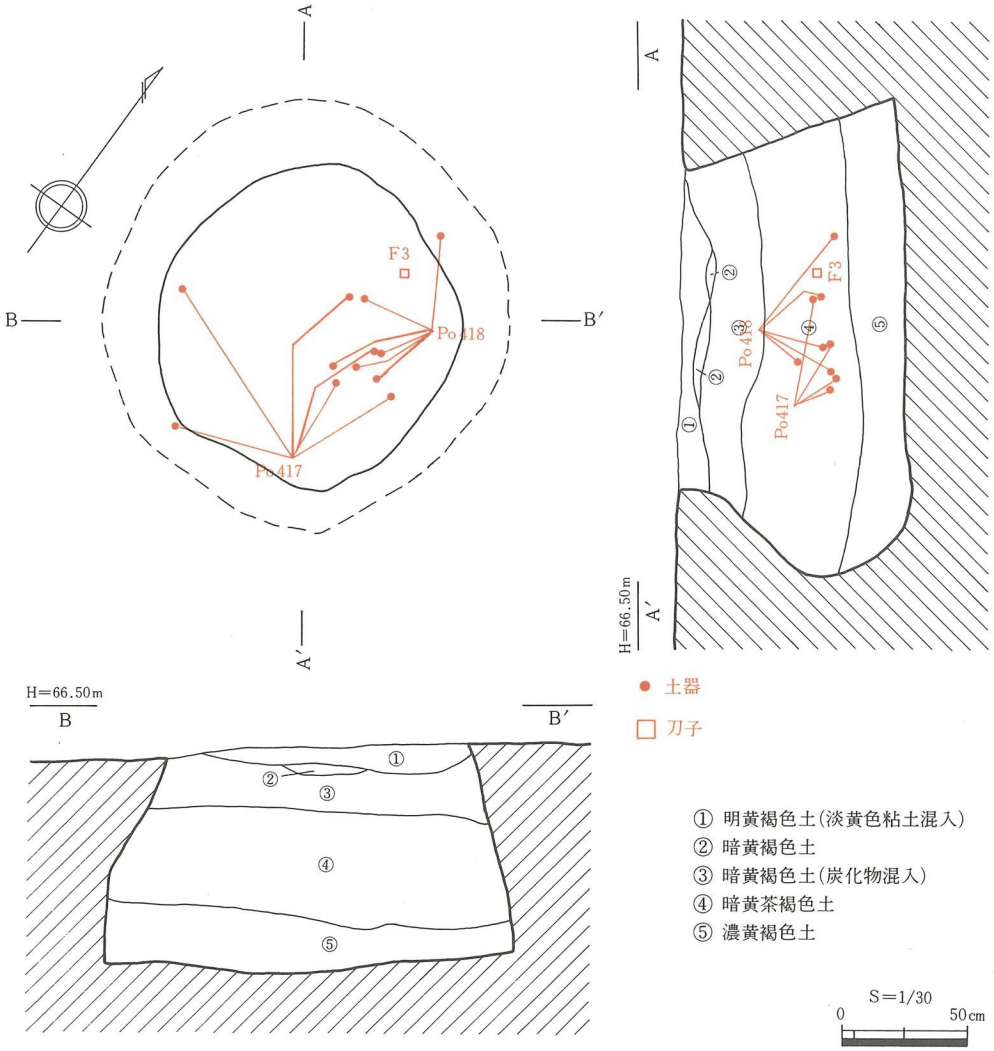
ＳＫ03（挿図26･78、図版13･42･43）

位　置　調査区のほぼ中央、Ｌ４グリッドの北東隅で尾根頂部が広くなって、尾根が緩やかに南西側に下がり始める標高66.25m付近に位置する。すぐ北側にＳＫ02、南東側にＳＫ04がある。

形　態　上縁部、底面共に平面はほぼ円形を呈し、断面は上縁部より13～28cm壁面が内彎する袋状である。規模は上縁部が長径1.30m、短径1.22mであり、底面が長径1.70m、短径1.63mである。残存する部分の最大の深さは0.9mである。

埋　土　埋土は５層に分層できる。大きな炭化物が③層中に含まれており、断面が袋状を呈すことから、この土坑は貯蔵穴に使われていたと考えられる。また、この土坑はＤＫＰ層を掘り込み、その下の淡赤褐色の粘土層まで達している。

遺　物　甕口縁Po417、甕底部Po418は平面で見ると土坑内の中央より西側で散乱した状態で、断面で見ると35～45cm厚みをもって堆積した④層の下層より出土している。また、それぞれを復



挿図26　宇谷第１遺跡ＳＫ03遺構図

元してみると胴部は確認できないが同一個体であろうと考えられる。さらに、甕口縁Po415・416 が埋土中から、刀子Ｆ３が④層中から出土している。

時　　期　時期はPo417、Po418より弥生時代後期後半を考えられる。

ＳＫ04（挿図27・78、図版14・42）

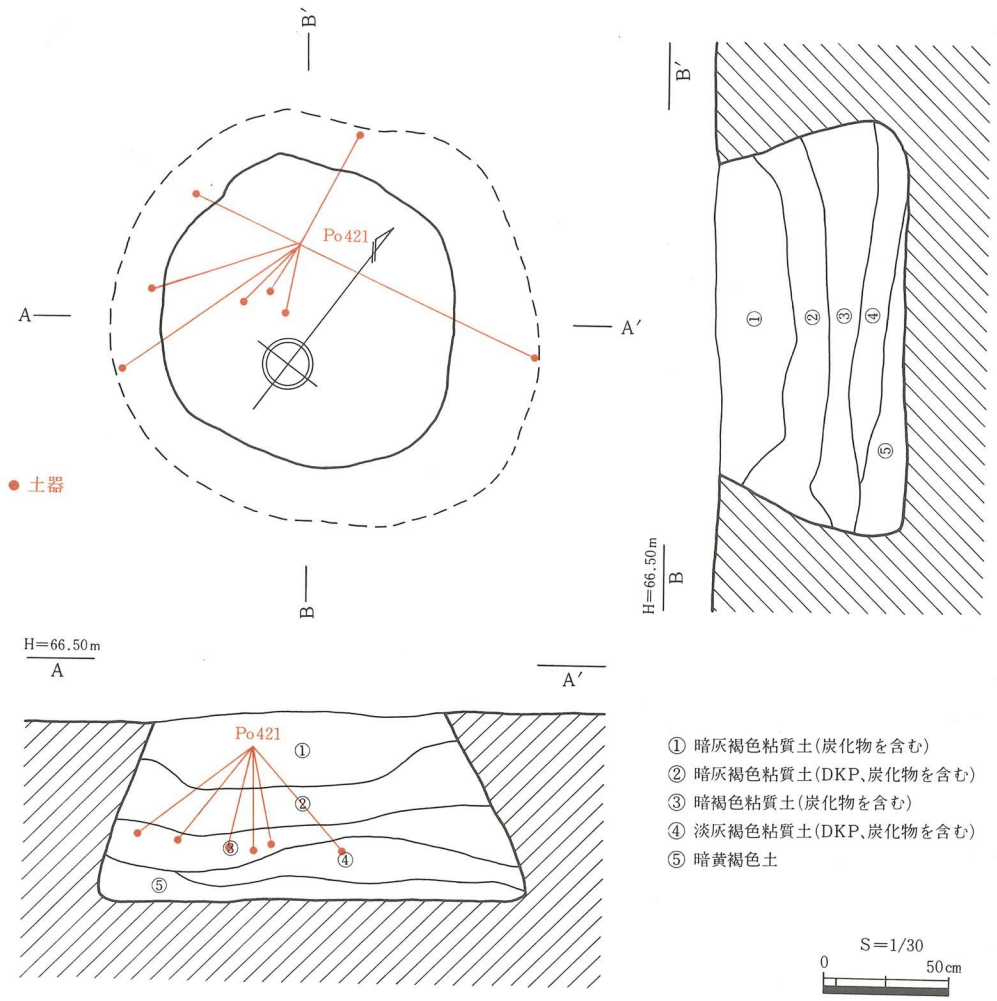
位　　置　調査区ほぼ中央、Ｌ４グリッドの南東隅で尾根頂部が広くなって、尾根が緩やかに南西側に下り始める標高66.25m付近に位置する。すぐ北西側にＳＫ03、南側にＳＢ03がある。

形　　態　上縁部、底面共に平面はほぼ円形を呈し、断面は上縁部より17～35cm壁面が内彎する袋状である。規模は上縁部が長径1.18m、短径1.17mであり、底面が長径1.73m、短径1.60mである。残存する部分の最大の深さは0.78mである。

埋　　土　埋土は５層に分層できる。大きな炭化物が②～④層中に含まれており、断面が袋状を呈すことからも、この土坑は貯蔵穴に使われていたと考えられる。またこの土坑はＤＫＰ層を掘り込み、その下の淡赤褐色の粘土層まで達している。

遺　　物　台付鉢Po421は平面で見ると土坑内全面に散乱した状態で、断面で見ると③④層中で出土した。また、甕口縁Po419、甕底部Po420が④層付近で出土している。

時　　期　時期はPo419～421より弥生時代後期後半と考える。

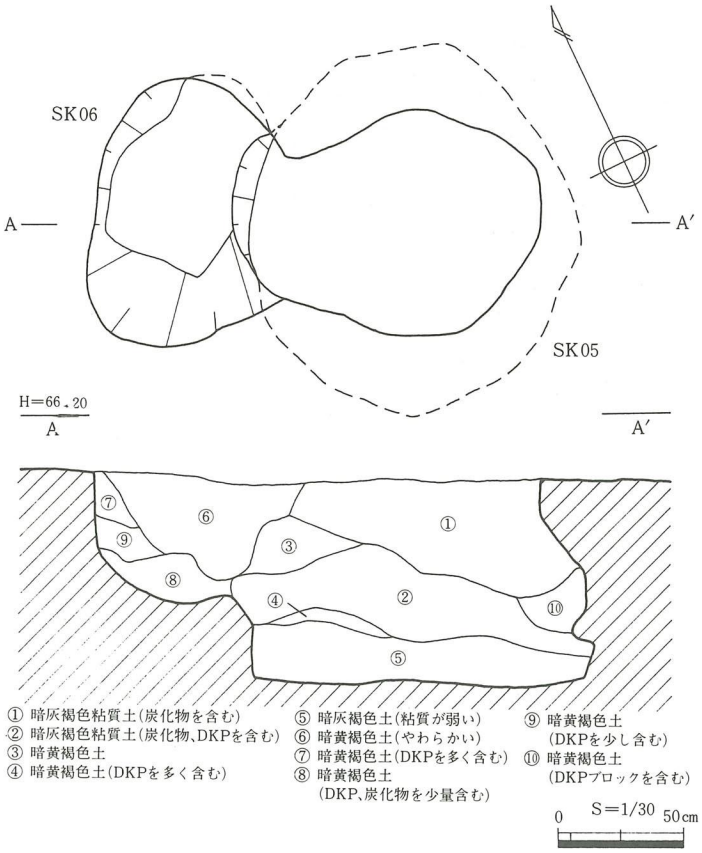


挿図27　宇谷第１遺跡ＳＫ04遺構図

ＳＫ05・06
(挿図28・78、図版14・42)

位　　置　調査区のほぼ中央、Ｌ４グリッドに南西隅で、尾根頂部が徐々に狭くなり南西側に緩やかに下り始める標高66ｍ付近に位置する。２つの遺構は重複して掘り込まれ、南側がＳＫ05、北側がＳＫ06である。すぐ西側にＳＤ01が、東側にＳＫ03がある。

ＳＫ05　ＳＫ05は平面は上縁部、底面共にほぼ円形を呈し、断面は上縁部より10～27cm壁面が内彎する袋状である。規模は上縁部が長径0.92m、短径0.90mであり、底面が長径1.50m、



挿図28　宇谷第１遺跡ＳＫ05・06遺構図

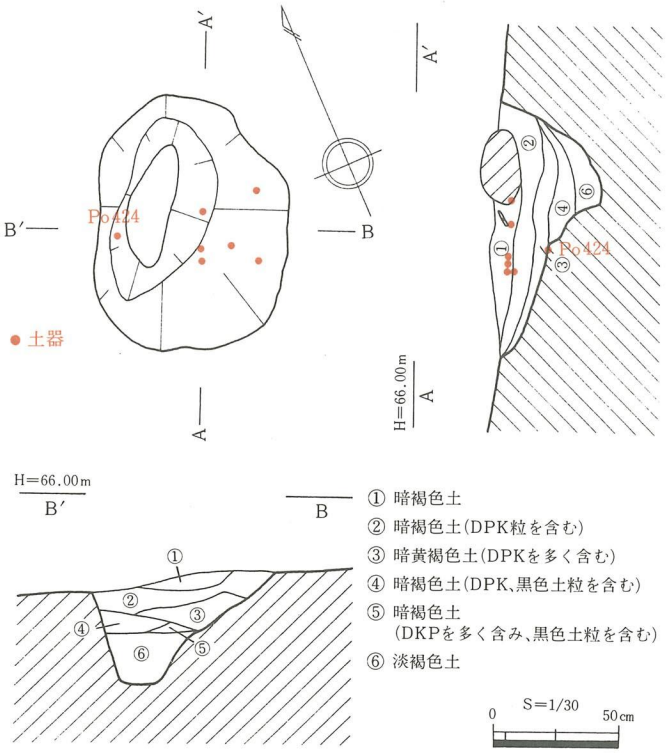
短径1.32mである。残存する最大の深さは0.83mである。埋土は6層に分層できる。①②層に炭化物が含まれており、断面が袋状を呈すことからもこの土坑は貯蔵穴と考えられる。また、この土坑はＤＫＰ層を掘り込み、その下の淡赤褐色の粘土層まで達している。

ＳＫ06　ＳＫ06は平面が楕円形を呈し、断面が摺鉢状である。規模は上縁部で長径1.07m、短径0.8mと推定される。埋土は4層に分層でき、締まりのない土質である。用途は不明である。

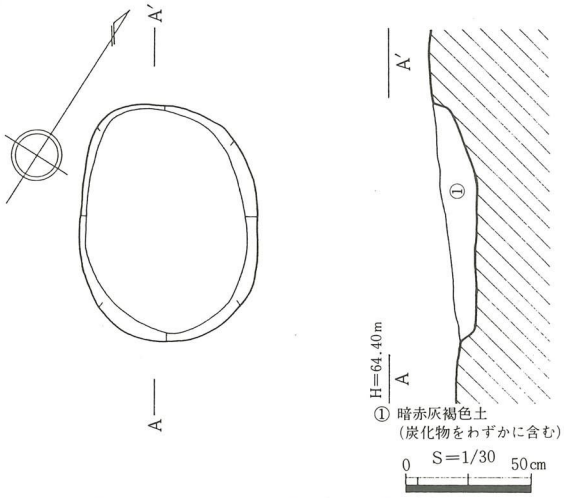
両者の関係は、土層によって、ＳＫ05よりＳＫ06の方が古いと思われる。

遺　物　甕口縁Po422はポイントで取り上げていない上、出土地区が両者の重複するところにあるためＳＫ05の遺物である可能性がある。その他に、図化できなかったがＳＫ05は土器片が出土している。しかし、ＳＫ06は出土していない。

時　期　時期はＳＫ05が形態、土器片より弥生時代後期後半、ＳＫ06が土層より弥生時代後期後半以前と思われる。



挿図29　宇谷第1遺跡ＳＫ07遺構図



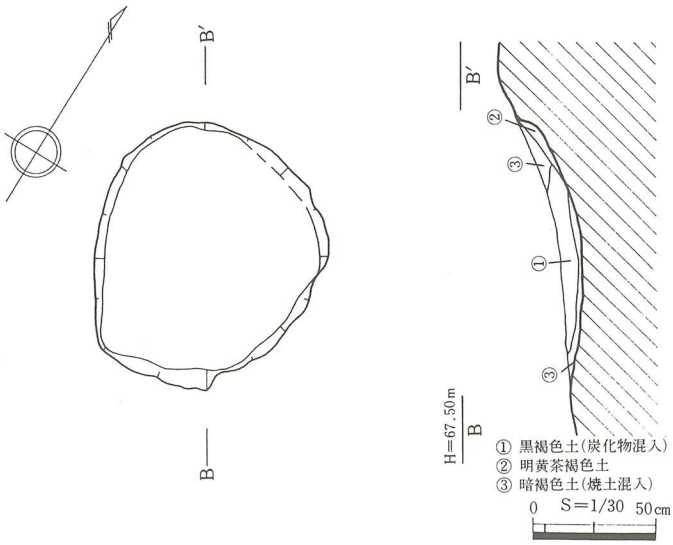
挿図30　宇谷第1遺跡ＳＫ08遺構図

ＳＫ07（挿図29･78、図版15）

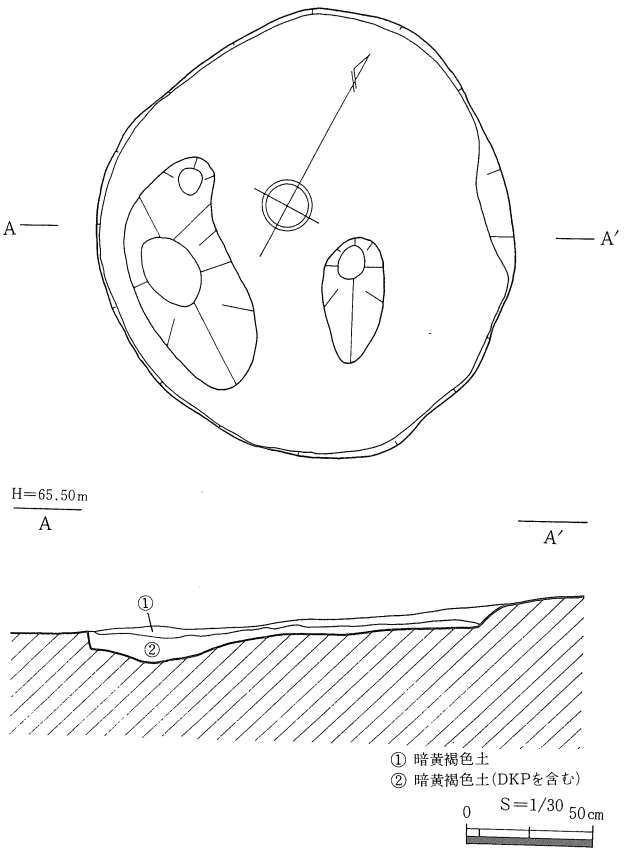
位　置　調査区の北端、N2グリッドの北東隅で尾根の頂部が広くなって、尾根が緩やかに北東側に下がり始める。標高66m付近に位置する。すぐ東側にＳＫ11がある。

形　態　上縁部の平面は不整形を呈し、断面は摺鉢状である。規模は上縁部が長径1.0m、短径0.7mあり、残存する部分の最大の深さは0.65mである。

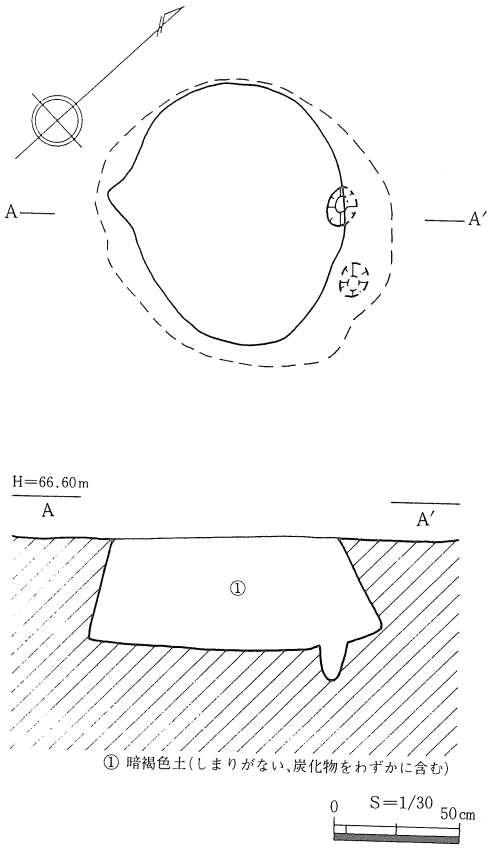
埋　土　埋土は4層からなり、他の土坑の埋土に比べて、土質が柔らかく一度攪乱を受けたよ



挿図31　宇谷第1遺跡ＳＫ10遺構図



挿図32　宇谷第１遺跡ＳＫ09遺構図



挿図33　宇谷第１遺跡ＳＫ11遺構図

うな埋土である。用途は土壙墓と思われる。

遺　物　検出面で径が30cm程の石が出土し、その周辺と底面近くから焼きが悪く、格子目叩きを持つ須恵器Po424が出土している。須恵器Po423は検出面から出土している。

時　期　時期はPo424より奈良から平安時代と考えられる。

ＳＫ08（挿図30、図版15）

位　置　調査区西側、Ｇ５グリッドの北東隅で標高64m付近に位置する。

形　態　平面は楕円形、断面は皿状の土壙である。規模は長径0.95m、短径0.71m、深さ7cmである。

遺　物　また、遺物は埋土中から土器片が出土しているが図化できなかった。

時　期　時期は出土土器により弥生時代後期後半と考えられる。

ＳＫ09（挿図32･79、図版15）

位　置　調査区中央、Ｊ４グリッドの北東側で標高65.75m付近に位置する。

形　態　平面は円形、断面は皿状である。規模は長径1.77m、短径1.68m、深さ0.11mである。用途

遺　物　は貯蔵穴の可能性がある。また、遺物は甕口縁Po425が埋土上面より出土している。

時　期　時期はPo425により弥生時代後期後半と考えられる。

ＳＫ10（挿図31、図版16）

位　置　調査区ほぼ中央、Ｌ５グリッドの南東隅で標高65m付近に位置する。

形　態　平面は円形、断面は皿状である。規模は長径1.07m、短径0.94m、深さ0.1mである。また、

遺　物　遺物は出土していない。

時　期　時期、用途とも不明である。

ＳＫ11（挿図33・79、図版16・42）

位　置　調査区の北端、Ｎ３グリッドの北東隅で尾根の頂部が広くなって、尾根が緩やかに北東側に下がり始める。標高66.25m付近に位置する。すぐ東側にＳＫ07がある。

形　態　上縁部、底面共に平面はほぼ円形を呈し、断面は上縁部から３～23cm壁面が内彎する顕著な袋状である。規模は上縁部で長径1.03m、短径0.95mあり、底面で長径1.22m、短径1.11mである。残存する部分の最大の深さは0.42mである。

埋　土　層は１層である。細かい炭化物が層中に含まれており、断面が袋状を呈すことなどを考え合わせると、この土坑は貯蔵穴に使われていたと考えられる。また、この土坑はＤＫＰ層を掘り込み、その下の淡赤褐色の粘土層まで達している。

遺　物　底部Po426が埋土中から出土している。また、検出面で(23×16)cmの不整形の石が見つかっている。

時　期　時期はPo426により弥生時代後期後半と考えられる。

４．溝状遺構

ＳＤ01（挿図34・79、図版17・42）

位　置　調査区の中央、尾根が急にくびれ始めるＬライン付近に位置する。この溝は尾根に直行して走り、頂部で緩やかに屈曲しながら南北方向に延びていく様相を呈し、尾根を区画するものと考えられる。また、標高は南側で64m付近、尾根頂部で65.75m、北側で64.5m付近である。すぐ西側に接してＳＩ01がある。

形　態　ＳＩ01の壁の依存状態が非常に悪いことを考えると、ＳＤ01もかなり削平を受けていることが推察できるが、規模は全長30.78m以上、最大幅1.5m程、最小幅0.6m程である。深さは0.21～0.64m程である。断面はほぼ逆台形状を呈する。

埋　土　埋土はほとんど自然堆積によるものと考えられるが、Ｃ―Ｃ′ラインで⑥層暗茶褐色土が⑦層暗褐色土を掘り込んだ後に堆積していると考えられる。また、Ａ―Ａ′、Ｂ―Ｂ′、Ｃ―Ｃ′を見ると、ＳＤ02の埋土である⑮層がＳＤ01によって切られていることが分かり、ＳＤ01はＳＤ02より新しい遺構であると考えられる。

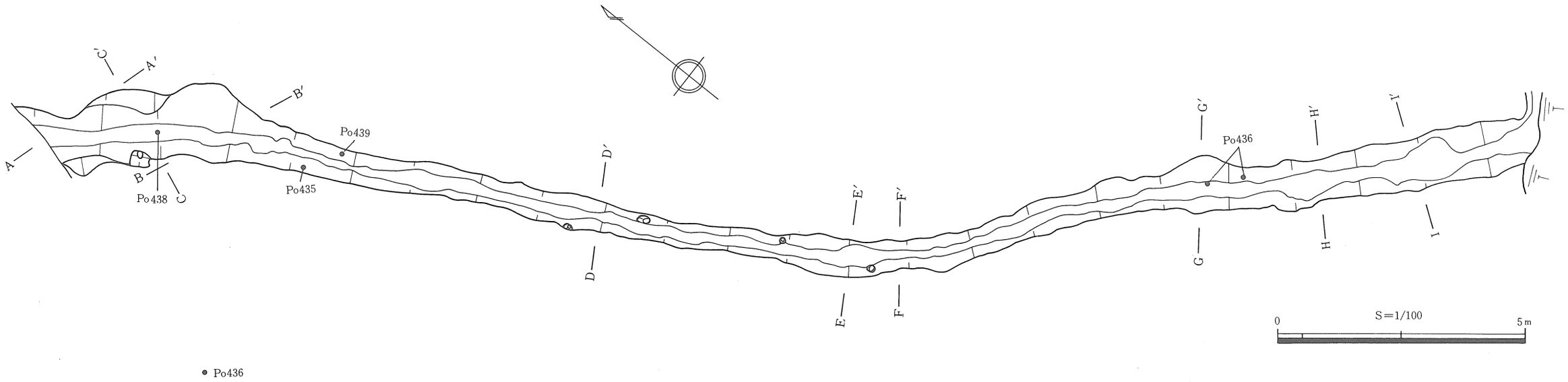
遺　物　甕口縁Po427・431、底部Po435、高坏Po433、静止糸きり底の小型の坏Po438、土玉Po439が北側の遺溝埋土から出土している。この内、Po438はＣ―Ｃ′ベルトから20cm程離れた地点で出土しており、⑥層に含まれる土器である。また、甕口縁Po429・430、底部Po436が南側の遺構埋土から出土している。この内、Po436はSD02出土の土器と接合している。さらに、甕口縁Po428、高坏Po434が埋土中から、甕口縁Po432がＦ―Ｆ′ベルトからそれぞれ出土している。

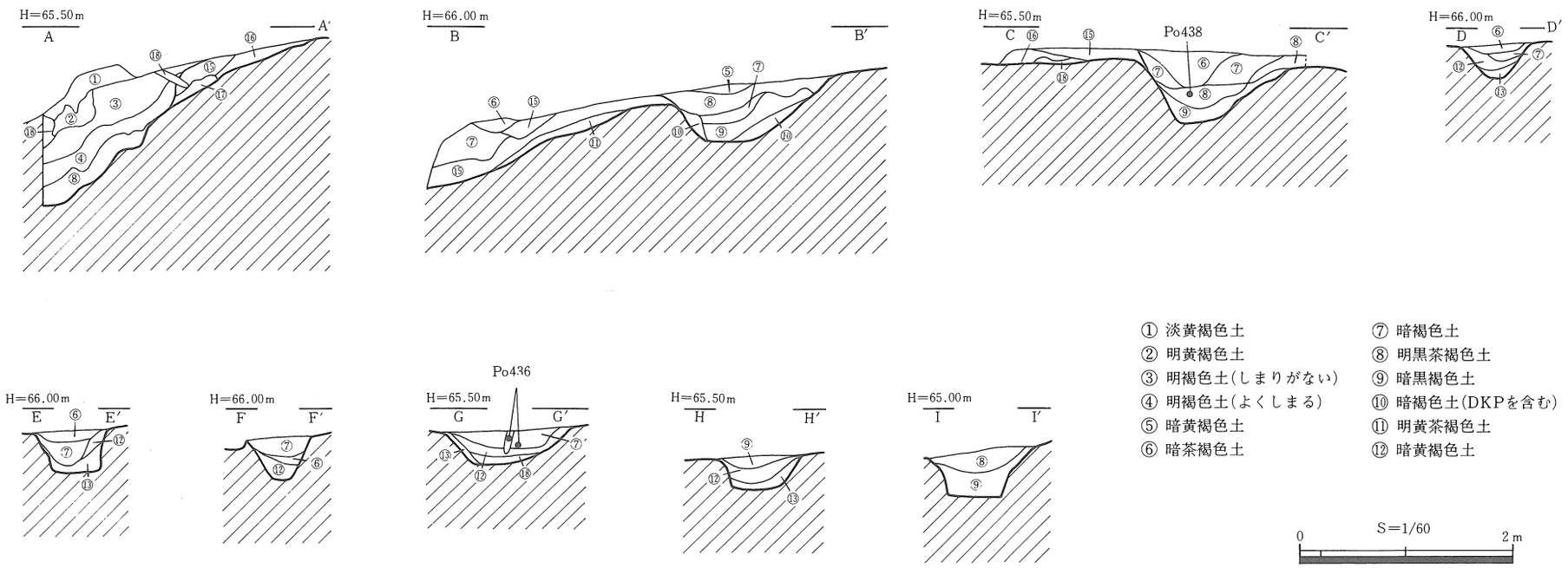
時　期　時期はPo436より弥生時代後期後半頃と思われる。ＳＤ01はＳＩ01、ＳＤ02・ＳＤ03を切って掘り込まれていた。従って、ＳＤ01はＳＩ01、ＳＤ02・03よりやや古い。

ＳＤ02・03・05（挿図5・80・81、図版16～18・42・43）

位　置　３条の溝状遺構共、調査区中央から東側で黒褐色土の帯として検出されたが、ＳＤ02・05は農道に、ＳＤ03は崖に阻まれて底面を確認することができなかった。

ＳＤ02　ＳＤ02はＫ３杭とＭ２杭を結ぶ辺りに延び、標高65m付近に位置する。全長は30m以上である。遺物はＫ３杭付近で甕口縁Po440・443～445・450が、ＳＤ01と交差する地点の東側付近で甕口縁Po442・447・449、高坏Po452が、Ｍ２杭付近で甕口縁Po441・446・448がそれぞれ黒褐色土中から出土している。





① 淡黄褐色土
② 明黄褐色土
③ 明褐色土(しまりがない)
④ 明褐色土(よくしまる)
⑤ 暗黄褐色土
⑥ 暗茶褐色土
⑦ 暗褐色土
⑧ 明黒茶褐色土
⑨ 暗黒褐色土
⑩ 暗褐色土(DKPを含む)
⑪ 明黄茶褐色土
⑫ 暗黄褐色土
⑬ 明黄褐色土
⑭ 暗黒茶褐色土
⑮ 黒褐色土
⑯ 淡褐色土
⑰ 明黄茶褐色土(粘性がある)
SD-02 埋土
⑱ 木の根の攪乱

挿図34　宇谷第1遺跡SD01遺構図

ＳＤ03　ＳＤ03はＩ５杭とＮ５杭を結ぶ辺りに延び、標高64m付近に位置する。全長は30m以上である。遺物はＳＤ01と交差する地点の西側で甕口縁Po454～456･458、高坏Po451が、Ｍ５杭付近でPo458がそれぞれ出土している。その他、甕口縁Po453、底部Po459、高坏Po460が出土している。

ＳＤ05　ＳＤ05はＰ２杭、Ｐ５杭、Ｑ６杭を順に結ぶ辺りを彎曲して延び、標高64m付近に位置する。全長は45m以上である。遺物は黒褐土中より甕口縁Po462が出土している。

時　期　時期は３条共に出土土器により弥生時代後期後半と考えられる。また、すべて同時期と考えると、ＳＤ02とＳＤ05は調査区中央北側から北西に向かって延びだす丘陵上で繋がる可能性が考えられる。

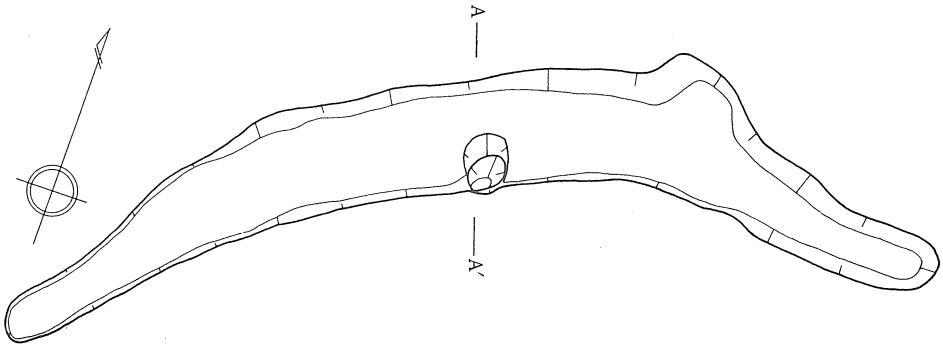
ＳＤ04（挿図35、図版９）

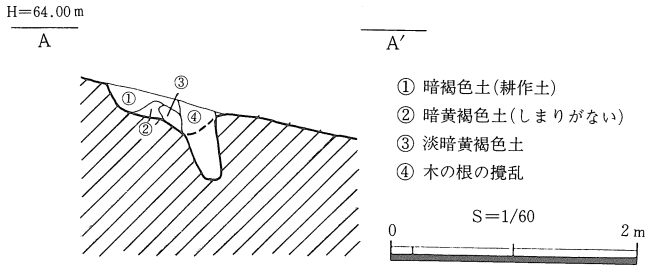
位　置　調査区の西側のＤ４・５、Ｅ５グリッドにあり、標高63.5m辺りに位置している。南側約６ｍにはＳＩ06がある。

形　態　長さ7.9m、幅0.4～0.9m、深さ6～20cmを測り、斜面側にむかって彎曲し、三日月状を呈す。

土　層　後世の攪乱が著しいが、暗黄褐色土・淡黄褐色土の２層に分層できた。

時　期　遺物は全く出土していないため時期は不明であるが、ＳＩ06の排水施設と考えられ、古墳時代中期頃と思われる。





挿図35　宇谷第１遺跡ＳＤ04遺構図

５．遺構外遺物について（挿図81、図版43）

調査区全域で、各遺構に伴わない遺物として土器、石器を検出している。図化できたものには、甕Po465・Po466・Po467、底部Po468・Po469、高坏Po470・Po472、坏Po471、須恵器甕Po473・Po474、小壺Po475、丸瓦Po476、石英安山岩製石錘Ｓ20、輝蛇紋石製玉未製品S21である。

時　期　これらのうち、甕口縁部・底部Po466・Po467、Po468・Po469は弥生時代後期後半頃、甕口縁部Po465・Po466、高坏Po470・Po472は古墳時代中期頃のものと思われる。

須恵器甕は古墳時代後期後半頃、坏は奈良時代、丸瓦、小壺は中世頃のものと思われる。石器の時期は不明である。

遺構名	形態	規模(m)	床面積(㎡)	残存壁高(m)	主柱穴(本)	遺物	時期	備考
SI-01	六角形	7.0※×6.4※	44.8	0.11	6	弥生甕	弥生時代後期後半	
SI-02	方形	6.7※×6.6	44.9	0.69	4	土師器壺・甕・高坏、土玉、砥石、勾玉、凹石	古墳時代中期前半	
SI-03	長方形	5.5 ×4.4	24.2	0.80	4	土師器壺・直口壺・甕・高坏・小型丸底壺、弥生甕、勾玉、管玉、砥石、軽石、方形板耕具刃先、刀子	古墳時代中期前半	
SI-04	隅丸方形	5.0△×0.54△	2.7	0.37	4	高坏、土玉	弥生時代後期後半以前	
SI-05	隅丸方形	6.1 ×5.4※	32.9	0.39	4	弥生甕、土師器甕・高坏、管玉、砥石、敲石	弥生時代後期後半	壁際に杭列あり。焼失住居。
SI-06	方形	4.2 ×4.0※	16.8	0.63	2	須恵器長頸壺・短頸壺・甕、土師器甕・高坏・小型丸底壺、弥生甕	古墳時代中期前半	
SI-07	六角形	7.7※×7.4※	57.0	0.85	7	弥生壺・甕・高坏、蓋、土師器甕・高坏・小型丸底鉢、須恵器高坏、土玉、砥石	弥生時代後期後半	焼失住居。
SI-08	方形	4.0 ×3.3※	13.2	0.65	2	弥生甕、土師器壺・甕・高坏、小壺、土玉、砥石	弥生時代後期後半	
SI-09	方形	5.7※×5.6※	31.9	0.53	4	弥生甕、土玉、砥石	弥生時代後期後半	壁際に杭列あり。中央ピット2段掘り。
SI-10	隅丸方形	3.0△×3.0△	9.0	0.48	不明	土師器壺・甕	古墳時代中期前半	

挿表1　宇谷第1遺跡竪穴住居跡一覧表

ピット番号	規模(cm)(長径×短径—深さ)	備考
1	78×55—81	
2	25×22—32	
3	68×42—33	
4	24×22— 7	
5	24×24—18	
6	37×27—31	SB01柱穴
7	28×24—33	
8	35×26—41	SB01柱穴
9	32×24—36	
10	33×26—28	
11	23×19— 9	
12	39×38—31	SB01柱穴
13	30×26—24	
14	29×25— 8	
15	34×24—34	SB01柱穴
16	40×37—72	
17	24×23—22	
18	52×44—34	SB01柱穴
19	36×31—38	
20	30×30—22	
21	24×24—22	
22	36×30—50	
23	55×48—38	SB01柱穴、土器片
24	24×40—71	
25	44×41—30	
26	54×45—52	SB01柱穴
27	78×56—11	
28	40×38—25	SB01柱穴
29	60×57—39	
30	28×27— 8	
31	44×40—29	土器片
32	56×50—78	
33	33×29—65	
34	50×46—70	土器片
35	18×17— 9	
36	25×25—41	
37	26×17—66	
38	70×30—50	土器片
39	86×60—38	
40	45×35—22	
41	53×41—65	SB02柱穴
42	25×23— 8	
43	39×30—31	
44	28×28—24	
45	37×26—55	
46	30×27—39	SB02柱穴
47	43×28—37	土器片
48	22×13—27	
49	18×17— 3	
50	33×28—18	
51	37×35—29	土器片
52	36×36—54	SB02柱穴
53	31×25— 9	
54	46×35—18	
55	30×27— 4	
56	19×19— 7	
57	22×17— 5	
58	50×44—46	SB02柱穴
59	24×19— 8	土器片
60	27×20—17	
61	32×25—43	SB02柱穴
62	23×19—30	
63	17×17— 9	
64	35×30—49	SB02柱穴
65	39×32—11	
66	66×27—34	木ノ根
67	34×34—13	
68	39×30—64	SB02柱穴
69	37×27—18	
70	28×28—17	
71	70×58—32	
72	36×29—49	木ノ根
73	27×23—20	
74	63×38—31	
75	33×30—29	
76	53×48—40	
77	76×35—19	土器片
78	38×37— 7	
79	31×30—28	
80	32×26— 9	
81	28×26— 8	
82	32×29—54	
83	43×29—18	
84	25×21—11	
85	35×33—48	SB03柱穴
86	43×40— 7	
87	41×36—15	
88	39×28—60	
89	38×33—18	SI01 周辺ピット
90	25×25—55	SB03柱穴
91	22×22—15	
92	26×20—49	
93	21×17— 6	
94	41×38—34	SB03 柱穴、Po463
95	29×27—45	SB 03 柱穴、土器片
96	17×17—17	
97	45×35—52	SB03柱穴
98	32×26—19	SB03柱穴
99	28×28—58	
100	45×41—36	SB03柱穴
101	30×24—21	
102	45×33—32	
103	24×24—21	土器片
104	19×12—14	
105	53×43—62	SB03 柱穴、土器片
106	30×22—16	
107	23×16—35	
108	35×23—50	
109	48×43—46	SB03柱穴
110	27×25—29	
111	32×31—14	
112	23×18—21	
113	41×40—22	
114	57×43— 6	
115	35×34—25	
116	28×27—17	
117	28×26—28	
118	23×21—22	
119	31×25—43	
120	33×30—35	
121	16×14— 7	
122	29×28—41	
123	28×24—28	
124	30×27—10	
125	30×26—13	
126	38×34—38	
127	28×23—45	
128	94×40—37	
129	62×22—35	

挿表2　宇谷第1遺跡ピット群一覧表

遺構名	桁×梁(間)	規模(桁)(m)		規模(梁)(m)		長方形度	床面積(㎡)	主軸方向	遺物	時期
SB-01	2×2	4.60	4.65	4.0	4.0	1.16	18.6	N-46°30′-E		弥生時代後期後半か
SB-02	1×2	3.80	3.70	5.35	5.35	1.45	19.80	N-38° -W		弥生時代後期後半か
SB-03	1×2	3.80	3.75	6.6	6.4	1.66	24.64	N-75°15′-E	弥生甕	弥生時代後期後半

挿表3　宇谷第1遺跡掘立柱建物跡一覧表

遺構名	平面	断面	規模(m) ①上縁部 ②底面(長径×短径)	規模(m) 深さ	遺物	時期	備考
SK-01	円形	袋状	①1.8 ×1.76 ②2.31×2.20	0.94	土器片	弥生時代後期後半か	
SK-02	円形	袋状	①1.34×1.23 ②1.47×1.30	0.47	土玉	弥生時代後期後半か	
SK-03	円形	袋状	①1.30×1.22 ②1.70×1.63	0.90	弥生甕、刀子	弥生時代後期後半	種子出土
SK-04	円形	袋状	①1.18×1.17 ②1.73×1.60	0.78	弥生甕、台付鉢	弥生時代後期後半	
SK-05	円形	袋状	①1.23×0.91 ②1.50×1.32	0.83	土器片	弥生時代後期後半か	
SK-06	楕円形	摺鉢状	①1.07×0.8※ ②0.78×0.50※	0.61	弥生土器甕	弥生時代後期後半以前	
SK-07	不整形	摺鉢状	①1.00×0.77 ②0.50×0.17	0.65	土師器片、須恵器甕片	奈良～平安時代	
SK-08	楕円形	皿状	①0.95×0.71 ②0.89×0.65	0.07	土器片	弥生時代後期	
SK-09	円形	皿状	①1.77×1.68 ②1.74×1.52	0.11	弥生甕	弥生時代後期後半	
SK-10	円形	皿状	①1.07×0.94 ②0.97×0.86	0.10		不明	
SK-11	円形	袋状	①1.03×0.95 ②1.22×1.11	0.42	弥生甕	弥生時代後期後半	
SK-12	方形	凹状	①1.85×1.08 ②1.64×0.83	0.73	弥生甕	弥生時代後期後半	SI05内にあり。炭化物出土。
SK-13	隅丸方形	袋状	①2.30※×1.47 ②2.76×1.84	0.73		弥生時代後期後半	SI05内にあり。柱材出土。
SK-14	長方形	逆台形状	①0.65×0.38 ②0.45×0.28	0.15		古墳時代中期前半	SI03内にあり。
SK-15	不整形	皿状	①1.00×0.70 ②0.70×0.34×チェック	0.13 ~0.18	土器片	古墳時代中期前半	SI03内にあり。
SK-16	長形	摺鉢状	①0.92×0.46 ②0.89×0.30×チェック	0.38		古墳時代中期前半	SI03内にあり。

挿表4　宇谷第1遺跡土坑・土壙一覧表

第４章　南谷大ナル遺跡の調査

第１節　南谷大ナル遺跡の概要

位　置　南谷大ナル遺跡は、東郷池の北側の西方に緩く延び出す標高47～53ｍの丘陵上に位置する。水田面からの比高は45～51ｍである。調査区の北西側250ｍには、弥生時代後期後半から古墳時代前期にかけての竪穴住居跡・土坑などが調査された南谷ヒジリ遺跡、東側150ｍには、弥生時代後期後半の竪穴住居跡・土坑などが調査された南谷夫婦塚遺跡、南谷古墳群中唯一の前方後円墳である南谷19号墳や円墳である20～23号墳がある。

遺　構　調査区は、後世の開墾等による攪乱が著しく、遺構の遺存状況は悪い。今回調査できた遺構は、竪穴住居跡１棟、溝状遺構３条、段状遺構１基、ピット群である。竪穴住居跡は、弥生時代後期後半頃の築造と思われ、建て増しの状況が窺われた。溝状遺構は、ＳＤ02が古墳時代後期後半頃のものと思われ、古墳の周溝と考えられる。その他については時期・性格とも不明である。段状遺構は、ＳＤ01を切って作られたものである。ピット群はＳＩ01の埋土(黒褐色土)上にのみ見られた。

第２節　南谷大ナル遺跡の調査結果

１．竪穴住居跡

ＳＩ01（挿図38･82、図版19･44）

位　置　調査区の中央部南側のＢ３・Ｃ３グリッドの調査区際にあり、標高48.9ｍ～49.5ｍの緩やかに傾斜する斜面に位置している。西側には、ＳＤ01が接している。南側は調査区外のために調査することができなかった。

形　態　南側が調査区外のため、南西側がＳＳ01によって切られており原形を知ることはできなかったが、平面は隅丸方形を呈すものと思われる。

規模は、東西4.72ｍ、南北2.85ｍ以上を測り、床面積13.5㎡以上と推定される。残存壁高は、最も依存状態の良い北壁で最大0.68ｍである。

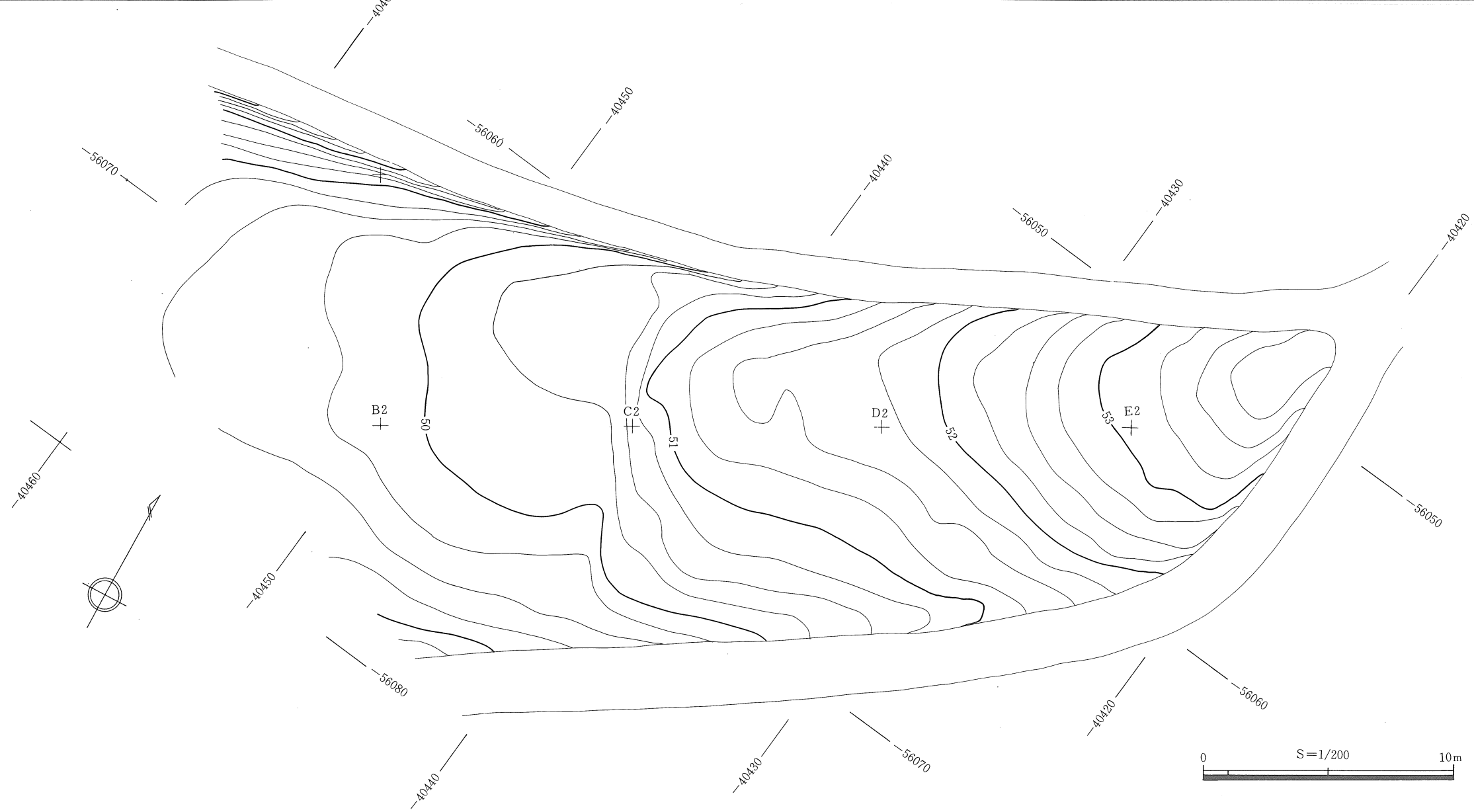
壁溝は西壁際及び東側壁際でとぎれる部分はあるものの、ほぼ全周するものと思われ、幅8～16㎝、深さ2～5㎝を測り、断面は逆台形状を呈す。溝内から小ピット３個を検出した。

主柱穴は４本と思われるが、Ｐ１・Ｐ２の２本だけ検出した。それぞれの規模はＰ１（68×56－70)㎝、Ｐ２(48×40－80)㎝を測る。主柱穴の外側には、補助柱穴と思われるＰ３・Ｐ４がある。それぞれの規模は、Ｐ３(22×19－10)㎝、Ｐ４(23×22－19)㎝を測る。

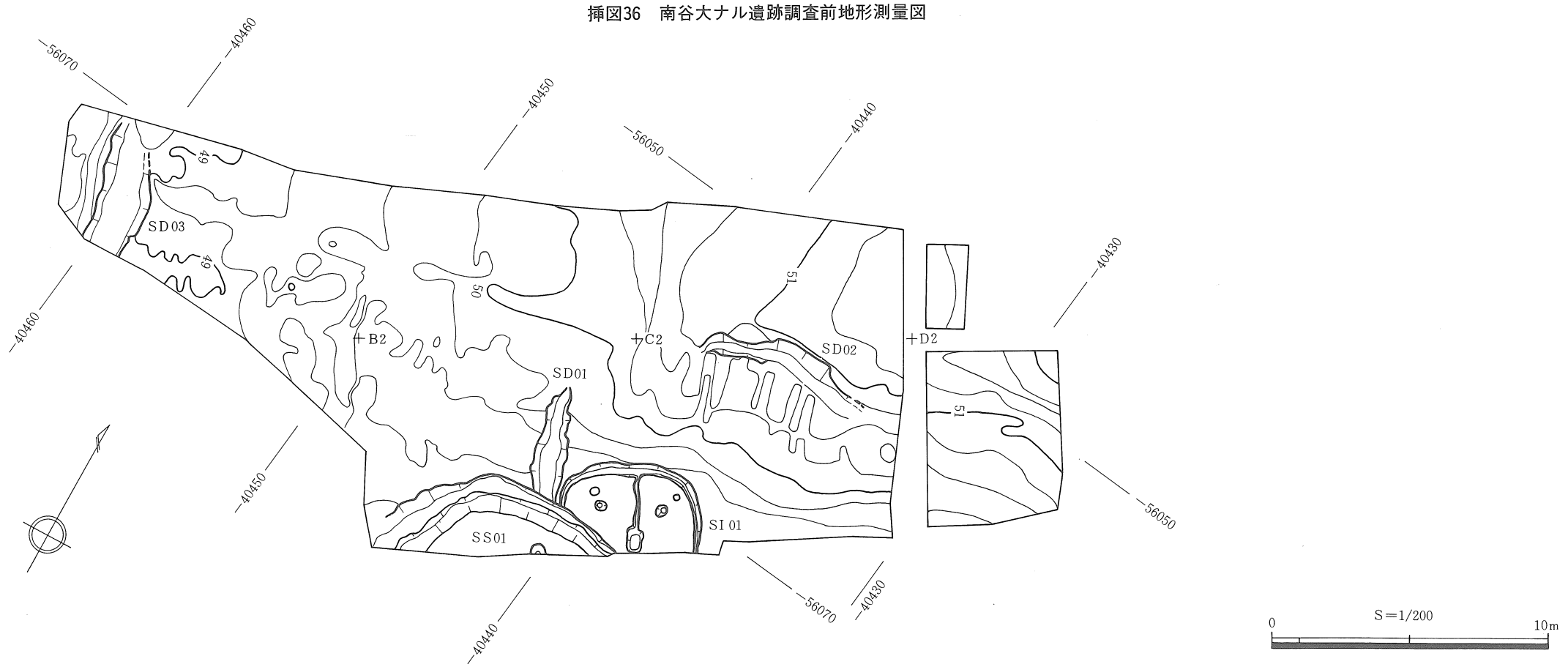
中央ピット　中央ピットはＰ５で、規模は上縁部で（100×66－38)㎝を測る。平面は隅丸長方形で、南側には幅12㎝の段がある。埋土は５層に分層でき、炭化物をわずかに含むものである。中央ピットから北側の壁溝にむかって、幅15㎝、深さ８～10㎝を測る溝が延びている。

焼　土　住居の中央部床面には、中央ピット付近に不整形に広がる４ケ所の焼土面がある。

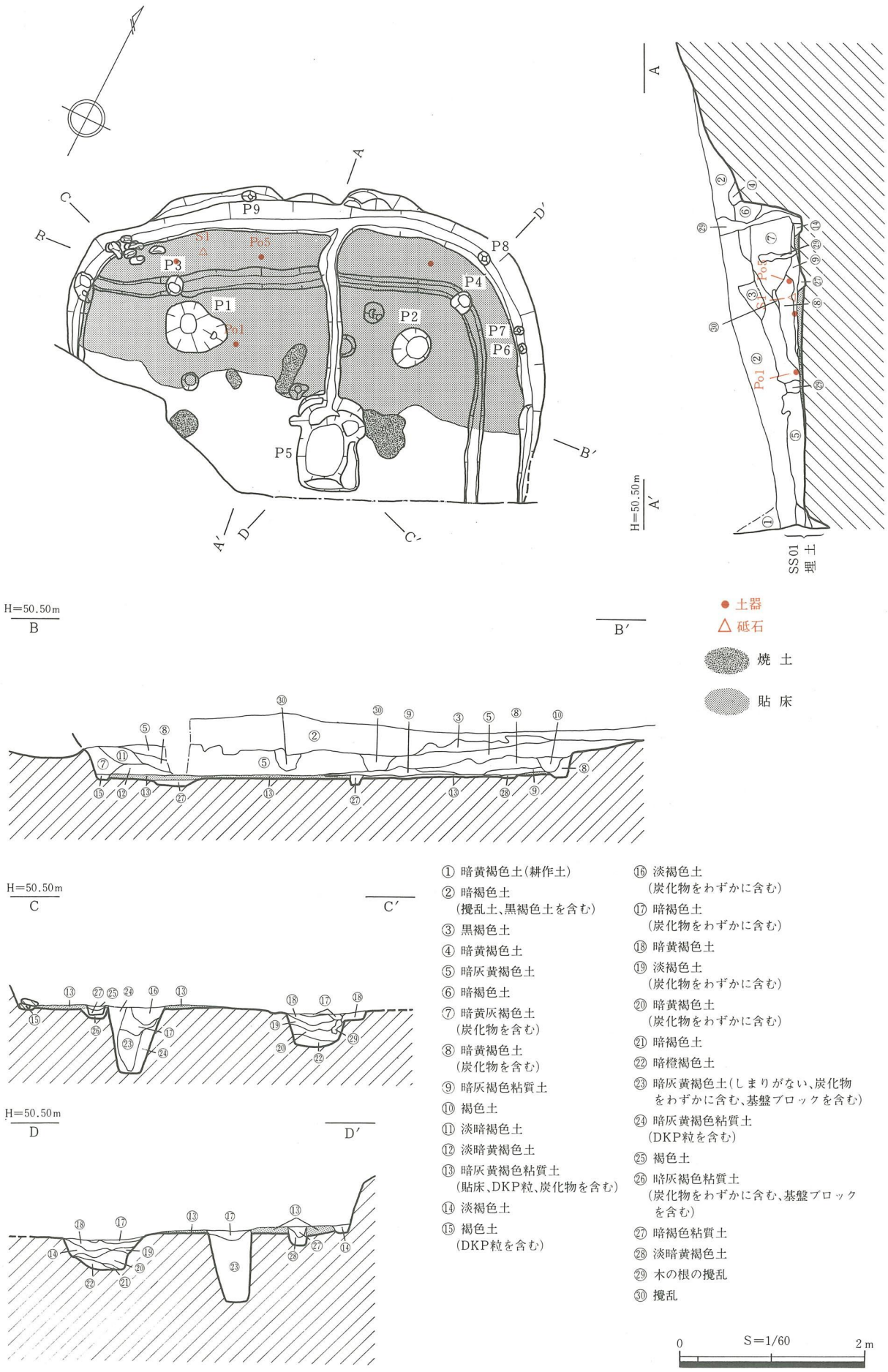
貼　床　住居の北側半分にだけ、厚さ2～5㎝の暗灰黄褐色粘質土による貼床がなされている。貼床除去後に、壁から50～60㎝内側に壁溝に並行して走る幅15～20㎝、深さ３～８㎝の溝を検出した。この溝は、ＳＩ03が拡張される以前の壁溝と考えられ、埋土中から炭化物（茅と思われる）が出土している。このことから、拡張以前の住居は、主柱穴及び西側壁溝を共有し、焼失したものと考えられる。



挿図36　南谷大ナル遺跡調査前地形測量図



挿図37　南谷大ナル遺跡遺構全体図



挿図38　南谷大ナル遺跡ＳＩ01遺構図

埋　土　埋土は耕作土を除いて12層で、住居の中央に向かって傾斜しており、自然堆積の状態を示す。

遺物出土状況　床面からは、甕Po1・Po5、砥石Ｓ１が出土している。また、北西隅で円礫が集中して出土している。埋土中からは、甕Po2～４・底部Po6、須恵器坏身Po7が出土している。

時　期　ＳＩ01の時期は、床面出土の土器から弥生時代後期後半頃と考えられる。

2．溝状遺構

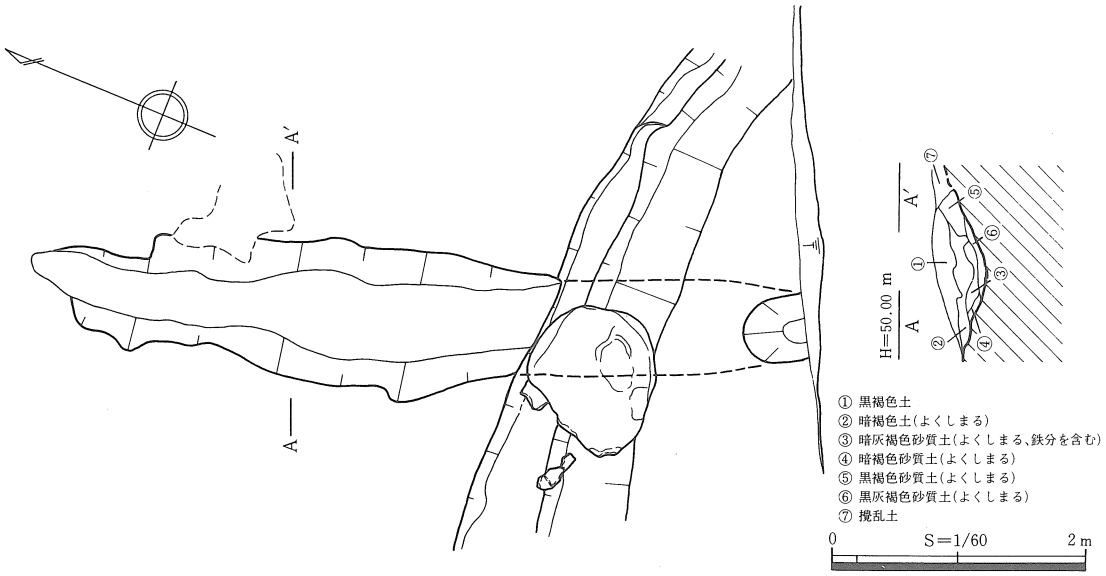
ＳＤ01（挿図39、図版21）

位　置　ＳＤ01は、1988年の羽合町教育委員会の試掘調査、第７トレンチによって確認されていたものである。調査区の南側のＢ３グリッドにあり、標高49.25m～49.75mに位置している。東側にはＳＩ01が接し、南側はＳＳ01によって切られているが、ＳＳ01の床面にわずかに底面の一部が残る。

形　態　周辺は耕作によって大きく攪乱されており、遺存状況は悪い。規模は長さ6.05m以上、幅は上縁部0.68～1.06m、深さ６～20cmを測り、斜面側にむかって直線状に下り、調査区外へ延びる。

埋　土　埋土は６層に分層できたが、①層以下は大変よく締まる砂質層である。

時　期　遺物は全く出土していないため、時期は不明であるが、切り合い関係から、ＳＩ01より新しくＳＳ01より古い。性格は不明である。



挿図39　南谷大ナル遺跡ＳＤ01遺構図

ＳＤ02（挿図40･82、図版21･44）

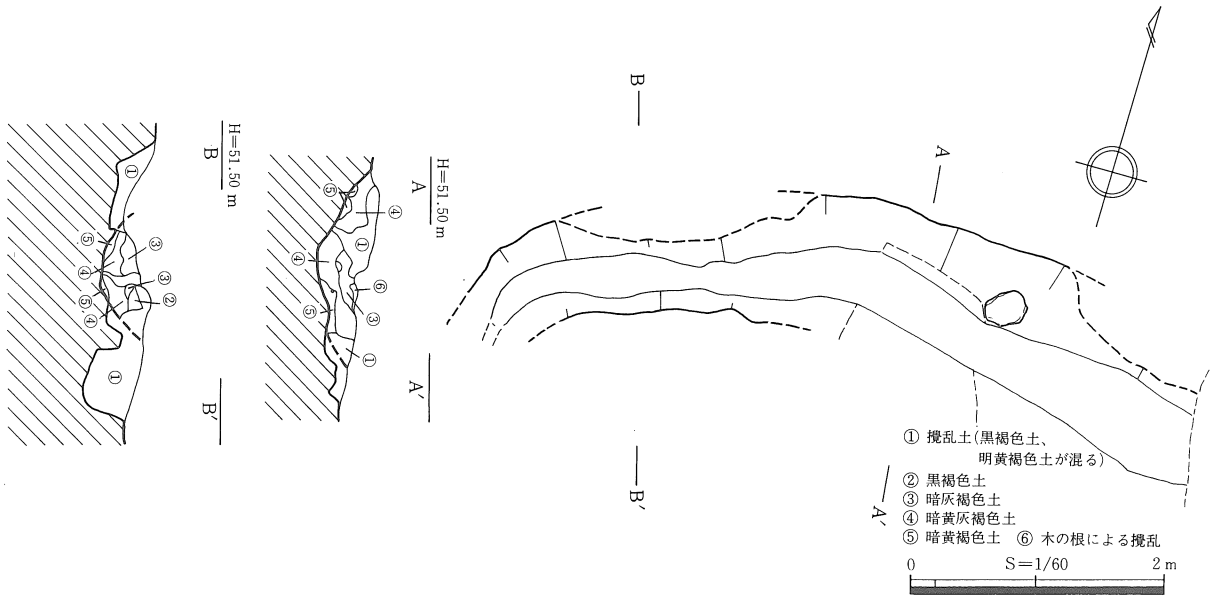
位　置　調査区の中央部のＣ２・Ｃ３グリッドにあり、標高50.5～51mのわずかに南側に傾斜する斜面に位置している。南側５mにはＳＩ01がある。

形　態　周辺は耕作によって大きく攪乱されており、遺存状況は悪い。規模は長さ5.9m以上、幅は上縁部0.7m、深さ28～38cmを測り、断面はU字状を呈す。斜面側にわずかに彎曲している状況が窺われた。

埋　土　埋土は攪乱土を除いて５層に分層できた。②・③層は、溝状遺構に通有の自然堆積した腐食土層と考えられる。

遺物出土　出土遺物には、黒褐色土中から須恵器坏蓋Po8～Po10、坏身Po11、甕Po12が出土している。

状況・時期　出土した土器から、ＳＤ02は古墳時代後期後半（山本編年Ⅳ期前半）[56]頃と考えられ、古墳の周溝の残骸と思われる。



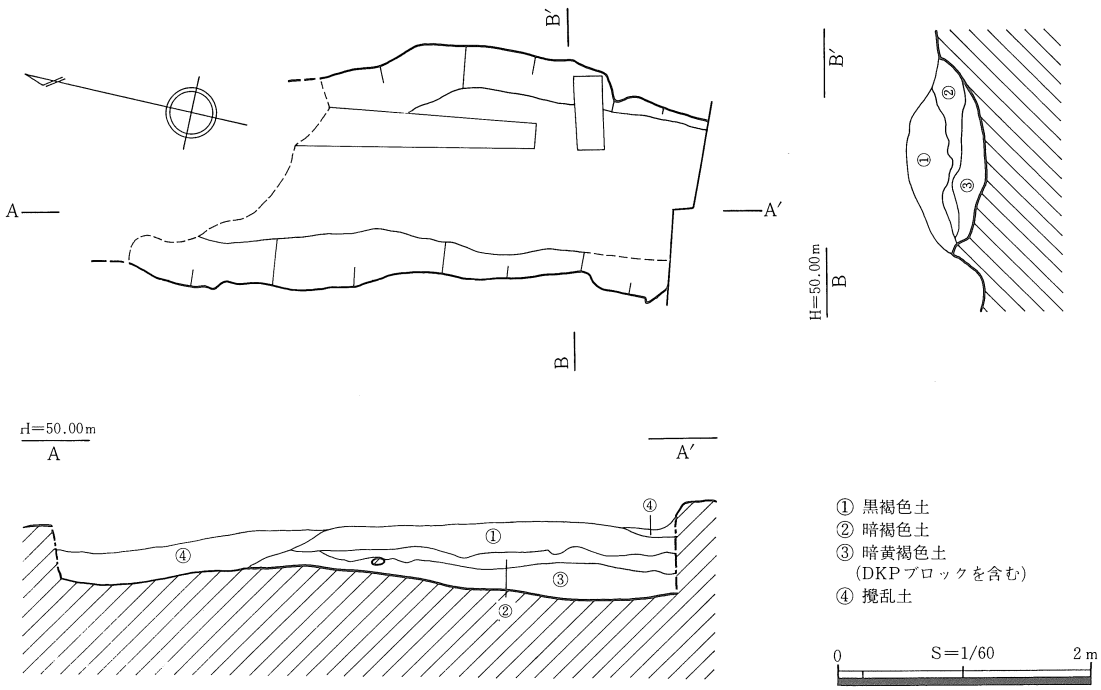
挿図40　南谷大ナル遺跡ＳＤ02遺構図

ＳＤ03（挿図41、図版21）

位　置　調査区の最も西側のＡ２グリッドにあり、標高48.75～49mのほぼ平坦な部分に位置している。

形　態　ＳＤ03は南北にほぼ直線状に延び、北側は耕作によって大きく攪乱され、また南側は調査区外へ延びる。遺存状況は悪い。規模は長さ3.2m以上、幅は上縁部1.5～1.8m、深さ14～32cmを測り、断面はＵ字状を呈す。

埋　土　埋土は攪乱土を除いて３層に分層できた。①層は、溝状遺構に通有の自然堆積した腐食土層と考えられる。



挿図41　南谷大ナル遺跡ＳＤ03遺構図

遺物出土状況・時期　出土遺物には、黒褐色土中から土師器片が出土しているが図化できなかった。

時期は不明であるが、同様の溝状遺構のＳＤ00が古墳時代後期後半（山本編年Ⅳ期前半）[56]頃と考えられ、ほぼ同時期と思われる。性格は不明である。

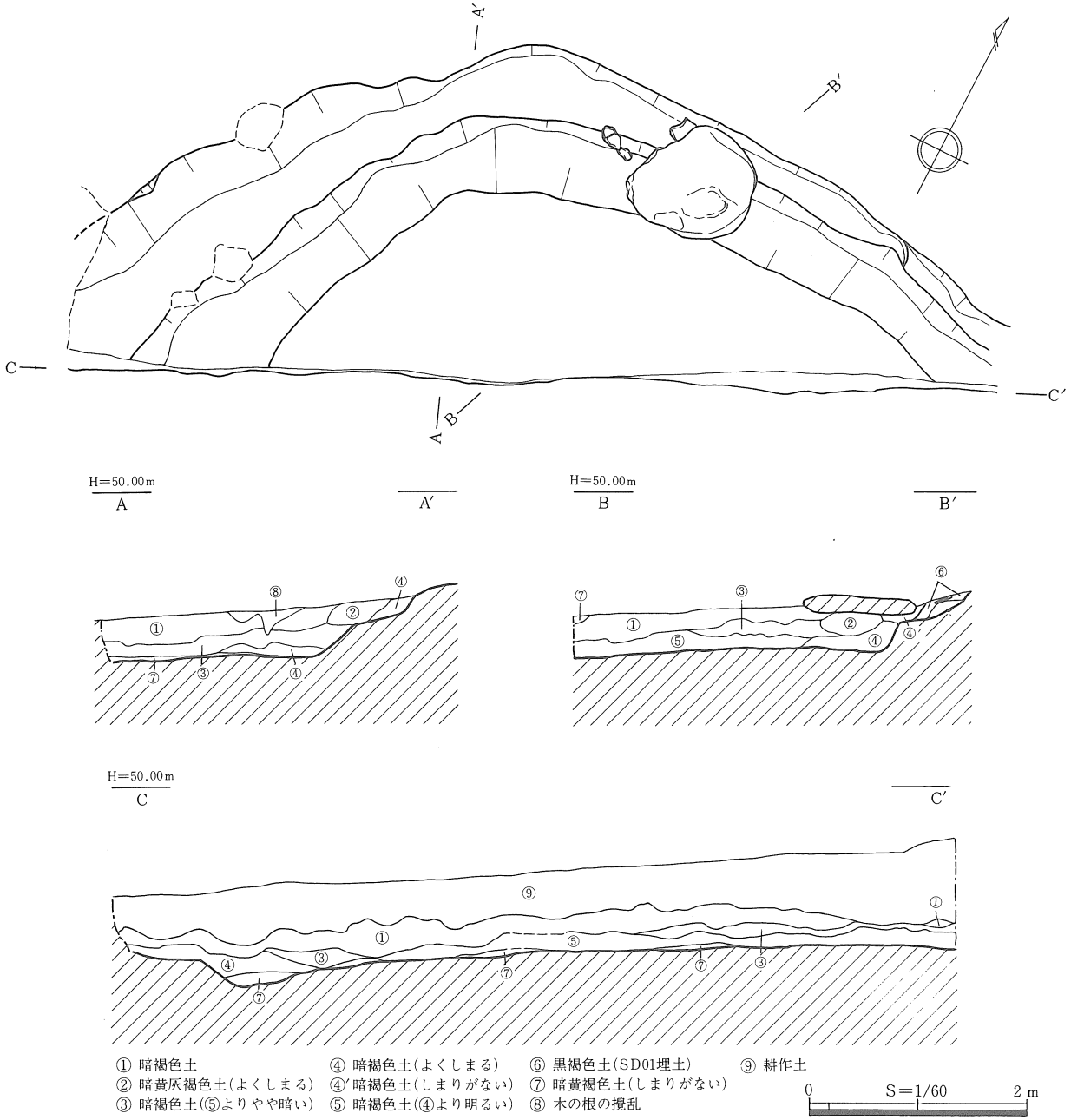
3．段状遺構

ＳＳ01（挿図42、図版20）

位　置　調査区中央部の、最も南側のＢ３グリッドの調査区際にあり、標高48.6m～49.2mの緩やかに傾斜する斜面に位置している。北側でＳＤ01を、北東側でＳＩ01を切っている。南側は調査区外のために調査することができなかった。

形　態　ＳＳ01は、南側が調査区外のために原形を知ることはできなかったが、平面は隅丸方形を呈すものと思われる。北側、西側には幅28～65cmのテラスを設ける。

規模は、東西4.65m以上、南北2.2m以上を測り、床面積10m²以上である。残存壁高は、最も



挿図42　南谷大ナル遺跡ＳＳ01遺構図

遺存状態の良い北壁で最大0.54m（上縁部～テラス0.23m、テラス～床面0.22m）を測る。

壁際は、幅33～59cmにわたり僅かにくぼんでいる。南側調査区際の床面にはＳＤ01の底部の一部が残っていた。

柱穴は全く検出されていないために、竪穴住居跡ではなく段状遺構と判断した。

埋　土　埋土は耕作土、攪乱土を除いて７層に分層できた。壁際の土層は中央にむかって傾斜しており、自然堆積の状態を示す。①層上に幅約1.1m、厚さ15cmの平石が検出された。この平石は1988年の羽合町教育委員会の試掘調査、第７トレンチで検出されたものである。

遺物出土状況・時期　埋土中から、須恵器片、磁器片が出土しているが図化できなかった。

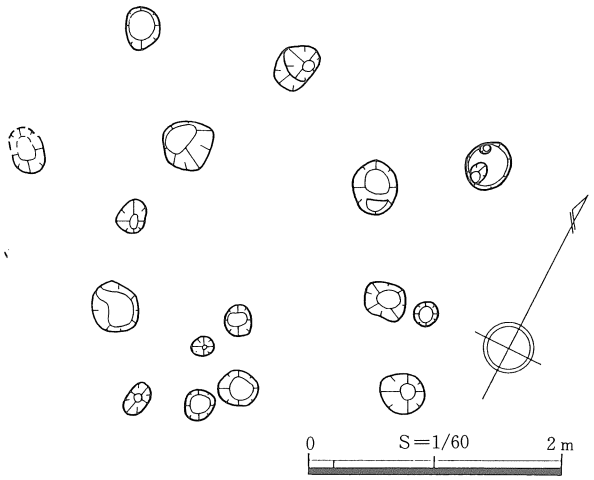
はっきりとした時期は不明であるが、出土した須恵器から古墳時代後期後半のものと考えられる。

ピット群（挿図43、図版20）

位　置　調査区中央部の最も南側、Ｃ３グリッドの標高49.1～49.4mにあり、全てＳＩ01の埋土上に16個掘り込まれていた。これらは、掘立柱建物跡等の柱穴とは考え難い。

遺物は全く出土していないため、時期は不明である。

規模は以下の表にまとめた。



挿図43　南谷大ナル遺跡ピット群遺構図

ピット番号	規模（長径×短径－深さ）(cm)	ピット番号	規模（長径×短径－深さ）(cm)	ピット番号	規模（長径×短径－深さ）(cm)	ピット番号	規模（長径×短径－深さ）(cm)
1	(34×28－21)	5	(40×35－27)	9	(25×22－19)	13	(37×33－41)
2	(43×42－20)	6	(35×32－26)	10	(33×29－10)	14	(26×26－29)
3	(40×29－37)	7	(41×36－23)	11	(31×27－22)	15	(20×16－26)
4	(42×35－27)	8	(37×17－20)	12	(19×19－15)	16	(26×24－19)

挿表５　南谷大ナル遺跡ピット群一覧表

４．遺構外遺物について（挿図81、図版44）

調査区全域で、各遺構に伴わない遺物として土器、石器を検出している。図化できたものには、須恵器坏身Po13～Po18、須恵器甕Po19、須恵器高坏Po20・Po22、須恵器甕Po21・Po23、甕Po24・Po25、雲母安山岩製砥石Ｓ２である。

時　期　これらのうち、甕口縁部Po24は弥生時代後期後半頃、須恵器類Po13～Po23・甕口縁部Po25は古墳時代後期後半頃のものと思われる。砥石の時期は不明である。

第５章　遺構・遺物の検討

第１節　宇谷第１遺跡の変遷と性格

宇谷第１遺跡の変遷を述べるまえに、時期を決定する土器について考えてみたい。

今回の調査で出土した土器は総数476点である。そのうちの大半を占める弥生土器、土師器についての分類を行う。

壺形土器　壺形土器はa複合口縁をもつもの、b直口壺に分類できる。

(1) 壺a類

a1類　直立・外傾する複合口縁部を呈し、端部が丸く収められ、外面には平行沈線が施されるものである。SI07床面Po301・302、SI09Po408がある。

a2類　口縁部の形態は１類に類似するが、外面はナデのみの調整となるものである。SI08Po332は、口縁部内面をミガキ、胴部外面タテ～ヨコ方向ハケ、内面頸部以下ヨコ方向ケズリを施す。

a3類　やや内傾して立ち上がるもので、端部は内外方に肥厚し、平坦面をもつ。胴部は球形を呈し、外面ヨコ～斜方向ハケ、内面上半部ヨコ方向ケズリ、下半部斜方向ケズリを施すものである。SI02床面Po4、SI03床面・埋土Po23～25、SI08埋土Po352・353がある。

(2) 壺b類

直線的に高く外傾する口縁部をもち、胴部は球形を呈す直口壺である。SI03Po143～Po145などがある。

甕形土器　甕形土器は大きくa複合口縁をもつもの、b「く」の字口縁をもつもの、c上下に拡大して内傾する口縁をもつものに分類できる。

(1) 甕a類

a1類　口縁部はやや短く外反・外傾して立ち上がり、端部は丸く収める。外面に平行沈線文・波状文を施し、内面はナデまたはミガくもので、口縁部下端は下垂する。胴部内面は頸部以下ケズリを施す。SI01床面Po1、SI 05埋土中Po263～266、SI07床面Po304・311・312、SI08埋土下層Po333～340、SI09床面Po409・410、SK06埋土中Po422、SK09埋土中Po425、SD02埋土中Po441～446、SD03埋土中Po453～456などがある。

a2類　口縁部の形態はa1類に類似し、外面の沈線文を一部または全部ナデ消すものである。SI08Po346、SD02Po444がある。

a3類　口縁部の形態はa1類に類似するが、外面はナデのみの調整、内面はナデまたはミガキとなるものである。SI05埋土中Po267・268、SI08埋土中Po343・351、SD01埋土中Po429・431、SD02埋土中Po440・449などがある。

a4類　口縁部の立ち上がりは低くほぼ直立し、端部は丸く収める。外面は凹線が入る。胴部は肩があまり張らず、倒卵形を呈し、底部は平底となる。外面ミガキ、内面ケズリの後ミガく。SK03Po417・418のみである。

a5類　口縁部の立ち上がりが高くなり、外反・外傾し、端部は丸くなるもので、外面には多条化した平行沈線・波状文が施される。胴部は肩があまり張らない倒卵形を呈すものと思われる。SI08埋土下層Po331、SK13埋土Po262がある。

a6類　口縁部は外傾して立ち上がるもので、端部が肥厚して平坦面をもち、口縁部下端の稜が鈍く、胴部は球形を呈すもので、器壁は厚い。外面ヨコ～斜方向ハケ、底部付近ナデ、内面は頸部付近指頭圧痕が残り、以下ヨコ～斜方向ケズリが施され、底部には指頭圧痕

が残るものである。SI03床面Po26～28が好例である。そのほかにもSI10床面Po20、SI06床面Po284、SI07不明遺構Po317、SI08埋土上層Po354～369などがある。

a7類　口縁部の形態はa5類に類似するが、口縁部下端の稜が更に鈍く丸みをもつものである。SI03埋土Po39・57・60・85・86などがある。

a8類　口縁部の立ち上がりは低く、口縁部下端の稜が鈍い。分厚い感じとなるものである。胴部が扁球状を呈すものがある。SI05ピット内Po270、SB03ピット内Po463がある。

(2) 甕b類

b1類　端部が肥厚し、やや内傾する平坦面をもつもので、胴部は球形を呈すものである。大型のものと中型のものがある。SI03床面Po91・92・121・123が好例である。

b2類　端部は丸く収めるものである。SI03埋土中Po96がある。

(3) 甕c類

口縁部が上下に拡大して内傾し、外面に凹線文を施すものである。SK04Po419のみである。

高坏形土器　高坏形土器は、a大きく外反し複合口縁状を呈す坏部をもつもの、b有段で大型の坏部をもつもの、c浅い椀状・皿状を呈す坏部をもつもの、d小型で椀状を呈す坏部をもつものに分類できる。

(1) 高坏a類

SI07床面Po322のみである。外面はナデ、内面はミガキが施され、赤色塗彩される。

(2) 高坏b類

b1類　底部と口縁部の段（稜）が鋭く、器壁が薄いものである。SD01埋土中Po433のみである。

b2類　底部と口縁部の段（稜）が鈍くなり、坏部にくらべてやや低い脚部となるものである。淡黄色のものと橙色のものがある。SI03床面Po148、埋土中Po149～158、SI07 不明遺構Po321などが好例である。そのほかにSI02床面Po16がある。

(3) 高坏c類

胎土が橙色で浅い坏部に筒部が直線的に開き、裾部で大きく広がる脚をもつものである。SI03床面Po161・174～176・178などが好例である。他の遺構から出土している高坏はb類である。

(4) 高坏d類

形態はc類に類似するが小型のものである。SI03埋土中Po237～239がある。

小型丸底壺　小型丸底壺は、a口縁部径が胴部最大径とほぼ同じもの、b口縁部径は胴部最大径を下回るものに分類できる。

(1) 小型丸底壺a類

立ち上がりがやや低く、胴部が扁平な球形を呈すもので、胴部外面ハケ調整である。SI03埋土中Po240・241・243などがある。

(2) 小型丸底壺b類

立ち上がりが更に低くなり、胴部が扁平な球形を呈すもので、外面肩部に羽状文を施すものもある。SI03床面Po244が好例である。

小型丸底鉢　小型丸底鉢はSI07埋土中Po327のみである。口縁部は外反し、屈曲して体部に至るもので、内外面ともナデ調整である。

台付鉢　深い鉢部をもち、端部はやや外反し丸く収める。直線的に広がる台をもつもので、SK04Po421のみである。

蓋　蓋はSI07床面Po328のみである。調整は風化のため不明である。

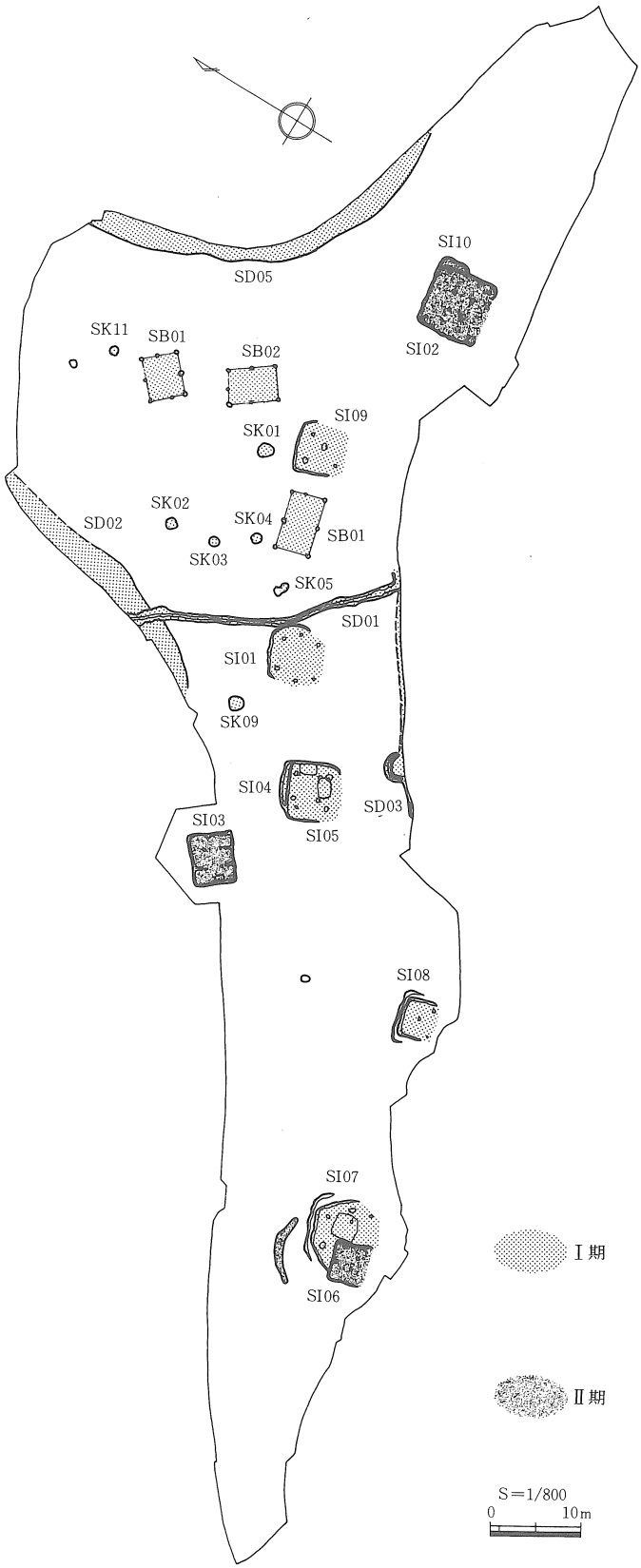
時　期　以上、出土土器を分類した。この分類に基づいて遺構ごとに構成を見ていくことにする。対象は床面及び埋土下層からの出土例が多いSI01・02・10・03・05・06・07・08・09、SB03、SK03・04・06・09・11、SD01・02・03とし、土器も床面及び埋土下層のものについて見ていく。

SI01は甕a1類、SI02壺a3類・高坏b2類・c類、SI10は甕a6類・高坏c類、SI03は壺a3類・b類・甕a6類・b1類・b2類・高坏b2類・c類・d類・小型丸底壺a・b類、SI05は甕a8類、SI06は甕a6類、SI07は壺a1類・甕a1類・高坏a類・蓋Po328、SI08は壺a2類・甕a2類・a3類・a5類、SI09は壺a1類・甕a1類、SB03は甕a8類、SK03は甕a4類、SK04は台付鉢Po421、SK06・09・11は甕a1類、SD01は甕a1類・a3類・高坏b1類、SD02は甕a1類・a3類、SD03は壺a1類・甕a1類である。

当遺跡の土器の共伴関係は必ずしも良好とは言えずさらに検討を要する点もあるが、これまでに鳥取県中部地区で総括的に編年された編年案に照らし合わせると、壺a1・a2類、甕a1～a5類、高坏a類、蓋Po328、台付鉢Po421は、土井編年[57]阿弥大寺Ⅲ期段階～上種第5遺跡貯蔵穴7号・住居址27号段階に相当するものと考えられる。

土井編年では阿弥大寺Ⅲ期段階と、次段階である上種第5遺跡貯蔵穴7号・住居址27号段階を壺・甕類口縁部の施文をスリ消す手法の導入で明瞭に区分できるとしているが、当遺跡でははっきりとした区別ができないため大きく同時期として考えた。これらは弥生時代後期後半に比定できると思われる。よってこの時期の遺構は、竪穴住居跡SI01・04・05・07・08・09、貯蔵穴SK01・02・03・04・05・06・09・11、掘立柱建物跡SB01・02・03、溝状遺構SD01・02・03・05となる。

壺a3類・b類、甕a5類・a6類・b1類・b2類、高坏a2・b1・b2類、小型丸底壺a・b類は、長瀬高浜編年[23]Ⅲ期に相当するものと思われる。この時期の遺構は、SI02・10・03・06、SI07不明遺構である。このう



挿図44　宇谷第1遺跡の変遷過程図

ち、SI03では甕a5類・b2類、高坏b2類、小型丸底壺b類が若干新しい様相を呈すものであるが、これらも床面上から出土しており、同時期に含めた。古墳時代中期前半に比定することができると思われる。

以上、土器の様相から宇谷第１遺跡には、大きく弥生時代後期後半(Ⅰ)期、古墳時代中期前半(Ⅱ)期の２時期に分かれて遺構が存在していることになる。

それでは、宇谷第１遺跡の時期ごとの変遷を考えてみたい。

Ⅰ　期　Ⅰ期には、竪穴住居、貯蔵穴、掘立柱建物、溝状遺構が造られている。しかし、遺構の切り合い関係から見ると同時に一括して造られたものではないようである。

SD01は、SI01、SD02・03を切っており明らかに後出するもので、また、SI05は切り合い関係からSI04より新しいことも確実である。

これらのことから、まず竪穴住居ではSI01・04・07・08・09が造られると考えられる。床面積はそれぞれ、44.8㎡、(20㎡)[60]、57㎡、18㎡、44.9㎡で比較的規模の大きな住居と小さな住居が混在して造られている。平面形も六角形、方形、隅丸方形とバラエティーにとんでいる。

若干遅れてSI05が造られる。床面積は32.9㎡で、平面形は隅丸方形となる。SI05は、屋内貯蔵穴と思われるSK12を有し、他の住居と異なる。

屋外貯蔵穴SK01～05・09・11もあわせて造られると考えられる。分布状況を見ると、SK01～04が半環状に近接して並び、中央に広場的な空間ができている。この一群の貯蔵穴は共同管理された貯蔵穴群と考えることができる。

さらに、掘立柱建物SB01～03が造られる。掘立柱建物群は、竪穴住居跡に比べてやや高い位置に造られている。掘立柱建物の性格については、はっきりとした見解はないが、竪穴住居と掘立柱建物がほぼ同時期に造られていることから、居住以外の目的で造られたと考えることもできよう。

溝状遺構SD02・03・05は、ほとんど調査区外にあるためにはっきりとした全体像はつかめなかったが、西伯町清水谷遺跡[59]に見られるように、斜面の途中に溝が環状に掘り込まれる例があり、同様な溝となる可能性がある。

SD01は造られた時期もやや新しく、他のものと異なり尾根を横断するように掘り込まれ、集落の西側と東側を区切る性格をもつものと考えられる。SD01を挟んで東側には貯蔵穴や掘立柱建物が集中しており、これらと住居とを区切る溝であったと考える。

Ⅰ期には、全体像は明らかではないが溝で区画された場所に、竪穴住居・屋外貯蔵穴・掘立柱建物をもった集落が形成されると考えられる。

Ⅱ　期　ところが、Ⅰ期に造営された集落が、古墳時代になるといったん造営が止まる。そして、古墳時代中期に再び集落が営まれるようである。この時期の竪穴住居跡は、SI02・10・03・06である。床面積はそれぞれ、44.9㎡、(9.0㎡)[60]、22.7㎡、16.8㎡である。平面形もSI10を除いて方形または長方形に限られている。これらのうちSI02は規模が大きいことから中心的な住居と考えられる。

貯蔵穴は、屋内・屋外ともこの時期には見られなくなり、掘立柱建物も見られなくなる。古墳時代中期と弥生時代後期では貯蔵形態に変化があったものと推定される。

立地的特徴　さて、宇谷第１遺跡は、標高61～67ｍの狭い丘陵上にあり、水田面からの比高は60ｍを測り、かなり高い位置に立地していることが特徴である。

このような立地の特色を示すものとして、高地性集落がある。高地性集落の特質として小野忠熙[61]は、①山麓の傾斜変換線以下の居住適地や生産地域との比高差が高く、②標高があまり高くなくても斜面の勾配が急峻で、登り降りに困難な反面展望のよい場所を占地していることを条件とし、高地性と低地性を区別する具体的な目安として比高20ｍ以上としている。

また、高地性集落のなかには、瀬戸内・近畿地方に見られるように、大量の武器類が出土したり環濠が巡る例もあり、弥生時代中期以降にあったと推定される争乱の反映として出現したものと考えられるものもある。

宇谷第１遺跡の場合、標高・比高の点から小野の①、②が当てはまり、広い意味で高地性集落と呼べる。しかし、周囲に溝が巡るものの、具体的に争乱を想定できる多量の武器類は出土していないという違いが指摘される。また、周囲には宇谷第１遺跡と同様、羽合町南谷夫婦塚遺跡・南谷大山遺跡など比較的標高の高い集落跡があるが、いずれも武器類の出土は少ない。

こうした点から考えると、この地域での丘陵上の集落は瀬戸内・近畿地方の高地性集落とは性格を異にしているといえる。

東郷池周辺では、低地で調査された集落跡はわずかに弥生時代前期に玉作工房をもつ長瀬高浜遺跡のみであるが、この遺跡では中期～後期には集落の造営がストップしているようである。この地域では、弥生時代後期の宇谷第１遺跡などの丘陵上の集落は、少なくとも争乱以外の要因（気候・政治的変化・生産形態など）で造営されるものと思われるが、現在のところ断定できない。

以上、検出された遺構・遺物に基づいて宇谷第１遺跡の弥生時代後期後半～古墳時代中期の集落の変遷など若干の考察を試みたが、当遺跡では住居と貯蔵施設との関係に変化が生じていることが解る。しかし、宇谷第１遺跡を含め東郷池周辺の丘陵上の集落の性格については、低地での調査例が少なく、比較する資料が不足しているため今後十分に検討されるものである。また、土器編年についてもさらに検討を要す点がある。これらの点については今後の課題としたい。

第２節　竪穴住居跡

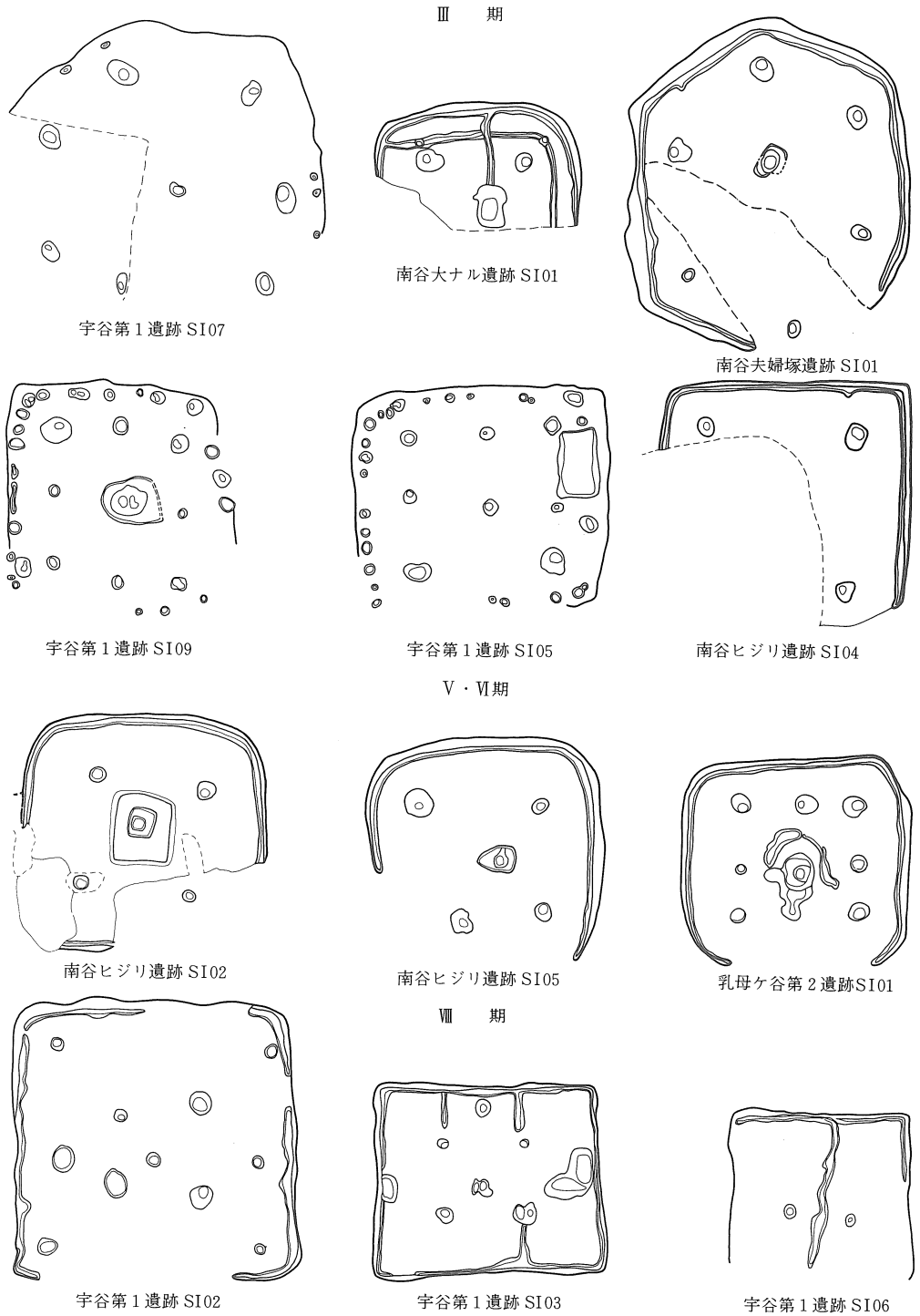
遺構数　中部埋蔵文化財調査事務所により発掘調査された竪穴住居跡は羽合町南谷ヒジリ遺跡５棟、南谷夫婦塚（めおとづか）遺跡２棟、乳母ケ谷（うばがたに）第２遺跡１棟（以上1991年度報告）、同町南谷大ナル遺跡１棟泊村宇谷第１遺跡10棟（以上1992年度調査）の合計19棟である。これらはすべて日本海に面する小高い丘陵上に位置する。

時　期　次に時期別の棟数を分けようと思うが、平面プランや中央ピット等の検討を行うため、青木遺跡の編年[62]を参考にし、２年間に亘る本事務所調査によって出土した土器の様相をもとに行なうこととする。これに従って分類してみると、青木Ⅲ期が11棟（宇谷第１遺跡６棟、南谷夫婦塚遺跡２棟、南谷大ナル遺跡１棟、南谷ヒジリ遺跡２棟）、青木Ⅴ・Ⅵ期が４棟（南谷ヒジリ遺跡３棟、乳母ケ谷第２遺跡１棟）、青木Ⅷ期が４棟（宇谷第１遺跡４棟）と大別できる。

青木Ⅲ　まず、青木Ⅲ期の住居跡の平面プランは円形、多角形、隅丸方形が中心となるが、**六角形**のものは宇谷第１遺跡SI01・07、南谷夫婦塚遺跡SI01、**隅丸方形**のものは宇谷第１遺跡SI04・05、南谷大ナル遺跡SI01、**方形**のものは宇谷第１遺跡SI08・09、南谷夫婦塚遺跡SI02、南谷ヒジリ遺跡SI04がこれに該当する。南谷ヒジリ遺跡SI03は多角形と考えられる。他遺跡で確認された同時期の遺構として、上種第１遺跡SI41（円形）、上種第５遺跡SI27（隅丸八角形）・SI10（隅丸方形）等、多角形または円形、隅丸方形プランのものが多く確認されている。この時期に方形プランのものはほとんど報告されていないが、本事務所の調査では確認された。今回の調査で検出した方形プランのもので、特に宇谷第１遺跡SI09は大規模で、壁際の床面に柱ほどもある杭のピットが巡るという他には例のない構造を持っている。浅川滋男研究官から、この杭が側板の押さえに使われるだけでなく、垂木や扠首（さす）を支えるために使われてい

たであろうという指摘を受けた。また、この時期のもうひとつの特徴として、平面プランが楕円又は長方形系で二段に掘り込まれた中央のピットを持つ住居跡がたくさん確認されている。この調査では、このような中央のピットが２棟から確認され、その内の１棟が宇谷第１遺跡SI09であった。もう１棟は南谷夫婦塚遺跡SI01である。

青木ⅤⅥ　次に、青木Ⅴ・Ⅵ期の住居跡の平面プランは隅丸方形、方形が中心となるが、**隅丸方形**のものが南谷ヒジリ遺跡SI02･SI05、乳母ケ谷第１遺跡SI01、**方形**のものが南谷ヒジリ遺跡SI01である。他遺跡で確認された同時期の遺跡として、上種第１遺跡SI03(方形)･SI39(隅丸方形）などがあり、弥生時代後期と比べると、円形及び多角形のものが姿を消し、隅丸方形、方形を呈するものが多くなってくるのが顕著である。従って住居跡のプランが方形化に向かう過渡期にあると考えられる。また、『青木遺跡発掘調査報告書Ⅲ』[62]の中で、「特殊ピッ



挿図45　住居跡平面プラン変遷図

トはⅤ・Ⅵ期に竪穴方形化とあいまって壁際に固定される。」と記述されているのに対して、今回の調査で、青木Ⅲ期に見られた中央のピットの形態がこの時期の隅丸方形プランの住居跡に残っていることは興味深いことである。また、青木Ⅶ期に大集落を形成していた長瀬高浜遺跡の住居跡のプランはほとんどが方形ないし隅丸五角形である。

青木Ⅷ　さらに、青木Ⅷ期の平面プランは長方形、方形が中心となるが、**長方形**のものが宇谷第1遺跡SI03、**方形**のものが宇谷第1遺跡SI02･06である。宇谷第1遺跡SI10は非常に小規模な**隅丸方形**である。他遺構で確認された同時期の遺構として、上種第5遺跡SI02(方形)･SI12(方形拡張後五角形)、上種第6遺跡[63]SI02･04(長方形)などがある。この時期に長方形プランが存在し、方形プランの割合が高いことは、方形プランの住居が一般的になったと考えられる。また、用途が同じかどうか判断できないが、中央にあったピットが壁際に移り、中には宇谷第1遺跡SI03と同じようにピットが細い溝に囲まれたものが多く見られる。

時期区分　以上のことから考えてみると、青木Ⅲ期と青木Ⅴ・Ⅵ期の平面プランに大きな変化があり、これをもって弥生時代と古墳時代に分けたい。従って、青木Ⅲ期が弥生時代後期後半、青木Ⅴ・Ⅵ期が古墳時代前期とし、青木Ⅷ期が古墳時代中期と考えてみた。終わりに、住居跡の平面プランと中央ピット等について見てきたが、限られた地域と時期しか考慮に入れておらず十分な考察ではないため、今年度調査した南谷大山遺跡、来年度調査予定のものを含めてさらに考察していきたい。

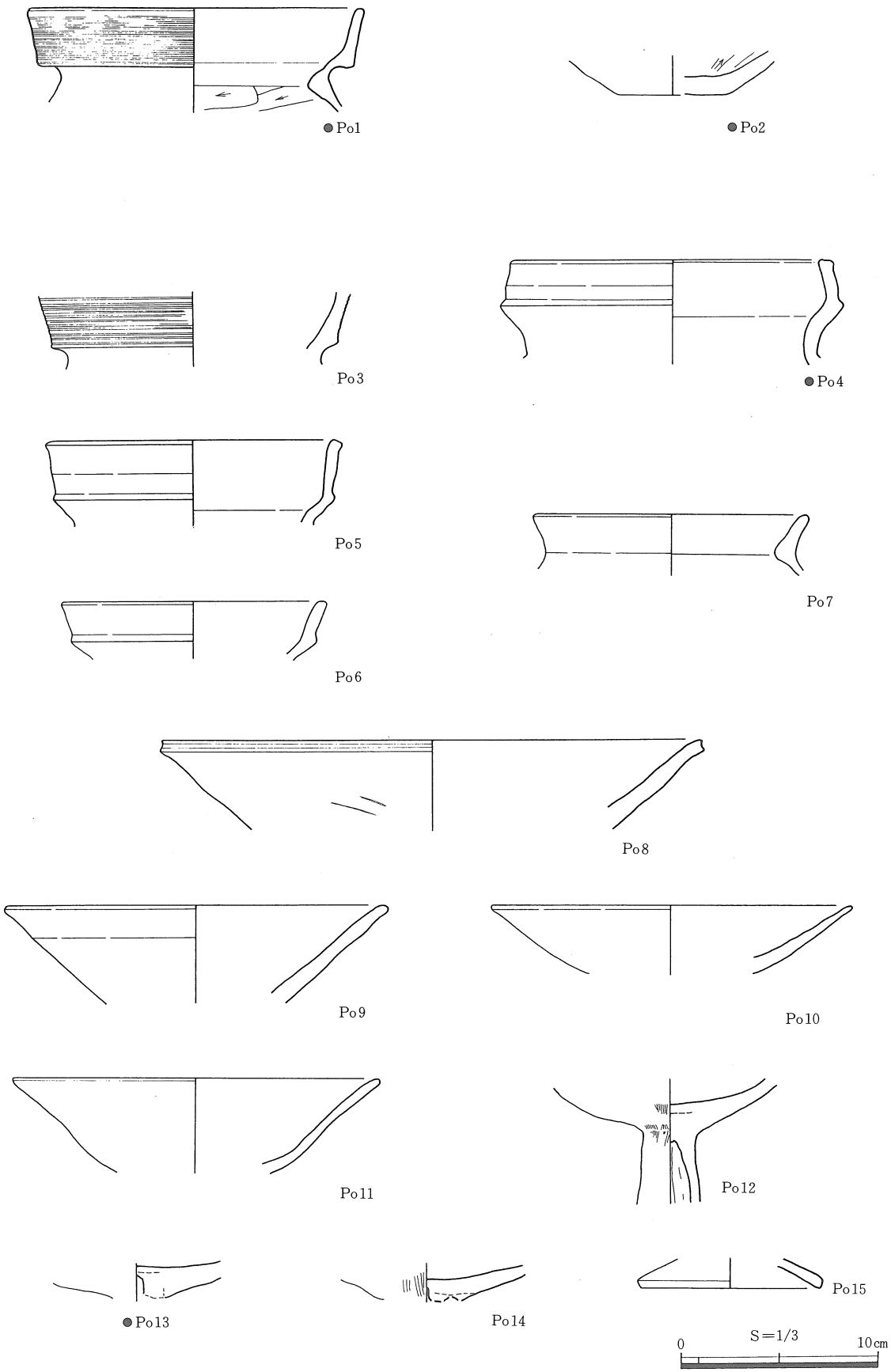
むすびにかえて

残雪の大山を横目に宇谷第1遺跡の調査を始めたのは、4月の初めだった。雨に悩まされた梅雨。 記録的な猛暑。我々が歩んだ道は、決して平坦ではなかった。調査・報告を無事終了した今、宇谷・南谷の山々にもまた春がめぐってきた。宇谷第1遺跡・南谷大ナル遺跡にとっては、最後の春となるであろう。消えゆく遺跡のことを、1人でも多くの方に語り継いでいただければ、と願う今日この頃である。

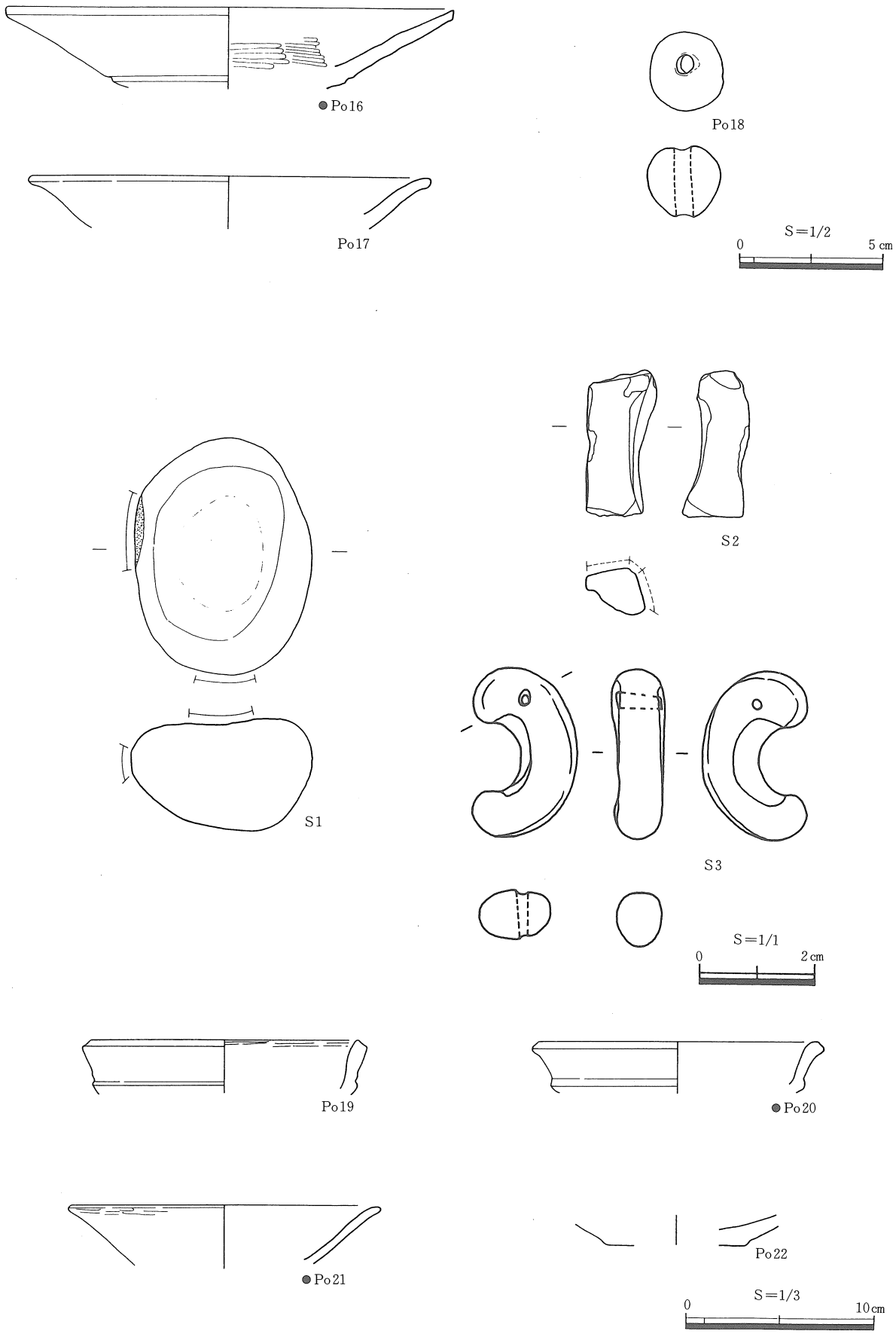
多くの方々の協力により、ここに調査報告書を上梓することができた。本報告書は事実記載に力点を置き、報告の責を果たすよう努めたつもりである。本書に収めた内容が研究の一助となれば幸いである。最後に、調査の実施、報告書の作成にあたり指導・協力・助言をいただいた各位に深く感謝申し上げたい。

註・参考文献

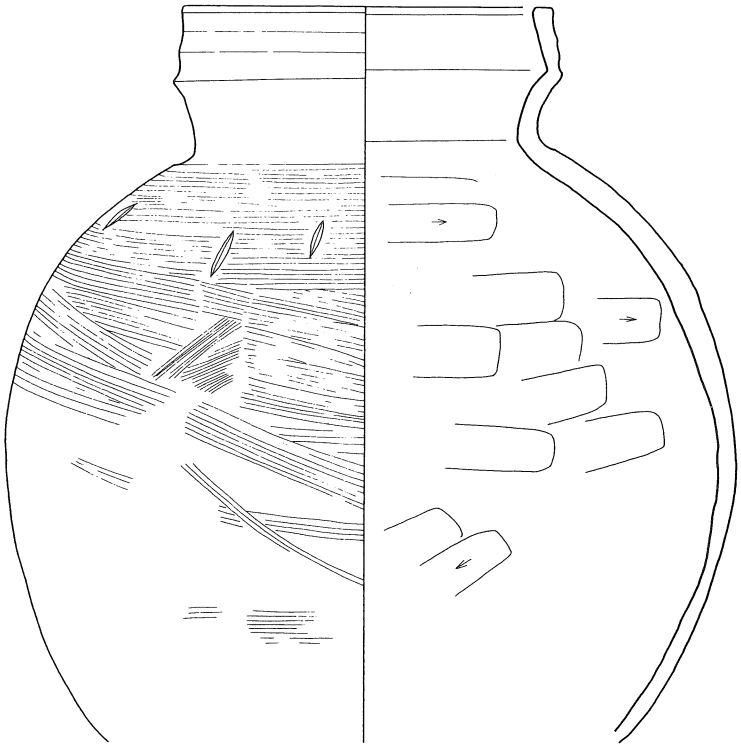
註１．羽合町教育委員会『南谷所在遺跡群（大ナル地区・ヒジリ地区）』 1990
２．泊村教育委員会『泊村内遺跡発掘調査報告書』 1989
３．新日本海新聞社『鳥取県大百科事典』 1984
４．泊村『泊村誌』 1989
５．羽合町『羽合町史』前編 1967
６．東郷町『東郷町史』 1987
７．鳥取県教育研修センター『天神川流域とその周辺』 1983
８．稲田孝司「旧石器集団の行動軌跡」『古代史復元１旧石器人の生活と集団』講談社1988
９．鳥取県埋蔵文化財センター『旧石器・縄文時代の鳥取県』 1988
10．倉吉市教育委員会『高鼻２号墳（灘手２号墳）発掘調査報告書』 1982
11．倉吉市教育委員会『伯耆国庁跡発掘調査概報（第３次）』 1975
12．鳥取県埋蔵文化財センター『鳥取埋文ニュース』 No.28 1990
13．倉吉市教育委員会『立縫遺跡群 取木遺跡・一反半田遺跡発掘調査報告書』 1984
14．鳥取県教育文化財団『南谷ヒジリ遺跡・南谷夫婦塚遺跡・南谷19～23号墳・乳母ケ谷第２遺跡・宇野３～９号墳』 1991
15．北条町教育委員会『島遺跡発掘調査報告書第１集』 1983
16．名越 勉「原始・古代」『倉吉市史』 1973
17．倉吉市教育委員会『津田峰遺跡発掘調査報告書』 1986
18．東伯町教育委員会『森藤第１・森藤第２遺跡発掘調査報告書』1987
19．関金町教育委員会『横峯遺跡発掘調査報告書』 1986
20．山陰考古学研究所『山陰の前期古墳文化の研究Ⅰ』 1978
21．山陰中央新報社『さんいん古代史の周辺－上－』 1978
22．鳥取県教育文化財団『久古第３遺跡・貝田原遺跡・林ケ原遺跡発掘調査報告書』 1984
23．鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書』Ⅱ～Ⅵ 1981～1983
24．北条町教育委員会『北尾遺跡発掘調査報告書』第1集 1987
25．米子市教育委員会『目久美遺跡』 1986
26．佐々木謙他『倉吉福庭遺跡』 1970
27．鳥取県教育委員会「東郷町大鼻遺跡」『埋蔵文化財発掘調査概報』 1973
28．鳥取県埋蔵文化財センター『弥生時代の鳥取県』 1985
29．名越 勉・甲斐忠彦「鳥取県東郷町出土の小銅鐸」『考古学雑誌』第59巻２号 1973
30．鳥取県教育委員会『鳥取県文化財調査報告書第１集』1960
31．倉光清六「伯耆八橋町銅鐸出土遺跡」『考古学雑誌』第23巻４号 1933
32．倉吉市教育委員会『上米積遺跡発掘調査報告Ⅱ－阿弥大寺地区－』 1980
33．東森市良『四隅突出型墳丘墓』ニューサイエンス社 1989
註34．北条町教育委員会『土下古墳群発掘調査報告書第１集』 1983
35．北条町教育委員会『曲古墳群発掘調査報告書』 1981
36．鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書』Ⅳ 埴輪編 1982
37．東郷町教育委員会『津浪遺跡発掘調査報告書』 1974
38．東郷町教育委員会『佐美４・13号墳発掘調査報告書』1979
39 倉吉市教育委員会『大宮古墳発掘調査概報』 1979
40 近藤哲雄「東伯耆における横穴式石室の様相」『島根考古学会誌』第４集 島根考古学会 1987
41 東郷町教育委員会『片平５号墳発掘調査報告書』 1977
42．鳥取県教育委員会『鳥取県装飾古墳分布調査概報』 1981
43．梅原末治「因伯二国に於ける古墳の調査」『鳥取県史跡勝地調査報告』第二冊 1924
44．羽合町教育委員会『馬ノ山古墳群』 1961
45．泊村教育委員会『園古墳群発掘調査報告書』 1990
46．鳥取県教育委員会『鳥取県生産遺跡分布調査報告書』1984
47．真田廣幸「伯耆国大御堂廃寺考」『山陰考古学の諸問題』 1986
48．真田廣幸「奈良時代の伯耆国に見られる軒瓦の様相」『考古学雑誌』第66巻２号 1980
49．倉吉市教育委員会『史跡大原廃寺跡第２次発掘調査概報』 1988
倉吉市教育委員会『史跡大原廃寺跡第３次発掘調査概報』 1991
50．倉吉市教育委員会『伯耆国庁跡発掘調査概報』第３次・第５次・第６次 1975～1978
51．倉吉博物館『伯耆国分寺』 1983
52．倉吉市教育委員会『伯耆国分尼寺発掘調査概報』 1973
53．佐々木謙・亀井熙人「原始古代編」『鳥取県史』１ 鳥取県 1972
54．羽合町教育委員会の御好意により、「天正14年河村郡南谷村田畑地続全図」を拝見させていただいた。
55．羽合町教育委員会『南谷貝塚発掘調査報告書』 1991
56．山本 清「山陰の須恵器」『島根大学開学10周年記念論文集』人文科学編 1960
57．土井珠美「鳥取県下の状況」『弥生時代後期から古墳時代初頭のいわゆる山陰系土器について』埋蔵文化財研究会 1989
58．大栄町教育委員会『上種第５遺跡発掘調査報告書』 1985
59．西伯町教育委員会『清水谷遺跡現地説明会資料』 1991
60．大きく削られているため、復元した数値である。
61．小野忠熙「高地性集落研究の課題」『高地性集落と倭国大乱－小野忠熙博士退官記念論集－』 1984
62．鳥取県教育委員会『青木遺跡発掘調査報告書Ⅲ（本文編）』 1978
63．大栄町教育委員会『上種第６遺跡発掘調査報告書』 1985

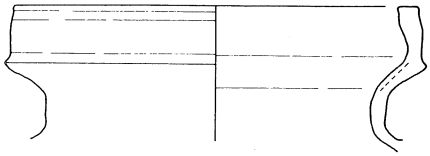


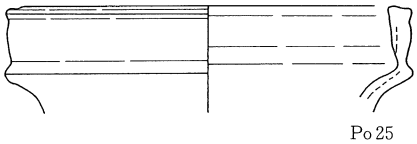
挿図46　宇谷第１遺跡　S101(Po1・Po2)
S102(Po3～Po15)

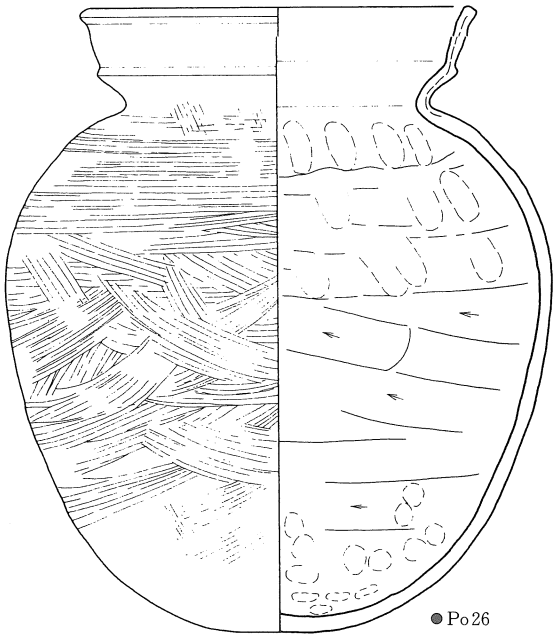


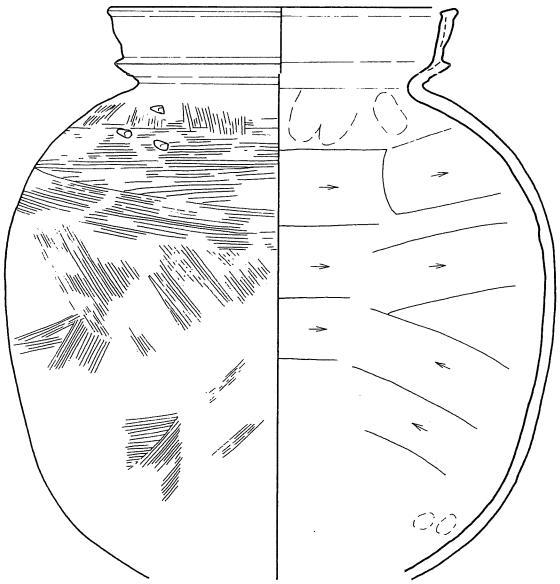
挿図47　宇谷第１遺跡　SI02(Po16～Po18・S1～S3)
SI10(Po19～Po22)

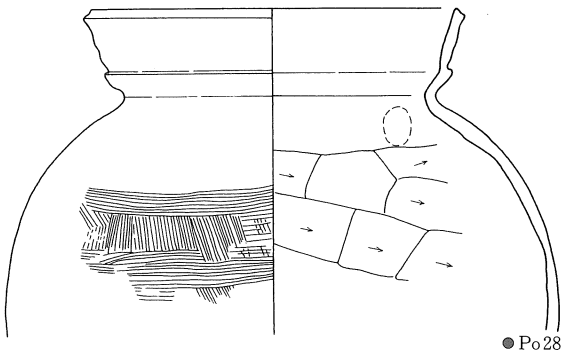


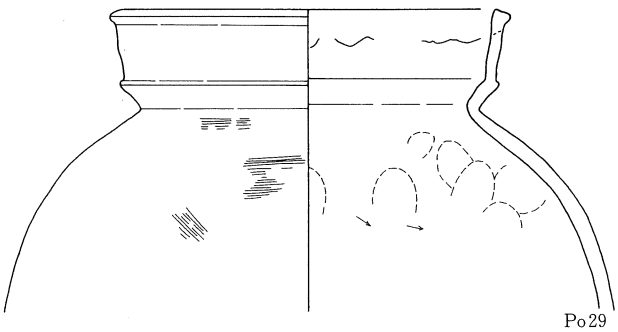








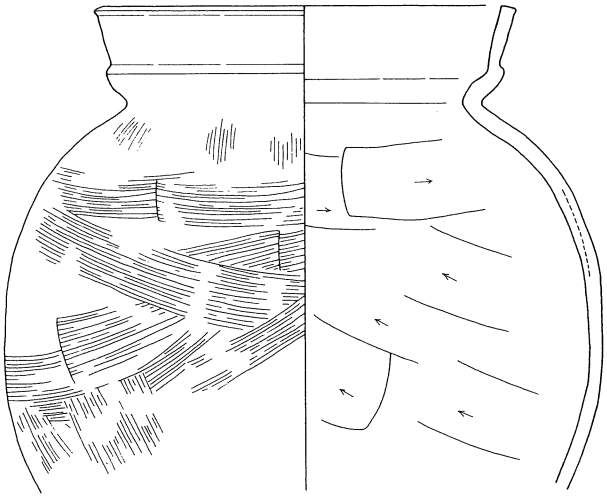




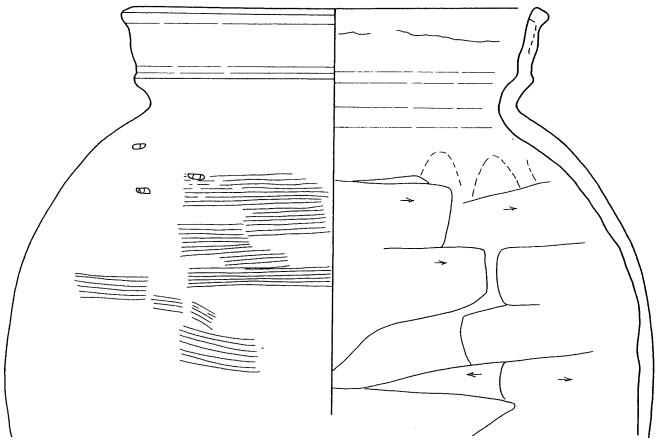
S=1/3

0 10cm

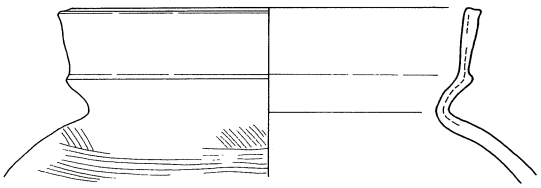
挿図48　宇谷第1遺跡S103(Po23～Po29)



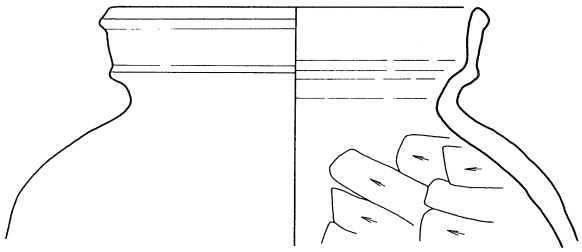
Po30



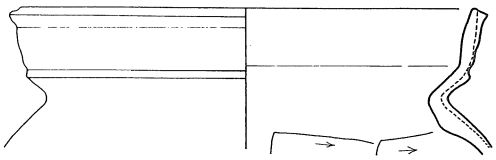
Po31



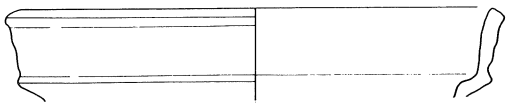
Po32



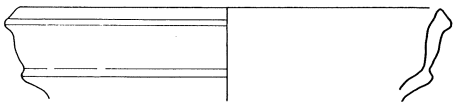
Po33



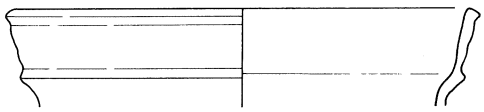
Po34



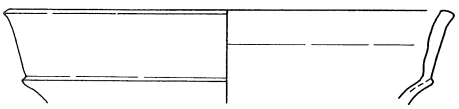
Po35



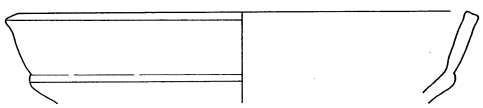
Po36



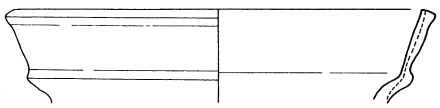
Po37



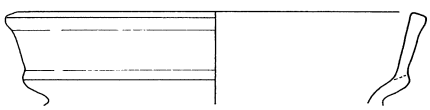
Po38



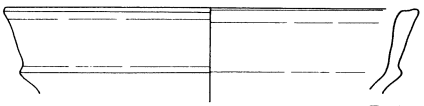
Po39



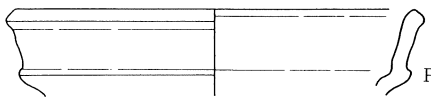
Po40



Po41



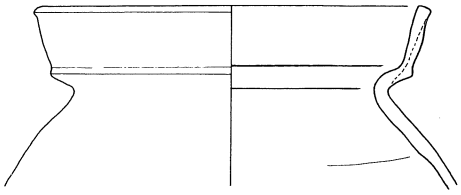
Po42



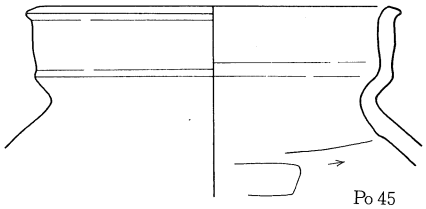
Po43

0 S=1/3 10cm

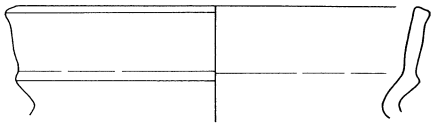
挿図49　宇谷第1遺跡SI03(Po30～Po43)



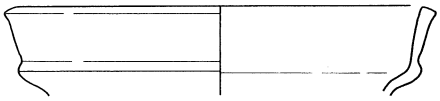
Po 44



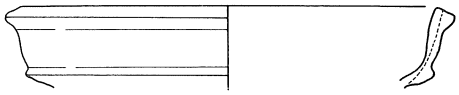
Po 45



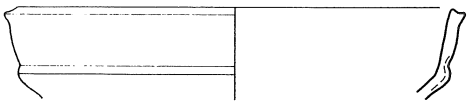
Po 46



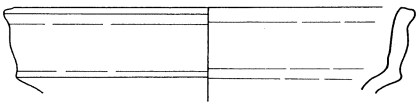
Po 47



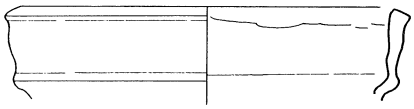
Po 48



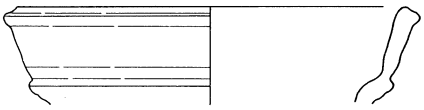
Po 49



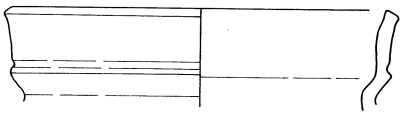
Po 50



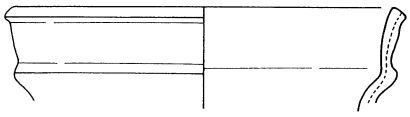
Po 51



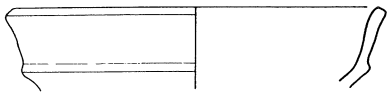
Po 52



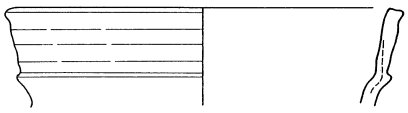
Po 53



Po 54

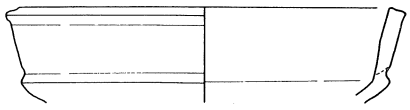


Po 55



Po 56

Po 57

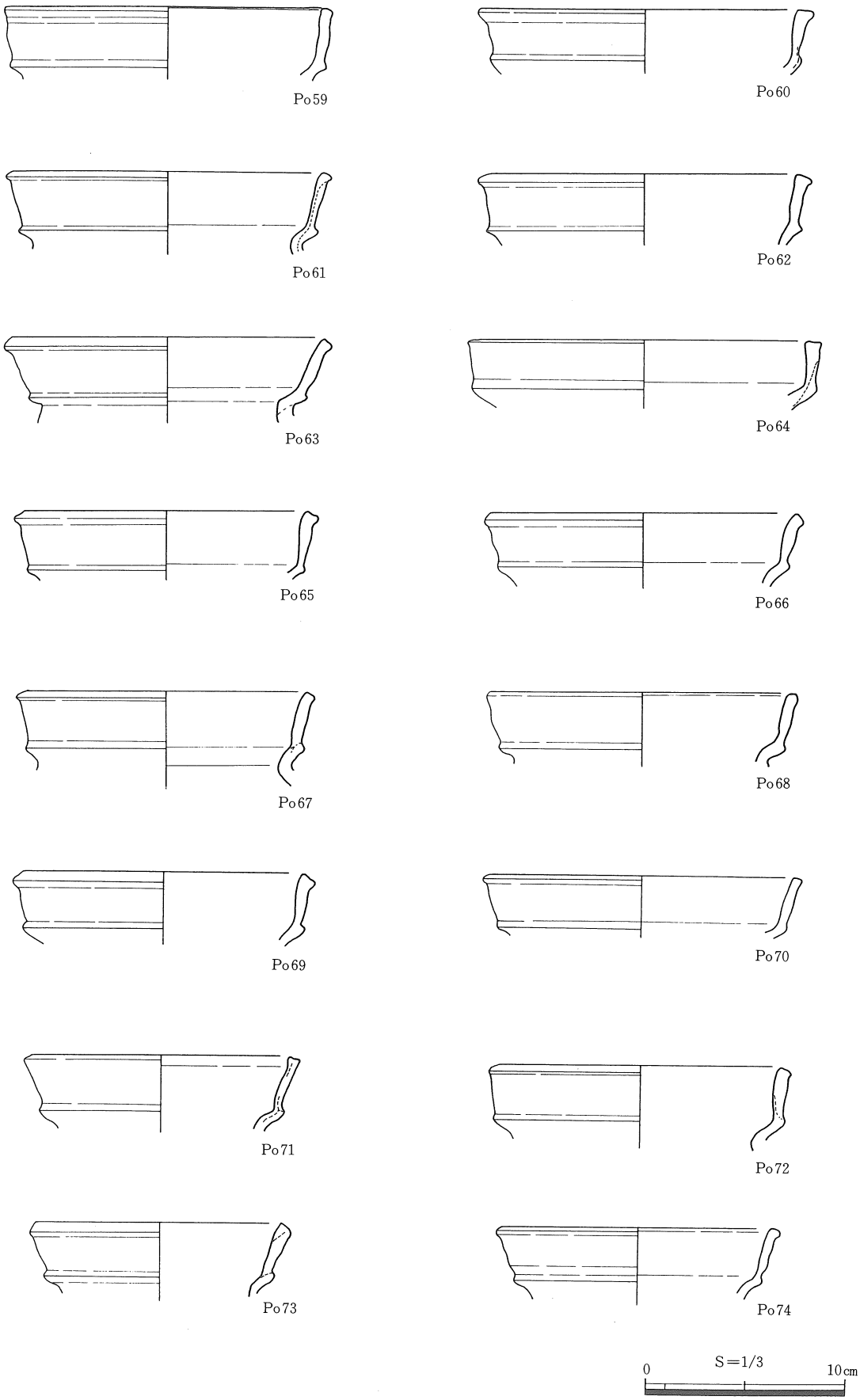


Po 58

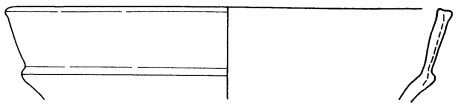
S＝1/3

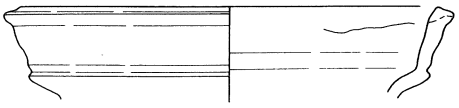
0　10cm

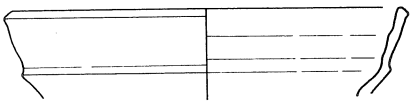
挿図50　宇谷第１遺跡SI 03（Po44～Po58）

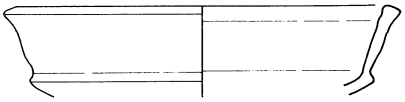


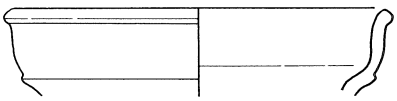
挿図51　宇谷第1遺跡SI03(Po59～Po74)

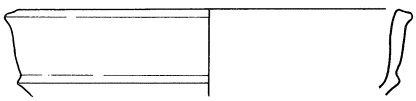

Po75

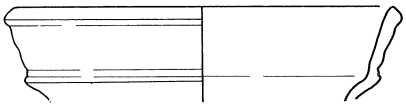

Po76

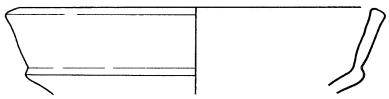

Po77

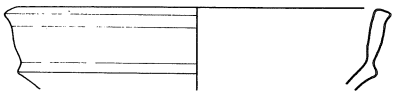

Po78

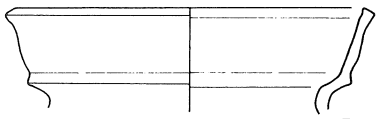

Po79

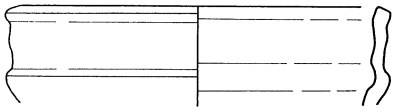

Po80


Po81

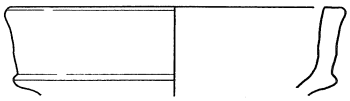

Po82

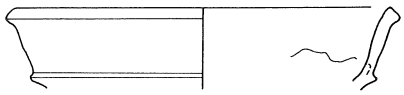

Po83

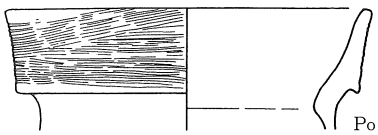

Po84

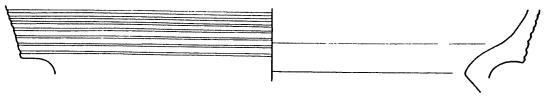

Po85

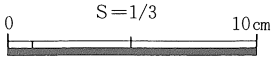
Po86


Po87

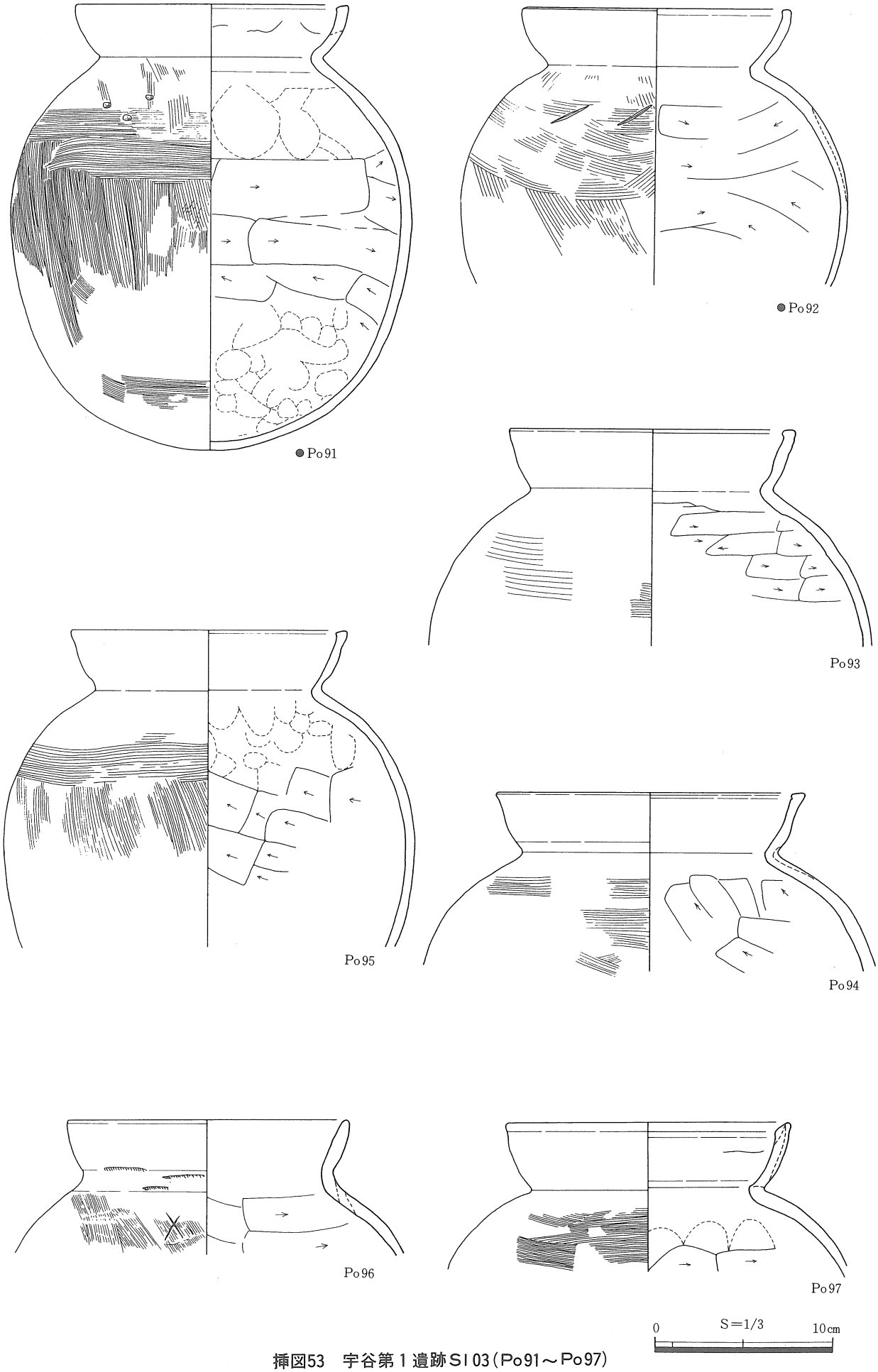

Po88


Po89

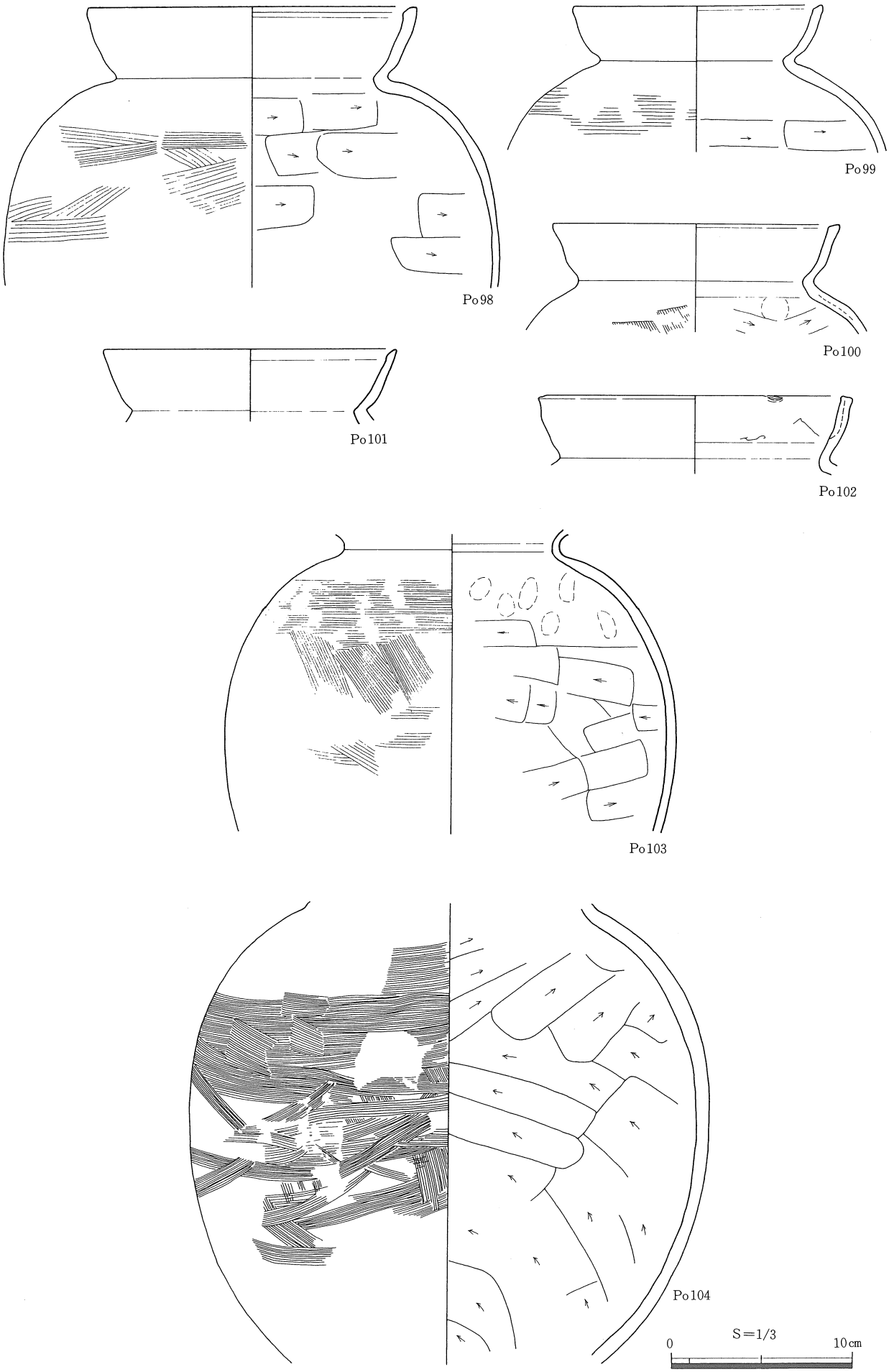

Po90



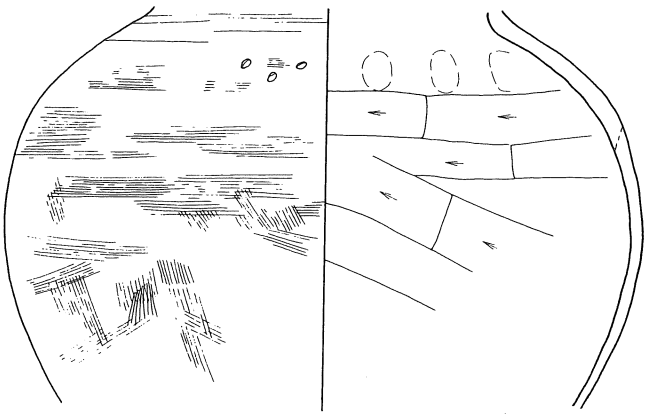
挿図52　宇谷第１遺跡SI03(Po75～Po90)



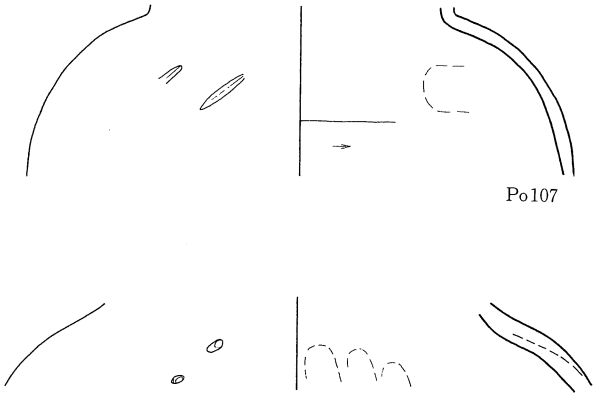
挿図53　宇谷第1遺跡SI03(Po91～Po97)



挿図54　宇谷第１遺跡SI03(Po98～Po104)

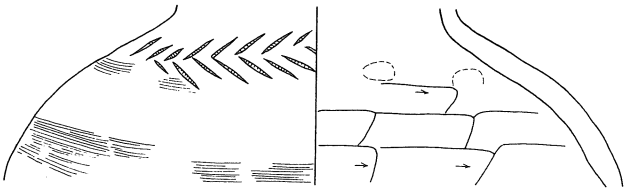


●Po105

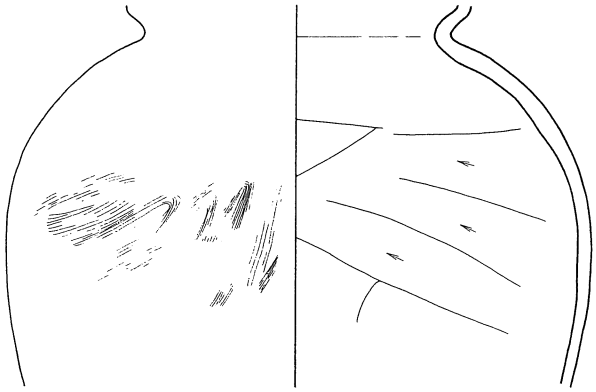


Po107

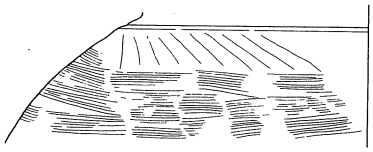
Po108

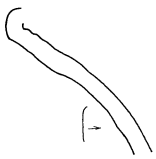


Po106

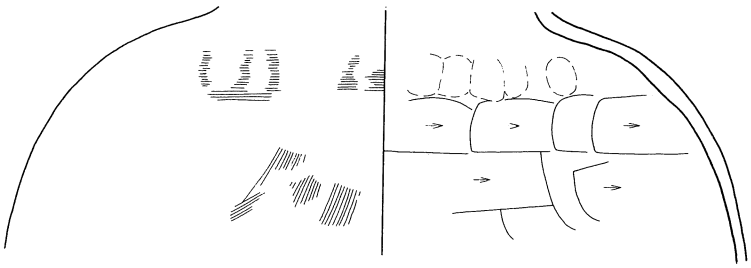


Po109

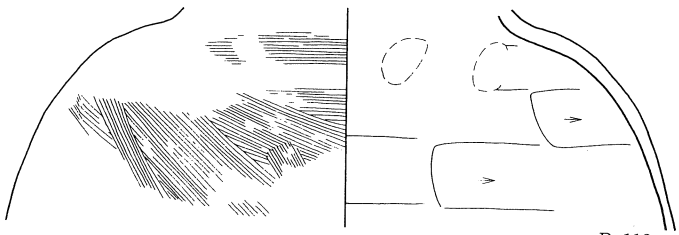




Po110



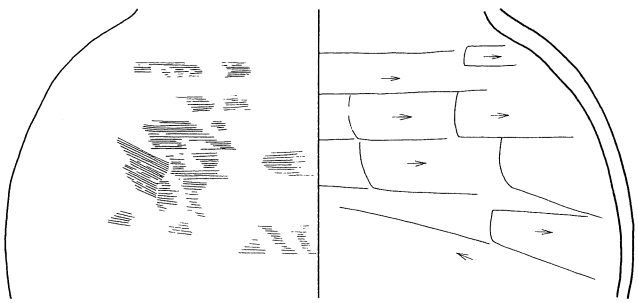
Po111



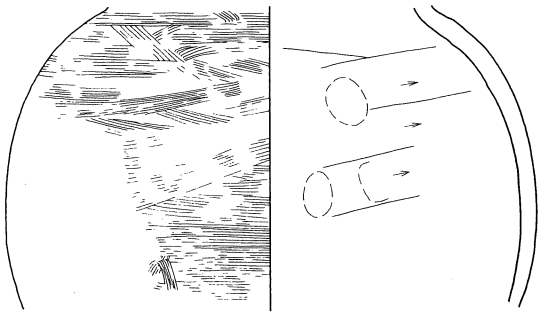
Po112

0　S=1/3　10cm

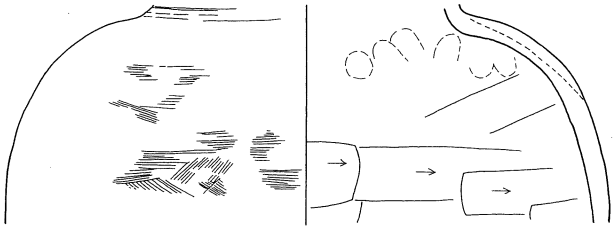
挿図55　宇谷第1遺跡SI03(Po105～Po112)



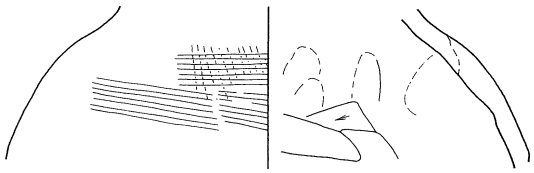
Po113



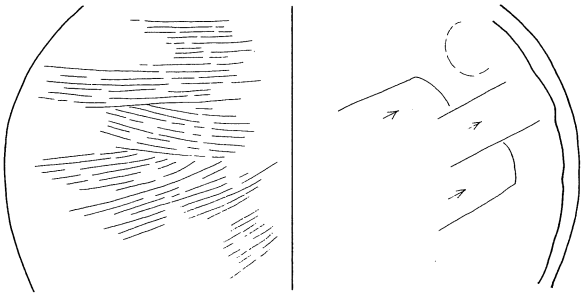
Po114



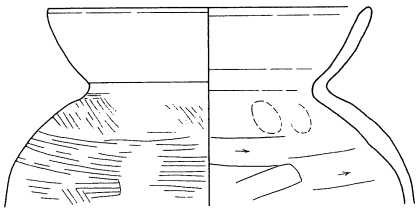
Po115



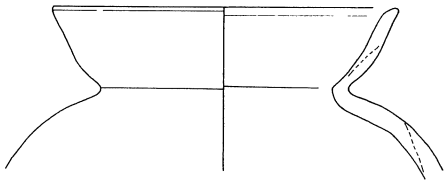
Po116



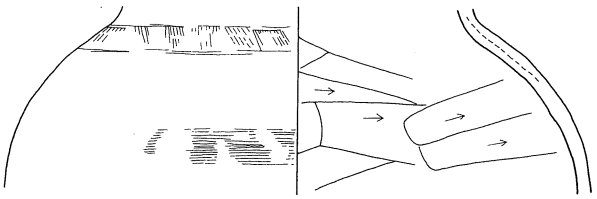
Po117



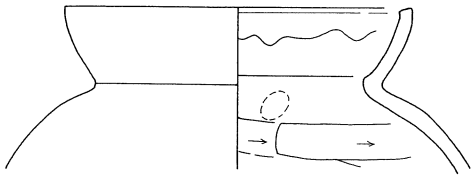
Po119



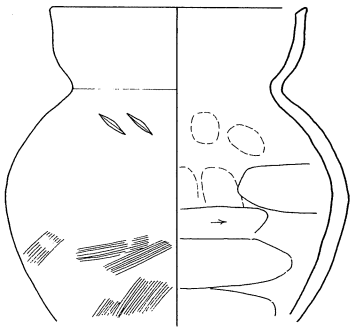
Po120



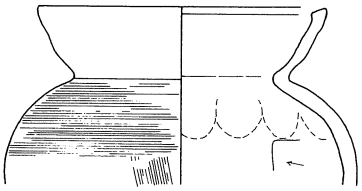
Po118



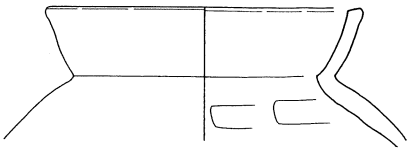
●Po121



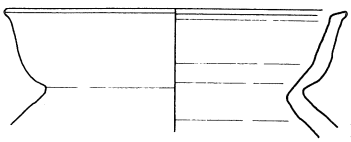
Po122



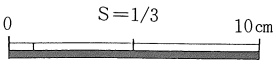
●Po123



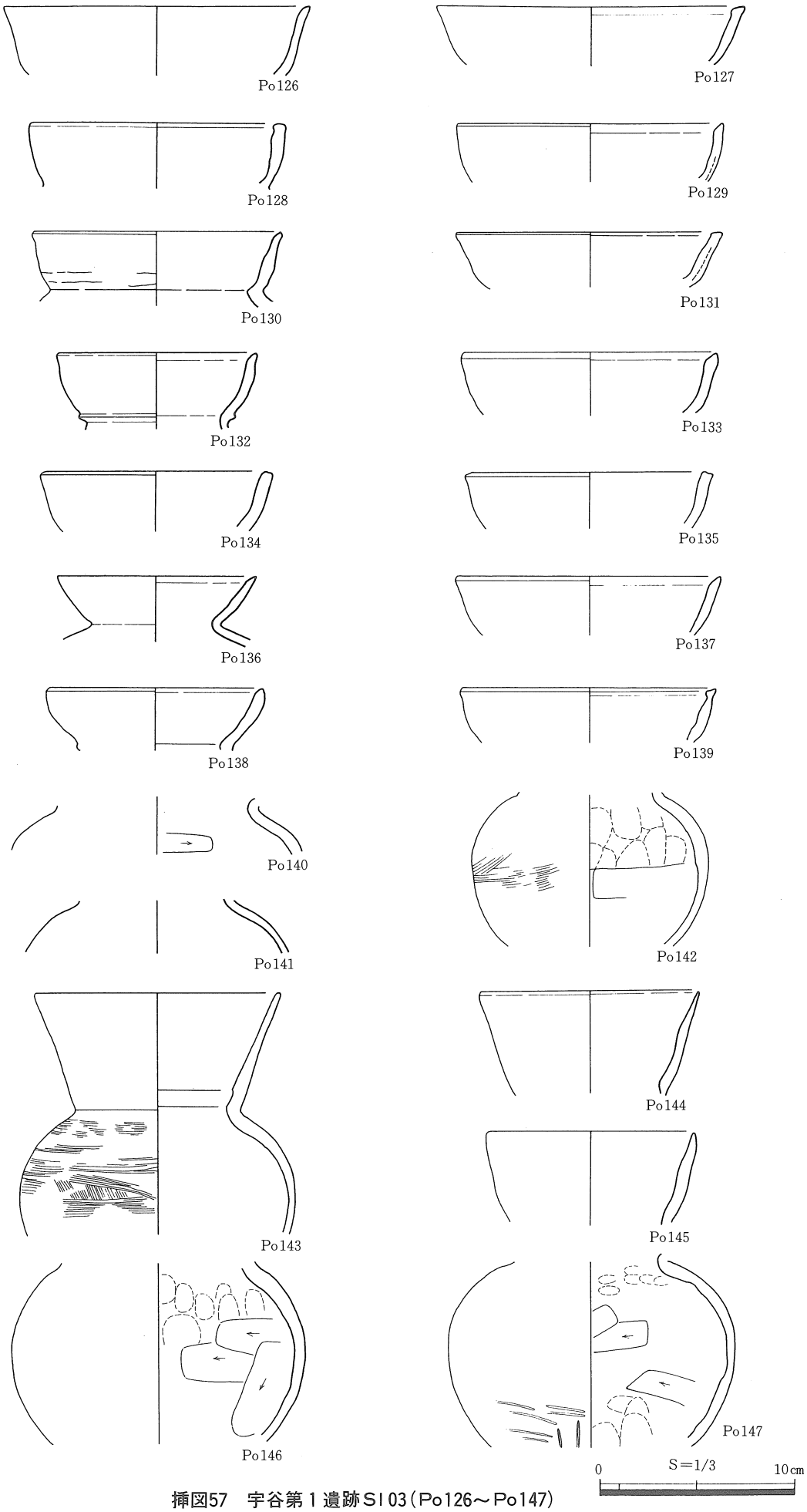
Po124



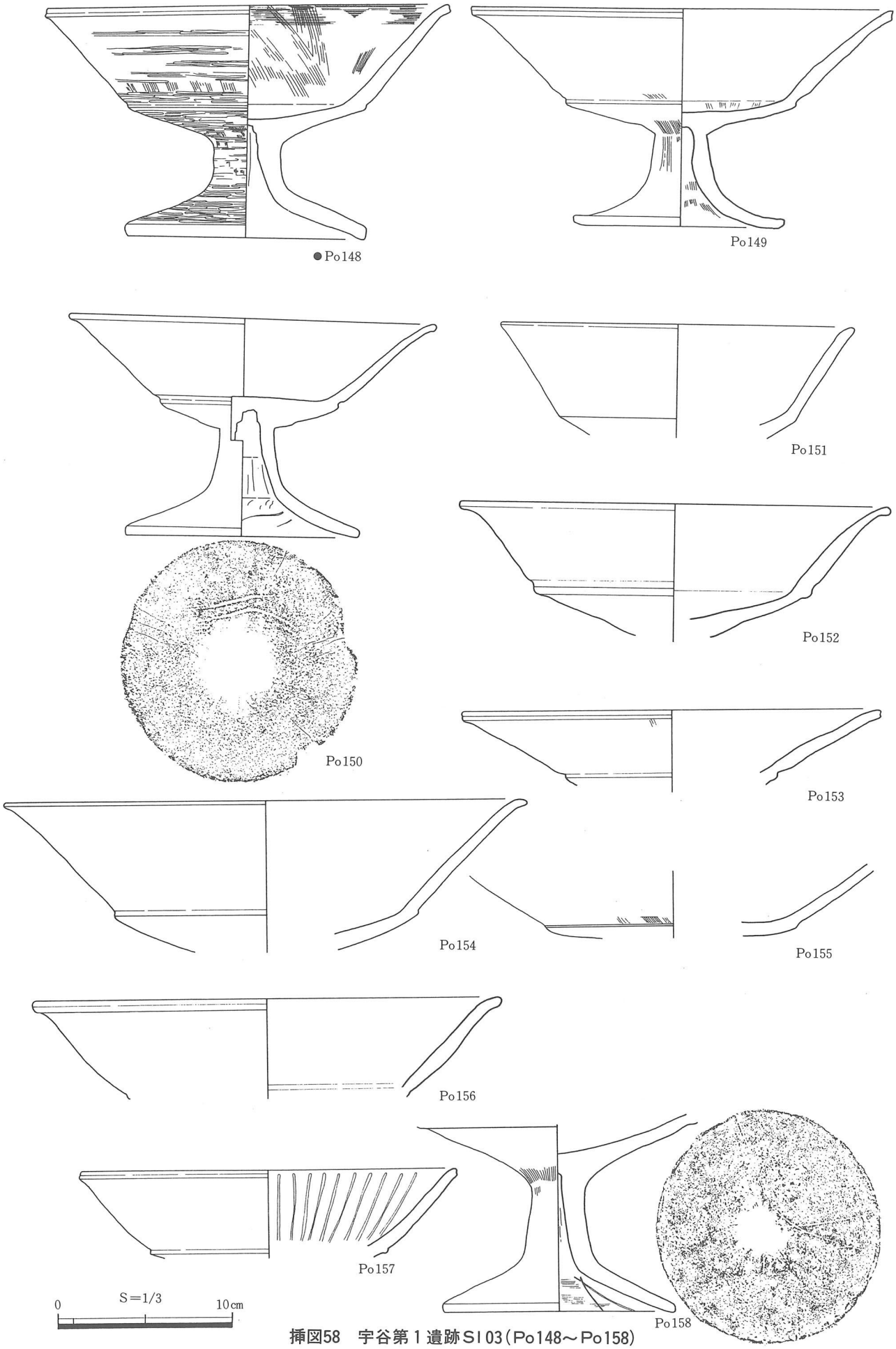
Po125



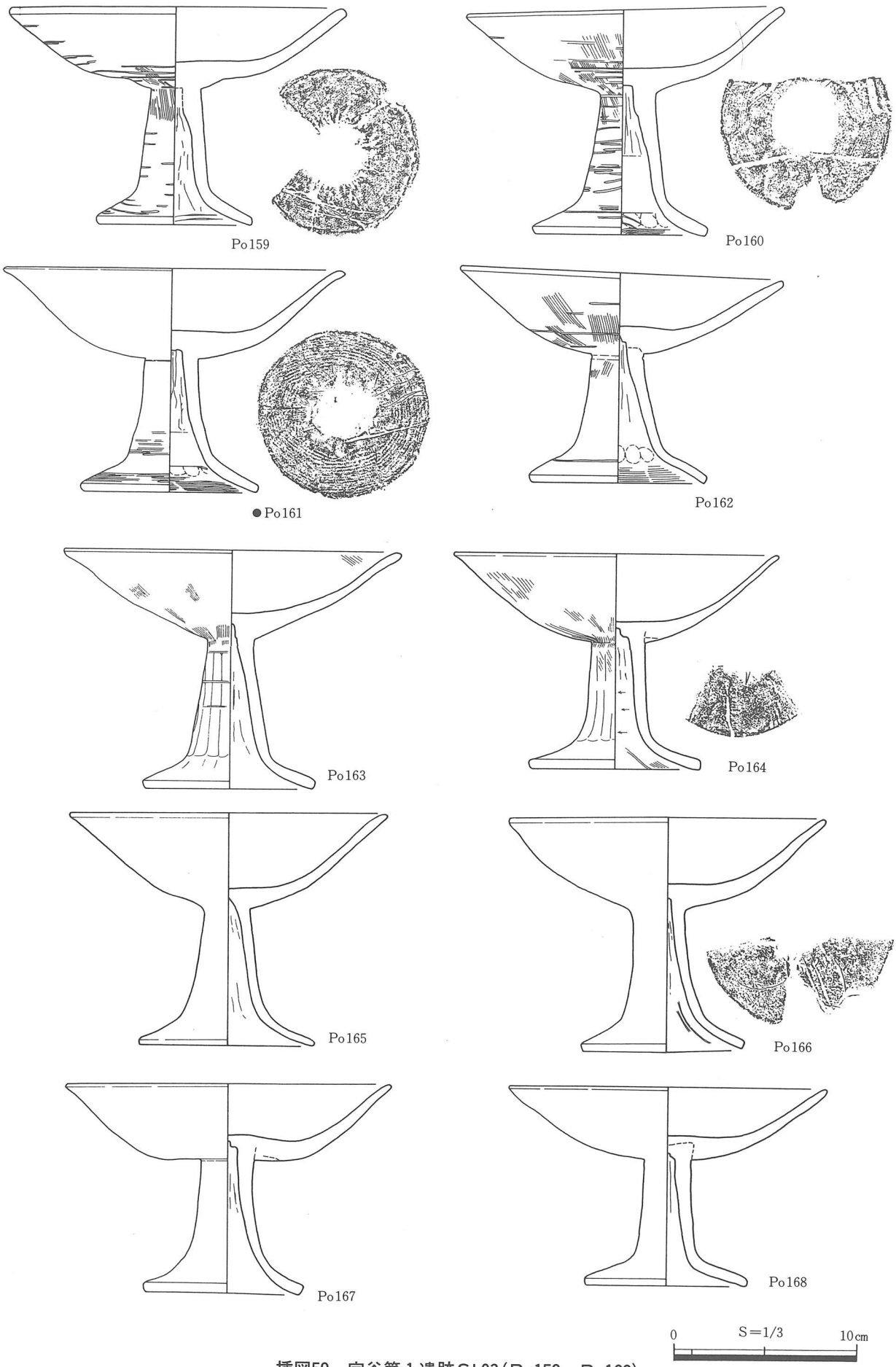
挿図56　宇谷第１遺跡SI03(Po113～Po125)



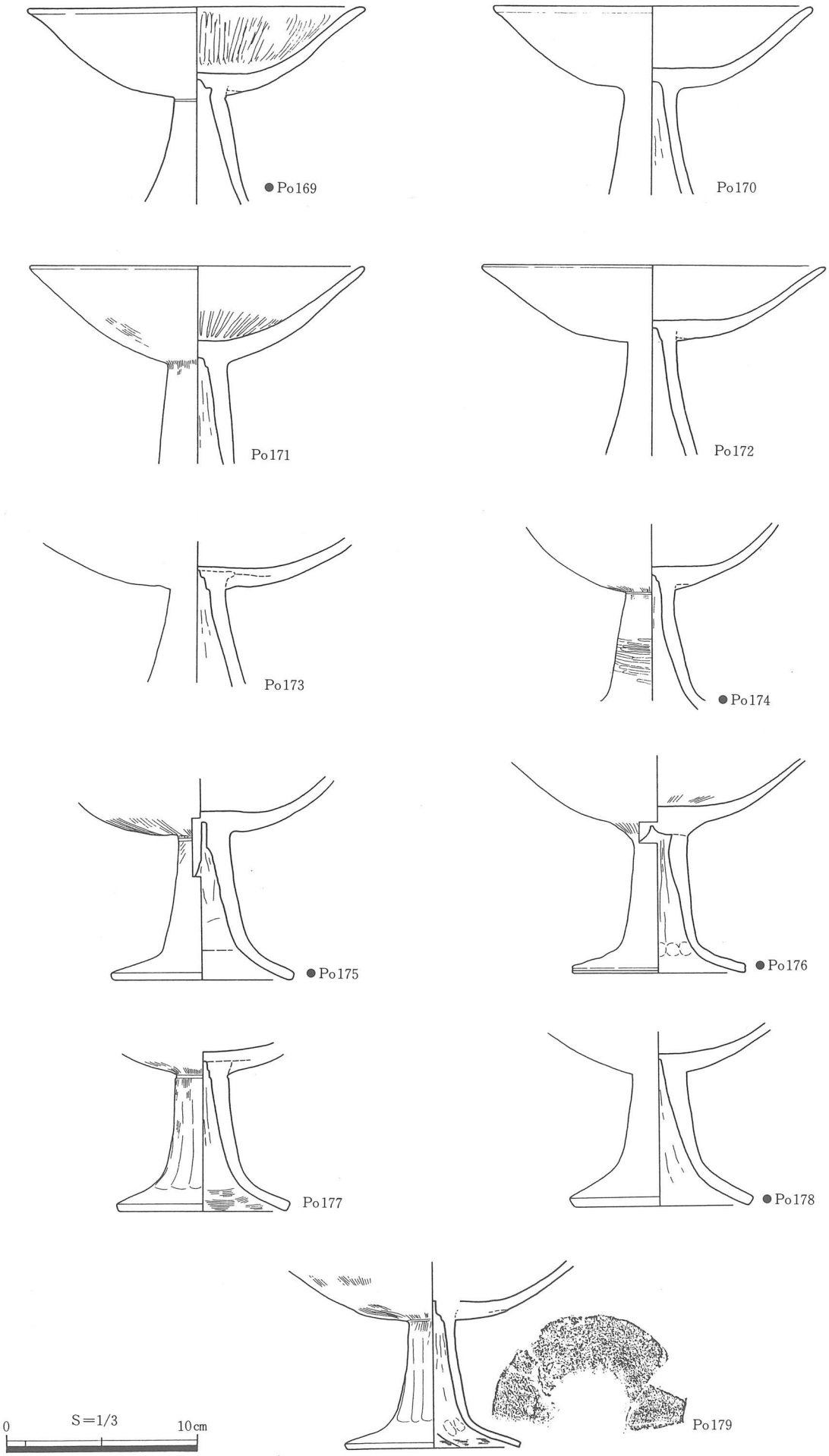
挿図57　宇谷第１遺跡SI03（Po126～Po147）



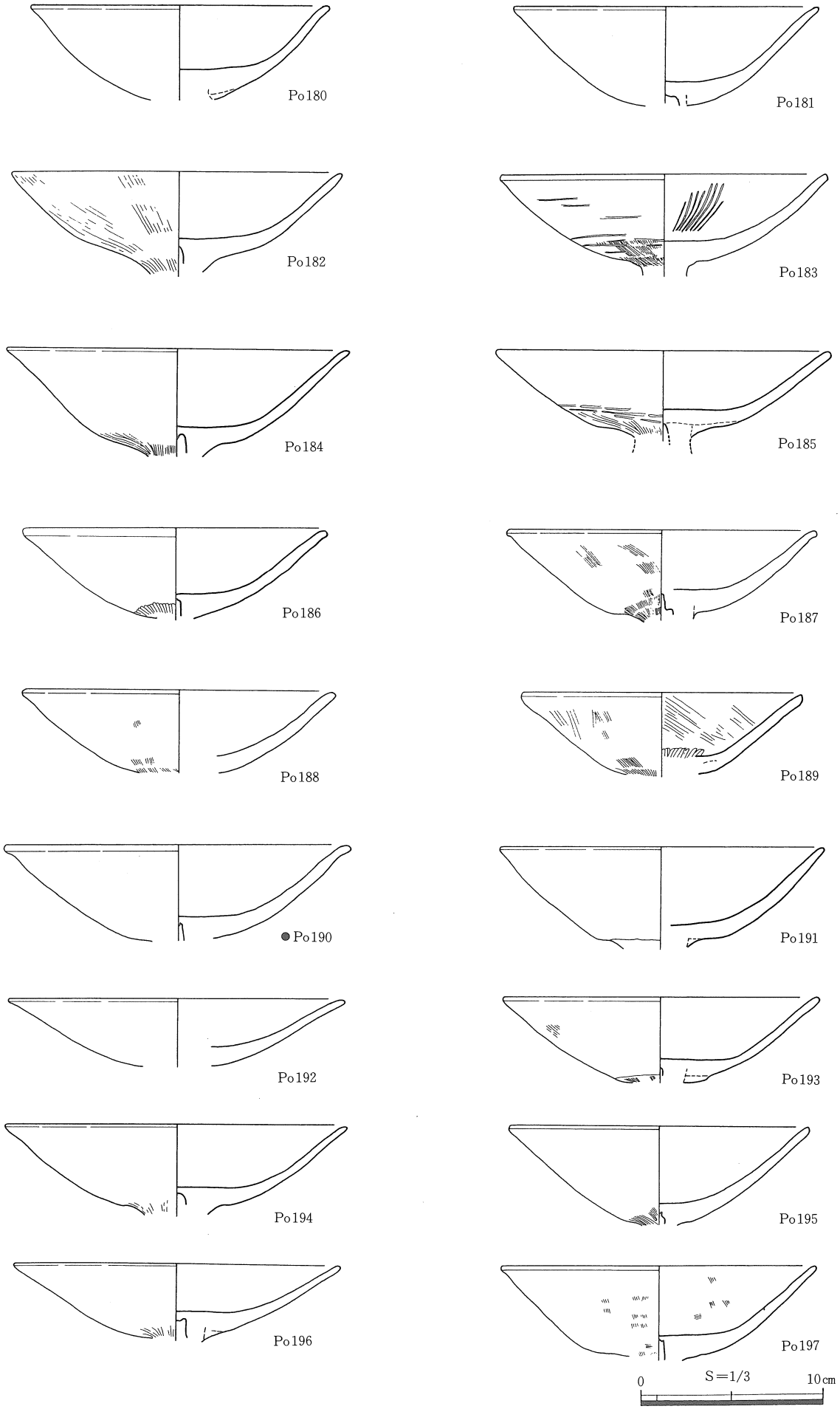
挿図58　宇谷第1遺跡SI03(Po148～Po158)



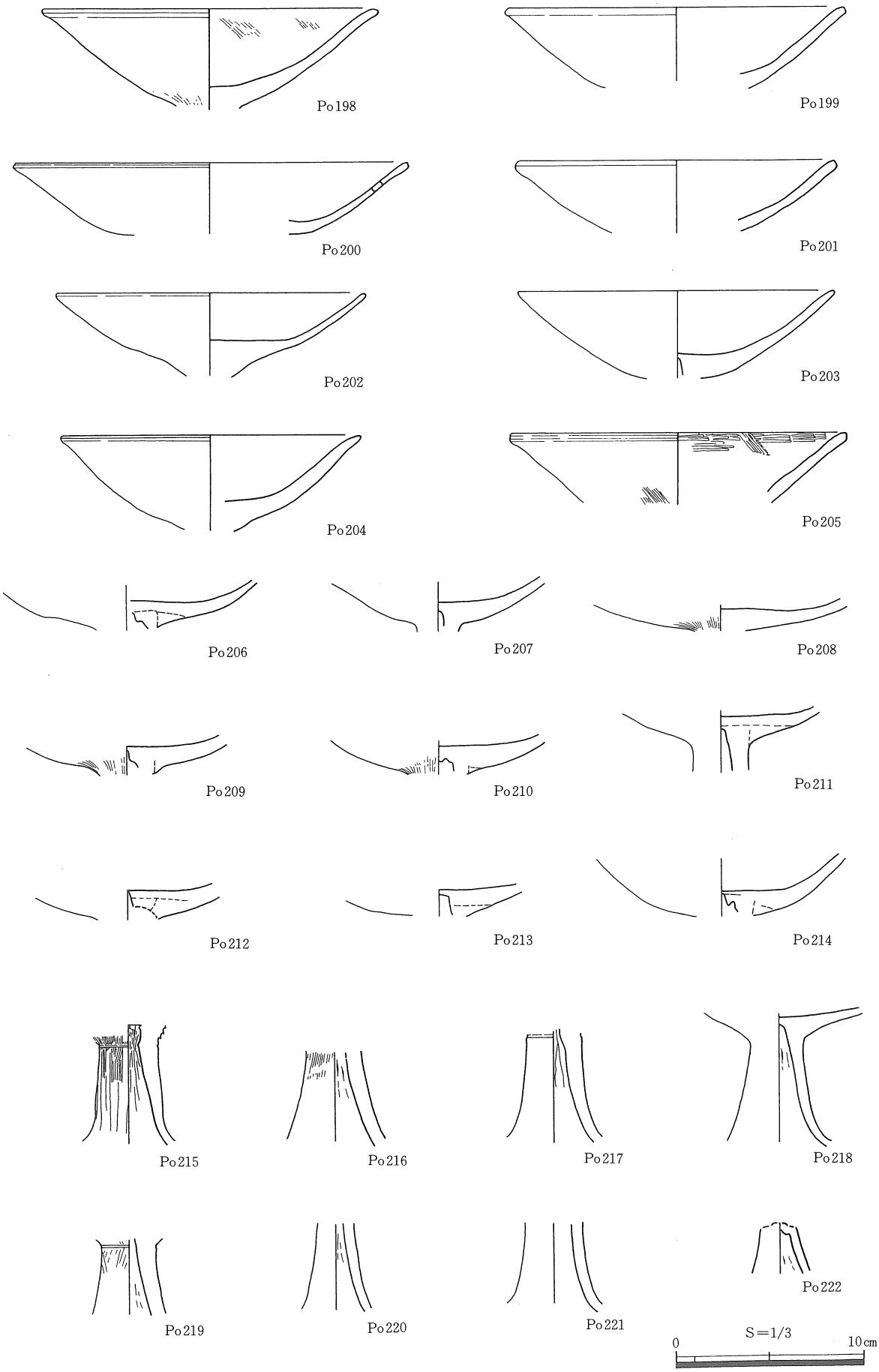
挿図59　宇谷第1遺跡SI03(Po159～Po168)



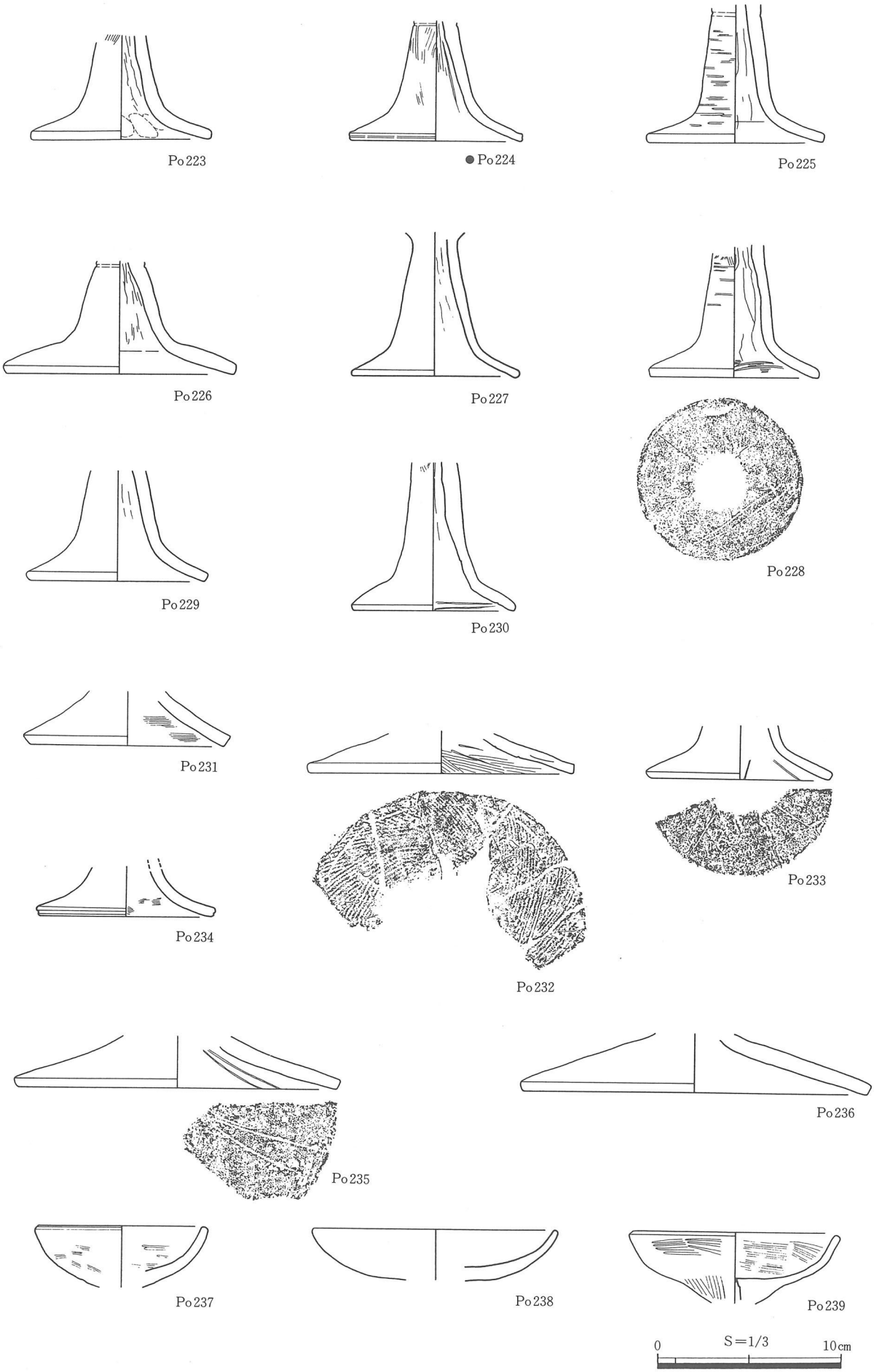
挿図60　宇谷第１遺跡SI03(Po169～Po179)



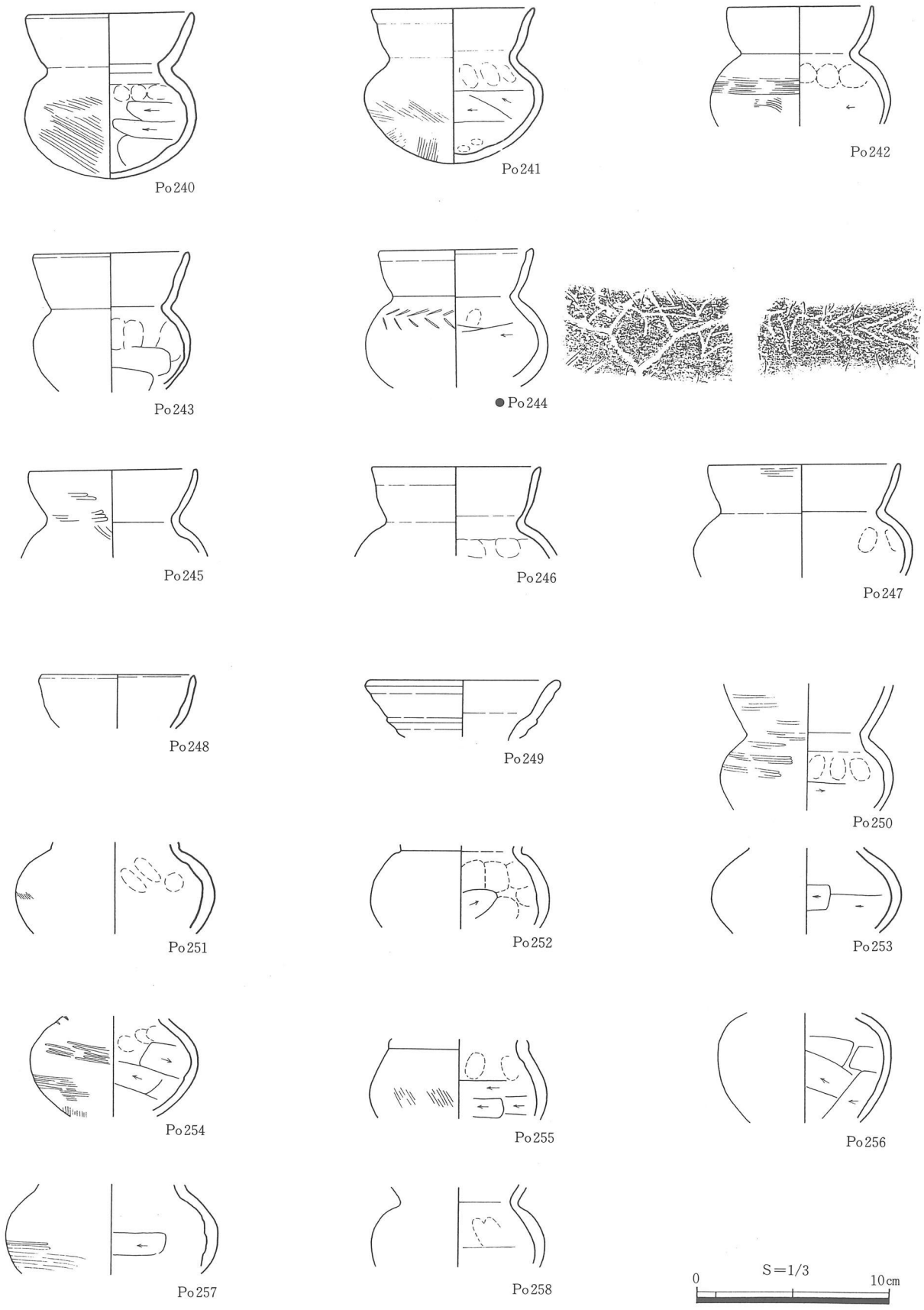
挿図61　宇谷第1遺跡SI03(Po180～Po197)



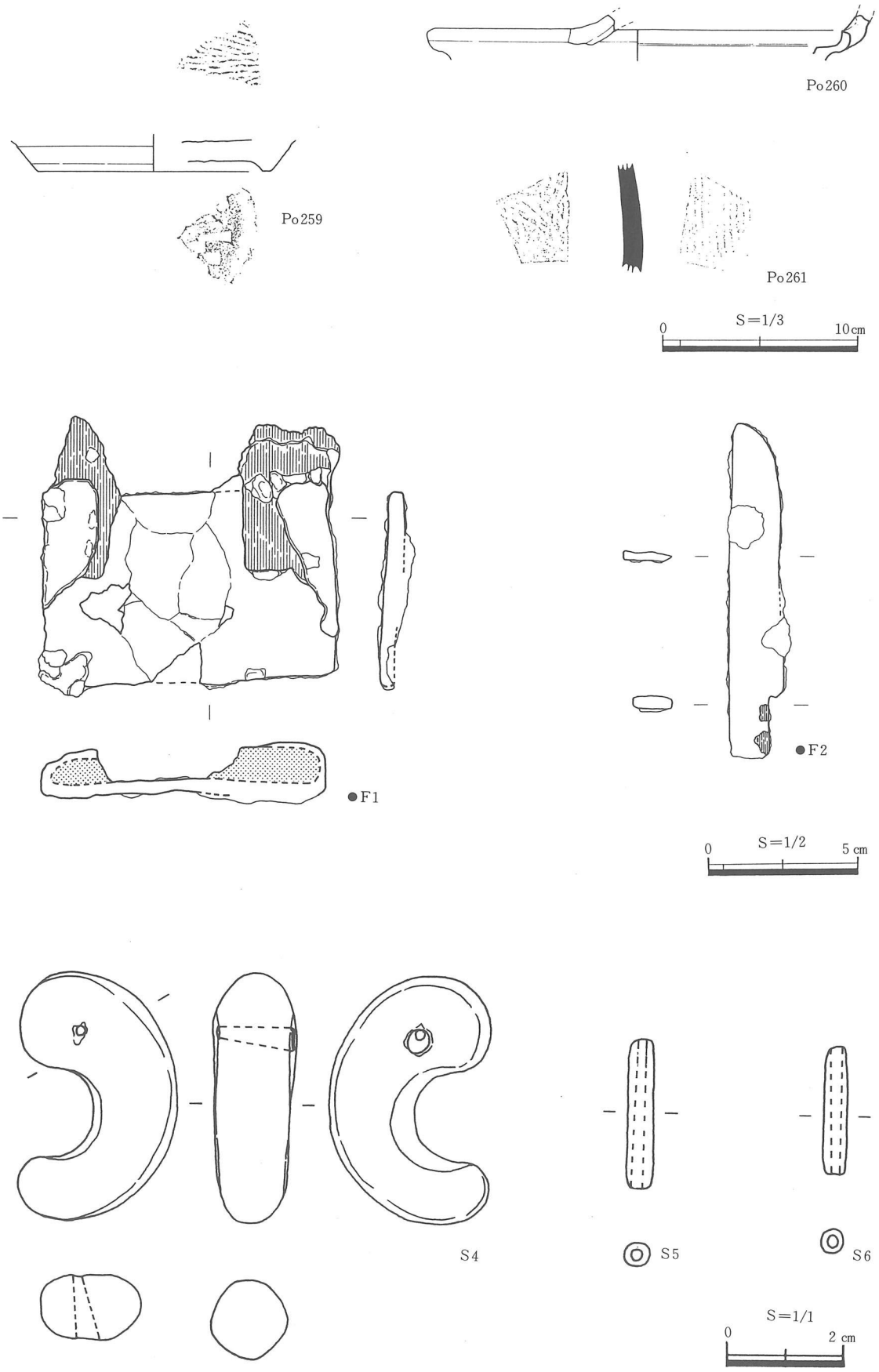
挿図62　宇谷第１遺跡SI03(Po198～Po222)



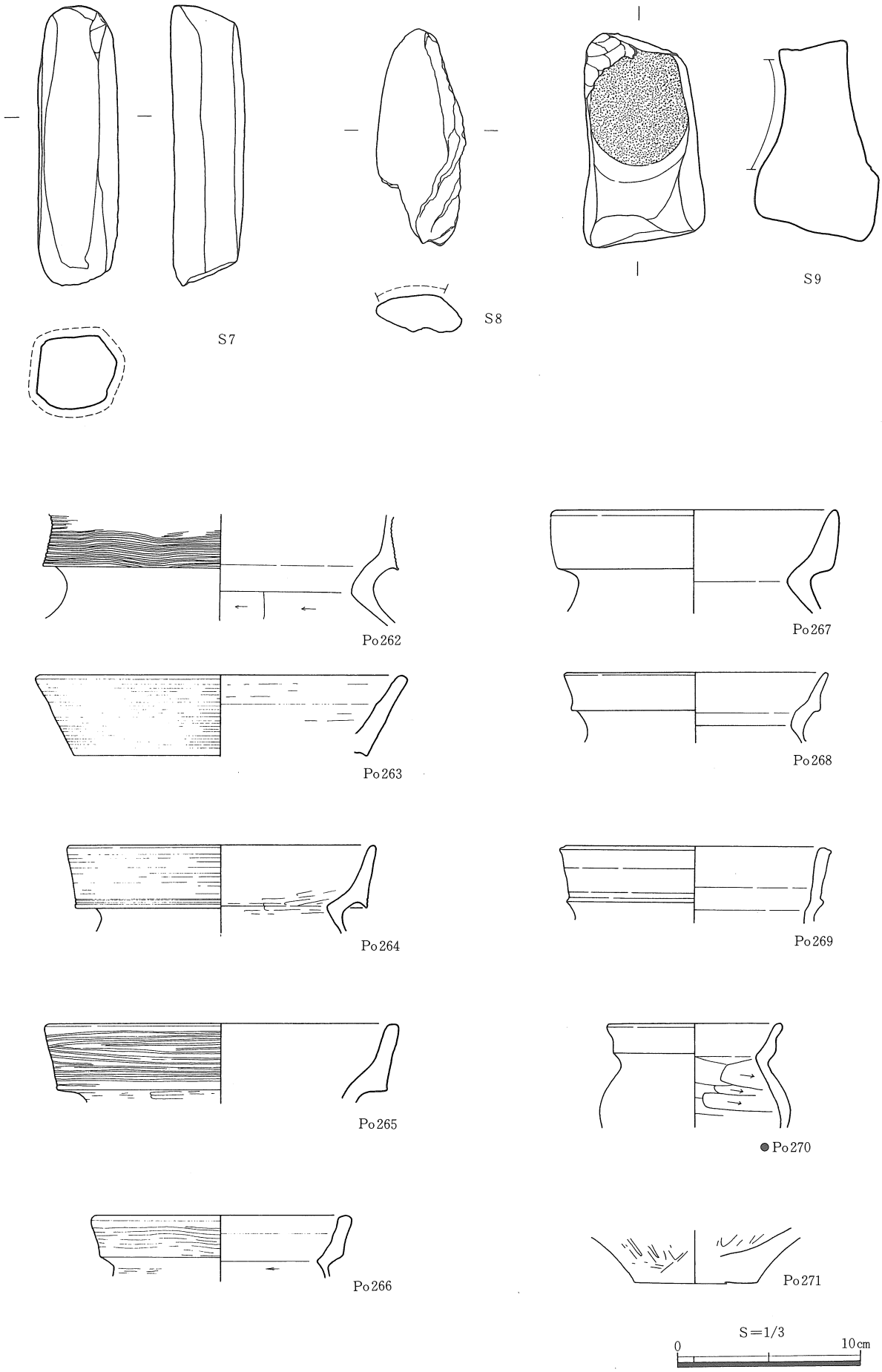
挿図63　宇谷第１遺跡SI03（Po223～Po239）



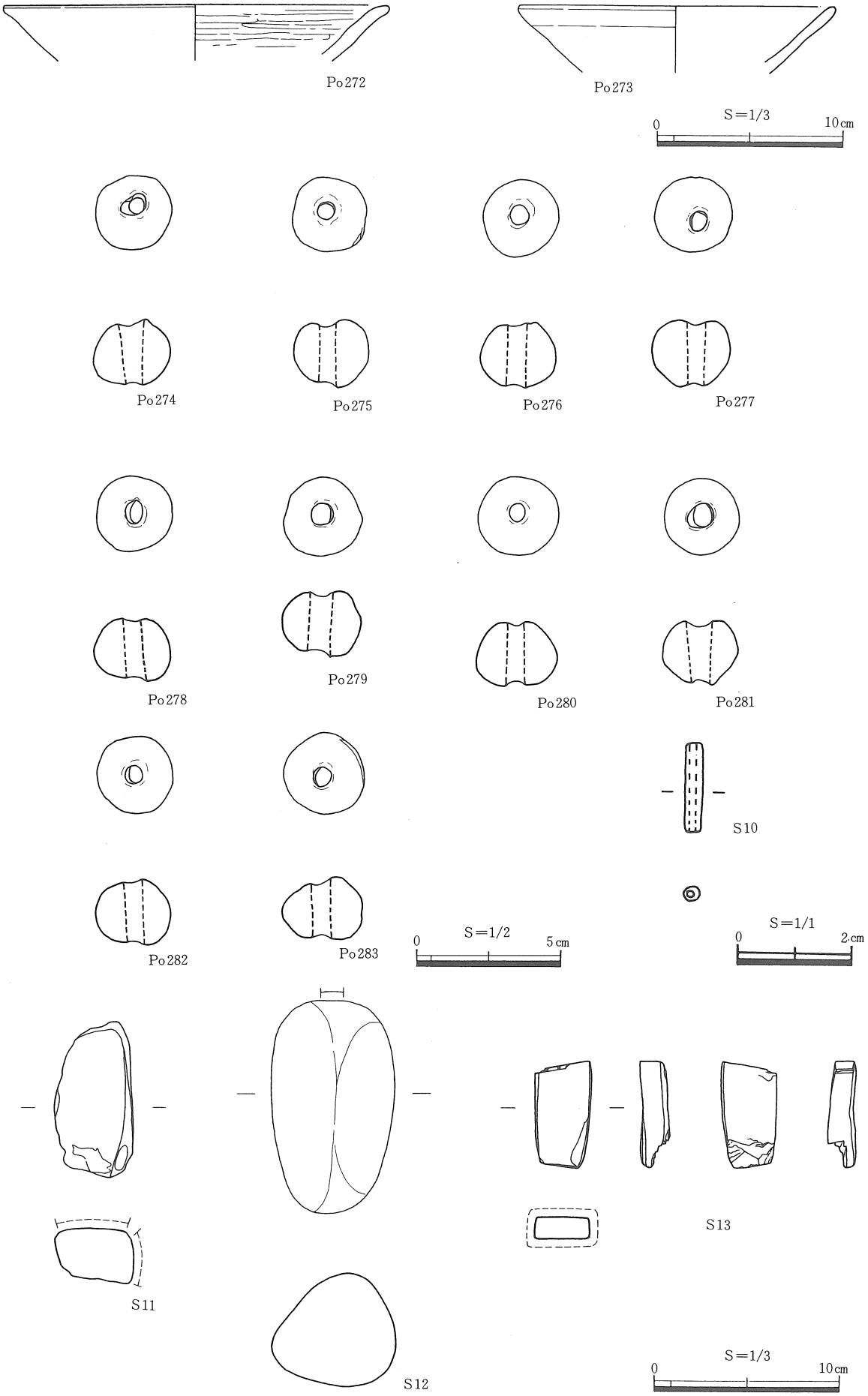
挿図64　宇谷第１遺跡SI03（Po240～Po258）



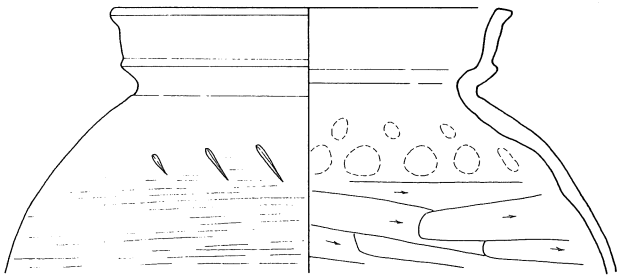
挿図65　宇谷第１遺跡SI03（Po259～Po261・F1, F2・S4～S6）



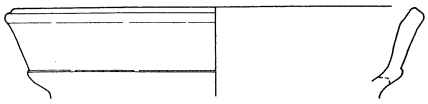
挿図66　宇谷第1遺跡SI03(S7～S9)
SI04・05(Po262～Po271)



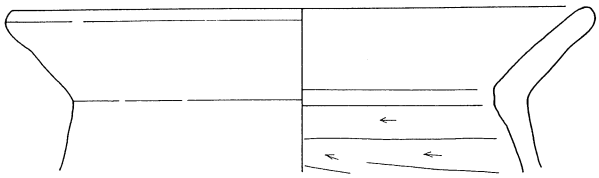
挿図67　宇谷第1遺跡SI04・05(Po272～Po283・S10～S13)



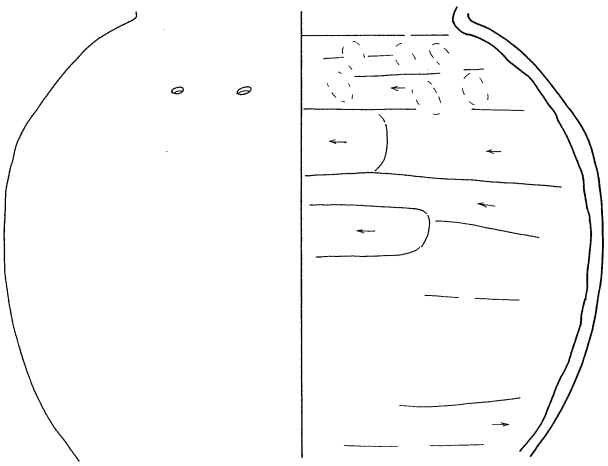
● Po284



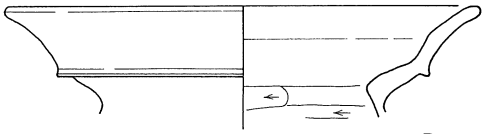
Po285



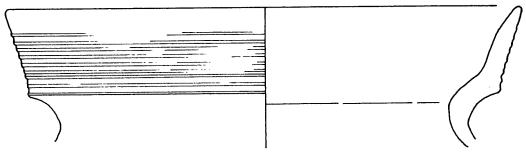
Po286



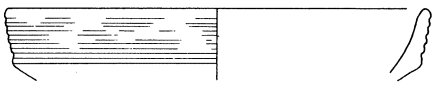
● Po288



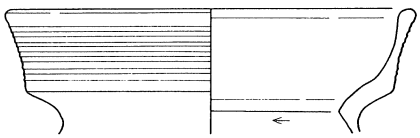
Po287



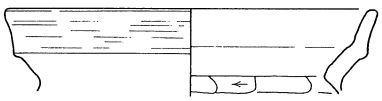
Po289



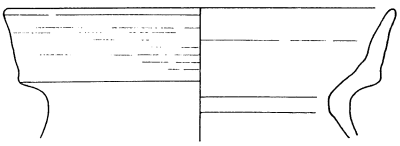
Po290



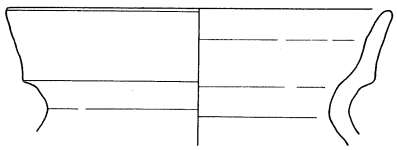
Po291



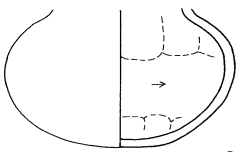
Po292



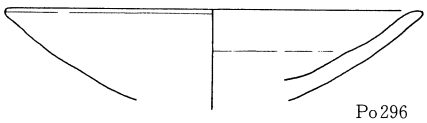
Po293



Po294



● Po295

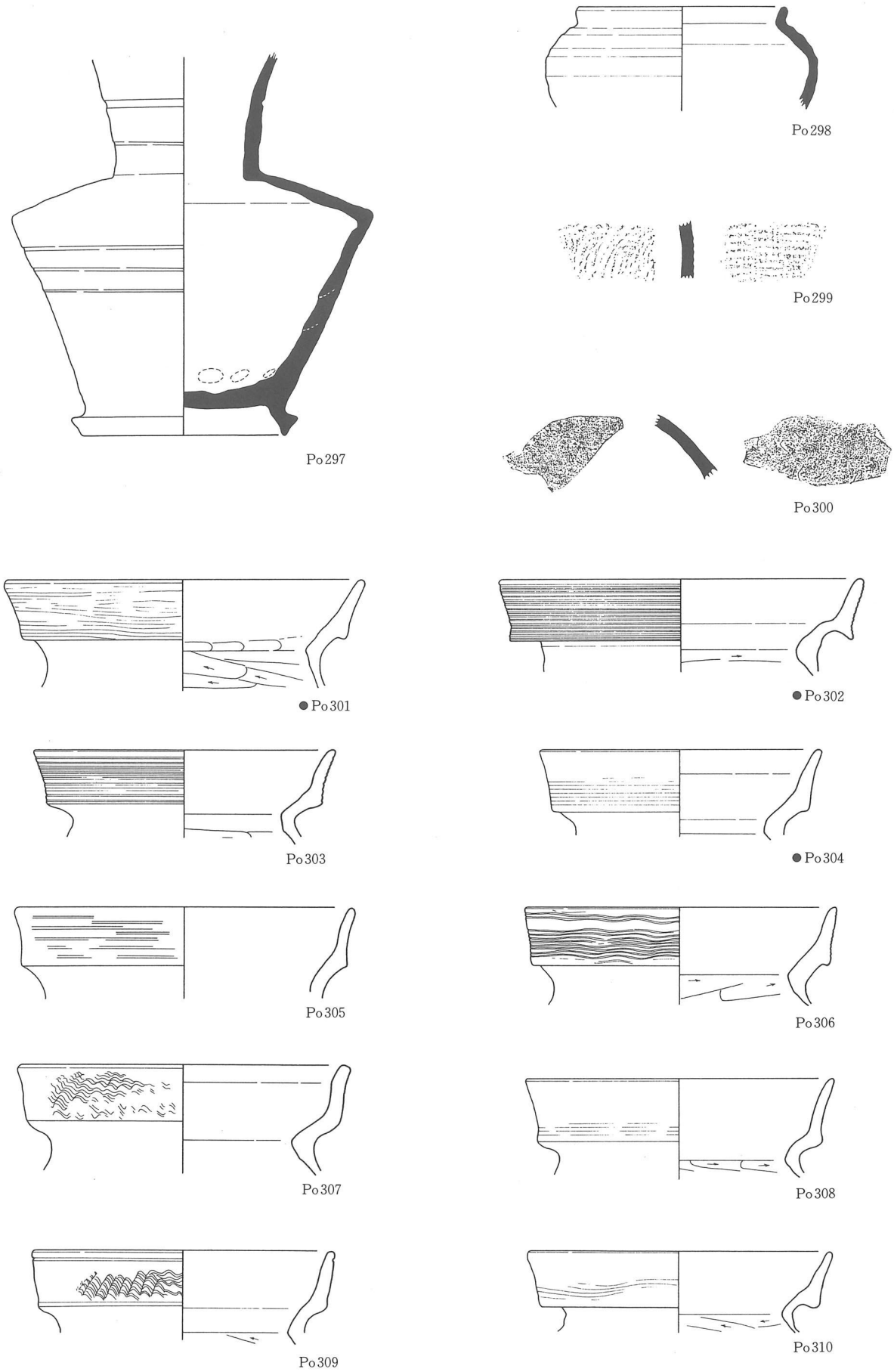


Po296

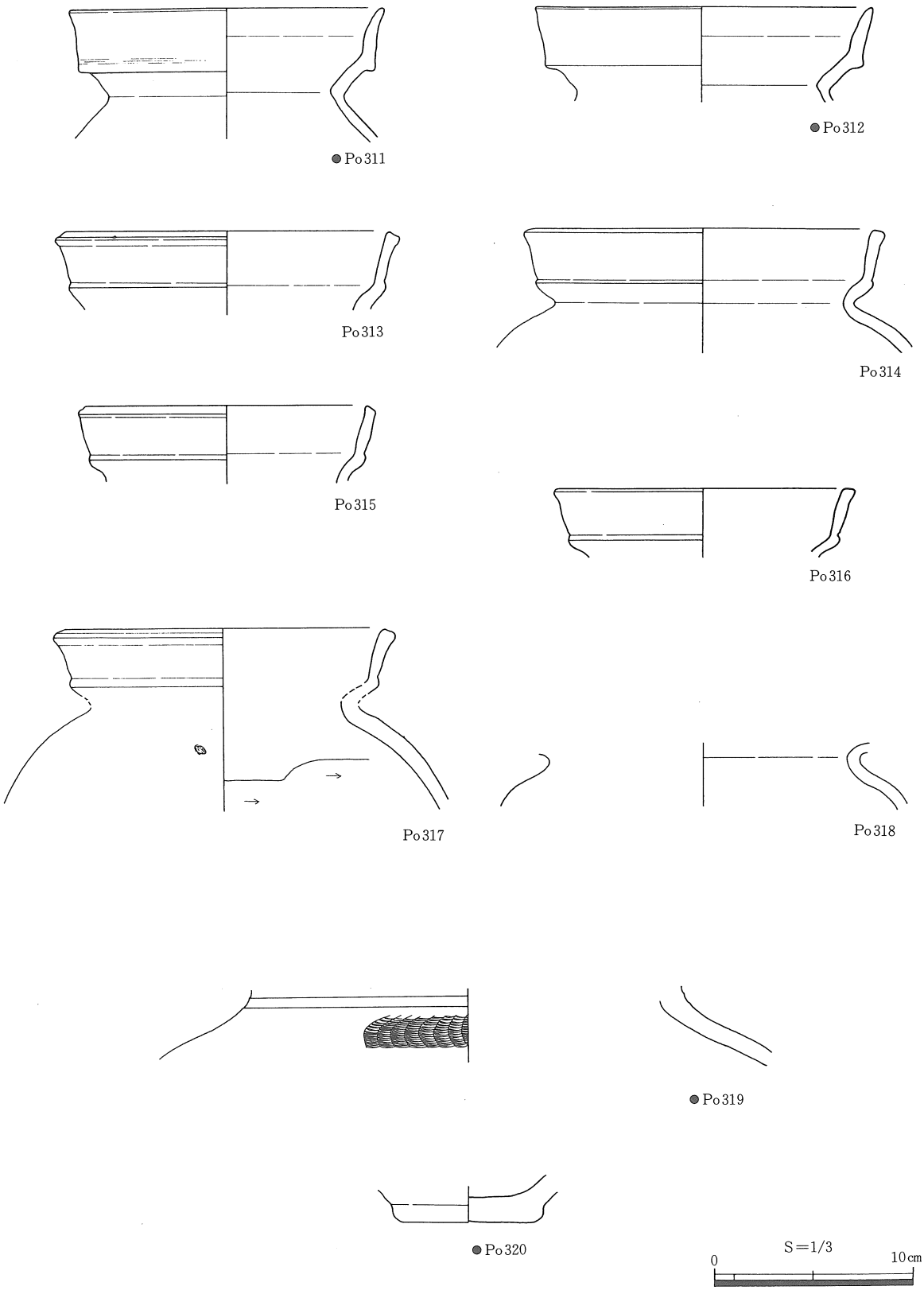
S=1/3

0 10cm

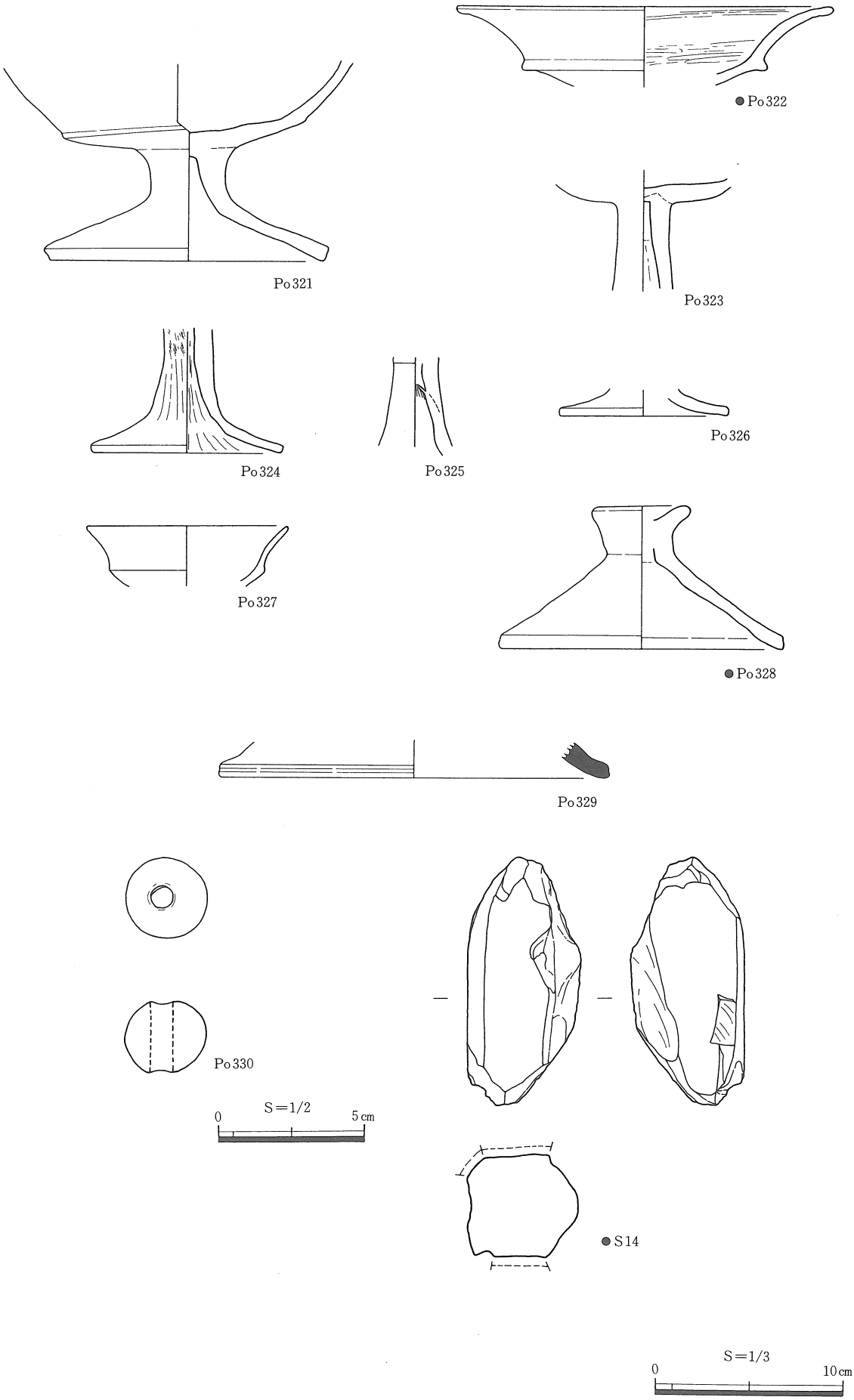
挿図68　宇谷第１遺跡SI06（Po284～Po296）



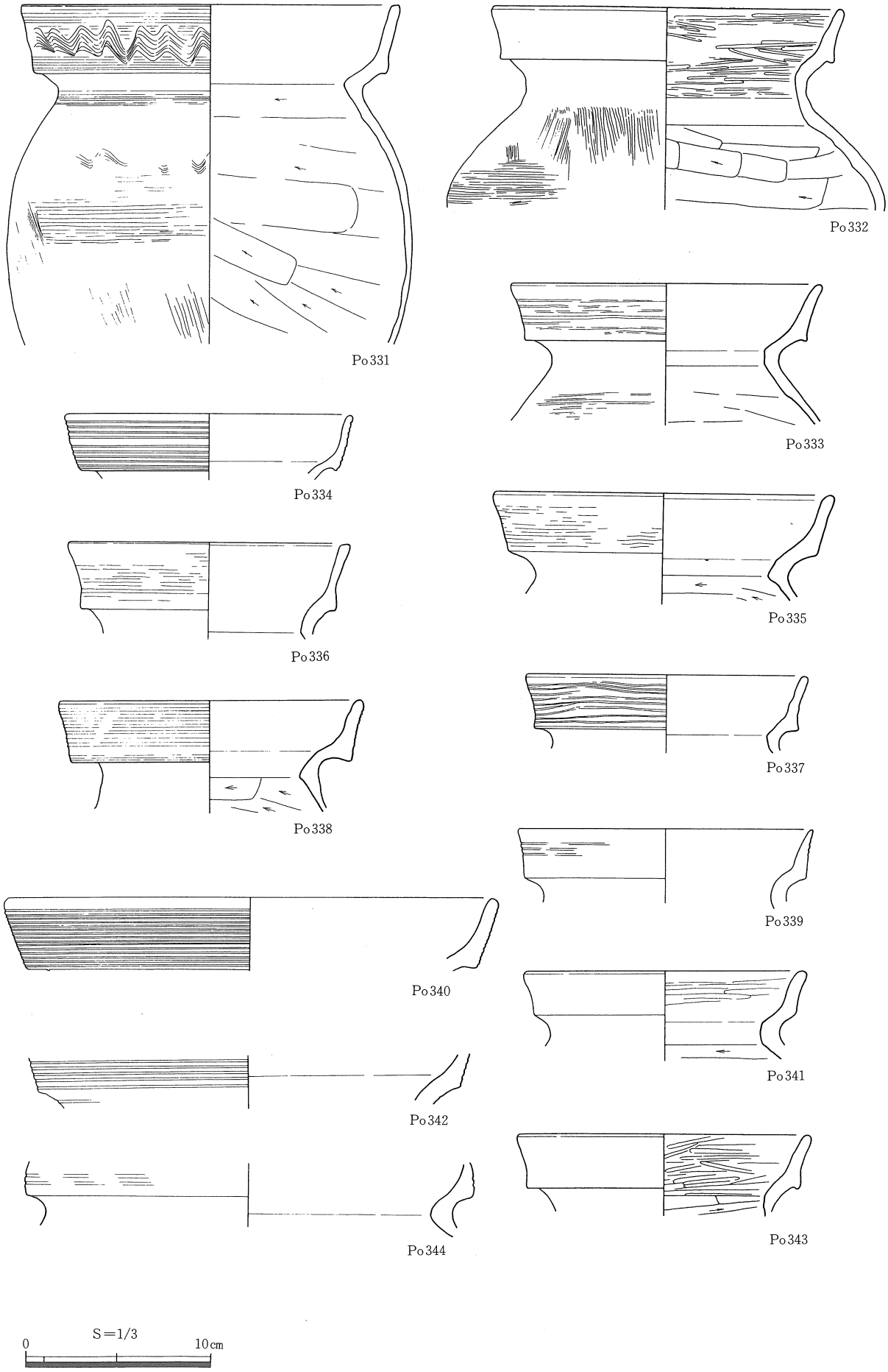
挿図69　宇谷第1遺跡SI06(Po297～Po300)
SI07(Po301～Po310)



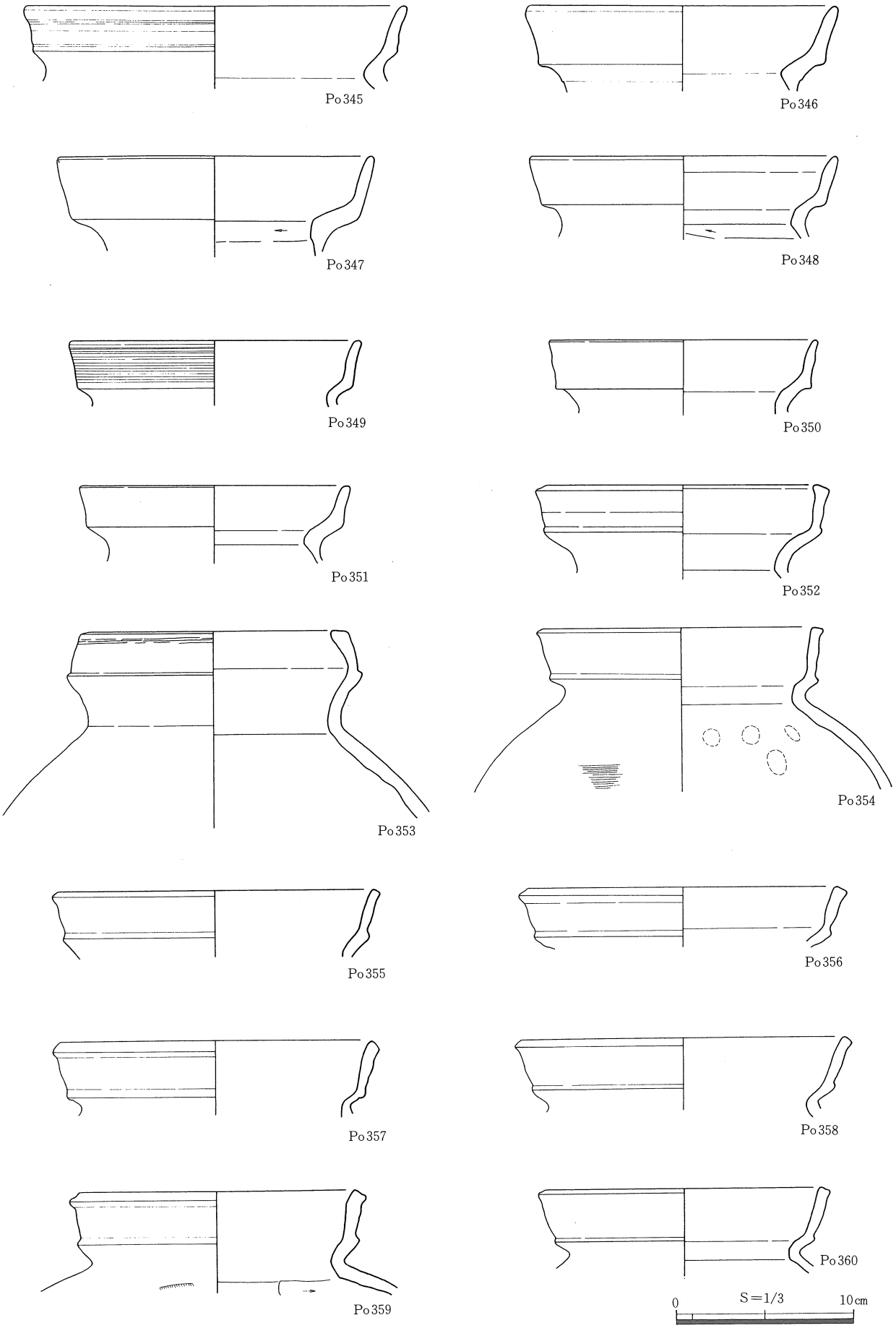
挿図70　宇谷第１遺跡SI07（Po311～Po320）



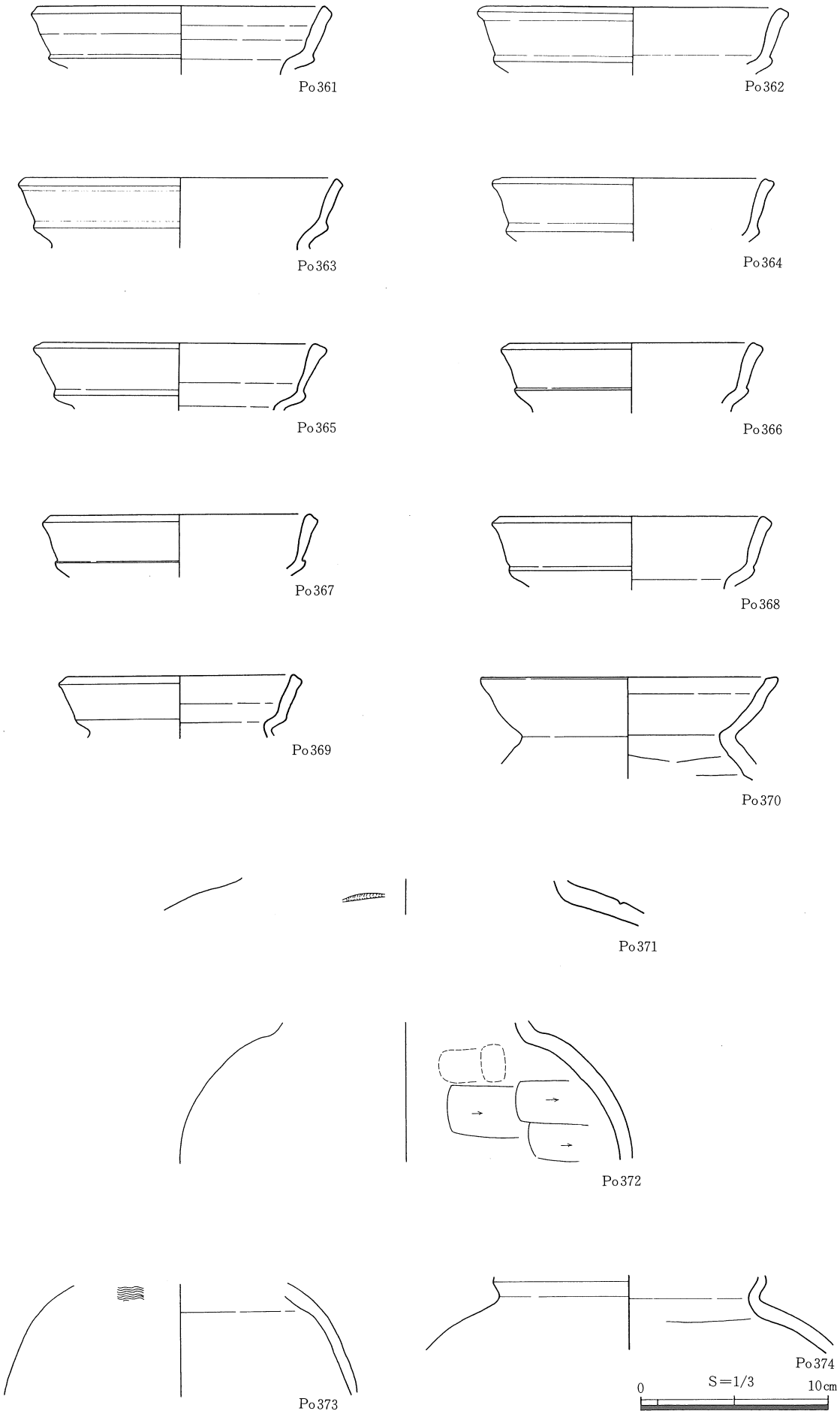
挿図71　宇谷第1遺跡SI07(Po321～Po330・S14)



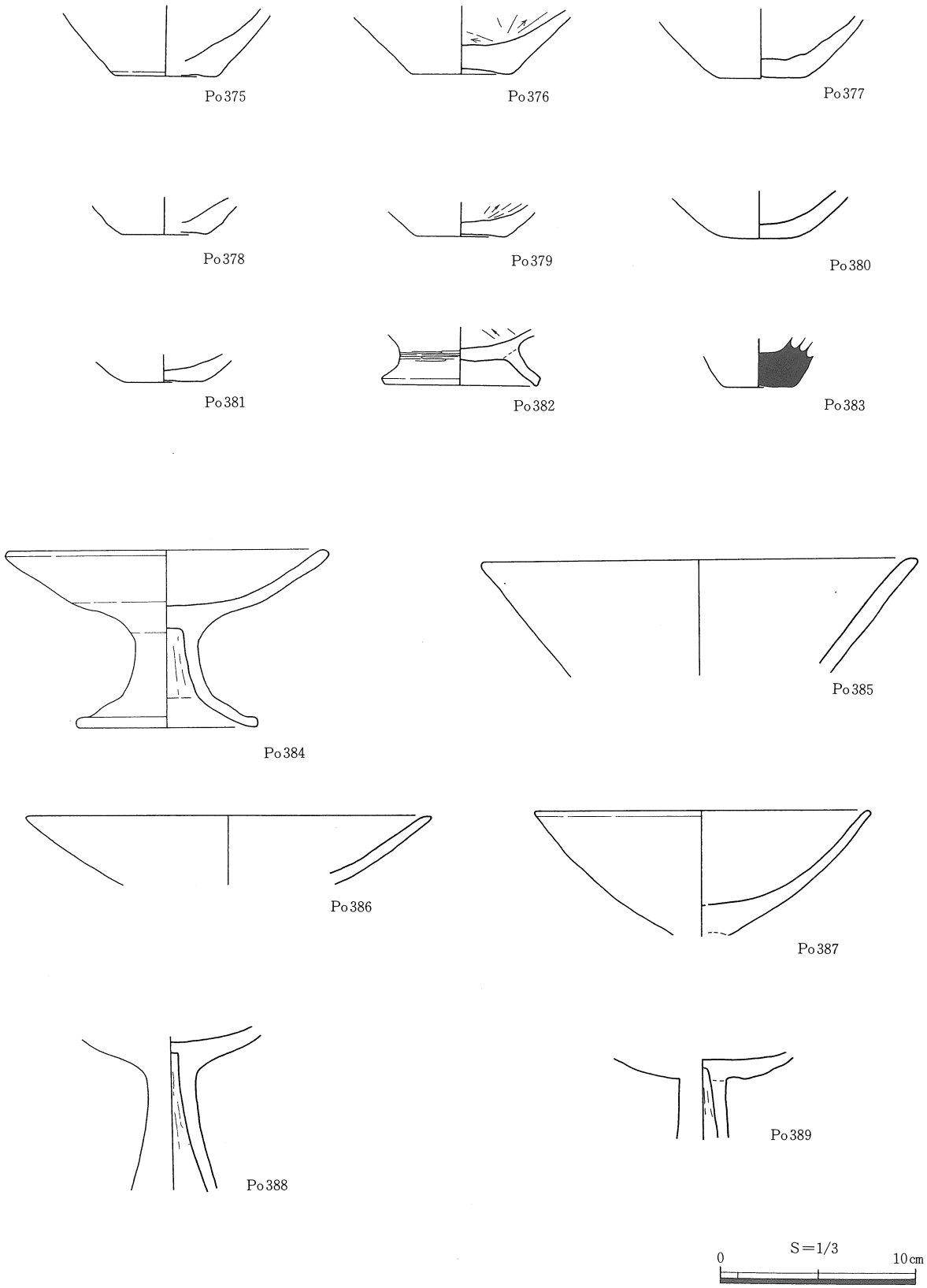
挿図72　宇谷第１遺跡SI08（Po331～Po344）



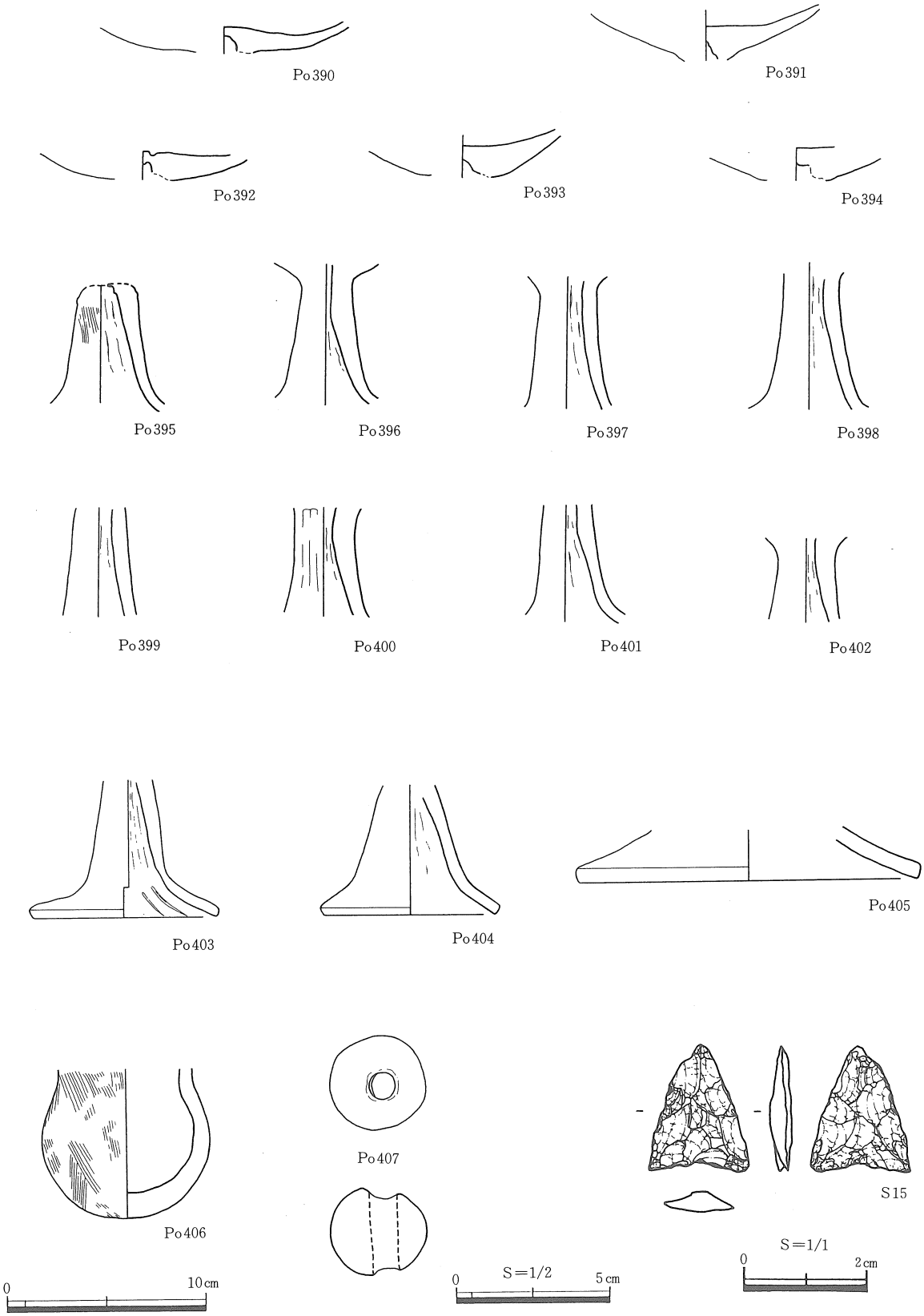
挿図73　宇谷第一遺跡SI08(Po345～Po360)



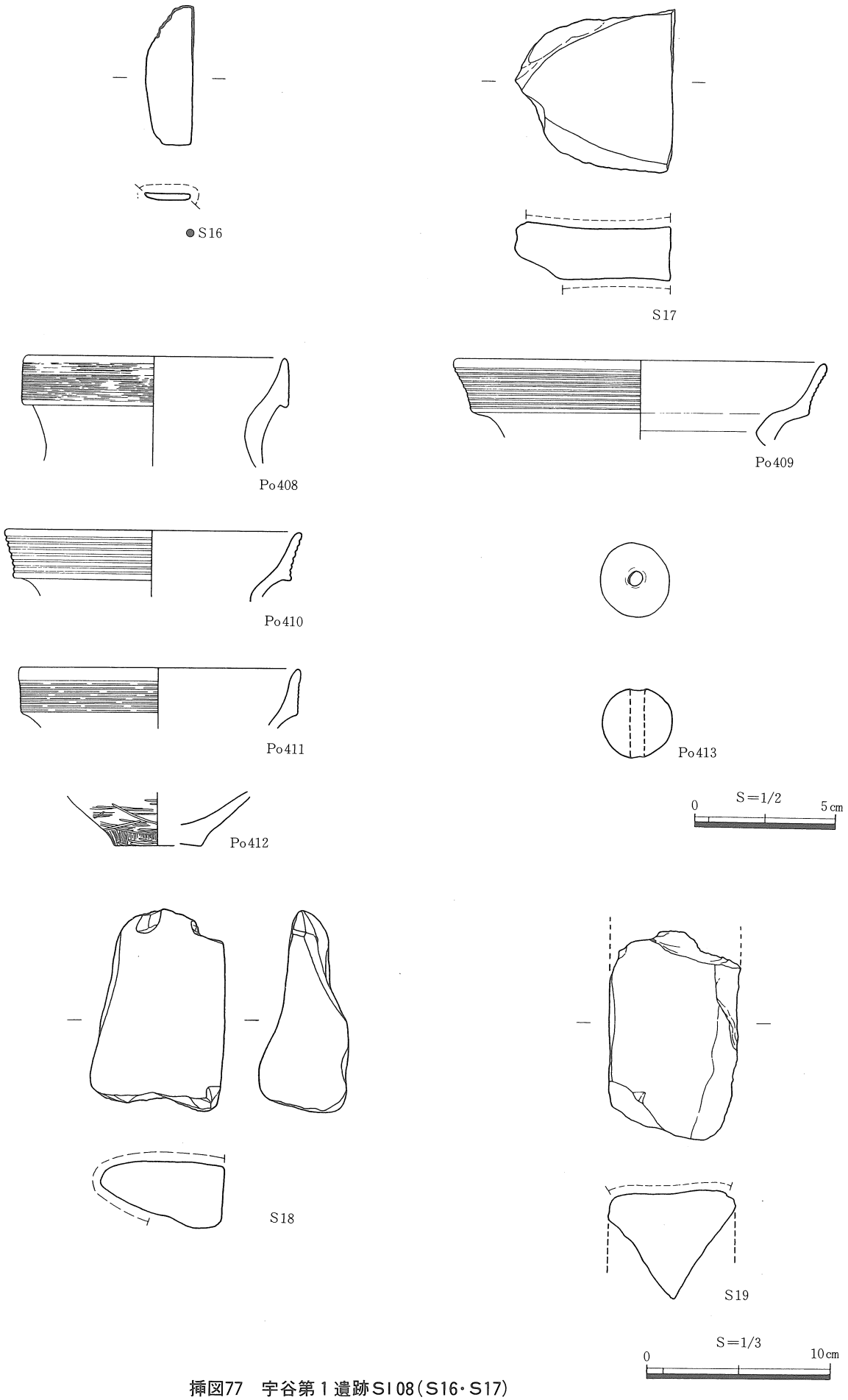
挿図74　宇谷第１遺跡SI08（Po361～Po374）



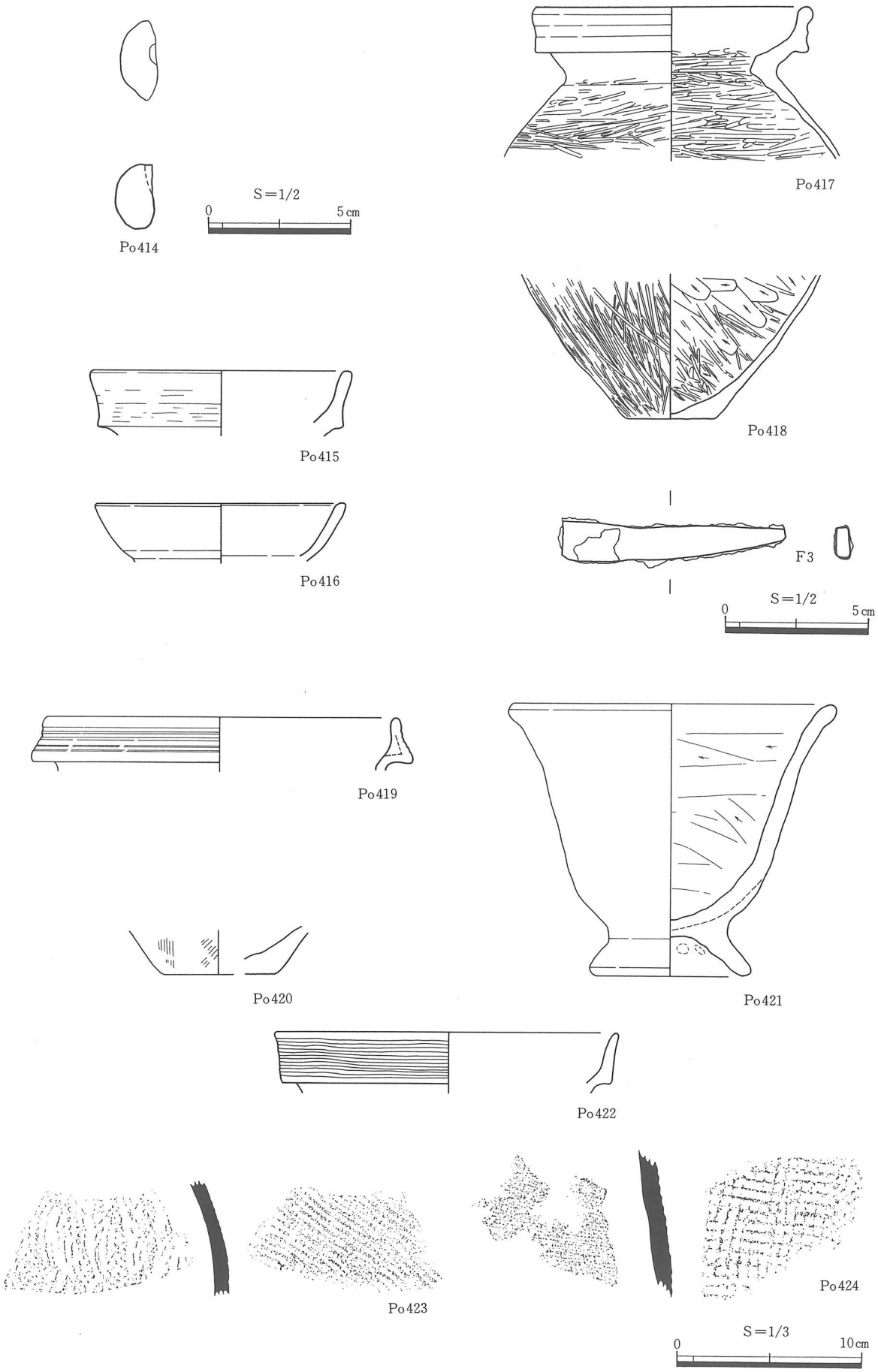
挿図75　宇谷第１遺跡SI08(Po375～Po389)



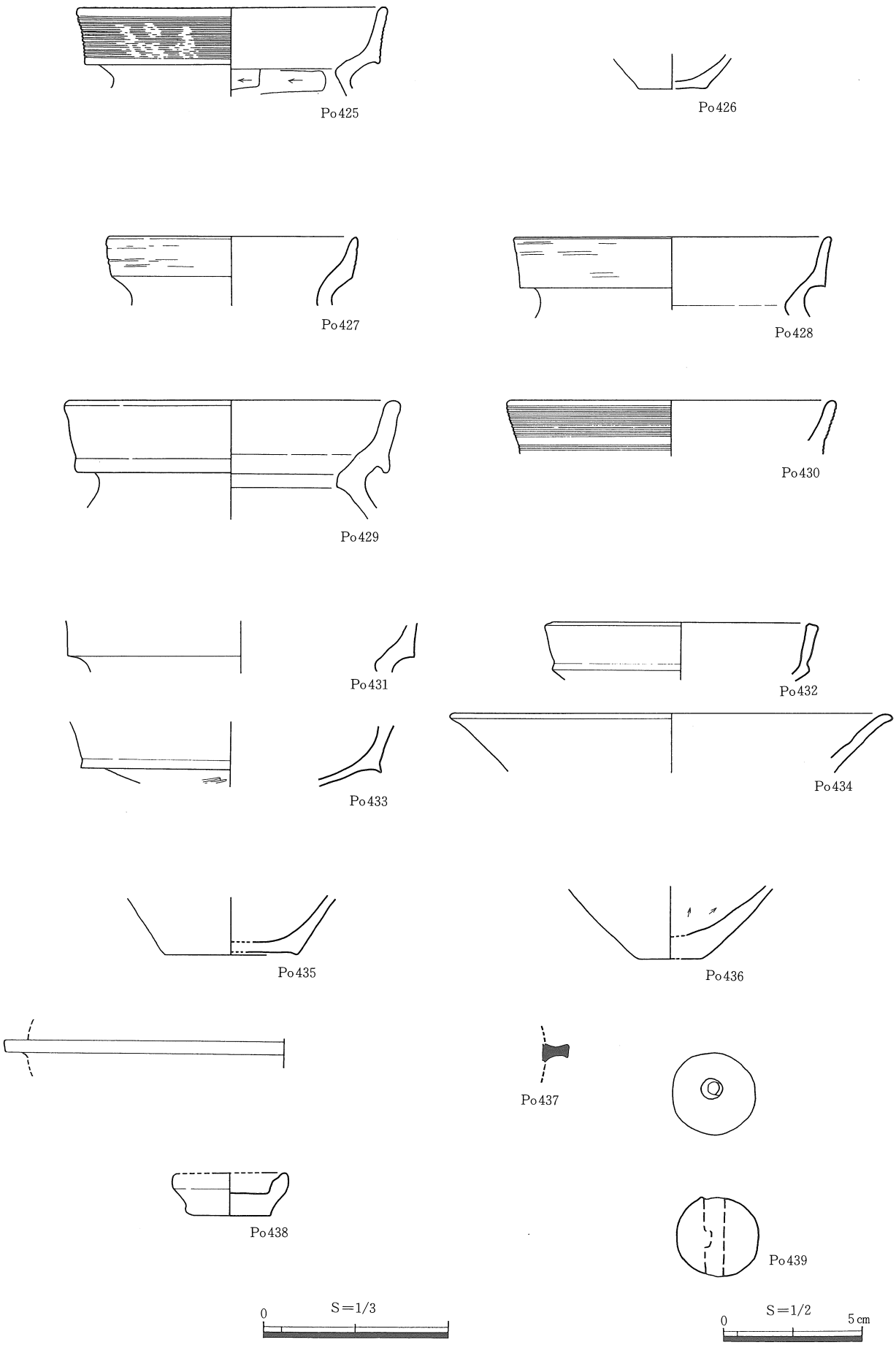
挿図76　宇谷第１遺跡SI08（Po390～Po407）



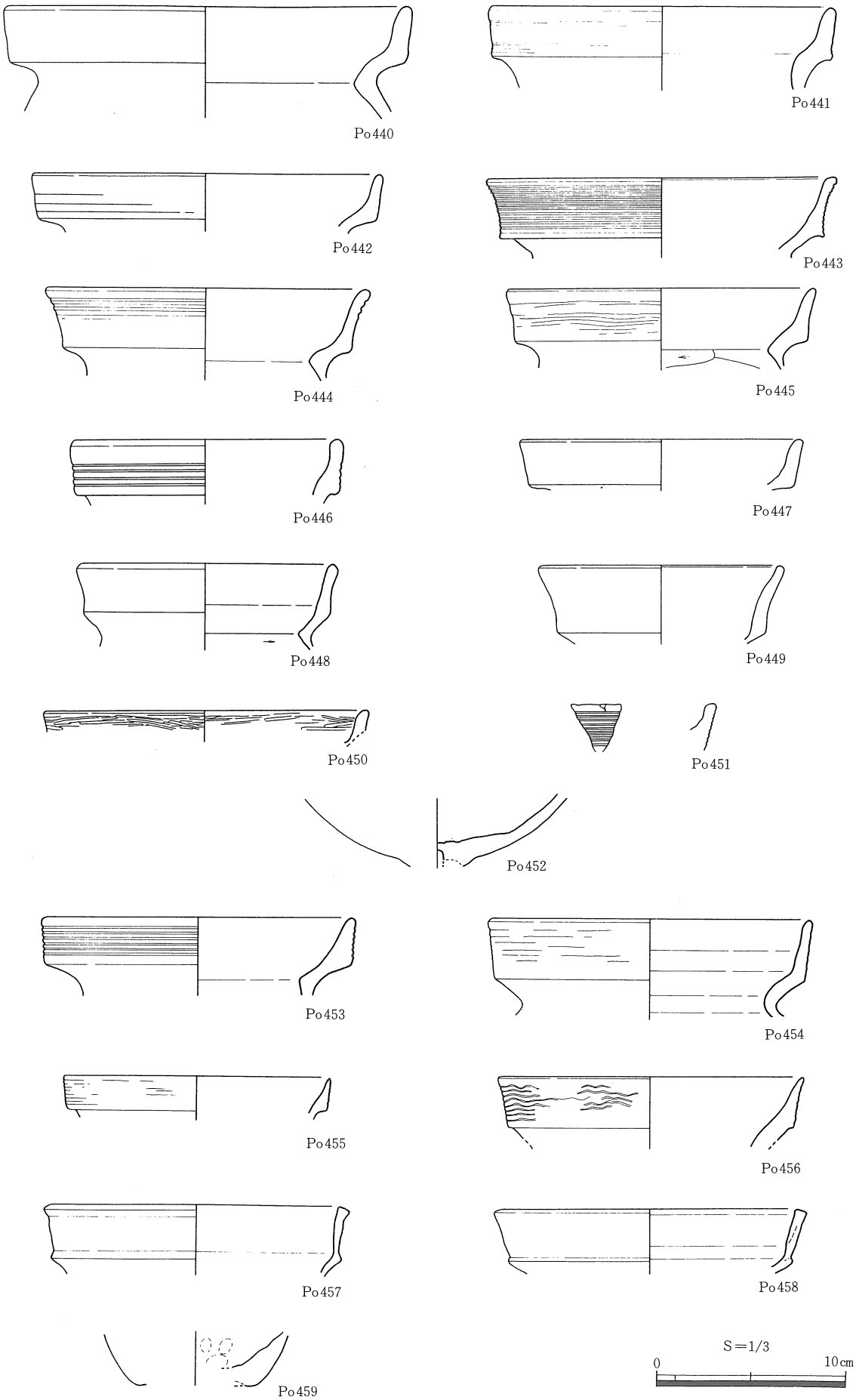
挿図77　宇谷第1遺跡SI08(S16・S17)
SI09(Po408～Po413　S18・S19)



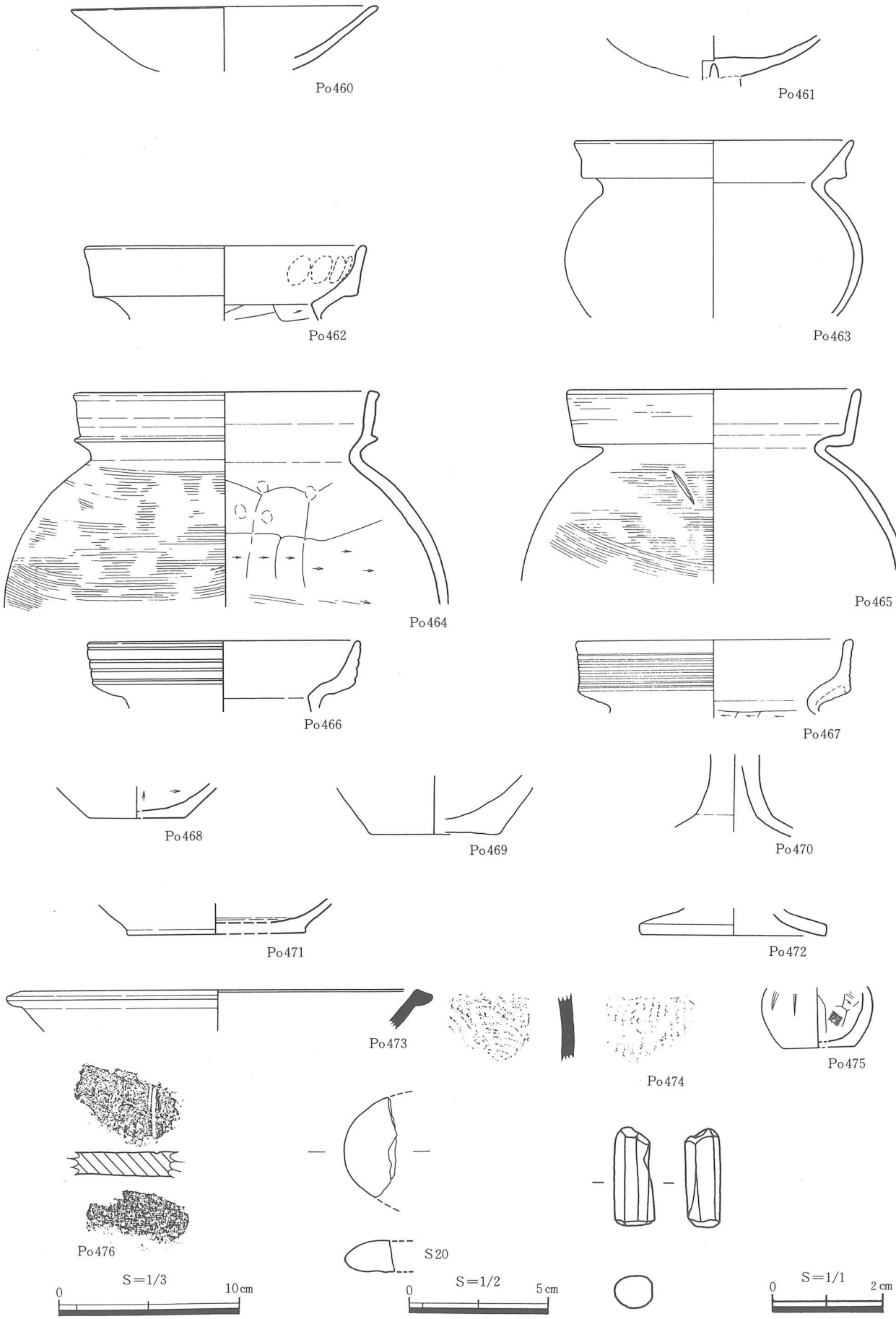
挿図78　宇谷第1遺跡SK02(Po414)　SK04(Po419～Po421)　SK07(Po423・Po424)
SK03(Po415～Po418, F3)　SK06(Po422)



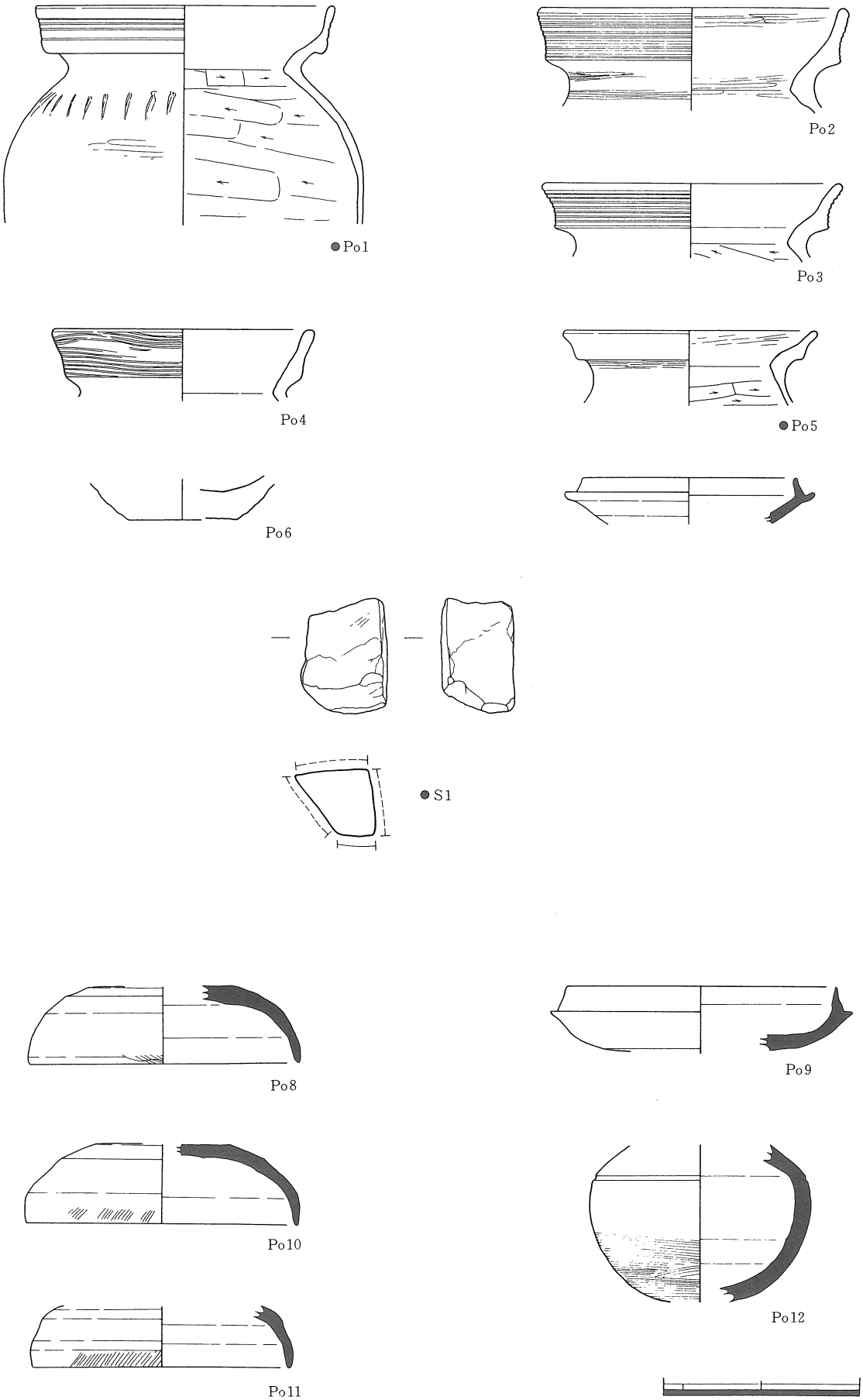
挿図79　宇谷第1遺跡SK09(Po425)　SD01(Po427～Po439)
SK11(Po426)



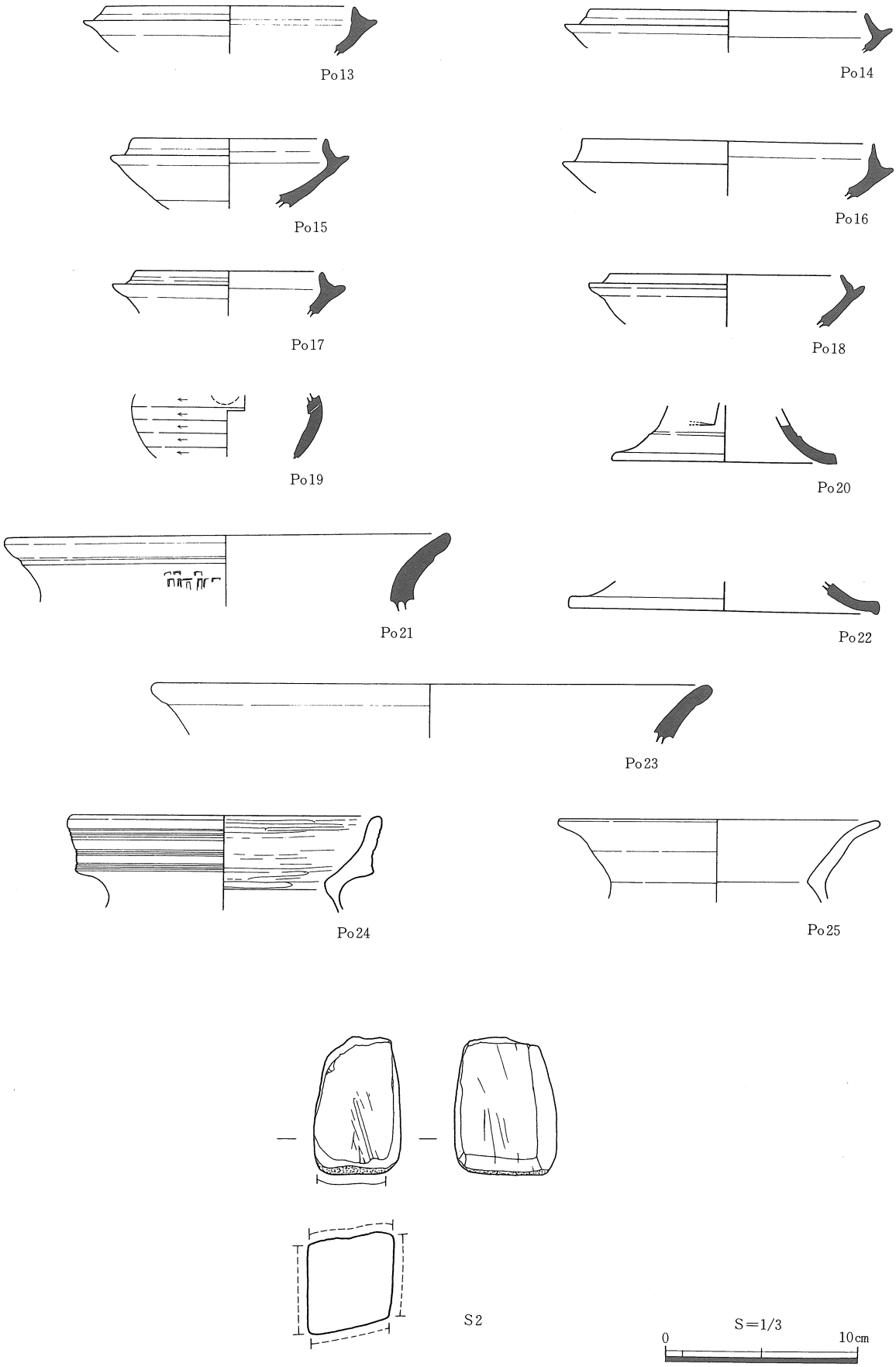
挿図80　宇谷第1遺跡SD02(Po440～Po452)　SD03(Po453～Po459)



挿図81　宇谷第１遺跡SD03（Po460・Po461）SD05（Po462）遺構外（Po464～Po476,・S20・S21）SB03（Po463）



挿図82　南谷大ナル遺跡S101(Po1～Po7・S1)
SD02(Po8～Po12)



挿図83　南谷大ナル遺跡遺構外（Po13～Po25・S2）

出土遺構	土器番号	挿図	図版	取上番号	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成保存	色調	備考
SI 01 甕	●Po 1	46	22	584	①16.6※ ② 5.0△ ⑤ 3.0	口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁である。端部は、直線的に延び丸味をもつ。口縁部下端は、ごくわずか下垂する。	外面…口縁部12条の平行沈線が施される。以下ナデ。 内面…口縁部～頸部ヨコナデ。以下左方向ケズリ。	密(1～3mmの石英、ウンモを含む。)	良好	内外面共に淡黄褐色	外面スス付着。 KR－34
SI 01 甕(底部)	●Po 2	46	22	583	② 1.7△ ④ 5.4※	平底の底部。	外面…ナデ。 内面…上方向ケズリ。	やや粗(ウンモ、0.5～4mmの石英を含む。)	良好	外面…淡黄褐色 内面…黄褐色	KR－111
SI 02 甕	Po 3	46	－	532	①15.8 ② 3.7△ ⑤ 2.6△	外傾しながら立ち上がる複合口縁。下端部はわずかに突出している。口縁下部付近が肥厚。	外面…口縁部櫛描平行沈線が施される。頸部ナデ。 内面…風化が激しく調整不明。	やや粗(石英、長石、ウンモを含む。)	良好	内外面共に淡黄橙色	NA－80
SI 02 SI 10 壺	●Po 4	46	22	717 693 760	①16.0※ ② 5.0△	口縁部は、やや内傾して立ち上がる複合口縁である。端部は、水平な平坦面をなす。口縁部下端は、外方に突出し、丸味をもって頸部に至る。	外面…ヨコナデ。 内面…風化している。	やや粗(1～4mmの石英を含む。)	やや不良	外面…淡黄橙色 内面…淡黄橙色～橙色	KR－44
SI 02 甕	Po 5	46	22	533	①14.2※ ② 4.4△ ⑤ 2.8	口縁部は、ほぼ直立して立ち上がる複合口縁。端部は、外方にやや肥厚し、外傾した平坦面をなす。口縁部下端は、外方に突出し、丸味をもって頸部に至る。	内外面共にヨコナデ	密(ウンモ、1～3mmの石英を含む。)	良好	内外面共に黄橙色	KR－35
SI 02 甕	Po 6	46	22	429	①13.1※ ② 3.0△ ⑤ 1.8	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、やや外反し水平な平坦面をなす。口縁部下端は、外方に突出し、丸味をもって頸部に至る。	外内面共にナデ。	密(ウンモ、砂粒を含む。)	良好	内外面共に淡黄褐色	KR－50
SI 02 甕	Po 7	46	22	816	①13.6※ ② 2.9△	口縁部は、短かく外方に開く「く」の字状口縁。端部は、丸味をもつ。	外面…ナデ。 内面…口縁部～頸部ナデ。以下ケズリ。	密(1～4mmの石英をを含む。)	良好	内外面共に淡黄褐色	KR－36
SI 02 大型高坏	Po 8	46	－	429	①27.6※ ② 4.5△	大型高坏の口縁部の破片である。端部は、外反し直立気味の平坦面をなす。	外面…口縁部横方向ミガキ。端部凹線あり。 内面…口縁部横方向ミガキ。	密(1～2mmの長石を含む。)	良好	内面…暗黄橙色～灰黄褐色 外面…暗黄橙色	外面スス付着。 NA－70
SI 02 高坏	Po 9	46	－	699	①19.1※ ② 5.0△	大型高坏の口縁部片。口縁部は直線的に大きく広がり、端部でやや先細りし、丸味をもつ。	内外面共にヨコナデ	密(ウンモ、1mm程の石英を含む。)	良好	内面…橙色 外面…暗黄褐色	KR－55
SI 02 高坏	Po10	46	－	700 702	①18.4※ ② 3.5△	高坏の坏部片である。端部は、ごくわずか外反し、丸味をもつ。	内外面共に風化している。	密(1～2mmの石英、長石を含む。)	良好	内外面共に橙色	NA－76
SI 02 高坏	Po11	46	－	680 689 696	①18.4※ ② 4.8△	高坏の口縁部片。端部は、丸味をもつ。	内外面共に風化している。	やや粗(ウンモ、1～4mmの石英を含む。)	やや不良	内外面共に橙褐色	KR－76
SI 02 高坏	Po12	46	22	695	② 6.3△	高坏の坏底部と筒部である。	外面…接合部タテハケ。 内面…坏底部内面ナデ。筒部シボリ目残る。	密(1mmの石英を含む。)	良好	内外面共に淡黄橙色	NA－78
SI 02 高坏	Po13	46	22	698	② 1.9△	高坏の坏底部である。	内外面共に風化している。底部外面に刺突痕が残る。	密(1～2mmの石英、長石を含む。)	やや不良	内外面共に橙色	NA－75
SI 02 高坏	●Po14	46	22	691	② 1.8△	高坏の坏底部片である。	外面…底部ナデ後タテハケ。底部外面に刺突痕残る。 内面…ナデ。	密(1～2mmの石英、長石を含む。)	良好	内面…暗橙色 外面…橙色	Po16と同一個体か。 NA－74
SI 02 高坏	Po15	46	－	31	② 1.5△ ④ 9.2※	高坏の裾部片。	内外面共にナデ。	密(1～2mmの石英を含む。)	良好	内外面共に淡橙色	NA－71
SI 02 大型高坏	●Po16	47	22	532 967	①24.0※ ② 4.3△	口縁部と底部との境に段をもつ。端部は、わずかに外反し、直立気味の平坦面をなす。	外面…ヨコハケの後横方向ミガキ。段の所に凹線があり。 内面…横方向ミガキ。	密(1mmの長石、ウンモを含む。)	良好	内面…暗橙色 外面…橙色	Po14と同一個体か。 NA－73
SI 02 高坏	Po17	47	－	693		高坏の坏部片である。端部は、外反し、丸味をもつ。	内外面共にナデ。	密(1～2mmの石英、ウンモを含む。)	良好	内外面共に橙色	NA－77
SI 10 甕	Po19	47	－	721	①14.0※ ② 2.9△ ⑤ 2.0	口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、やや外反し、外傾した平坦面をなす。口縁部下端は、外方に突出し丸味をもつ。	内外面共にヨコナデ。	密(ウンモ、1mm程の石英を含む。)	良好	内外面共に淡黄褐色	KR－51
SI 10 甕	●Po20	47	－	718	①14.7※ ② 2.8△ ⑤ 2.0	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、やや外反し、外傾した平坦面をもつ。口縁部下端は、外方に突出し丸味をもつ。	内外面共にヨコナデ。	密(ウンモ、1mm程の石英を含む。)	良好	内外面共に淡黄褐色	KR－52
SI 10 高坏	●Po21	47	－	719	①16.1※ ② 3.2△	高坏の口縁部片。端部は、やや外反し、丸味をもつ。	内外面共にナデ。	密(ウンモ、1mm程の石英を含む。)	良好	内面…黄灰～褐色 外面…黄褐～橙色	KR－46
SI 10 底部	Po22	47	－	737	② 1.7△ ③10.9△ ④ 7.4	平底の底部。	外面…風化著しい。調整不明。 内面…風化著しい。調整不明。	密(長石、ウンモを含む。)	良好	内面…淡黄褐色 外面…明黄橙色	NA－81
SI 03 壺	Po23	48	23	389 390 396 1054 1058 1139 1241	①15.0※ ②29.6△ ③30.0 ⑤ 2.7	口縁部は、わずかに内傾しながら立ち上がる複合口縁をもつ。端部は、ほぼ水平な平坦面をもち、肥厚している。口縁部下端は、鈍く外に突出している。口縁部内面の段は明瞭。「く」字状に曲がる頸部はゆるやかな肩をもつ胴部に至る。下半部に最大径をもつ。厚さは、胴部の肩付近が最も肥厚している。	外面…口縁～頸部ナデ。胴部上半タテハケと縦方向の刻み。胴部下半斜方向ハケ目。 内面…口縁部ナデ。胴部上半右方向のケズリ。胴部下半縦方向のケズリ。	密(石英を含む。)	良好	内面…淡黄灰褐色 外面…淡黄橙色	内面、外面ともに黒斑有。胴部外面にスス付着。 NA－82
SI 03 壺	●Po24	48	23	1170	①16.2※ ② 5.4△ ⑤ 2.4	口縁部は、わずかに内彎しながらほぼ直立する複合口縁。端部は、内・外に肥厚し、水平面をなす。口縁部下端は、外方へ鋭く突出し、頸部に至る。口縁部内面の段は明瞭。	外面…口縁部強いヨコナデ。頸部ヨコナデ。 内面…口縁部～頸部ヨコナデ。	緻密(1mm大の石英、長石をわずかに含む。)	良好	内外面共に橙色	口縁部に黒斑有。 F－19
SI 03 甕	Po25	48	24	976	①16.2※ ② 4.3△ ⑤ 2.6	口縁部は、やや内傾して立ち上がる複合口縁。口縁部下端は、肉薄で徐々に肉厚となり口唇端部に至る。端部は、肥厚して内外面に突出し、平坦面に凹線が巡る。口縁部下端は、外方に突出するが丸味をもつ。口縁部内面の段は明瞭。	外面…口縁部ヨコナデ。 内面…口縁部ヨコナデ。断面に粘土の接合痕有。	密(1～2mmの石英を含む。)	良好	内外面共に暗黄橙色	KN－3
SI 03 甕	●Po26	48	23	977 996 1021 1068 1172 1318	①16.0※ ②25.1 ③22.1 ⑤ 2.4	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外方へ肥厚し、外傾する平坦面をなす。口縁部下端は、わずかにふくらむ程度で、ゆるやかに頸部へ至る。口縁部内面の段はゆるやか。胴部は肩が大きく張る倒卵形を呈す。最大径は上半にもつ。底部は丸底。	外面…口縁部は強いヨコナデ。頸部～肩部タテハケ後粗いヨコハケ。肩部以下斜方向のハケ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部～肩部ヨコナデ。指頭圧痕が残る。肩部横方向のヘラケズリの後指によるナデ。肩部以下横方向のヘラケズリ、底部には指頭圧痕残る。	密(1～6mm大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共ににぶい黄橙色	胴部外面にスス付着、赤変箇所有。 F－38

挿表6　宇谷第1遺跡出土土器観察表　①

出土遺構	土器番号	挿図	図版	取上番号	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成保存	色調	備考
SI 03 甕	●Po27	48	23	1186	①14.0※ ②23.0△ ③22.0※ ⑤ 2.3	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は外方へ大きく、内方へわずかに肥厚し、やや内傾する平坦面をなす。口縁部下端は、鋭く突出し、丸味をもって頸部に至る。口縁部内面の段はゆるやか。胴部は肩が大きく張り、ほぼ球形を呈す。最大径は中位よりやや上にもつ。	外面…口縁部にヨコナデ。肩部タテハケ後ヨコナデ。肩部以下ヨコハケ。胴部下半部縦～斜方向のハケ後ナデか。肩部に棒状工具による刺突が三角形状に3ヶ所有。 内面…口縁部ヨコナデ。肩部指頭圧痕残る。肩部以下右方向ケズリ。胴部下半斜方向ケズリ。底部付近指圧痕残る。	密(1～3㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に黄褐色	口縁部に黒斑有。胴部中位にスス付着。 F－41
SI 03 甕	●Po28	48	24	875 976 977 999 1181	①15.4 ②13.1△ ⑤ 2.25	口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、平坦面を持ち、内外面共にするどい稜がある。口縁部下端は、深く押え込まれ上方にむかって、突出するが、丸味を持つ。口縁部内面の段は不明瞭。胴部は球形に大きく張る。	外面…口縁部～頸部ヨコナデ。頸部～肩部ハケ目後ヨコナデ。以下縦方向ハケ目後横方向ハケ目。 内面…口縁部～頸部ヨコナデ。頸部指押えの後ヨコナデ。以下右方向ケズリ。	密(1～5㎜の石英を含む。赤色の鉱物を含む。)	良好	内面…明黄褐色 外面…暗黄橙色	KN－12
SI 03 甕	Po29	48	24	1289	①16.2※ ②12.2△ ⑤ 2.95	口縁部は、直立気味に立ち上がる複合口縁。端部は、外方へ大きく肥厚して突出し、外傾した平坦面をなす。口縁部下端は、外方に突出するが、丸味をもち、頸部に至る。口縁部内面の段はゆるやか。胴部は大きく張る。	外面…口縁部ヨコナデ。頸部～胴部ハケ目。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部指押えの後ナデ。肩部指頭圧痕残る。口縁部上半に粘土の接合痕残る。	密(1～3㎜の石英を多く含む。)	良好	内面…黄色 外面…淡黄橙色	外面スス付着。 KN－11
SI 03 甕	Po30	49	24	1229	①17.0※ ②19.5△ ③24.0 ⑤ 2.5	口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外方に肥厚して突出し、外傾する平坦面をなす。口縁部下端の突出は鈍く、丸味をもって頸部に至る。胴部は球形に大きく張り最大径をほぼ中位にもつ。	外面…口縁部～頸部ヨコナデ。肩部タテハケ後ナデ消す。肩部以下縦～斜方向のハケ。所々ナデ消す。 内面…口縁部～頸部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。肩部以下斜め上方向ケズリ。	密(1～4㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に黄褐色	口縁部～胴部にかけてスス付着。胴部下半は赤変。 F－17
SI 03 甕	Po31	49	24	400 976 995 996	①17.2※ ②17.2△ ③26.4 ⑤ 2.6	口縁部は、外傾しながら立ち上がる複合口縁。端部は外傾し、凹線が巡る。外側にやや肥厚している。下端は、外側に鈍く突出している。口縁部内面の段はゆるやか。頸部は「く」字状に曲がり、なだらかな肩をもち胴部に至る。厚さでは、胴部上部が最も肥厚している。	外面…口縁部～頸部ヨコナデ。胴部上半ヨコハケ 内面…口縁部ヨコナデ。胴部上部指頭圧痕が残る。上半部横方向のケズリ。	密(石英、長石、ウンモを含む。)	良好	内外面共に黄灰褐色	口縁部内面につなぎ目が見られる。 NA－28
SI 03 甕	Po32	49	24	389 390 976 977 1054 1245	①17.0※ ② 6.8△ ⑤ 2.6	口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外方へ肥厚し、凹線が巡る。口縁部下端は、鋭く突出し、やや丸味をもって頸部に至る。肩部は大きく張る。	外面…口縁部強いヨコナデ。頸部ヨコナデ。胴部肩部は横方向～斜方向ハケ後ヨコナデ。 内面…口縁部～頸部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密(1～4㎜大の石英、長石を含む。)	良好	橙色	F－20
SI 03 甕	Po33	49	24	976 1057 1097 1138 1147	①15.0 ②10.2△ ③23.2△ ⑤ 2.1	口縁部は、外反気味に外傾しながら立ち上がる複合口縁。端部は、外傾し凹線が巡り、外側へ肥厚している。下端は外方へ鋭く突出している。口縁部内面の段はゆるやか。「く」字状に曲がる頸部はゆるやかな肩をもつ胴部へつづく。	外面…口縁部～頸部ナデ。胴部上半ハケ目後、ナデ消し。刺突痕(3つ)。 内面…口縁部～胴部上部ナデ。胴部上半左方向ヘラケズリ。	やや粗(石英、長石、ウンモを含む。)	良好	内外面共に淡黄橙色	NA－27
SI 03 甕	Po34	49	24	916	①19.0※ ② 5.6△ ⑤ 2.5	口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、肥厚して外方へ突出し、平坦面に凹線が巡る。口縁部下端は、やや外方に突出するが鈍く、丸味をもって頸部に至る。口縁内面の段はゆるやか。	外面…口縁部は強いヨコナデ。特に口縁部下端は凹線によって際だたせる。頸部～肩部ヨコナデ。 内面…口縁部～肩上部ヨコナデ。肩部以下右方向ケズリ。	密(1～3㎜大の石英、長石を含む。クロウンモを含む。)	良好	内外面共に橙褐色	肩部に黒斑有。 F－1
SI 03 甕	Po35	49	24	393 977 1023 1067	①20.2※ ② 3.6△ ⑤ 2.7	口縁部は、外反気味にやや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外方に肥厚し外傾した平坦面をなす。口縁部がわずかに突出している。口縁部下端は、外方へ突出し鈍く丸味をもつ。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…ナデ、口縁下端部に凹線。 内面…ヨコナデ。	密(長石を含む。)	良好	内面…明黄橙色 外面…明黄橙色(ややうすく、にぶい)	NA－6
SI 03 甕	Po36	49	24	402	①17.9※ ② 3.7△ ⑤ 2.3	口縁部は、外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外傾した平坦面をなし、外側に肥厚する。面の中央は溝状になっている。口縁部下端は、丸味をもち頸部に至る。口縁部内面の段は明瞭である。	外面…ナデ。 内面…ナデ。	密(長石、石英を含む。)	良好	外面…淡黄灰褐色 内面…淡黄橙褐色	NA－63
SI 03 甕	Po37	49	24	1323	①19.2※ ② 4.0△ ⑤ 2.5	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外方に肥厚して突出し、外傾する平坦面をなす。口縁部下端は、外方へ鋭く突出し、頸部に至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…強いヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	やや粗(1～4㎜大の石英、長石を多く含む。)	良好	内外面共ににぶい褐色	F－112
SI 03 甕	Po38	49	24	1264	①18.0※ ② 3.8△ ⑤ 2.7	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外側へ肥厚し、外傾する平坦面をなす。口縁部下端は、わずかに突出し、なだらかに頸部に至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…風化しているがヨコナデか。 内面…ヨコナデ。	やや粗(1～3㎜大の石英、長石を多量に含む。)	良好	内外面共に浅黄橙色	F－32
SI 03 甕	Po39	49	24	1150	①19.2※ ② 3.6△ ⑤ 2.5	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、内・外方に肥厚し、外傾する平坦面をなす。口縁部下端は、丸く突出し、頸部に至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	密(1～2㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に淡橙褐色	口縁部外面に黒斑有。 F－116
SI 03 甕	Po40	49	－	363	①17.0※ ② 3.8△ ⑤ 2.6	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外方に肥厚し、外傾する平坦面をなす。口縁部下端は、鈍く突出し、丸味をもって頸部に至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…口縁部強いヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	密(1～2㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に橙褐色	F－14
SI 03 甕	Po41	49	－	1254	①17.0※ ② 3.8△ ⑤ 2.6	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外方に肥厚し、平坦面をなす。口縁部下端は、やや外方へ突出するが鈍く、丸味をもって頸部に至る。口縁部内面の段はゆるやか。	内外面ともヨコナデ。	密(わずかに長石、クロウンモを含む。)	良好	内外面共に淡黄褐色	F－2
SI 03 甕	Po42	49	－	879	①16.6※ ② 3.5△ ⑤ 2.7	口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、内外面に肥厚して突出し、内傾した平坦面に凹線が巡る。口縁部下端は、外方に突出するが、丸味をもつ。口縁部内面の段はゆるやか。	内外面共にヨコナデ。	密(1～4㎜大の石英を含む。)	良好	内面…暗橙色 外面…暗橙～暗灰色	KN－4
SI 03 甕	Po43	49	－	875 977 1204	①17.0※ ② 3.6△ ⑤ 2.45	口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外方へ肥厚して突出し、外傾した平坦面に凹線が巡る。口縁部下端は、外方に突出するが、丸味を持つ。	外面…口縁部はヨコナデ。特に口縁部下端は、1条の凹線によって際だたせる。 内面…ヨコナデ。	密(1～2㎜大の石英を含む。)	良好	内面…橙色 外面…暗黄橙色	KN－6
SI 03 甕	Po44	50	25	1068	①16.0※ ② 7.2△ ⑤ 2.6	口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外方に肥厚して突出し、外傾する平坦面をなす。口縁部下端は、わずかに突出し、丸味をもって頸部・肩部に至る。肩部はあまり張らない。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…口縁部～肩部風化が著しい。ヨコナデか。 内面…口縁部～胴部上半ヨコナデ。胴部上半以下ケズリ。方向不明。	やや粗(1～2㎜大の石英、長石を含む。)	やや不良	内外面共に淡黄褐色	F－13
SI 03 甕	Po45	50	25	1140	①16.0※ ② 5.6△ ⑤ 2.5	口縁部は、外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外傾する平坦面をなし、やや角ばって外側に肥厚している。口縁部下端は稜をなす。口縁内面の段は明瞭。頸部は鋭く「く」字状に彎曲している。	外面…ヨコナデか。風化著しい。 内面…ヨコナデか。風化著しい。	やや粗(石英、1～3㎜の長石を含む。)	良好	内面…淡橙色 外面…淡灰黄橙色	NA－8
SI 03 甕	Po46	50	25	1277	①15.8※ ② 2.8△ ⑤ 2.7	口縁部は、やや外傾気味に立ち上がる複合口縁。端部は、外方に突出し、平坦面をなすが、強い押圧により稜を持ち凹む。口縁部下端は、外方に突出し、やや丸味を持つ。	内外面共にヨコナデ。	密(1～2㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に淡黄橙色	KN－19

挿表7　宇谷第1遺跡出土土器観察表　②

出土遺構	土器番号	挿図	図版	取上番号	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成保存	色調	備考
SI 03 甕	Po47	50	−	1023	①17.4※ ② 3.6△ ⑤ 2.5	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外方へ肥厚して突出し、外傾する平坦面をなす。口縁部下端は、丸味をもって突出し、頸部に至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…ヨコナデか。 内面…ヨコナデ。	やや粗(1〜3㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共ににぶい褐色	F −114
SI 03 甕	Po48	50	−	881	①18.0※ ② 3.3△ ⑤ 2.4	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外方へ突出し、平坦面をもち、凹線が巡る。口縁部下端は、外方へ突出するが、鈍く丸味をもって頸部に至る。口縁部内面の段はゆるやか。	内外面共にヨコナデ。	密(1〜2㎜大の石英を含む。)	良好	内外面共に黄褐色	口縁部に黒斑有。 F − 3
SI 03 甕	Po49	50	−	377	①18.5※ ② 3.7△ ⑤ 2.5	口縁部は、ゆるく内彎して外傾する複合口縁。端部は、外方へ肥厚して突出し、平坦面をなすが凹線が巡る。口縁部下端は、わずかに丸味をもつ程度で、丸味をもって頸部に至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…強いヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	密(1〜2㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面ともにぶい橙色	F −111
SI 03 甕	Po50	50	−	1070 1316	①16.6※ ② 3.5△ ⑤ 2.75	口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外方に突出し、やや外傾した平坦面に凹線が巡る。口縁部下端は、やや外方へ突出するが、丸味を持つ。	内外面共にヨコナデ。	密(1〜4㎜の石英を含む。)	良好	内面…橙色 外面…暗橙色	KN − 5
SI 03 甕	Po51	50	−	397 1267 1130	①16.2※ ② 3.7△ ⑤ 2.6	外反気味に、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外傾する平坦面をなし、表面は浅いながらも、凹状になっている。外面の縁は、外側へ肥厚している。下端部は、稜になっており外側に突出し、丸味をもつ。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…口縁部はヨコナデ。頸部は右方向のヘラケズリ。 内面…ヨコナデ。	やや粗(長石、石英を含む。)	良好	外面…淡黄橙色 内面…淡黄橙色(やや濃い)	口縁部内面に貼り付けの痕跡 NA −16
SI 03 甕	Po52	50	25	1144 1150	①16.8※ ② 4.0△ ⑤ 2.9	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。口縁部下端から上方に徐々に肉厚となる。端部は、肥厚して外方へ突出し、外傾する平坦面に凹線が巡る。口縁部下端は、やや外方に突出するが、鈍く丸味を持つ。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…口縁部はヨコナデ。 内面…ヨコナデ。口縁下部に粘土の接合痕有。	密(1〜5㎜の石英を含む。)	良好	内面…橙色 外面…淡黄橙色	外面黒斑有。 KN − 1
SI 03 甕	Po53	50	−	881 1285	①15.9※ ② 4.1△ ⑤ 2.4	口縁部は、外反気味に立ち上がる複合口縁。端部は、外傾した平坦面をもち、ふちは、やや角ばっている。口縁部下端は、外方へ突出し、鈍く丸味をもつ。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	密(長石、クロウンモを含む。)	やや不良	内外面共に淡灰褐色〜暗黄褐色	黒斑有。 NA − 7
SI 03 甕	Po54	50	−	102	①16.2※ ② 4.2△ ⑤ 2.4	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外方へ大きく肥厚して突出し、彎曲した面をなす。口縁部下端は、わずかに突出し、丸味をもって頸部に至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…口縁〜頸部ヨコナデ。 内面…口縁〜頸部ヨコナデ。	密(1〜3㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に淡橙褐色	外面口縁部にスス付着 F − 7
SI 03 甕	Po55	50	25	142	①15.3※ ② 3.2△ ⑤ 2.2	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、やや外反し、外傾する平坦面をなす。口縁部下端は、鈍く突出する。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	やや粗(1〜2㎜大の石英を含む。)	良好	内外面共に淡橙褐色	F −115
SI 03 甕	Po56	50	25	878	①16.0※ ② 4.0△ ⑤ 2.6	口縁部はやや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外側に肥厚して凹線が巡る。口縁部下端はわずかに突出し、なだらかに頸部に至る。口縁部内面の段は不明瞭。	外面…口縁部強いヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	密	良好	内外面共ににぶい黄褐色	F −27
SI 03 甕	Po57	50	25	389 1097	①15.2※ ② 4.5△ ⑤ 2.8	口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外方へ肥厚して突出し、外傾した平坦面をなす。口縁部下端は、外方に突出するが、鈍く丸味をもち、頸部に至る。口縁部内面の段はゆるやか。	内外面共にヨコナデ。	密(ウンモ、1〜4㎜の石英を含む。)	良好	内面…暗黄橙色 外面…橙色	口縁部にスス付着。 KN − 7
SI 03 甕	Po58	50	25	1212	①16.0※ ② 3.8△ ⑤ 2.7	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外方へ突出し、平坦面をなし、凹線が巡る。口縁部下端は、鈍く外方へ突出し、丸味をもって頸部に至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	密(1〜2㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に淡橙褐色	F − 4
SI 03 甕	Po59	51	−	1158 1212	①16.6※ ② 3.8△ ⑤ 3.1	口縁部は、直立気味に立ち上がる複合口縁。端部は、外方にわずかに突出し、平坦面をなす。口縁部下端は、外方に突出するが、丸味をもつ。	内外面共にヨコナデ。	密(1〜4㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に暗黄橙色	KN − 9
SI 03 甕	Po60	51	−	872 976	①17.0※ ② 3.3△ ⑤ 2.4	口縁部は、やや外反して立ち上がる複合口縁。端部は、外方へ大きく肥厚し、平坦面をなす。口縁部下端は、わずかにふくらむ程度で、丸味をもって、頸部に至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	密(1〜2㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に浅黄橙色	F −33
SI 03 甕	Po61	51	−	1301	①16.4※ ② 4.2△ ⑤ 2.7	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外方へ大きく肥厚して突出し、平坦面をなす。口縁部下端は、鈍く突出し、頸部に至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…口縁部〜頸部ヨコナデ。 内面…口縁部〜頸部ヨコナデ。	やや粗(1〜2㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内面…淡橙褐色 外面…灰白色	F − 8
SI 03 甕	Po62	51	25	996 943 1056	①17.0※ ② 3.7△ ⑤ 2.4	口縁部は、外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、ゆるやかに外傾する平坦面をなし、内側と外側の縁がやや高くなる凹型である。特に外側の縁は、外方へ突出して鈍く丸味をもつ。下端部は、稜になっている。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	密(石英、ウンモを含む。)	やや不良	内外面共に淡黄橙色	口縁部外面に破損している箇所あり、スス付着。 NA −14
SI 03 甕	Po63	51	−	879	①16.5※ ② 3.9△ ⑤ 2.5	口縁部は、外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外傾する平坦面をなし、浅い凹状になっている。縁はやや丸味をおびており、外側に突出している。口縁部下端は、稜になっており、外側へ突出し丸味をもつ。口縁部内面の段はゆるやか。頸部は「く」の字状に曲がっており、下部の方が厚くなっている。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	やや粗(石英、長石、ウンモを含む。)	良好	内外面共に明黄褐色	NA −17
SI 03 甕	Po64	51	−	976 876	①18.0※ ② 3.5△ ⑤ 2.4	口縁部は、ほぼ直立する複合口縁。端部は、内・外に肥厚して突出し、わずかに凹む面をなす。口縁部下端は、わずかに突出し、丸味をもって頸部に至る。口縁部内面の段は不明瞭。	外面…口縁部強いヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	やや粗(1〜4㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に淡褐色	F −12
SI 03 甕	Po65	51	−	876	①15.4※ ② 3.6△ ⑤ 2.6	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外方へ肥厚して突出し、外傾する平坦面をなす。口縁部下端は、わずかに突出する程度。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	やや粗(1〜3㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共ににぶい褐色	F −113
SI 03 甕	Po66	51	25	1210 1227	①16.3※ ② 3.8△ ⑤ 2.2	外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外傾した平坦面をもち、縁はやや角ばっている。特に外側の縁が突出している。口縁内面の段は明瞭。	外面…ヨコナデか。風化が激しい。 内面…ヨコナデ。	やや粗(クロウンモ、石英を含む。)	良好	内外面共に浅黄橙色	外面に傷が多い。 NA − 2
SI 03 甕	Po67	51	25	1017 1005 1022 1064	①15.0※ ② 4.8△ ⑤ 2.5	口縁部は、外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外側に肥厚し外傾した平坦面をなす。縁はやや角ばっている。口縁部下端は、外方に突出し鈍く丸味をもって、頸部に至る。口縁部内面の段は明瞭。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	密(石英、長石を含む。)	良好	内外面共に淡黄橙色	NA − 1

挿表 8　宇谷第 1 遺跡出土土器観察表　③

出土遺構	土器番号	挿図	図版	取上番号	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成保存	色調	備考
SI 03 甕	Po68	51	－	1262	①15.6※ ② 3.7△ ⑤ 2.7	口縁部は、外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、水平な平坦面で、外側の縁の下が外へ向ってわずかに突き出している。口縁部下端は、稜になっており、外へ突出している。口縁部内面の段はゆるやかである。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	やや粗(石英、長石を含む。)	良好	内外面共に淡黄橙色	NA－62
SI 03 甕	Po69	51	－	1293	①15.4※ ② 3.7△ ⑤ 2.9	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外方へ肥厚して突出し、外傾する平坦面をなす。口縁部下端は、鈍く突出し、丸味をもって頸部に至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…強いヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	密(1～3㎜大の石英、長石を含む。)	良好	外面…灰褐色 内面…淡橙褐色	F－117
SI 03 甕	Po70	51	－	879	①16.0※ ② 3.1△ ⑤ 2.5	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外方へ肥厚して突出し、外傾する平坦面をなす。口縁部下端は、わずかに突出し、丸味をもって頸部に至る。	外面…風化が著しいがヨコナデか。 内面…ヨコナデ。	やや粗(1～2㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に淡褐色	F－10
SI 03 甕	Po71	51	25	402	①14.0※ ② 3.7△ ⑤ 2.6	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、内側に肥厚し凹線が巡る。口縁部下端は鈍く突出し、丸味をもって頸部に至る。口縁部内面の段は明瞭。	外面…口縁部～頸部ヨコナデ。 内面…口縁部～頸部ヨコナデ。	密(1㎜大の長石をわずかに含む。)	良好	内外面共に淡黄褐色	口縁部外面に黒斑、スス付着、内面に黒斑。 F－21
SI 03 甕	Po72	51	25	1251	①15.3※ ② 4.3△ ⑤ 2.4	口縁部は、外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁。口縁部下端は、丸味をおびていて、外面の縁が肥厚している。口縁部内面の段は明瞭。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	密(石英、長石を含む。)	良好	外面…淡黄褐色 内面…明黄褐色	NA－3
SI 03 甕	Po73	51	25	1097	①13.3※ ② 3.9△ ⑤ 2.0	口縁部は、外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、稜状になっており、外側に肥厚し、外傾する平坦面をなす。縁はやや角ばっている。口縁部下端は、外方へ突出し、鈍く丸味をもつ。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	やや粗(石英を含む。)	良好	内外面共に浅黄橙色	NA－5
SI 03 甕	Po74	51	25	400 978	①14.4※ ② 3.7△ ⑤ 2.65	口縁部は、肉薄でやや外傾して立ち上がる複合口縁。口唇部は、外方に突出し、平坦面をなす。口縁部下端は、外方に突出するが、鈍く丸味をもちながら頸部に至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…口縁部はヨコナデ。特に口縁部下端は強い1条の凹線によって際だたせる。 内面…ヨコナデ。	密(1～2㎜の石英を含む。)	良好	外面…淡黄～黒色 内面…橙色	KN－8
SI 03 甕	Po75	52	－	1174	①18.0※ ② 3.8△ ⑤ 2.6	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、内・外側に肥厚し、外傾する平坦面をなす。口縁部下端は、鈍く突出し、丸味をもって頸部に至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…口縁部～頸部ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	密(1～2㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に橙色	F－26
SI 03 甕	Po76	52	25	985	①18.1※ ② 3.8△ ⑤ 2.65	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。口縁部下端より徐々に肉厚となり口唇部端に至る。端部は、肥厚して外方へ突出し、外傾する平坦面に凹線が巡る。口縁部下端は、外方に突出するが、やや丸味をもつ。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…口縁部ヨコナデ。 内面…口縁部ヨコナデ。口縁部上半に粘土の接合痕有。	密(1～2㎜の石英を含む。)	良好	外面…淡黄橙色 内面…暗黄橙色	外面に黒斑有。 KN－2
SI 03 甕	Po77	52	－	1265	①16.2※ ② 3.7△ ⑤ 2.3	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、内・外方に肥厚して突出し、外傾する平坦面をなす。口縁部下端は、わずかに突出し、丸味をもって頸部に至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…口縁部～頸部強いヨコナデ。 内面…口縁部は強いヨコナデ。	やや粗(1～2㎜大の石英、長石を含む。)	良好	外面…淡褐色 内面…淡橙褐色	F－9
SI 03 甕	Po78	52	25	978	①16.0※ ② 3.6△ ⑤ 2.8	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外方へ大きく肥厚して突出し、外傾する平坦面をもつ。内側へもわずかに肥厚する。口縁部下端は、わずかに突出し、丸味をもって頸部に至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…口縁部～頸部ヨコナデ。 内面…口縁部～頸部ヨコナデ。	密(1～2㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に淡褐色	口縁端部に黒斑有。 F－6
SI 03 甕	Po79	52	－	1070	①15.7※ ② 3.5△ ⑤ 2.5	口縁部は、外傾しながら立ち上がる複合口縁。端部は、外反して外側にやや肥厚し、やや角ばっている。口縁部下端は、丸味をもって、頸部に至る。口縁内面の段はゆるやか。	外面…ナデ。 内面…ヨコナデ。	やや粗(ウンモ、石英を含む。)	良好	外面…淡黄灰褐色 内面…明黄橙色	NA－69
SI 03 甕	Po80	52	－	1067	①16.4※ ② 3.4△ ⑤ 2.6	口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外方へ肥厚して突出し、平坦面をなすが、凹線が巡る。口縁部下端は、鈍く突出し、頸部に至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	密(1～2㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に淡橙褐色	F－122
SI 03 甕	Po81	52	25	918 976	①16.0※ ② 3.8△ ⑤ 2.5	口縁部は、外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外傾した平坦面をなし、外側に肥厚する。縁はやや角ばっている。下端部は、稜になっており、外へ突出している。内面の段は明瞭。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	密(石英、長石、クロウンモを含む。)	良好	内外面共に暗赤灰褐色	口縁部内面の一部が黒褐色 NA－15
SI 03 甕	Po82	52	－	977	①15.7※ ② 3.5△ ⑤ 2.5	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、わずかに内・外方へ肥厚し、外傾する平坦面をなす。口縁部下端は、鈍く突出する。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…強いヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	密(1㎜大の石英を含む。)	良好	内外面共に淡褐色	口縁端部に黒斑有。 F－123
SI 03 甕	Po83	52	25	978	①15.3※ ② 3.3△ ⑤ 2.3	口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外方へ肥厚してわずかに突出し、外傾する平坦面をなす。口縁部下端は、鈍く突出する。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	密(1～2㎜大の石英を含む。)	良好	内外面共ににぶい橙色	F－121
SI 03 甕	Po84	52	25	1068	①15.0※ ② 4.4△ ⑤ 2.8	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、内・外方に肥厚して突出し、外傾する平坦面をもつ。口縁部下端は、鈍く突出し、やや内彎しながら頸部に至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	やや粗(1～2㎜大の石英、長石、クロウンモを含む。)	良好	内外面共に淡黄褐色	F－5
SI 03 甕	Po85	52	－	1070	①15.3※ ② 3.9△ ⑤ 2.5	口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外反して外側に肥厚し、外傾する平坦面をなす。口縁部下端は、外方へ突出し、丸味をもって頸部に至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…ナデ。 内面…ナデ。	やや粗(石英、長石を含む。)	良好	外面…明黄褐色 内面…淡黄橙色	端部がやや黒くなっている。 NA－68
SI 03 甕	Po86	52	－	365	①15.0※ ② 3.6△ ⑤ 2.5	口縁部は、やや内彎しながらわずかに外傾する複合口縁。端部は、肥厚し、凹線が巡る。口縁部下端は、ふくらむ程度で丸味をもって、頸部に至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…口縁部強いヨコナデ。口縁部下端～頸部ヨコナデ。 内面…強いヨコナデ。	密(1㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に明褐色	F－11
SI 03 甕	Po87	52	－	978	①13.5※ ② 3.6△ ⑤ 2.8	外傾しながら立ち上がる複合口縁。端部は、ほぼ水平な平坦面をなし、両縁は、やや角ばっている。口唇部は外側に肥厚する。下端部は、稜になっており鈍く丸味をもって、頸部に至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…ナデ。 内面…ナデ。	やや粗(石英、ウンモを含む。)	良好	外面…淡黄灰褐色 内面…淡黄橙色	口縁下端部にスス付着 NA－67
SI 03 甕	Po88	52	－	976	①16.0※ ② 3.3△ ⑤ 2.4	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外方へ大きく肥厚し、外傾する平坦面をなす。口縁部下端は、外方へ突出し、なだらかに頸部へ至る。口縁部内面の段は不明瞭。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。口縁部下半に波状の粘土接合痕が残る。	密(1～2㎜大の石英、長石を含む。)	良好	外面…淡灰褐色 内面…淡黄褐色	口縁部外面に黒斑。 F－34

挿表9　宇谷第1遺跡出土土器観察表　④

出土遺構	土器番号	挿図	図版	取上番号	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成保存	色調	備考
SI 03 甕	Po89	52	25	1017	①14.6※ ② 4.9△ ⑤ 3.5	口縁部は、外反気味に外傾しながら立ち上がる複合口縁。端部は、外傾している。下端は、やや下垂している。口縁部内面の段は不明瞭。口縁下部から頸部にかけて肥厚している。	外面…口縁部櫛描平行沈線が施される。頸部ナデ。 内面…口縁部～頸部ナデ。	やや粗(石英、長石、ウンモを含む。)	良好	内外面共に淡黄橙色	外面に黒斑有。 NA－83
SI 03 甕	Po90	52	25	404	② 3.0△ ⑤ 2.1△	やや外傾して立ち上がる複合口縁の破片。口縁部下端は、屈曲する。口縁部内面の段は不明瞭。	外面…7条以上の平行沈線。 内面…丁寧なヨコナデ。	密(砂粒を含む。)	良好	内外面共に淡黄褐色	F－168
SI 03 甕	Po91	53	26	1201	①15.4※ ②25.2 ③22.7	口縁部は、やや内彎ぎみに開く「く」字状口縁。端部は、内側に肥厚し、内傾する平坦面を持つ。胴部は卵状に張り最大径は、中位以上にある。底部は丸底である。	外面…口縁部ヨコナデ。頸部～肩部ハケ目後ヨコナデ。肩部横方向ハケ目。胴部縦方向ハケ目。底部付近ヨコハケ肩部に3個の刺突痕有。 内面…口縁部ヨコナデ。肩部指押えの後ナデ。胴部右方向ケズリ。底部指頭圧痕残る。口縁部に粘土接合の痕跡有。	密(1～3㎜の石英を含む。)	良好	内面…橙色 外面…橙褐色	内面胴部下半スス付着外面肩～胴部上半スス付着、黒斑有。 KN－18
SI 03 甕	Po92	53	26	1177	①15.2※ ②15.7△ ③21.8	口縁部は、やや内彎ぎみに開く「く」字状口縁。端部は、内側に肥厚し、平坦面をなす。胴部は球形に大きく張り、最大径はほぼ中位にもつ。	外面…口縁部～頸部ヨコナデ。胴部縦～斜方向ハケ目。肩部ヨコハケ。肩部に貝殻腹縁による刺突が2ヶ所有。 内面…口縁部～肩部ヨコナデ。胴部肩部以下横方向ケズリ。方向は一定しない。	やや粗(1～5㎜大の石英、長石を多量含む。)	やや不良	内外面共に明黄褐色	口縁部及び胴部下半にスス付着。 F－15
SI 03 甕	Po93	53	26	392 464 1252	①16.2※ ②12.3△ ③25.0△	外傾しながら立ち上がる「く」字状口縁をもつ。端部は、ほぼ水平な平坦面をなし、口唇部は、やや角ばっており、内面がわずかに内側へ向かって肥厚している。口縁部内面の段はゆるやか。「く」字状に屈曲する頸部がゆるやかな肩をもち胴部に至る。	外面…口縁～胴部肩ナデ胴部中央付近ヨコハケ。 内面…口縁～胴部上部ナデ。胴部横方向のヘラケズリ。	やや粗(石英、ウンモを含む。)	やや不良	内面外面共に淡黄橙色	NA－25
SI 03 甕	Po94	53	26	1285	①17.6※ ② 9.9△ ③25.8△	口縁部は、外傾しながら立ち上がる「く」字状口縁。端部は、内傾する平坦面をなし、内側外側双方の、縁がわずかに肥厚している。鋭く「く」字状に曲がる頸部はゆるやかな肩をもつ胴部へつづく。	外面…口縁部はヨコナデ。胴部は、ヨコ方向のハケ目が入っている。 内面…口縁部はヨコナデ。胴部には、斜方向のケズリが入っている。	やや粗(長石、石英を含む。)	良好	内外面共に淡黄橙色	NA－13
SI 03 甕	Po95	53	26	863 976 1068 1097 1237 1265	①15.6 ②18.0△ ③23.2	口縁部は、ロート状に開く「く」字状口縁。端部は、内側に肥厚し、内傾する平坦面をなす。肩部が張り、そのまま丸味をもって胴部へ至る。最大径は中位以上にある。	外面…口縁部～頸部ヨコナデ。頸部ハケ後ヨコナデ。肩部横方向ハケ目。胴部縦方向ハケ目。 内面…口縁部～肩部指押えの後ヨコナデ。胴部左方向ケズリ。	密(1～5㎜の石英を含む。)	良好	内面…淡黄色 外面…淡黄橙色	口縁部～肩部にかけてスス付着。 KN－16
SI 03 甕	Po96	53	26	380	①16.0※ ② 7.5△	口縁部は、わずかに内彎して、外傾するゆるやかな「く」字状口縁。肩部はなだらかに張る。	外面…口縁部ヨコナデ。頸部強いヨコナデ後ハケ状工具の押圧痕が残る。肩部以下タテハケ。肩部にヘラ状工具による線刻有。 内面…口縁部～頸部ヨコナデ。頸部以下右方向ケズリ。	密(1～2㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に淡黄褐色	口縁端部、胴部に黒斑。 F－18
SI 03 甕	Po97	53	26	857 978 1068 1130	①16.2※ ② 8.2△	口縁部は、やや内彎ぎみに開く「く」の字状口縁。端部は、内側に肥厚し、内傾する平坦面をなす。胴部は大きく張る。	外面…口縁部～頸部ヨコナデ。肩部ハケ目。 内面…口縁部ヨコナデ。口縁部上半は粘土の接合痕有。頸部に指頭圧痕が残る。肩部以下右方向ケズリ。	密(1～4㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に明赤褐色	内外面共に顔料塗彩。 KN－10
SI 03 甕	Po98	54	27	396 397	①18.4※ ②15.6△ ③27.8△	外傾しながら立ち上がる「く」字状口縁をもつ。端部は、やや丸みをおび、内傾する平坦面をなし、内側に肥厚する。頸部は鋭く「く」字状に屈曲し、ゆるやかな肩をもつ胴部へつづく。	外面…口縁部ヨコナデ。頸部～胴部肩口ハケ目後のナデ。胴部中央部ハケ目。 内面…口縁部～胴部肩口ヨコナデ。胴部右方向へのケズリ。	粗(石英、ウンモを含む。)	やや不良	内面…明黄褐色 外面…明黄橙色	胴部の外面にススが付着。 NA－24
SI 03 甕	Po99	54	27	1068 1155 1166	①14.0※ ② 8.2△	口縁部は、やや内彎して外方へ開く「く」字状口縁。端部は、内側に肥厚し、内傾する平坦面をなす。胴部は球形に大きく張るものか。	外面…口縁部ヨコナデ。胴部粗いヨコハケ後ヨコナデ。 内面…口縁部～肩部ヨコナデ。肩部以下右方向ケズリ。	密(1～5㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に橙色	口縁部、胴部外面にスス付着。 F－23
SI 03 甕	Po100	54	－	1150 1315	①16.0※ ② 6.0△	口縁部は、下半部にアクセントをもつが、内彎して外方へ開く「く」字状口縁。端部は、内側に肥厚し、内傾する平坦面をなす。胴部はあまり張らないものか。	外面…口縁部ヨコナデ。胴部タテハケ後ヨコナデ。 内面…口縁部～肩部ヨコナデ。肩部に指頭圧痕が残る。肩部以下横方向のケズリ。	密(1～3㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に淡橙褐色	F－24
SI 03 甕	Po101	54	－	977	①16.2※ ② 4.0△	口縁部は、ゆるやかに内彎して外方へ開く「く」字状口縁。端部は、内方へ肥厚し、内傾する平坦面をもつ。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	密	良好	内外面共に淡褐色	口縁部外面にスス付着。 F－119
SI 03 甕	Po102	54	－	379	①17.6※ ② 3.9△	口縁部は、外反気味に立ち上がる「く」字状口縁。端部は、凹状になっており、縁が外・内にわずかに肥厚し、外傾する平坦面をなす。口縁上部から中央部にかけて肥厚。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。粘土の接合痕あり。	密(ウンモを含む。)	良好	内面…橙色 外面…淡黄橙色	口縁端部にヘラ工具による圧痕。 NA－12
SI 03 甕	Po103	54	－	1097 1229 1237	②16.4△ ③25.3※	肩が大きく張り、やや長胴となる甕胴部の破片。	外面…肩部ヨコハケ後、ナデ。肩部以下斜方向ハケ後、ナデ。 内面…肩部指頭圧痕残る。肩部以下に左方向のケズリ。	密(1～3㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に淡褐色	外面肩部にスス付着。赤変部分有。 F－106
SI 03 甕	Po104	54	27	978 1250 1266 1269 1271 1272 1273 1274 1277	②25.6△ ③29.3	甕の胴部である。球形に大きく張り、最大径はほぼ中位にある。	外面…ヨコハケ。 内面…肩部右斜上方にヘラケズリ。以下左斜上方にヘラケズリ。	密(1～5㎜の石英を含む。)	良好	内面…黄橙色 外面…浅黄橙色～黒色	スス付着。 KN－65
SI 03 甕	●Po105	55	27	976 1178	②16.2△ ③25.6※	球形に大きく張る胴部。最大径はほぼ中位にあると思われる。	外面…肩部にヨコナデ。肩部以下にヨコハケ。胴部下半に縦～斜方向のハケ。肩部に棒状工具による刺突が、逆三角形に3ヶ所有り。 内面…肩部に指頭圧痕残る。肩部以下に横方向のケズリ。胴部下半に斜方向のケズリ。	密(1～2㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に淡黄褐色	F－42

挿表10　宇谷第1遺跡出土土器観察表　⑤

出土遺構	土器番号	挿図	図版	取上番号	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成保存	色調	備考
SI 03 甕	Pb106	55	27	876	② 7.1△ ③25.2※	肩がなだらかな甕の胴部。	外面…頸部貝の腹縁による羽状刺突文が施される。以下ヨコハケ。 内面…頸部指頭圧痕残る。以下右方向のケズリ。	密(石英、長石、黒ウンモを含む。)	良好	内面…明黄褐色 外面…淡黄橙色	NA－61
SI 03 甕	Pb107	55	27	362	② 7.0△	ほぼ球形を呈す胴部破片。	外面…ナデ。貝殻腹縁による刺突文あり。 内面…肩部に指頭圧痕残る。肩部以下に右方向のヘラケズリ。	密(1～3㎜大の石英、長石を含む。)	良好	外面…淡橙褐色 内面…淡褐色	F－124
SI 03 甕	Pb108	55	27	976	② 3.5△	なだらかな甕胴部肩部の破片。	外面…ヨコナデ。肩部に刺突が2ヶ所あり。 内面…指頭圧痕残る。	密(1～3㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に淡橙褐色	F－125
SI 03 甕	Pb109	55	27	369 389 875 1239 1241	②15.3△	頸部から胴部にかけての破片。肩はあまり張らない倒卵形を呈すものと思われる。	外面…肩部にヨコナデ。肩部以下に斜方向のハケ目。 内面…肩部にヨコナデ。肩部以下に右方向のケズリ。	密(1～7㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内面…橙褐色 外面…淡褐色	外面肩部以下スス付着。 F－110
SI 03 甕	Pb110	55	27	404	② 5.3△ ③ 29.2△※	肩がなだらかな甕の胴部。	外面…頸部～胴部にナデ。胴部上部にヘラ状工具による斜線文。胴部中央にヨコハケ。 内面…頸部～胴部上部にナデ。胴部中央部に右方向へのケズリ。	やや粗(長石、石英を含む。)	良好	内面…明黄褐色 外面…淡黄橙色	外面にスス付着。 NA－60
SI 03 甕	Pb111	55	－	1285	② 9.8△	肩部が大きく張り、ほぼ球形を呈す甕胴部破片。	外面…横～斜方向へのハケ目後ナデ。 内面…肩部に指頭圧痕残る。肩部以下に右方向のケズリ。	やや粗(1～3㎜大の石英、長石を多く含む。)	良好	内面…淡灰褐色 外面…淡橙褐色	外面下半にスス付着。 F－109
SI 03 甕	Pb112	55	－	367 944	② 8.8△	肩が大きく張り、ほぼ球形を呈すと思われる甕胴部破片。	外面…肩部にヨコハケ後、ナデ。肩部以下にヨコハケ後斜方向のハケ。 内面…肩部に指頭圧痕残る。肩部以下に右方向のケズリ。	密(1～3㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に淡黄褐色	F－107
SI 03 甕	Pb113	56	－	1198 1199	②11.6△	倒卵形を呈すと思われる甕胴部の破片。	外面…ヨコハケ後ナデ消し。 内面…肩部以下に横方向のケズリ。	やや粗(1～4㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面とも淡黄褐色	外面肩部以下スス付着。 F－101
SI 03 甕	Pb114	56	－	976 1250	②12.2△ ③21.4※	肩部があまり張らない、球形の胴部。最大径はほぼ中位にあると思われる。	外面…肩部にヨコハケ。胴部下半以下に横方向～斜方向のハケ。 内面…肩部にナデ。肩部以下に右方向のヘラケズリ。所々に指頭圧痕残る。	密(1～3㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に黄褐色～灰黄褐色	F－43
SI 03 甕	Pb115	56	－	941 942 943 976 1047 1068 1165	② 8.8△	肩部が大きく張り、球形を呈す甕胴部の破片。	外面…肩部以下にヨコハケ後ナデ。 内面…肩部に指頭圧痕残る。肩部以下に右方向のケズリ。	密(1～3㎜大の石英、長石を含む。)	良好	外面…灰色 内面…灰褐色	肩部外面に黒斑、肩部以下スス付着。 F－100
SI 03 胴部	Pb116	56	－	989	② 6.2△ ③21.0※	「く」の字状に屈曲する頸部につづく、ゆるやかな肩をもった胴部。	外面…タテハケ後・ヨコハケ。 内面…胴部上部にナデ。上部のやや下でヘラケズリ後のナデと指頭圧痕残る。中央部付近にヘラケズリ。	やや粗(石英、長石を含む。)	良好	内外面共に明黄褐色	NA－11
SI 03 甕	Pb117	56	－	904 1128 1129 1173	②11.0△ ③23.2※	ほぼ球形を呈す甕胴部。ほぼ中位に最大径をもつ。	外面…横～斜方向の粗いハケ目。 内面…肩部に指頭圧痕残る。肩部以下に右方向のケズリ。	密(1～4㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に黄橙色	胴部外面にスス付着。 F－178
SI 03 甕	Pb118	56	－	1292	② 7.4△	甕胴部の破片。肩部はあまり張らない。	外面…頸部付近にタテハケ後ナデ消し。肩部以下にヨコハケ後ナデ消し。 内面…肩部にナデ。肩部以下に右方向のケズリ。	密(1㎜大の石英、長石を含む。)	良好	外面…灰色 内面…灰褐色	F－99
SI 03 中型甕	Pb119	56	27	881 1022 1296	①13.0※ ② 8.0△ ③16.6※	口縁部は、ゆるやかに内彎して外方へ開く「く」の字状口縁。端部は、内方へ肥厚し、内傾する平坦面をなす。胴部は球形に大きく張る。	外面…口縁部にヨコナデ。肩部に斜方向ハケ後ヨコナデ。肩部以下に粗いタテハケ後ヨコハケ。 内面…口縁部にヨコナデ。肩部に指頭圧痕認められる。肩部以下に右方向のヘラケズリ。	密(1～3㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に明橙色	F－35
SI 03 甕	Pb120	56	－	1045 1130	①14.0※ ② 6.6△	口縁部は、やや内彎して外方へ開く「く」の字状口縁。端部は、肥厚し内傾する平坦面をなす。胴部は大きく張るものか。	外面…口縁部～胴部にヨコナデ。 内面…口縁部～肩部にヨコナデ。肩部以下に横方向のケズリ後ヨコナデ。	密(1㎜大の石英をわずかに含む。)	良好	内外面共に灰色	口縁部内・外面、胴部外面に黒斑。 F－22
SI 03 甕	●Pb121	56	28	977 1180	①14.0 ② 6.5△	口縁部は、やや内彎ぎみに開く「く」の字状口縁。端部は、内側に肥厚し、内傾する平坦面をなす。胴部は大きく張る。	外面…口縁部～胴部肩部にヨコナデ。 内面…口縁部にヨコナデ。口縁部上半には波状に粘土の接合痕有り。頸部に指頭圧痕が残る。肩部以下に右方向のケズリ。	密(1～4㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に明褐色	口縁部～肩部にスス付着。 F－16
SI 03 甕	Pb122	56	28	237 877 987 1068 1276	①11.4※ ②12.8△ ③13.8	口縁は、内彎気味に外傾して立ち上がる。端部は、内傾して外面が肥厚している。頸部は「く」字状に曲がり、胴部へとつづく。胴部中央付近で最大径となる。	外面…口縁～胴部肩にナデ。胴部上半にハケ目後ナデ消し。胴部下半に斜方向のハケ目。 内面…口縁～胴部肩にナデ。胴部上半に指頭圧痕が残る。胴部下半はヘラケズリ。	やや粗(ウンモを含む。)	やや不良	内外面共に明黄橙色	胴部にスス付着。 NA－23
SI 03 甕	●Pb123	56	28	990 1203 1205 1217	①11.6※ ② 7.2△ ③14.2	口縁部は、やや内彎気味に開く「く」の字状口縁。端部は、内側に肥厚し、内傾する平坦面をなす。肩部が張り、そのまま丸味をもって胴部に至る。最大径は中位以上にある。	外面…口縁部にヨコナデ。頸部～肩部にハケ目の後ヨコナデ。以下縦方向のハケ目。 内面…口縁部にヨコナデ。肩部に指頭圧痕残る。以下左方向のケズリ。口縁部上半に粘土の接合痕有り。	密(1～3㎜の石英を含む。)	良好	内面…明黄褐色 外面…暗橙色	KN－17
SI 03 甕	Pb124	56	－	366 976 998 1097 1139 1300	①12.9 ② 5.4△	口縁部は、外傾しながら立ち上がる「く」字状口縁。端部は、内傾する。「く」字状に曲がる頸部は、ゆるやかな肩をもち胴部に至る。肩部が肥厚している。	外面…口縁部～頸部にナデ。風化が著じるしい。 内面…口縁部～頸部にナデ。胴部に横方向のケズリ。風化が著じるしい。	やや粗(石英を含む。)	不良	淡黄橙色	NA－79
SI 03 甕(口縁)	Pb125	56	－	977	①13.8※ ② 5.3△	外傾して立ち上がる「く」の字状口縁。端部は、内傾する平坦面をなす。端部のふちはやや角ばっている。口縁は中央よりやや下が、肥厚している。頸部は「く」字状に屈曲しており、下の方が厚くなっている。	外面…ナデ。 内面…口縁部でナデ。頸部にヘラケズリ。	密(ウンモを含む。)	良好	内外面共に浅黄橙色	NA－10
SI 03 甕	Pb126	57	－	1229	①15.8※ ② 3.7△	わずかに内彎して外方へ開く「く」の字状口縁。端部はやや外反し丸く収める。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	密(1～5㎜大の石英を含む。)	良好	内外面共に淡褐色	F－118

挿表11　宇谷第1遺跡出土土器観察表　⑥

出土遺構	土器番号	挿図	図版	取上番号	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成保存	色調	備考
SI 03 甕	Po127	57	−	875 977	①16.2※ ② 3.1△	口縁部は、やや内彎して外方へ開く「く」の字状口縁。端部は、内方へ肥厚し、内傾する平坦面をなす。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	密	良好	外面…灰褐色 内面…淡黄褐色	口縁部外面に黒斑あり。 F −120
SI 03 甕	Po128	57	−	864	①13.4※ ② 3.4△	口縁部は、外傾して立ち上がる「く」字状口縁。端部は、ほぼ水平な平坦面をもち、両縁は、やや角ばっている。口縁下部より徐々に肉厚となり、端部内面に凹みがある。口縁内側の段は不明瞭。	外面…ナデ。 内面…ナデ。	密(石英、黒ウンモを含む。)	良好	内外面共に淡黄橙色	NA −65
SI 03 甕	Po129	57	−	977	①14.0※ ② 3.0△	口縁部は、内彎して外方へ開く「く」字状口縁。端部は、やや内側へ肥厚し内傾する平坦面をなす。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	密(1mm大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に淡褐色	F −30
SI 03 甕	Po130	57	−	1316	①13.0※ ② 3.6△	口縁部は、外反気味に外傾して立ち上がる「く」字状口縁。端部は、丸く外方へ向かって斜め上方へ引き出されている。口縁部内面の段はゆるやか。口縁部では、中央付近が肥厚気味である。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	密(長石を含む。)	良好	内外面共に明黄褐色	NA − 4
SI 03 甕	Po131	57	−	1195	①14.0※ ② 2.8△	口縁部は、やや外反ぎみに外方へ開く「く」字状口縁。端部は、内側に肥厚し、内傾する平坦面をなす。	外面…風化しているがヨコナデか。 内面…ヨコナデ。	やや粗(1〜2mm大の石英、長石を多量に含む。)	良好	内外面共に淡橙褐色	F −29
SI 03 甕	Po132	57	−	404	①10.4※ ② 4.0△ ⑤ 3.2	口縁部は、外傾しながら立ち上がる複合口縁。端部は、外側に向かって斜め上方に引き出され丸味をもつ。下端部は、稜になっており突出している。口縁部内側の段は不明瞭。	外面…ナデ。 内面…ナデ。	密(長石、黒ウンモを含む。)	良好	内外面共に明黄橙色	NA −66
SI 03 甕	Po133	57	−	371 447 976	①13.6※ ② 3.2△	口縁部は、外反気味に外傾して立ち上がる「く」字状口縁。端部は、内外に肥厚し、内傾した平坦面をなす。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	やや粗(石英、1〜2mmの長石を含む。)	良好	内外面共に橙色	NA −18
SI 03 甕	Po134	57	−	1067	①12.0※ ② 3.1△	口縁部は、やや内彎して外方へ開く「く」字状口縁。端部は、外傾する平坦面をなし、凹線が巡る。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	密(1〜3mm大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に淡橙色	F −31
SI 03 甕	Po135	57	−	1193	①13.0※ ② 3.0△	口縁部は、やや内彎ぎみに外方へ開く「く」字状口縁。端部は、外傾する平坦面をなし、凹線が巡る。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	密(1mm大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に赤褐色	F −28
SI 03 小型甕	Po136	57	−	1141	①10.2※	口縁部〜肩部の破片。口縁部は、やや内彎して大きく外方へ開き、端部は、内方へ肥厚し、内傾する平坦面をなす。肩部は大きく張るものと思われる。	外面…口縁部ヨコナデ。 内面…風化のために調整不明。	密	やや不良	内外面共に橙色	F −103
SI 03 甕	Po137	57	−	481 1150	①14.0※ ② 3.1△	口縁部は、外反気味に外傾して立ち上がる「く」字状口縁。端部は、丸く、内傾する平坦面をなす。口縁下部から下を欠損している。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	やや粗(石英、長石を含む。)	良好	内外面共に浅黄橙色	NA − 9
SI 03 甕	Po138	57	−	1097	①11.4※ ② 3.2△	口縁部は、内彎気味に外傾しながら立ち上がる口縁。端部は、丸味をおびており、やや内傾している。	外面…ナデ。 内面…ナデ。	密(黒ウンモ、石英を含む。)	良好	内外面共に淡黄橙色	NA −53
SI 03 甕	Po139	57	−	957	①13.4※ ② 2.8△	口縁部は、外傾して立ち上がる口縁。端部は、内傾して縁の両端がやや盛り上がる凹型である。端部の縁はわずかに丸みをおびている。口縁の厚さは、端部の下がくびれて、口縁中央部が肥厚し、下方は細くなっている。	外面…ナデ。 内面…ナデ。	密(ウンモ、長石を含む。)	良好	外面…淡褐色 内面…淡黄橙色	NA −64
SI 03 小型甕(胴部)	Po140	57	−	983 1150	② 2.4△ ③15.2△	胴部の肩はゆるやか。厚さも一定。	外面…ナデ。 内面…頸部〜肩部にヨコナデ。以下ケズリ。	密(長石を含む。)	良好	内外面共に明橙色	NA −56
SI 03 小型甕	Po141	57	−	1146	② 2.7△	大きく肩が張る小型甕の胴部。	内・外面とも風化のため調整不明。	やや粗(1〜3mmの長石を含む。)	やや不良	外面…橙色 内面…淡褐色	F −105
SI 03 甕	Po142	57	28	905 908 1068 1280	② 8.0△ ③13.4	小型の甕又は直口壺の胴部片。肩部が張り最大径は中位以上にある。	外面…肩部にナデ。胴部にハケ目。 内面…肩部に指頭圧痕残る。以下左方向のヘラケズリ。	密(1〜2mmの石英を含む。)	良好	内外面共に橙色	胴部外面にスス付着。 KN −14
SI 03 直口壺	Po143	57	28	392	①12.8※ ②12.7△ ③14.3※	口縁部は、長く、外傾して立ち上がる。端部は、丸く収められる。胴部は球形になるものか。	外面…口縁部〜胴部肩部にヨコナデ。肩部以下に斜方向のハケ後ヨコハケ。 内面…口縁部〜肩部にヨコナデ。口縁部下半に凹線状のナデ。肩部以下にヘラケズリ後ナデ。	密(1〜4mm大の石英、長石、黒ウンモを含む。)	良好	内外面共に橙色	F −25
SI 03 直口壺	Po144	57	28	1047 1068 1278 1281	①11.6 ② 5.5△	直口壺の口縁である。口縁部は、下半で内彎して立ち上がり、上半でやや外反する。端部は、先細りし、丸味を持つ。	外面…ヨコナデ。 内面…ナデ。	密(1mmの長石を含む。)	良好	内面…淡黄橙色〜橙色 外面…橙色	NA −19
SI 03 直口壺	Po145	57	−	868 976	①11.0※ ② 4.6△	外傾しながら立ち上がる「く」字状口縁をもつ。端部は、ややうすくなっており、わずかに丸味をおびている。口縁部内面の段は不明瞭。	外面…ヨコナデ。 内面…ナデ。	やや粗(長石、石英、ウンモを含む。)	良好	内外面共に明橙色	NA −21
SI 03 胴部	Po146	57	−	365 404 927 1276	② 9.5△ ③15.4※	直口壺の胴部である。胴部は球形に張る。	外面…ナデ。 内面…上半にナデ後、指頭圧痕が残る。左方向と下方向にケズリ。	密(長石、石英、黒ウンモを含む。)	良好	外面…明黄橙色 内面…淡黄橙色	NA −22
SI 03 胴部	Po147	57	−	1251	② 9.7△ ③15.0	胴部は中央付近でゆるやかに曲がる。最大径は中央付近。厚さは、ほぼ一定だが、体部上部と下部がやや肥厚気味。	外面…胴部上半〜中央部にやや下方にナデ。胴部下半はヘラミガキ。 内面…胴部上部にナデ。肩部に指頭圧痕が残る。中央部〜下半は左方向のヘラケズリ。胴部下部に指頭圧痕が残る。	密(石英を含む。)	良好	外面…淡黄橙色 内面…淡黄灰褐色	外面体部下半にスス付着。 NA −57
SI 03 大型高坏	●Po148	58	29	976 1202 1205 1231	①23.3 ③13.4 ④13.8	坏部は、底部から屈曲して、外方へ直線的にのびる。端部は、外反してわずかに肥厚する。口縁部と底部との境には明瞭な段がある。筒部は、中空で短く直線的にひろがり裾部で大きく開く。	外面…端部に押圧による凹線あり。坏部上半に横方向のミガキ。坏部下半〜筒部にタテハケ後横方向ミガキ。裾部に横方向ミガキ。 内面…端部に細かいヨコハケ。坏部にヨコハケ後、斜方向ハケ。底面ナデ。筒部シボリ目残る。筒部下半〜裾部ナデ。	密(1〜4mm石英を含む。)	良好	内外面共に淡黄色	KN −25
SI 03 高坏	Po149	58	−	361 917	①24.0※ ②12.6△ ④12.0※	坏部は、底部から屈曲して外方へ、直線的にひろがる。端部は、やや外反し、わずかに肥厚して稜をなす。筒部は、中空で短く直線的にひろがり、裾部で大きくひろがる。口縁部と底部との境に明瞭な段をもつ。全体の半分以上欠損。	外面…端部に押圧による凹線あり。坏部にナデ、段のところに凹線あり。接合部にタテハケ。以下ナデ。坏底部に刺突痕あり。 内面…坏部にミガキ痕がかすかに残る。以下ナデ。	密(1〜2mmの石英を含む。)	良好	内外面共に淡黄橙色	NA −34

挿表12　宇谷第1遺跡出土土器観察表　⑦

出土遺構	土器番号	挿図	図版	取上番号	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成保存	色調	備考
SI 03 大型高坏	Po150	58	29	391 858 872 874 915 1050 1243	②21.3 ③12.6 ④13.5	坏部は、底部から屈曲して外方へ、直線的にのびる。端部は、やや外反して、丸味をもつ。口縁部と底部との境には明瞭な段がある。筒部は中空で短く直線的にひろがり、裾部に大きく開く。	外面…坏部にナデ。筒部にナデ。裾部にヨコナデ。 内面…坏部にヨコナデ、刺突痕あり。筒部にシボリ後ナデ。裾部ナデ、粘土の接合痕あり。	密(1～2㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に淡黄橙色	KN－22
SI 03 大型高坏	Po151	58	28	1060	①20.0※ ② 6.6△	大型高坏坏部の破片。坏部はやや丸味をもった底部から屈曲して直線的に外方へのびる。口縁部と底部との境の段は不明瞭。	内・外面とも風化のため調整不明。	密(1㎜大の石英、長石を含む。)	やや不良	内外面共に淡黄橙色	F－94
SI 03 大型高坏	Po152	58	29	1315	①24.7※ ② 7.6△	坏部は、底部から屈曲して外方に直線的にのびる。端部は、大きく外反し、丸味をもつ。口縁部と底部との境に明瞭な段をもつ。	外面…ヨコナデ。段の部分に凹線が巡る。 内面…ヨコハケ。	密(1～3㎜の石英、長石を含む。)	やや不良	内面…淡黄橙色 外面…淡黄橙～灰褐色	NA－50
SI 03 高坏	Po153	58	28	1195	①24.4※ ② 5.3△	口縁部のみ依存する。端部は、外反し、平坦面をなす。口縁部と底部との境に明瞭な段をもつ。	外面…ナデ。 内面…横方向のミガキ。	密(1～2㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に橙色	NA－45
SI 03 大型高坏	Po154	58	－	1195	①29.7※ ② 9.0△	坏部は、丸味をもった底部から屈曲して外方へ直線的にのびる。端部は、外反して丸く収める。口縁部と底部との境に明瞭な段をもつ。	内・外面とも風化のため調整不明。	やや粗(1～3㎜大の石英、長石を含む。)	やや不良	内外面共に淡橙色	F－92
SI 03 大型高坏	Po155	58	－	876 938 1225	② 3.8△	坏部は、やや丸味をもった底部から屈曲して直線的に外方へのびる。口縁部と底部との境には鈍い段をもつ。	外面…ヨコナデ。有段部分に凹線有り。 内面…丁寧なナデ。	密(1～2㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に橙色～淡褐色	F－93
SI 03 大型高坏	Po156	58	－	1197	①27.0※ ② 5.7△	口縁部のみ依存する。端部は、大きく外反し丸味をもつ。わずかに段が確認できる。	外面…ヨコナデ。 内面…タテハケ後ナデ。	密(1～2㎜の石英、長石を含む。)	良好	内面…黄橙色 外面…淡黄橙色	NA－44
SI 03 大型高坏	Po157	58	28	1243	①21.6※ ② 5.1△	口縁部と底部の境に段をもつ。端部は、やや外反し大きく外傾した平坦面をなすが、角は丸味をもつ。	外面…ヨコナデ。 内面…暗紋が施される。	密(4㎜程の砂粒を含む。)	良好	内外面共に淡橙黄色	内外面共に赤色塗彩。 NA－43
SI 03 高坏	Po158	58	29	1284 1309	② 9.0△ ④13.3	坏部は、大半を欠くが、有段のものと思われる。脚部は、細く直線的に開き、裾部で大きく広がる。	外面…坏部にヨコナデ。脚接合部にタテハケ。脚部にナデ。 内面…坏部にナデ。脚部シボリメをナデ消す。脚部にハケ目。	密(1㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に明橙色	裾部内面にヘラ記号有。 F－51
SI 03 高坏	Po159	59	29	876 1213 1218	①18.3※ ②12.1 ④ 8.35	浅い椀状の坏部をもつ。端部は、平坦面をなすが、角は丸味をもつ。筒部は、中空で直線的にひろがり、裾部は、大きくひろがる。裾部端は、カットしたような平坦面をもつ。	外面…坏部上半にハケ後ミガキ。坏部下端にタテハケ後ナデ最後に丁寧なミガキ。脚部上端にタテハケ。以下ナデ後ミガキ。 内面…坏部にヨコナデ。筒部に絞り後ナデ。裾部ナデ。	密(ウンモ、1～4㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に淡黄橙～橙色	裾部内面にヘラ記号。 KN－23
SI 03 高坏	Po160	59	29	876 978 1261 1266 1276	①17.3 ②12.4 ④9.45	浅い椀状の坏部をもつ。端部は、わずかに外反し丸味をもつ。筒部は、中空で直線的にひろがり裾部で大きく広がる。	外面…坏部タテハケ後上半にヨコナデ。下半ミガキ。接合部に沈線あり。筒部上端にタテハケ後ミガキ。下半ナデ後ミガキ。 内面…筒部はシボリ後上半ナデ、下半強いヨコナデ。裾部に指頭圧痕残る。粗いヨコハケ。	密(1～3㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に橙色	裾部内面ヘラ記号。 KN－21
SI 03 高坏	●Po161	59	29	1216 1231	①18.3※ ②12.3 ④ 9.6	浅い椀状の坏部をもつ。端部は、やや外反し丸味をもつ。筒部は、中空で直線的にひろがり裾部で大きくひろがる。	外面…坏部にヨコナデ。接合部に浅い沈線あり。筒部にタテハケ後ヨコナデ。下半細いミガキ。裾部にヨコナデ後細いミガキ。 内面…坏部にヨコナデ。筒部シボリ後ナデ。下半は強いヨコナデ。裾部に指頭圧痕残る。粗いヨコハケ。	密(1～2㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に橙色	裾部内面ヘラ記号。 KN－20
SI 03 高坏	Po162	59	30	389 390 402 862 991 1298	①17.8※ ②11.55 ④ 9.6※	浅い椀状の坏部をもつ。端部は、ごくわずか外反し丸味をもつ。筒部は、中空で直線的にひろがり裾部で大きくひろがる。	外面…坏部にタテハケ後横方向にミガキ。接合部に沈線あり。筒部上端にタテハケ。筒部～裾部にナデ。 内面…坏部にナデ。先尖の刺突痕あり。筒部シボリ後ヨコナデ。裾部に強いヨコハケ。	密(ウンモ、1～2㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に橙色	KN－32
SI 03 高坏	Po163	59	30	875 920 995 1150 1268	①18.6※ ②13.1 ④ 9.8※	坏部は、浅く、皿状を呈す。端部は、やや外反し、丸く収められる。筒部は、直線的に開き、裾部で大きく広がる。	外面…坏部にナデ。一部タテハケ残る。坏底部外面に刺突痕。脚部に縦方向のヘラミガキ。横方向のヘラミガキも認められる。裾部ヘラミガキ。 内面…坏部にナデ。一部斜方向のハケ。脚部シボリ残る。裾部ナデ。	密(1～4㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に橙色	F－44
SI 03 高坏	Po164	59	30	377 383 881	①17.8※ ②12.0 ④ 9.5※	坏部は、浅い椀状を呈す。端部は、やや外反し丸く収められる。筒部は、直線的に開き、裾部で大きく広がる。	外面…坏部に縦方向ハケ目後ヨコナデ。脚部縦方向ミガキ。裾部に丁寧なナデ。坏底部外面に刺突痕あり。 内面…坏部に丁寧なナデ。脚部上半部シボリ目残るが下半部はケズリ取る。裾部にハケ目が残る。	緻密(1～4㎜大の石英、長石をわずかに含む。)	良好	内面…黄橙色 外面…橙色	裾部内面ヘラ記号有。 F－58
SI 03 高坏	Po165	59	30	906 1244	①17.7※ ②12.6 ④ 9.8※	坏部は、浅く、椀状を呈す。端部は、やや外反し丸く収められる。直線的に開く筒部は、裾部で大きく広がる。	外面…坏部、脚部とも風化が著しく、調整不明。 内面…坏部にナデ。脚部シボリ残る。	密(1～4㎜大の石英、長石を含む。)	やや不良	内面…橙色 外面…淡黄色	F－46
SI 03 高坏	Po166	59	30	389 390 506 1130 1271	①17.5 ②12.9 ④ 8.8	坏部は、浅い椀状を呈す。端部は、やや外反し丸く収められる。筒部は、やや外反して開き、裾部で大きく広がる。	外面…坏部・脚部とも風化が著しく調整不明。ナデか。 内面…坏部にナデ。脚部シボリ目残る。	密(1㎜大の石英、長石、砂粒を含む。)	良好	内外面共に明橙色	裾部内面ヘラ記号有。 F－50
SI 03 高坏	Po167	59	30	361 876 922 924 1223	①17.8※ ②11.6 ④ 8.5※	坏部は、浅く、椀状を呈す。端部は、やや外反し丸く収められる。内面底部はもり上がる。筒部は、直線的に開き、裾部で大きく広がる。裾部は焼け歪む。	外面…坏部・脚部とも風化のため調整不明。坏底部外面に刺突痕。筒部には、坏接合部に凹線。 内面…坏部裾部は風化のため調整不明。脚部シボリ目残る。	密(1㎜大の石英、長石を含む。)	やや不良	外面…淡黄橙色 内面…橙色	F－59
SI 03 高坏	Po168	59	30	1189 1241	①17.7※ ②11.0 ④ 9.0※	椀形の杯部口縁部は外反し、口唇端は、丸くなっている。杯部は中央付近が肥厚している。中空で直線的にひろがる筒部である。裾部は、屈曲して大きく開いている。	外面…調整不明。風化著しい。 内面…坏部は風化が著しく調整不明。脚部はシボリ目残る。	密(石英、黒ウンモを含む。)	良好	内外面共に淡黄橙色	NA－40
SI 03 高坏	●Po169	60	30	1129 1185	①18.0 ②10.3△	坏部は、浅い椀状を呈す。端部は、やや外反し丸く収められる。筒部は、やや外反して開く。	外面…坏部・脚部ともナデ調整か。坏底部外面に刺突痕。脚部には、坏部との接合部に一条の凹線。 内面…坏部に縦方向のミガキ。脚部シボリ目をケズる。	密(1～3㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内面…淡黄橙色～橙色 外面…淡橙色～橙色	F－48
SI 03 高坏	Po170	60	31	1174	①16.9※ ②10.0△	坏部は、浅い椀状を呈す。端部は、やや外反し丸く収められる。筒部は、直線的に開く。	外面…坏部・脚部とも風化しており、調整不明。ナデか。 内面…坏部に風化が著しく調整不明。脚部にシボリ目残る。	密(1㎜大の石英、長石をわずかに含む。)	良好	内面…淡橙色～橙色 外面…淡橙色	F－49

挿表13　宇谷第1遺跡出土土器観察表　⑧

出土遺構	土器番号	挿図	図版	取上番号	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成保存	色調	備考
SI 03 高坏	Pb171	60	31	360 1193 1226	①17.9※ ②10.5△	坏部は、浅い椀状を呈す。端部は、やや外反し丸く収められる。脚部は、直線的にやや開く。	外面…坏部にヨコナデ。脚接合部はタテハケ。脚部は風化のため調整不明。坏底部外面に刺突痕有。 内面…坏部に縦方向のミガキ。脚部にシボリ目残る。	密(1～2㎜大の石英を含む。)	良好	内外面共に明橙色	F－54
SI 03 高坏	Pb172	60	－	384 1290 1291	①18.0※ ②10.2△	坏部は、浅い皿状を呈す。端部は、丸く収められる。筒部は、直線的に開く。	外面…風化のため調整不明。坏底部外面に刺突痕有り。 内面…筒部にシボリ目残る。	やや粗(2～3㎜大の石英、長石を含む。)	やや不良	内外面共に淡黄橙色	F－68
SI 03 高坏	Pb173	60	31	875 976	② 7.3△	坏部～筒部の破片。坏部は、浅い皿状を呈すものか。筒部は、直線的に開く。	外面…ヨコナデ。坏底部外面に刺突痕有り。 内面…坏部ナデ。筒部にシボリ目残る。	密(2～3㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に橙色	F－67
SI 03 高坏	●Pb174	60	31	1179	② 9.3△	坏部は、大半を欠くが、浅い椀状を呈す。筒部は、直線的に開く。	外面…坏部は風化のため調整不明。脚接合部にタテハケ。筒部に横方向のミガキ。坏接合部に凹線有り。坏底部外面に刺突痕有り。 内面…坏部は風化のため調整不明。筒部上半にシボリ目残るが下半はヘラケズリ。	密(1～3㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に淡橙褐色	F－62
SI 03 高坏	●Pb175	60	31	361 987 1146 1180	②10.5△ ④ 9.6	浅い椀状の坏部をもつ。筒部は、中空で直接的にひろがり、裾部は大きくひろがる。	外面…坏部下端に凹線、その後顕著なタテハケ。筒部にタテハケ後ヨコナデ。筒部上端沈線がめぐる。裾部にヨコナデ。端部に凹線あり。 内面…坏部にナデ。筒部にシボリ後上半ナデ、下半左方向ケズリ。裾部にナデ。	密(1～2㎜大の長石を含む。)	良好	内外面共に淡黄橙色	KN－24
SI 03 高坏	●Pb176	60	31	1232	②11.2△ ④ 9.2	浅い椀状の坏部を持つ。筒部は、中空で直線的にひろがり、裾部で大きくひろがる。	外面…坏部にタテハケ。筒部～裾部ナデ。裾部端部に凹線あり。 内面…坏部に斜方向にハケ。筒部にシボリ目残る。筒部下端に指頭圧痕残る。裾部にナデ。	密(1～2㎜大の石英を含む。)	良好	内外面共に淡黄橙色	KN－31
SI 03 高坏	Pb177	60	31	1150	② 8.5△ ④ 9.0※	坏部はほとんど欠くが、椀状に呈すものか。筒部は、直線的に開き、裾部で大きく広がる。	外面…脚部に縦方向ミガキ。裾部に丁寧なナデ。坏底部外面に刺突痕有り。 内面…脚上半部はシボリ目残るが、下半部はナデ消す。裾部粗いハケ目。	緻密(1㎜大の石英、長石をわずかに含む。)	良好	内外面共に橙色	F－56
SI 03 高坏	●Pb178	60	31	1191	② 9.2△ ④ 9.3※	坏部は、大半を欠く。筒部は、直線的に開き、裾部で大きく広がる。	外面…坏・脚部とも風化のため調整不明。筒部坏接合部に凹線有り。 内面…坏部は風化のため調整不明。筒部にシボリ目残る。	粗(1～3㎜大の石英、長石を含む。)	やや不良	内面…明黄色 外面…橙色	F－65
SI 03 高坏	Pb179	60	31	404 1287	② 9.8△ ④ 9.0※	坏部は、大半を欠くが、椀状を呈すものか。脚部は、細く直線的に開き、裾部で大きく広がる。	外面…坏部にタテハケ後ヨコナデ。脚接合部タテハケ。筒部タテハケ後縦方向のミガキ。裾部にナデ。 内面…坏部は丁寧なナデ。脚部にシボリ目残る。屈曲部に指頭圧痕残る。裾部ハケ目。	緻密	良好	内面…明黄褐色 外面…明赤褐色	裾部内面にヘラ記号有。F－55
SI 03 高坏	Pb180	61	－	397 506	①16.5※ ② 5.2△	浅い椀状を呈す坏部。端部は、やや外反し、丸くおさめられる。	外面…風化のため調整不明。坏底部外面に刺突痕有り。 内面…風化のため調整不明。	密(1～4㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に淡橙色	F－64
SI 03 高坏	Pb181	61	－	404	①16.6※ ② 5.5△	浅い椀状の坏部である。端部は外反し丸味をもつ。	内外面共にナデ。	密(1～2㎜の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に淡橙色	NA－41
SI 03 高坏	Pb182	61	32	1146 1204	①18.2※ ② 5.6△	浅い椀状の坏部。端部は丸い。	外面…風化しているがタテハケ残る。坏底部外面に刺突痕有り。 内面…ナデ。	やや粗(1～5㎜大の石英、長石を含む。)	やや不良	内面…にぶい黄褐色 外面…にぶい橙褐色	F－45
SI 03 高坏	Pb183	61	－	1051 1067	①17.6※ ② 5.5△	浅い椀状の坏部をもつ。端部は先細りしわずかに外反し、丸く収める。	外面…坏部上半にナデ後横方向のミガキ。坏部下半にタテハケ後横方向のミガキ。 内面…坏部にナデ後縦方向のミガキ。	密(1～2㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に淡黄橙色	KN－33
SI 03 高坏	Pb184	61	－	1017 1054	①18.5※ ② 5.3△	浅い椀状を呈す坏部。端部はやや外反して、丸く収められる。	外面…風化しているがヨコナデが認められる。脚接合部には縦方向のハケ目。坏底部外面に刺突痕有。 内面…風化のため調整不明。	密(1～2㎜大の石英、長石を含む。)	やや不良	内外面共に黄橙色～橙色	坏部外面にスス付着。F－60
SI 03 高坏	Pb185	61	－	873 914 1067	①18.0※ ② 4.7△	浅い皿状の坏部。	外面…口縁部付近にヨコナデ。底部付近に横方法のミガキ。脚接合部にタテハケ。 内面…丁寧なナデ。	密(1～2㎜大の石英、長石を含む。)	良好	外面…橙色 内面…黄橙褐色	F－80
SI 03 高坏	Pb186	61	32	1310	①16.8※ ② 4.9△	浅い椀状の坏部をもつ。端部は、やや外反し丸味をもつ。	外面…接合部にタテハケ。他は風化している。坏底部外面に刺突痕有。 内面…風化している。	密(1～3㎜大の石英を含む。)	良好	内外面共に淡黄橙色	NA－33
SI 03 高坏	Pb187	61	32	1020 1278	①17.0 ② 5.1△	浅い椀状の坏部をもつ。端部は、やや外反し丸味をもつ。	外面…タテハケ後にヨコナデ。坏底部外面に刺突痕残る。 内面…かすかにミガキ痕残る。	密(1～2㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に橙色～灰黄色	NA－30
SI 03 高坏	Pb188	61	32	39	①17.0※ ② 4.6△	浅い椀状の坏部である。	外面…風化著じるしい。ハケ目か。 内面…風化著じるしい。ケズリか。	密(1～2㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に淡黄橙色	NA－36
SI 03 高坏	Pb189	61	－	394 404 878 1067	①15.5※ ② 4.5△	浅い椀状の坏部の破片。	外面…タテハケ後にナデ。 内面…斜方向にミガキ。	密(ウンモ、1㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に橙色	NA－42
SI 03 高坏	●Pb190	61	32	1171	①18.9※ ② 5.3△	浅い椀形の高坏。端部は、やや外反し丸みをおびる。全体的に肉厚。	外面…ナデ。坏底部外面に刺突痕残る。 内面…風化が著じるしいがナデか。	やや粗(石英を含む。)	良好	内外面共に橙色	NA－29
SI 03 高坏	Pb191	61	32	871 1048 1175	①17.8※ ② 5.4△	浅い椀状を呈す坏部。端部は、やや外反し丸く収められる。	外面…風化のため調整不明。脚接合部に粘土接合痕が残る。坏底部外面に刺突痕有り。 内面…風化のため調整不明。	密(1～2㎜大の石英、長石を含む。)	やや不良	内外面共に淡橙色	F－53
SI 03 高坏	Pb192	61	－	1163	①17.8※ ② 3.8△	浅い椀状を呈す坏部の破片。端部は、やや外反し丸く収める。	外面…ヨコナデ。 内面…ナデか。	密(1～2㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に橙色	F－85
SI 03 高坏	Pb193	61	32	361	①17.4※ ② 4.7△	浅い椀状を呈す坏部。端部は、やや外反し、丸く収められる。	外面…風化しているが一部に斜方向のハケが認められる。脚部接合部に粘土接合痕が残る。坏底部外面に刺突痕有り。 内面…ナデか。	密(1～2㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に橙色	F－52

挿表14　宇谷第1遺跡出土土器観察表　⑨

出土遺構	土器番号	挿図	図版	取上番号	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成保存	色調	備考
SI 03 高坏	Po194	61	32	1168 1304	①18.2※ ② 4.9△	浅い椀状を呈す坏部。端部は、やや外反し、丸く収められる。	外面…風化のため調整不明。脚部接合部に縦方向のハケ目残る。坏底部外面に刺突痕。 内面…風化のため調整不明。	密(1～3mm大の石英、長石を含む。)	やや不良	内外面共に赤褐色	F－61
SI 03 高坏	Po195	61	33	395	①16.5※ ② 5.4△	浅い椀状の坏部である。	外面…坏部の上半にナデ。下半にタテハケ。接合部に粘土の接合痕あり。坏底部に刺突痕あり。 内面…坏部にナデ。	密(1～2mmの石英、長石を含む。)	良好	内外面共に橙色	NA－39
SI 03 高坏	Po196	61	－	397 1226	①17.5※ ② 4.2△	浅い椀状を呈す坏部の破片。端部は、やや外反し、丸く収める。	外面…ナデか。脚接合部に粗いタテハケ。 内面…ナデか。	密(1～3mm大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に橙色	F－86
SI 03 高坏	Po197	61	33	1248	①17.4※ ② 5.3△	浅い椀状の坏部をもつ。	外面…坏底部外面に刺突痕あり。 内面…風化している。	密(1～2mmの石英を含む。)	やや不良	内外面共に淡黄橙色	NA－35
SI 03 高坏	Po198	62	32	1023	①18.0※ ② 5.3△	浅い椀状の坏部。端部は、やや外反し、丸く収められる。	外面…ナデ。脚接合部にタテハケ。 内面…斜方向のハケ後にナデ。	密(1～4mm大の石英、長石、砂粒を含む。)	良好	内外面共に赤褐色	F－47
SI 03 高坏	Po199	62	－	977 1324	①18.4※ ② 4.5△	浅い椀状の坏部をもつ。端部は、ごくわずか外反し、外傾した平坦面をなすが、角は丸味をもつ。	内外面共にナデ。	密(1～2mmの石英を含む。)	良好	内外面共に淡橙色	NA－37
SI 03 高坏	Po200	62	－	881 1253	①21.2※ ② 3.9△	坏部の破片。	内外面共に風化が著じるしい。	密(1～3mmの石英を含む。)	良好	内外面共に淡黄橙色	NA－48
SI 03 高坏	Po201	62	－	926 975 1145	② 9.7△	高坏の口縁部片である。端部は、ごくわずかに外反し、丸味をもつ。	外面…ナデ。 内面…ミガキ。	密(1～2mm大の石英を含む。)	良好	内外面共に橙色	NA－59
SI 03 高坏	Po202	62	－	861	①16.4※ ② 4.4△	浅い皿状を呈す坏部。端部は、ほぼ直線的で丸く収められる。	内・外面とも風化のため調整不明。	密(1～3mm大の石英、長石を含む。)	やや不良	内外面共に黄橙色	F－66
SI 03 高坏	Po203	62	33	1218	①17.0※ ② 4.7△	浅い椀状を呈す坏部。端部は、やや外反し、丸く収められる。	外面…風化のため調整不明。坏底部外面に刺突痕有り。 内面…風化のしているが、ナデが認められる。	密(1～3mm大の石英、長石を含む。)	やや不良	内外面共に淡橙色	坏部外面にスス付着。 F－57
SI 03 高坏	Po204	62	－	1314	①16.6※ ② 5.2△	浅い椀状の坏部。端部は、外反し、先細りして丸味をもつ。	内外面共にナデ。	密(1～3mmの石英を含む。)	良好	内外面共に橙色	NA－47
SI 03 高坏	Po205	62	－	1150 1228	①18.1※ ② 3.7△	坏部の破片。端部は、やや外反し、丸味をもつ。	外面…坏部の上半にナデ。下半にタテハケ。 内面…横方向にミガキ。	密(1～3mmの石英を含む。)	良好	内外面共に暗橙色	NA－46
SI 03 高坏	Po206	62	－	1215	② 2.4△	坏底部の破片。浅い椀状を呈すものか。底部内面はややもり上がる。	内・外面とも風化のため調整不明。	やや粗(1～3mm大の石英、長石を含む。)	やや不良	内外面共に淡黄橙色	F－87
SI 03 高坏	Po207	62	－	1214	② 2.6△	坏底部の破片。大半を欠くが、浅い椀状を呈すものか。	内・外面とも風化のため調整不明。坏底部外面に刺突痕有り。	密(1～2mm大の石英、長石を含む。)	不良	内外面共に淡黄橙色	F－69
SI 03 高坏	Po208	62	－	976 1150	② 1.4△	坏底部の破片。浅い皿状を呈すものか。	外面…脚接合部にタテハケ。 内面…丁寧なナデ。	密(1mm大の石英をわずかに含む。)	良好	内外面共に橙色	F－76
SI 03 高坏	Po209	62	－	906	② 1.6△	坏底部の破片。浅い皿状を呈すものか。	外面…脚接合部にタテハケ。坏底部外面に刺突痕有り。 内面…丁寧なナデ。	密(1～2mm大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に橙色	F－75
SI 03 高坏	Po210	62	33	944	② 1.7△	坏底部の破片。浅い皿状を呈すものか。	外面…脚接合部にタテハケ。坏底部外面に刺突痕有り。 内面…風化のため調整不明。	密(1～2mm大の石英、長石を含む。)	良好	内面…淡黄色～橙色 外面…橙色	F－74
SI 03 高坏	Po211	62	－	910	② 3.2△	坏部～筒部の破片。坏部は大半を欠くが浅い皿状を呈すものか。	外面…風化のため調整不明。 内面…筒部のシボリ目残る。	やや粗(1～3mm大の石英、長石を含む。)	やや不良	内外面共に淡橙色	F－71
SI 03 高坏	Po212	62	33	1265	② 1.6△	坏底部の破片。	外面…ナデか。坏底部外面に刺突痕有り。 内面…丁寧なナデ。	密(1mm大の石英をわずかに含む。)	良好	内外面共に橙色	F－77
SI 03 高坏	Po213	62	33	395	② 1.4△	坏底部の破片。	内・外面とも風化のため調整不明。	やや粗(1～3mm大の石英、長石を多く含む。)	やや不良	内外面共に淡黄橙色	F－81
SI 03 高坏	Po214	62	33	394	② 3.1△	坏底部。大半を欠くが、椀状を呈すものか。	外面…ヨコナデ。坏底部外面に刺突痕有り。 内面…風化のため調整不明。	密(1～2mm大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に淡橙褐色	F－63
SI 03 高坏	Po215	62	33	1019	② 6.2△	高坏の筒部である。接合部のはく離面は平坦である。	外面…筒部の縦方向にヘラミガキ後、タテハケ。 内面…筒部にシボリ後、ナデ。	密(1～2mmの石英を含む。)	良好	内外面共に橙色	KN－34
SI 03 高坏	Po216	62	33	942 1242	② 4.7△	やや太めの、直線的に開く筒部の破片。	外面…坏接合部にタテハケが残る。 内面…上半部にシボリ目が残る。下半部にナデ消し。	密(砂粒を含む。)	良好	内外面共に橙色	F－176
SI 03 高坏	Po217	62	33	1148	②6.15△	高坏の筒部である。	外面…ナデ。 内面…シボリ後にナデ。	密(1～2mmの石英を含む。)	良好	内外面共に淡黄橙色	KN－35
SI 03 高坏	Po218	62	33	876	② 6.8△	坏部～筒部の破片。筒部は直線的に開く。	外面…風化のため調整不明。 内面…筒部上半にシボリ目が残るが、下半はナデ消す。	やや粗(1～3mm大の石英、長石を含む。)	やや不良	内外面共に淡黄橙色	F－70
SI 03 高坏	Po219	62	－	876	② 4.0△	直線的に開く筒部の破片。	外面…坏接合部に粗いタテハケ。凹線が巡る。 内面…シボリ目残る。	密	良好	内外面共に橙褐色	F－89
SI 03 高坏	Po220	62	－	1265	② 4.6△	直線的に開く筒部の破片。	外面…風化のため調整不明。 内面…シボリ目残る。	やや粗(1mm大の石英、長石多く含む。)	やや不良	内外面共に淡黄橙色	F－91
SI 03 高坏	Po221	62	－	852	② 4.4△	直線的に開く筒部の破片。	外面…風化のため調整不明。 内面…シボリ目をナデ消す。	密(1～2mm大の石英を含む。)	やや不良	内外面共に淡黄橙色～橙色	F－90
SI 03 高坏	Po222	62	－	876	② 2.8△	やや外反ぎみに開く筒部破片。	外面…風化のため調整不明。 内面…シボリ目残る。	密(1mm大の長石を含む。)	良好	内外面共に赤褐色	F－108
SI 03 高坏	Po223	63	－	1243	② 5.8△ ④ 9.9※	筒部は中空で直線的にひろがり、裾部は大きく広がる。	外面…筒部上端にタテハケ。以下ナデ。 内面…筒部にシボリ目残る。裾部に指頭圧痕残る。	密(1～3mmの石英を含む。)	良好	内外面共に淡黄橙～橙色	KN－30
SI 03 高坏	●Po224	63	33	1188	②6.55△ ④ 9.5※	筒部は中空で直線的にひろがり、裾部は大きく広がる。	外面…筒部にタテハケ。裾部にナデ。端部に凹線が巡る。 内面…筒部にシボリ後、下半に強いナデ。裾部にナデ。	密(1～2mmの長石を含む。)	良好	内外面共に淡黄橙色	筒内面に2条の縦のヘラ記号。 KN－29

挿表15　宇谷第1遺跡出土土器観察表　⑩

出土遺構	土器番号	挿図	図版	取上番号	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成保存	色調	備考
SI 03 高坏	Po225	63	33	996 1221	② 7.7△ ④9.75※	筒部は中空で直線的にひろがり、裾部は大きく広がる。	外面…裾部、筒部共にナデ後横方向にミガキ。筒部上端に沈線あり。裾部端に凹線が巡る。 内面…筒部にシボリ。下半強いナデ。裾部にナデ。	密(1～4㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に橙色	KN－27
SI 03 高坏	Po226	63	33	1291	②6.15△ ④12.5※	筒部は中空で直線的にひろがり、裾部は大きく広がる。	外面…筒部上端に沈線。筒部・裾部共にナデ。 内面…筒部にシボリ残る。裾部ナデ。	密(1～5㎜の長石を含む。)	良好	内外面共に淡黄橙色	KN－26
SI 03 高坏	Po227	63	33	995	② 8.0△ ④ 9.2※	筒部は中空で直線的にひろがり、裾部は大きく広がる。	外面…ナデか。 内面…筒部にシボリ目残る。	密(1㎜大の長石を含む。)	良好	外面…橙色 内面…黄橙褐色	F－73
SI 03 高坏	Po228	63	34	1222	② 7.4△ ④7.35※	筒部は中空で直線的にひろがり、裾部は大きく広がる。	外面…筒部にタテハケ後上端ミガキ、以下ナデ。後にミガキ。筒部上端に沈線有。 内面…筒部～裾部上半にシボリ目残る。裾部下半ヨコハケ。	密(1～2㎜の石英を含む。)	良好	外面…橙色 内面…淡黄橙色～橙色	裾部内面ヘラ記号あり。K－28
SI 03 高坏	Po229	63	－	1145	② 6.0△ ④ 9.6※	筒部～裾部の破片。筒部は直線的に開き、裾部で大きく広がる。	内・外面とも風化のため調整不明。筒部内面にシボリ目残る。	密	やや不良	内外面共に淡黄橙色	F－84
SI 03 高坏	Po230	63	34	881	② 8.2△ ④ 9.0	筒部は中空で直線的にひろがり、裾部で大きく広がる。	外面…風化している。 内面…筒部シボリ後ナデ。裾部風化している。	密(長石、ウンモ。1～2㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に淡橙色	裾部内面にヘラ記号あり。NA－38
SI 03 高坏	Po231	63	－	875 976	② 3.0△ ④10.8※	なだらかに広がる裾部の破片。	外面…丁寧なナデ。 内面…粗いヨコハケ。	密	良好	内外面共に黄褐色	外面に赤色塗彩。F－82
SI 03 高坏	Po232	63	－	875 942 976 977 993 1243	② 2.2△ ④14.7※	高坏の裾部である。	外面…ミガキ。 内面…斜方向ハケ。	密(1㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に暗橙黄色	NA－32
SI 03 高坏	Po233	63	－	1150	② 3.0△ ④ 9.8※	大きく広がる裾部の破片。	外面…ナデか。 内面…ナデか。	密(1～3㎜大の石英を含む。)	良好	内外面共に淡橙色	内面にヘラ記号あり。F－83
SI 03 高坏	Po234	63	－	243	② 2.7△ ④ 9.5※	大きく広がる裾部の破片。	外面…丁寧なナデ。端部に凹線が巡る。 内面…ヨコハケ。	密(1㎜大の石英を含む。)	良好	内外面共に赤褐色	F－88
SI 03 大型高坏	Po235	63	－	909	② 2.8△ ④17.5※	大きく広がる大型高坏の裾部の破片。	内・外面とも風化のため、調整不明。	やや粗(1～2㎜大の石英、長石を含む。)	やや不良	内外面共に黄橙色～橙色	裾部内面にヘラ記号あり。F－79
SI 03 大型高坏	Po236	63	33	934	② 3.2△ ④19.0※	大きく広がる大型高坏の裾部の破片。	内・外面とも風化のため、調整不明。	やや粗(1～2㎜大の石英、長石を含む。)	不良	内外面共に黄橙色	F－78
SI 03 小型高坏	Po237	63	－	1097 1017	② 9.6△ ④ 3.4※	小型の椀状の坏部である。坏部は内彎気味で、端部は丸味をもつ。	外面…ヨコハケ。 内面…横方向のミガキ。	密(1～5㎜大の石英を含む。)	良好	内面…暗黄橙色 外面…暗黄橙～灰黄橙色	NA－49
SI 03 小型高坏	Po238	63	－	1188	①13.4※ ② 2.8△	坏底部より内彎して立ち上がる口縁をもつ小型の坏部。	外面…風化のため調整不明。 内面…丁寧なナデ。	やや粗(1～3㎜大の石英、長石を多く含む。)	良好	内外面共に橙褐色	坏部外面に黒斑あり。F－72
SI 03 小型高坏	Po239	63	33	978 1246 1274	①11.7※ ② 4.0△	小型で浅い椀状の坏部をもつ。坏部は底部から内彎気味に上がり、端部はごくわずかに外反する。	外面…坏部、上半横方向ミガキ。下半タテハケ。坏底部外面に刺突痕残る。 内面…坏部横方向ミガキ。	密(1～2㎜の石英を含む。)	良好	内面…橙色 外面…淡橙色	NA－31
SI 03 小型丸底壺	Po240	64	34	359	① 9.0※ ② 8.7 ③ 9.2	口縁部は内彎気味に外傾しながら立ち上がる。「く」の字状口縁。頸部はやや丸みをおびている。頸部は、やや肥厚しており、肩部は球形で胴部に至る。胴部は中央付近で、最大径となる。底部は丸い。	外面…口縁部～頸部・体部上半ナデ。体部下半では、斜方向のハケ目。 内面…口縁部～頸部・肩部にナデ。胴部上半指頭圧痕残る。胴部下半左方向ケズリ。	密(長石を含む。)	良好	内外面共に淡黄橙色	NA－51
SI 03 小型丸底壺	Po241	64	34	1230	① 8.6 ② 8.2 ③ 9.4	口縁部を一部欠くが完形品。口縁部は、やや短めで、軽く内彎して外方へ開く。端部は丸く収められる。胴部は扁球形で、口径よりやや大きく張る。	外面…口縁部～肩部ヨコナデ。肩部以下斜方向～縦方向のハケ。 内面…口縁部ヨコナデ。肩部に指頭圧痕残る。肩部以下左方向ケズリ。底部に指頭圧痕残る。	密(1㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に浅黄橙色	F－39
SI 03 小型丸底壺	Po242	64	34	254 402 507 1256 1265	① 7.6※ ②6.35△ ③ 9.4	口縁部はやや内彎気味に開く。「く」の字状口縁。端部は先細りし、丸味をもつ。胴部は扁球形に張る。	外面…口縁部～頸部ヨコナデ。肩部にハケ目。 内面…口縁部～頸部にヨコナデ。肩部に指頭圧痕残る。以下、左方向ケズリ。	密(1～2㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に橙色	KN－15
SI 03 小型丸底壺	Po243	64	34	1097 1220 1326	① 8.4※ ② 7.2△	外傾しながら立ち上がる「く」の字状口縁をもつ。端部はやや丸みをおびている。口縁部径は、体部の最大径を超える。体部は扁球状である。	外面…口縁部～胴部肩付近にヨコナデ。 内面…口縁部～胴部肩部付近にヨコナデ。胴部中央に指頭圧痕。胴部下部にヨコハケ。	密(ウンモを含む。)	やや不良	内面…淡黄橙色 外面…明黄橙色	NA－20
SI 03 小型丸底壺	●Po244	64	35	360 404 852 857 1194	① 8.0※ ② 7.2△ ③ 9.6※	口縁部は短く、やや内彎して外方へ開く。端部は内側に肥厚し、内傾する平坦面をなす。胴部は扁平で、口径より大きく張る。胴部は焼け歪む。	外面…口縁部ヨコナデ。胴部ヨコナデか。肩部に羽状文が施されるが、途中からパターンが変わり、不規則な線刻となる。 内面…口縁部ナデか。胴部上半に指頭圧痕残る。下半部は左方向ケズリ。	やや粗(1㎜大の石英、長石を含む。)	やや不良	内外面共に赤褐色	F－97
SI 03 小型丸底壺	Po245	64	34	403 1229	① 9.0※ ② 4.6△	口縁部は短く、ゆるやかに内彎して外方へ開く。端部は、丸く収められる。体部は偏球形で、口径に比して大きくなるものか。	外面…口縁部にわずかにミガキが認められる。胴部は風化しているが、ミガキ仕上か。 内面…口縁部～肩部ヨコナデ。肩部以下横方向のケズリ。	緻密(1㎜大の石英をわずかに含む。)	良好	内外面共に明橙色	F－36
SI 03 小型丸底壺	Po246	64	34	1061	① 9.0※ ② 4.7△	口縁部はやや短く、軽く内彎して外方へ開く。端部は丸い。胴部は、肩部があまり張らない扁球形を呈するものか。	外面…風化が著しく、調整不明。ヨコナデか。 内面…口縁部ヨコナデ。肩部に指頭圧痕残る。	密(1～2㎜大の石英、長石を含む。)	不良	内外面共に浅黄橙色	F－40
SI 03 小型丸底壺	Po247	64	34	976 1097 1160 1168	①10.0※ ② 6.0△ ③11.4※	口縁部はやや短く、ゆるく内彎して外方へ開く。端部は丸い。胴部は偏球形で、口径より大きく張る。	外面…ヨコナデ。 内面…口縁部ヨコナデ。胴部上半に指頭圧痕残る。下半部ケズリ。	密(1㎜大の石英を含む。)	やや不良	内外面共に橙色	F－96
SI 03 小型丸底壺	Po248	64	34	1246	① 8.4※ ② 2.8△	内彎気味に外傾しながら立ち上がる口縁。端部はやや丸みをおびている。全体的に肉薄。	外面…ナデ。 内面…ナデ。	やや粗	やや不良	内外面共に淡黄灰褐色	口縁外面にスス付着。NA－52

挿表16　宇谷第1遺跡出土土器観察表　⑪

出土遺構	土器番号	挿図	図版	取上番号	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成保存	色調	備考
SI 03 小型丸底壺(口縁)	P249	64	34	1256	①10.3※ ②3.25△ ⑤2.0	口縁部は外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁。端部は丸い。口縁部下端は、外方にかすかに突出し丸味をもって直線的に頸部に至る。口縁内部の段は、不明瞭。	外面…ナデ。 内面…ナデ。	密(黒ウンモ、石英を含む。)	良好	内外面共に浅黄橙色	黒斑有。 NA－26
SI 03 小型丸底壺	P250	64	34	868 1273	② 6.6△ ③ 9.2※	口縁部はやや短かめで、軽く内彎して外方へ開く。胴部は扁球形で、口径よりやや大きく張る。	外面…口縁部～胴部に横方向のミガキ。 内面…口縁部に丁寧なナデ。胴部上半に指頭圧痕残る。下半部は右方向ケズリ。	密(砂粒を含む。)	良好	内外面共に橙色	F－95
SI 03 小型丸底壺	P251	64	－	977	② 4.8△ ③10.5※	扁球形を呈す小型丸壺の胴部。胴部は大きく張る。	外面…ナデか。中位に斜方向のハケ目残る。 内面…肩部に指頭圧痕残る。肩部以下ナデか。	密(1～3㎜大の石英、長石をわずかに含む。)	良好	内外面共に橙色	外面に黒斑有。 F－102
SI 03 小型丸底壺	P252	64	34	976 1265 1275	② 4.3△ ③9.35※	小型丸底壺の胴部である。頸部に凹線巡る。扁球形の胴部で、最大径はほぼ中位にある。	外面…頸部を強く押え、凹線が入る。以下ヨコナデ。 内面…肩部に指頭圧痕残る。胴部に左方向ヘラケズリ。	密(ウンモ、1～2㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に橙色	KN－13
SI 03 小型丸底壺	P253	64	－	852	② 4.5△ ③10.0※	扁球形を呈す、小型丸底胴部の破片。	外面…丁寧なナデ。 内面…上半にナデ。下半以下に左方向ケズリ。	密(1～2㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に橙色	F－104
SI 03 小型丸底壺	P254	64	34	1097	② 5.6△ ③ 9.0※	胴部は、中央付近で、鋭くカーブする。最大径もほぼ体部中央。厚さはほぼ一定だが、中央下付近が、やや肥厚気味。	外面…頸部にナデ。肩部横方向にミガキ。以下はハケ目。 内面…頸部にナデ。肩部に指頭圧痕残る。以下横方向にケズリ。	密(石英、黒ウンモを含む。)	良好	内外面共に明橙色	NA－54
SI 03 小型丸底壺	P255	64	34	402 876 1017	② 4.2△ ③ 9.2※	肩部が、あまり張らない扁球形の胴部。胴部最大径は、下半以下にある。	外面…風化しているが、下半部に斜方向のハケ。 内面…肩部に指頭圧痕残る。肩部以下左方向にケズリ。	密(1～3㎜大の石英、長石を含む。)	やや不良	内外面共に淡橙褐色	F－37
SI 03 小型丸底壺	P256	64	34	1306	② 5.8△ ③ 9.2※	体部は、なだらなかな肩をもつ。上半部中央で最大径となる。厚さはほぼ一定。	外面…風化が著しい。調整不明。 内面…肩部ではナデ。以下にケズリ。	やや粗(石英、長石を含む。)	不良	内面…淡黄灰褐色 外面…淡黄橙色	NA－58
SI 03 小型丸底壺	P257	64	34	365	② 4.8△	小型丸底壺の胴部である。肩部はなだらかで、胴部は横方向に扁球形をなす。	外面…肩部にヨコナデ。以下は横方向にミガキ。 内面…肩部に指頭圧痕残る。以下左方向にケズリ。	密(0.5～2㎜大の石英、ウンモを含む。)	良好	内外面共に橙色	胴部外面スス付着。 NA－55
SI 03 小型丸底壺	P258	64	－	403	② 4.2△ ③ 9.0※	小型丸底壺胴部の破片。肩部が大きく張る。	外面…ヨコナデか。 内面…胴部上半部に指頭圧痕残る。下半部にヘラケズリ。	密(1㎜大の石英・長石を含む。)	良好	内外面共に淡褐色	F－98
SI 03 摺鉢	P259	65	－	876	② 1.6△ ④12.0※	摺鉢の底部である。	外面…底部外面に工具による刺突痕あり。 内面…底部内面に、6条の櫛描沈線あり。	緻密(1～4㎜大の長石を含む。)	良好	内面…暗茶褐色 外面…暗赤褐色	KN－69
SI 03 把手付鉢	P260	65	－	876	①21.0※ ② 2.3△	口縁部は丸くくり上げるもので、口縁部にはやや上方へ向く環状の把手がつく。	内外面共に回転ナデ。	密	良好	内外面共に淡黄橙色	内面に赤色塗彩。 NA－87
SI 03 須恵器甕	P261	65	－	876	② 5.2△	甕胴部の破片。	外面…同心円文叩き。 内面…平行叩き。	緻密	良好	内外面共に淡灰色	KN－70
SI 05 甕	●P262	66	－	1366	② 5.7△	口縁部はほぼ直立して立ち上がる複合口縁。端部は破損。口縁部下端は、わずかに下垂する。頸部は「く」字状に屈曲する。口縁部内面の段は、不明瞭。	外面…口縁部平行沈線が施される。頸部にヨコナデ。 内面…口縁部～頸部ハケ後にヨコナデ。頸部の左方向にヘラケズリ。	密(1～3㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に淡黄色	KN－43
SI 05 甕	P263	66	36	463	①19.4※ ② 4.4△ ⑤ 4.4	甕の口縁部片。端部は丸味をもつ。口縁部下端はわずかに下垂する。	外面…細かい平行沈線が施される。 内面…ヨコナデ。	密(1～3㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に黄褐色	KR－56
SI 04 甕	P264	66	36	145	①16.2※ ② 4.6△ ⑤ 3.4	口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は丸味をもつ。口縁部下端は下垂する。頸部は「く」字状に屈曲する。口縁部内面の段は、不明瞭。	外面…口縁部平行沈線が施される。頸部にナデ。 内面…口縁部にナデ。頸部にヨコミガキ。頸部以下にケズリ後ナデ。	密(ウンモ、1～2㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に淡橙褐色	KR－37
SI 05 甕	P265	66	36	108	①18.6※ ② 4.3△ ⑤ 3.6	口縁部は、肉厚でやや外傾して立ち上がる複合口縁。端部はかすかに平坦面をなすが、角は丸い。口縁部下端はわずかに外方にふくらむ。口縁部内面の段は、不明瞭。	外面…口縁部に2回以上の平行沈線が施される。以下横方向にミガキ。 内面…風化している。	密(ウンモ、1㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に淡黄褐色	KR－40
SI 05 甕	P266	66	36	450	①13.4※ ② 3.3△ ⑤ 2.3	口縁部は、肉厚で外傾して立ち上がる複合口縁。端部は丸味をもつ。口縁部下端はなだらかに屈曲する。	外面…口縁部に不規則な平行沈線が施される。頸部にヨコハケ。 内面…口縁部に強いヨコナデ。頸部以下に左方向ケズリ。	密(ウンモ、0.5～5㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に淡褐色	KR－54
SI 05 甕	P267	66	－	107 462	①15.0※ ② 5.5△ ⑤ 3.2	口縁部は、肉厚で直立気味に立ち上がる複合口縁。	内外面共に風化している。	やや粗(1～4㎜の石英を含む。)	やや不良	外面…褐色 内面…淡褐色	口縁部内面スス付着。 KR－47
SI 05 甕	P268	66	－	450	①14.0※ ② 3.8△ ⑤ 2.0	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は丸味をもつ。口縁部下端はわずかに下垂する。口縁部内面の段は不明瞭。	内外面共に風化している。	密(ウンモ、1～3㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に暗褐色	頸部外面に光沢のある黒色の付着物あり。 KR－53
SI04·05 甕	P269	66	－	30 245	①15.1※ ② 4.0△ ⑤ 3.0	口縁部は、直立気味に立ち上がる複合口縁。端部は肥厚して、外方へ突出し、外傾した平坦面に凹線が巡る。内縁部下端は、やや外方に突出するが、鈍く丸味をもつ。	内外面共にヨコナデ。	密(ウンモ、1㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に黄褐色	KR－39
SI 05 甕	●P270	66	36	885	① 9.4※ ② 5.7△ ⑤ 1.6	小型の甕である。口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は丸味をもつ。頸部はゆるやかな「く」字状である。肩部は、なだらかに胴部に至る。口縁部内面の段は、不明瞭。	外面…口縁部にヨコナデ。頸部以下にナデ。 内面…口縁部にヨコナデ。頸部以下に右方向ケズリ。	密(ウンモ、1～3㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に淡黄褐～黄灰褐色	KR－45
SI 05 底部	P271	66	36	249	② 2.5△ ④ 6.5※	底部は、平底である。	外面…縦方向にミガキ。底部外面にナデ。 内面…上方向ケズリ。	やや粗(1～4㎜の石英を多く含む。)	良好	内面…黒褐色 外面…黄褐色	KR－41
SI 04 高杯	P272	67	36	467	①20.4※ ② 3.0△	高杯の口縁部片である。端部は、外反して丸味をもつ。	外面…ヨコナデ。刺突痕が残る。 内面…横方向ミガキ。	密(ウンモ、0.5～1㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に淡橙褐色	KR－49
SI 05 高杯	P273	67	36	449 453	①16.7※ ② 3.6△	高杯の口縁部片である。端部は、丸味をもつ。	内外面共にヨコナデ。	密(ウンモ、1～2㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に淡橙褐色	KR－48

挿表17　宇谷第1遺跡出土土器観察表　⑫

出土遺構	土器番号	挿図	図版	取上番号	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成保存	色調	備考
SI 06 甕	●Po284	68	37	530	①15.5※ ②10.7△ ⑤ 2.2	口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は外方へ肥厚して突出し、やや外傾する平坦面をなす。口縁部下端は鈍く外方へ突出し、丸味をもって頸部に至る。口縁部内面の段はゆるやか。胴部は、ほぼ球形を呈すものと思われる。	外面…口縁部に強いヨコナデ。胴部にヨコハケ後ナデ。肩部に工具による刺突文が3ヶ所有り。 内面…口縁部にヨコナデ。肩部に指頭圧痕残る。肩部以下に右方向へラケズリ。	やや粗(1～5㎜大の石英・長石を含む。)	やや不良	内外面共に淡褐色～明褐色	KR－81
SI 06 甕	Po285	68	－	714	①16.8※ ②3.65△ ⑤2.35	口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外方に肥厚して突出し、外傾した平坦面に凹線が巡る。口縁部内面の段は、不明瞭。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。口縁部下端に粘土の接合痕あり。	密(ウンモを多く含む。)	良好	内面…暗黄橙～橙色 外面…橙色	KN－38
SI 06 甕	Po286	68	－	405	①23.0※ ② 6.5△	大きく外傾して開く、「く」字状口縁。端部は丸い。胴部はあまり張らない。厚手。	外面…ヨコナデ。 内面…口縁部にヨコナデ。頸部以下に左方向へラケズリ。	密	良好	内外面共に暗褐色	口縁部赤変部分あり。 KR－103
SI 06 甕	●Po287	68	－	255 526	①18.7※ ② 4.3△ ⑤ 2.5	口縁部は、大きく外傾して開く複合口縁。端部は丸い。口縁部下端は下垂する。口縁部内面の段は、ゆるやか。	外面…丁寧なヨコナデ。 内面…口縁部に丁寧なヨコナデ。頸部以下に左方向へラケズリ。	密(1～2㎜大の石英・長石を含む。)	良好	内外面共に明褐色	口縁部内外面に赤色塗彩。 KR－106
SI 06 甕	Po288	68	37	407 527	②18.0△ ③24.0※	ほぼ球形に張る胴部。最大径をほぼ中位にもつ。	外面…ナデ。肩部に棒状工具による刺突文2ヶ所あり。 内面…肩部に指頭圧痕の後へラケズリ。肩部以下の左方向へラケズリ。底部付近、右方向へラケズリが認められる。	やや粗(1～5㎜大の石英・長石を含む。)	やや不良	外面…明褐色 内面…淡褐色～淡赤褐色	KR－85
SI 06 甕	Po289	68	－	323	①20.6※ ② 5.3△ ⑤ 3.4	口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は先細りして丸く収める。口縁部下端は外方にわずか突出する。口縁部内面の段は、不明瞭。	外面…口縁部に8条の平行沈線が施される。頸部にヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	粗(長石、1～3㎜の石英を含む。)	やや不良	内面…淡黄橙～灰色 外面…淡黄橙色	外面スス付着。 KN－40
SI 06 甕	Po290	68	－	714	①17.2※ ② 2.9△ ⑤ 2.3	口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁。口唇端部は丸く収める。口縁部下端は鈍く屈曲する。口縁部内面の段は、不明瞭。	外面…口縁部に5条の平行沈線が施される。 内面…口縁部にヨコナデ。	密(1～3㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に淡黄色	KN－39
SI 06 甕	Po291	68	－	406	①16.0※ ② 5.0△ ⑤ 3.3	口縁部は、やや外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁。端部は肥厚し、丸く収める。口縁部下端は鈍く屈曲し、頸部へ至る。口縁部内面の段は、ゆるやか。	外面…口縁部に11条の平行沈線が施される。頸部にナデ。 内面…口縁部にヨコナデ。頸部以下に左方向へラケズリ。	密(1～2㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に黄褐色	KR－108
SI 06 甕	Po292	68	－	343	①14.8※ ② 3.3△ ⑤ 1.9	口縁部は、やや外反気味に外傾して短かく立ち上がる複合口縁。端部は丸い。口縁部下端はわずかに下垂する。口縁部内面の段は、不明瞭。	外面…口縁部平行沈線が施される。頸部にナデ。 内面…口縁部に丁寧なナデ。頸部以下に左方向へラケズリ。	密(1～2㎜大の石英・長石を含む。)	良好	内外面共に赤褐色	KR－107
SI 06 甕	Po293	68	－	508	①15.3※ ② 5.2△ ⑤ 3.0	口縁部は、やや外反気味に外傾する複合口縁。端部は丸い。口縁部下端は鋭く屈曲し、頸部へ至る。口縁部内面の段は、ゆるやか。	外面…口縁部は風化しているが、平行沈線がかすかに残る。頸部にナデ。 内面…口縁部にヨコナデ。頸部屈曲部にヘラケズリの後、ナデ。頸部以下にヘラケズリ。	やや粗(1～3㎜大の石英・長石を含む。)	良好	内外面共に明褐色	KR－104
SI 06 甕	Po294	68	－	255 347 511	①15.4※ ② 5.0△ ⑤ 2.9	口縁部は、やや外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁。端部は丸い。口縁部下端は鋭く屈曲し、やや長めの頸部へ至る。口縁部内面の段は、ゆるやか。	外面…頸部にナデ。他は風化のため調整不明。 内面…口縁部にヨコナデ。頸部ケズリ後ナデ。頸部以下にヘラケズリ。	やや粗(1～3㎜大の石英・長石を含む。)	良好	内外面共に淡褐色	KR－105
SI 06 小型丸底壺	●Po295	68	37	524	②5.55△ ③ 9.2	小型丸底壺の胴部である。肩部はなだらかで、胴部が張り、横方向に扁球形をなす。底部は丸底である。	外面…風化著しい。 内面…肩部と底部に指頭圧痕。胴部に右方向へラケズリ。	密(1～2㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に淡黄橙色	KN－37
SI 06 高杯	Po296	68	－	521 522 523	①16.6※ ② 3.7△	浅い椀状を呈す坏部の破片。端部はやや外反し、丸くおさめる。	外面…風化のため調整不明。 内面…ヨコナデか。	やや粗(1～2㎜大の石英・長石を含む。)	やや不良	内外面共に橙褐色	内・外面に赤色塗彩。 KR－110
SI 06 須恵器台付長頸壺	Po297	69	37	256 300 319 321～322 324～332 334～341 348～352 354 355 357 516	②20.0△ ③19.0 ④10.6※	口縁部を欠く台付長頸壺。頸部はやや外反して開き、胴部は肩部が屈曲して大きく張る。底部には外方へ張り出す台が付く。	外面…回転ナデの後に頸部に2条の凹線。胴部3条の凹線。 内面…胴部～頸部に回転ナデ。底部指頭圧痕残る。	密(1～5㎜大の石英を含む。)	良好	内外面共に灰色～淡灰色	頸部・胴部に自然釉 KR－16
SI 06 須恵器短頸壺	Po298	69	－	256 353	①11.0※ ② 5.4△ ③14.4※	頸部はやや外傾して短く立ち上がる。胴部が大きく張る。	外面…回転ナデ。 内面…回転ナデ。	密(砂粒を含む。)	良好	外面…灰色～暗灰色 内面…濃青灰色	KR－109
SI 06 須恵器甕	Po299	69	－	20	② 3.1△	胴部破片。	内面…同心円文叩き。 外面…平行叩き。	密	良好	内外面共に灰色	KN－42
SI 06 須恵器坏身?	Po300	69	－	714	② 4.4△	坏身の破片か。	内外面ともナデ。	密	良好	内面…明灰色 外面…青灰色	KN－41
SI 07 壺	●Po301	69	37	566 575 642	①18.6※ ② 5.7△ ⑤ 3.2	口縁部はやや外反して外傾する複合口縁。端部は丸い。口縁部下端はわずかに下垂する。口縁部内面の段は不明瞭。頸部は屈曲して胴部へ至る。	外面…口縁部平行沈線文が施される。頸部ナデ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部ヘラケズリの後にナデ。頸部以下、左方向へラケズリ。	やや粗(1～3㎜大の石英・長石を含む。)	やや不良	内外面共に淡褐色～淡橙褐色	口縁部にスス付着。 KR－77
SI 07 壺	●Po302	69	37	641	①19.0※ ② 5.0△ ⑤ 3.3	口縁部はやや外反して外傾する複合口縁。端部は丸い。口縁部下端は下垂し、頸部へ至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…口縁部15条の平行沈線文が施される。頸部ヨコナデ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部右方向へヘラケズリ。	密(1～7㎜大の石英・長石を含む。)	良好	内面…淡褐色 外面…淡黄褐色	口縁部～頸部外面にスス付着。 KR－89
SI 07 甕	Po303	69	－	579	①15.7※ ② 4.7△ ⑤ 2.9	口縁部はやや外反して外傾する複合口縁。端部は丸い。口縁部下端は屈曲し、頸部へ至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…口縁部10条の平行沈線文が施される。頸部ナデ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部以下、左方向へラケズリ。	やや粗(1～2㎜大の石英・長石を含む。)	良好	内外面共に淡褐色	KR－88
SI 07 甕	Po304	69	37	637	①14.7※ ② 4.5△ ⑤ 3.2	口縁部はやや外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁。端部は丸い。口縁部下端はわずかに下垂する。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…口縁部は風化しているが、平行沈線文が残る。頸部ヨコナデ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部以下、ヘラケズリ。	密(1～4㎜大の石英・長石を含む。)	良好	内外面共に淡褐色	KR－91
SI 07 甕	Po305	69	－	1178	①19.6※ ② 4.9△ ⑤ 3.2	口縁部はわずかに外傾して立ち上がる複合口縁。口縁部下端は鈍く屈曲する。口縁部内面の段は不明瞭である。	外面…口縁部は、わずかに平行沈線文のあとが残る。以下はヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	粗(1～2㎜大の石英多く含む。)	不良	内外面共に浅黄橙～灰褐色	KN－54
SI 07 甕	Po306	69	37	571	①16.4※ ② 5.2△ ⑤ 3.1	口縁部はやや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は丸い。口縁部下端はやや下垂する。口縁部内面の段はゆるやかで、頸部で屈曲し胴部へ至る。胴部は薄手。	外面…口縁部櫛描波状文。頸部ナデ。 内面…口縁部ナデ。頸部以下、右方向へラケズリ。	密(1～4㎜大の石英・長石を含む。)	良好	内外面共に明褐色	口縁部外面にスス付着。 KR－95

挿表18　宇谷第1遺跡出土土器観察表　⑬

出土遺構	土器番号	挿図	図版	取上番号	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成保存	色調	備考
SI07 甕	P307	69	37	43 232 574 576	①17.0※ ② 5.7△ ⑤ 3.0	口縁部はやや外反して立ち上がる複合口縁。端部は平坦面をなす。口縁部下端はゆるやかに屈曲し、頸部へ至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…口縁部風化しているが、波状文が残る。 内面…口縁部丁寧なヨコナデ。頸部以下、ヘラケズリ。	密(1～3㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に暗黄褐色	頸部外面にスス付着。 KR－96
SI07 甕	P308	69	－	480 586	①16.2※ ② 5.1△ ⑤ 3.4	口縁部はやや外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁。端部は丸い。口縁部下端は鋭く屈曲して頸部へ至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…口縁部は風化しているが、平行沈線が残る。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部以下、右方向ヘラケズリ。	粗(1～4㎜大の石英、長石を多量に含む。)	良好	内外面共に淡褐色	口縁部内外面に赤色塗彩。 KR－97
SI07 南側 SI06 甕	P309	69	－	229 1108	①15.6※ ② 4.4△ ⑤ 3.0	口縁部はやや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は丸い。口縁部下端は鋭く屈曲して頸部へ至る。口縁部内面の段は不明瞭。	外面…口縁部端部付近に一条の凹線が入り、貝殻腹縁による波状文を施す。頸部ヨコナデ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部以下左方向ヘラケズリ。	やや粗(1～3㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に黄褐色	KR－98
SI07 南側 甕	P310	69	－	1128	①15.9※ ② 4.3△ ⑤ 3.0	口縁部はやや外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁。端部は丸い。口縁部下端はやや下垂する。胴部は薄手。	外面…口縁部には櫛描沈線文。上半部はナデ。頸部ヨコナデ。 内面…丁寧なヨコナデ。頸部左方向ヘラケズリ。	やや粗(1～3㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に明褐色	KR－94
SI07 甕	●P311	70	38	634	①15.8※ ② 6.6△ ⑤ 3.2	口縁部はやや外反して立ち上がる複合口縁。端部はやや薄く引き出される。口縁部下端はやや下垂する。口縁部内面の段はゆるやかで、頸部で屈曲して胴部に至る。	外面…風化しているが、口縁部に平行沈線文がわずかに残る。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部以下ヘラケズリ。	粗(1～3㎜大の石英、長石を多量に含む。)	良好	内外面共に淡褐色	KR－93
SI07 甕	P312	70	38	634	①16.8※ ② 4.8△ ⑤ 3.0	口縁部はやや外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁。端部は引き出される。口縁部下端はやや下垂する。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…風化のため調整不明。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部以下ヘラケズリ。	やや粗(1～3㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に淡褐色	口縁部外面にスス付着。 KR－99
SI07 甕	P313	70	38	230 543	①16.5※ ② 3.9△ ⑤ 2.6	口縁部はやや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は肥厚して外方へ突出し、外傾した平坦面に凹線が巡る。口縁部下端はやや外方に突出するが、鈍く丸味をもって頸部に至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…口縁部は強いヨコナデ。特に口縁部下端は1条の凹線によって際だたせる。 内面…口縁部ヨコナデ。	密(1～2㎜大の石英を含む。)	良好	内外面共に淡灰褐色	KN－48
SI07 甕	P314	70	37	256 543 556 560 562	①18.2※ ② 6.0△ ⑤ 2.15	口縁部はやや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は肥厚して、外方に突出し、外傾した平坦面をなす。口縁部内面の段は不明瞭。	内外面共にヨコナデ。	密(1～3㎜大の石英を多く含む。)	良好	淡黄色	SI06の土器と接合。 KN－46
SI07 甕	P315	70	－	5 232 480	①15.1※ ② 3.7△ ⑤ 2.4	口縁部はやや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は肥厚して、外方に突出し、外傾した平坦面をに凹線が巡る。口縁部下端はやや外方に突出するが、鈍く丸味をもつ。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…口縁部はヨコナデ。特に、口縁部下端は弱い凹線あり。 内面…ヨコナデ。	密(ウンモ0.5～1㎜大の石英を含む。)	良好	内面…淡黄橙色 外面…灰褐色	KN－49
SI07 甕	P316	70	－	553	①14.8※ ② 3.5△ ⑤ 2.4	口縁部はやや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は外方へ肥厚し、平坦面をなす。口縁部下端は丸くふくらみ、丸味をもって頸部へ至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	やや粗(1～4㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に黄褐色	口縁部外面に黒斑有。 KR－139
SI07 甕	P317	70	－	639 543	①17.0※ ② 8.7△ ⑤ 2.8	口縁部はやや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は肥厚して、外方へ突出し、平坦をなすが、強い押圧による稜がつく。口縁部下端はやや外方に突出するが、鈍く丸味を持って頸部に至る。肩部に、モミ痕？あり。	外面…口縁部はヨコナデ。特に、口縁部下端は1条の凹線によって、際だたせる。肩部はヨコナデ。 内面…口縁部～頸部ヨコナデ。以下、右方向ヘラケズリ。部位不明であるが、指頭圧痕も認められる。	密(ウンモ、1～5㎜の石英を含む。)	良好	外面…淡褐色～灰褐色 内面…淡褐色	KN－50
SI07 甕(頸部)	P318	70	－	543	② 3.1△	頸部は「く」の字状に屈曲する。	外面…ヨコナデ。 内面…風化著しく不明。	密(ウンモ、1～5㎜の石英を含む。)	良好	外面…淡褐～灰褐色 内面…淡褐色	KN－51
SI07 甕(頸部)	●P319	70	－	649	② 3.4△	甕の頸部と思われる。	外面…頸部下端に凹線。肩部にかけて、かすかであるが、貝殻腹縁による押引き沈線文が認められる。 内面…風化が著しい。	密(0.5～2㎜の長石、0.5～4㎜の石英を含む。)	良好	外面…橙色 内面…橙～灰色	KN－52
SI07 甕 (底部)	●P320	70	38	648	② 1.6△ ④ 7.4※	平底を呈す底部。	外面…ナデ。 内面…指頭圧痕の後にナデ。	粗(1～4㎜大の石英、長石、カクセン石を多くを含む。)	やや不良	内外面共に暗褐色	KR－90
SI07 高坏	P321	71	38	543 638	②10.4△ ④14.4※	坏部はやや丸味をもった底部から屈曲して内彎ぎみに外方にのびる。口縁部と底部との段は明瞭。筒部は短く、裾部で大きく広がる。裾端部は内傾する。	内・外面とも風化のため調整不明。	密(1～4㎜大の石英、長石を含む。)	やや不良	内外面共に淡褐色	KR－83
SI07 高坏	●P322	71	38	650	①19.6※ ② 4.3△	坏部はやや丸味をもった底部から大きく外反して開く。端部は丸い。口縁部と底部との境の段はやや下垂し、明瞭。	外面…丁寧なヨコナデ。 内面…横方向ミガキ。	密(1㎜大の石英、長石をわずかに含む。)	良好	内外面共に明褐色	内外面に赤色塗彩。 KR－92
SI07 高坏	P323	71	38	43 230 232	② 5.6△	坏底部～筒部の破片。坏部は浅い椀状を呈すものか。筒部は細く、直線的に開く。	外面…風化のため調整不明。 内面…坏部丁寧なナデ。筒部にシボリ目残る。	密(1～2㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に淡橙褐色	KR－100
SI07 高坏	P324	71	38	577	② 6.6△ ④10.2※	筒部は細く、直線的に開き、裾部で大きく広がる。	外面…筒部上半はタテハケ。下半以下縦方向のミガキ。裾部は丁寧なナデ。 内面…筒部にシボリ目残る。裾部粗いハケ目が施される。	緻密	良好	内外面共に淡橙褐色	KR－101
SI07 高坏(筒部)	P325	71	38	636	②4.75△	ゆるやかに広がる円錐状の筒部。内面には受部に向かう舌状の突起があり。	外面…タテナデ。 内面…シボリあり。	密(ウンモ、長石を含む。)	良好	内外面共に浅黄橙色	KN－45
SI07 高坏(脚)	P326	71	38	130	② 1.5△ ④ 9.0※	裾部端は、カットされたような平坦面をもつ。	外面…ナデ。 内面…ナデ。筒部下端にシボリ目残る。	密(1～2㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に橙色	KN－44
SI07 小型丸底鉢	P327	71	－	43	①10.6※ ② 3.2△	口縁部は、「く」の字状に立ち上がり、大きく外反する。口唇部端は丸味を持つ。	外面…ハケ目。 内面…ヨコナデ。	密(0.5～1㎜の石英を含む。)	良好	外面…淡赤橙 内面…淡黄橙	両面に赤色塗彩。 KN－53
SI07 蓋	●P328	71	38	572 579 640 646	①15.0※ ② 7.6△ つまみ径 4.8※	直線的に大きく広がる蓋。端部は肥厚する。上部にやや外傾する輪状のつまみが付く。	外面…風化のため調整不明。 内面…蓋部風化のため調整不明。つまみナデ。	粗(1～3㎜大の石英、長石を多量に含む。)	やや不良	内外面共に黄褐色～淡橙褐色	KR－102
SI07 須恵器(脚)	P329	71	－	258	② 1.9△ ④20.4※	裾端部は平坦面を持つ。	外面…裾端部平坦面に凹線。裾部ハケ目。 内面…ヨコナデ。	密(ウンモ1～2㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に灰褐色	KN－47
SI08 甕	P331	72	39	283 288 295 317 318 411 588	①20.4※ ②18.6△ ③22.0※ ⑤ 3.8	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は丸い。口縁部下端はわずかに下垂する。口縁部内面の段は、ゆるやか。胴部は、肩があまり張らず、倒卵形を呈す。最大径はほぼ中位にもつ。	外面…口縁部に平行沈線の後。波状文。頸部にナデ。肩部平行沈線の後、波状文。中位以下に粗いヨコハケ～タテハケ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部～肩部左方向ケズリ。肩部以下斜上方ケズリ。	やや粗(1～4㎜大の石英、長石を含む。)	良好	内外面共に暗褐色	外面胴部にスス付着。 KR－87

挿表19　宇谷第1遺跡出土土器観察表　⑭

出土遺構	土器番号	挿図	図版	取上番号	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成保存	色調	備考
SI 08 壺	Po332	72	39	164 259 318 605	①18.9※ ②11.1△ ⑤ 2.9	口縁部は、やや外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁。端部は丸い。口縁部下端は下垂し、頸部へ至る。肩部はあまり張らない。口縁部内面の段は、不明瞭。	外面…口縁部～頸部ヨコナデ。肩部タテハケ。肩部以下にヨコハケ。 内面…口縁部～頸部横方向のミガキ。頸部下半のケズリの後ナデ。胴部左方向へラケズリ。	密(2㎜大の石英・長石を含む。)	良好	外面…淡黄灰色 内面…暗灰色	KR－120
SI 08 甕	Po333	72	39	290	①16.7※ ② 7.5△ ⑤ 3.1	口縁部は、やや外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁。端部は丸い。口縁部下端はわずかに下垂する。肩部はあまり張らない。口縁部内面の段は、不明瞭。	外面…口縁部に平行沈線が施される。頸部にナデ。肩部に平行沈線が施される。 内面…口縁部にヨコナデ。頸部以下横方向へラケズリ。	粗(1～3㎜大の石英・長石を多く含む。)	良好	内外面共に明褐色	KR－126
SI 08 甕	Po334	72	39	1134	①15.7※ ② 3.5△ ⑤ 3.0	口縁部は薄手、わずかに内彎して立ち上がる複合口縁。端部は丸い。口縁部下端は下垂する。口縁部内面の段は、不明瞭。	外面…10条の櫛描平行沈線が施される。 内面…丁寧なヨコナデ。	密(1㎜大の石英・長石を含む。)	良好	外面…茶褐色 内面…橙色	口縁部外面にスス付着。 F－157
SI 08 甕	Po335	72	39	599 608	①18.1※ ② 5.6△ ⑤ 3.3	口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は丸い。口縁部下端はゆるやかに屈曲し、頸部へ至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…口縁部に風化しているが、平行沈線が残る。頸部にナデ。 内面…口縁部にナデ。頸部にヘラケズリの後ナデ。頸部以下左方向へラケズリ。	やや粗(1～3㎜大の石英・長石を含む。)	やや不良	内外面共に淡褐色	KR－122
SI 08 甕	Po336	72	39	157	①15.1※ ② 5.1△ ⑤ 3.7	口縁部は、やや外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁。端部は肥厚し、丸く収まる。口縁部下端はわずかに下垂する。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…口縁部は平行沈線が施される。頸部にナデ。 内面…口縁部にヨコナデ。頸部以下へラケズリ。	やや粗(1～3㎜大の石英・長石を含む。)	良好	外面…淡灰褐色 内面…淡黄褐色	口縁部外面に黒斑。 KR－129
SI 08 甕	Po337	72	39	191	①15.3※ ② 4.1△ ⑤ 3.0	口縁部は、やや外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁。端部は丸い。口縁部下端は外方へ引き出される。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…口縁部に平行沈線が施される。頸部にナデ。 内面…口縁部にヨコナデ。	やや粗(1～3㎜大の石英・長石を含む。)	良好	内外面共に淡褐色	口縁部外面に黒斑あり。 KR－131
SI 08 甕	Po338	72	39	130	①16.3※ ② 5.9△ ⑤ 3.4	口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は丸い。口縁部下端はやや下垂する。口縁部内面の段は、不明瞭。肩部はあまり張らない。	外面…口縁部に15条以上の平行沈線が施される。頸部以下にナデ。 内面…口縁部に丁寧なナデ。頸部以下に左方向へラケズリ。	密(1～2㎜大の石英・長石を含む。)	良好	内外面共に黄褐色	口縁部外面にスス付着。 KR－138
SI 08 甕	Po339	72	39	593	①16.2※ ② 4.0△ ⑤ 2.6	口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は薄くつまみ出される。口縁部下端は屈曲する。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…風化しているが、平行沈線が認められる。 内面…風化のため調整不明。	やや粗(1～3㎜大の石英・長石を含む。)	やや不良	外面…茶褐色 内面…橙色	口縁部外面にスス付着。 F－161
SI 08 甕	Po340	72	39	164	①26.6※ ② 4.0△ ⑤ 3.8	口縁部は、やや内彎ぎみに外傾して立ち上がる複合口縁。端部は丸い。口縁部下端はわずかに下垂する。口縁部内面の段は、不明瞭。	外面…17条の櫛描平行沈線が施される。 内面…丁寧なナデ。	密(1㎜大の石英・長石を含む。)	良好	内外面共に淡黄褐色	F－159
SI 08 甕	Po341	72	39	200	①15.2※ ② 4.1△ ⑤ 2.4	口縁部は、やや外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁。端部は丸い。口縁部下端はゆるやかに屈曲し、頸部へ至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…口縁部は風化のため調整不明。頸部にナデ。 内面…口縁部に横方向のミガキ。頸部以下に左方向へラケズリ。	密(1㎜大の長石を含む。)	良好	内外面共に橙褐色	KR－125
SI 08 甕	Po342	72	39	296 315	② 2.8△	外傾して立ち上がる複合口縁の破片。口縁部下端は屈曲する。口縁部内面の段は、不明瞭。	外面…口縁部に平行沈線が施される。頸部にも平行沈線が施される。 内面…丁寧なヨコナデ。	密(1～2㎜大の石英・長石を含む。)	良好	内外面共に灰褐色	黒斑あり。 F－165
SI 08 甕	Po343	72	39	157	①15.9※ ② 4.3△ ⑤ 3.0	口縁部は、やや外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁。端部は丸い。口縁部下端は下垂する。口縁部内面の段は、不明瞭。	外面…口縁部にヨコナデ。頸部にナデ。 内面…口縁部に横方向のミガキ。頸部以下、右方向へラケズリ。	密(1㎜大の長石を含む。)	良好	外面…淡黄褐色 内面…淡黄褐色～暗灰色	口縁部外面にスス付着。 KR－127
SI 08 甕	Po344	72	39	158	② 3.6△	やや内彎して立ち上がる複合口縁の破片。口縁部下端は屈曲する。	外面…平行沈線が認められる。 内面…ヨコナデ。	やや粗(1～3㎜大の石英を多く含む。)	良好	内外面共に淡橙褐色	口縁部外面にスス付着。 F－164
SI 08 甕	Po345	73	39	277	①21.3※ ② 4.2△ ⑤ 2.6	口縁部は、やや外反して外傾する複合口縁。端部は丸い。口縁部下端はなだらかに屈曲する。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…平行沈線がわずかに認められる。 内面…ヨコナデ。	やや粗(1㎜大の長石を多く含む。)	良好	内外面共に橙褐色	F－154
SI 08 甕	Po346	73	39	276 282 298 300 308	①17.4※ ② 4.9△ ⑤ 3.3	口縁部は、やや外反して外傾する複合口縁。端部は丸い。口縁部下端は極くわずかに下垂する。口縁部内面の段は、ゆるやか。	外面…櫛描平行沈線の後ナデ消し。 内面…丁寧なヨコナデ。	密(1～3㎜大の石英・長石を含む。)	良好	内外面共に赤褐色	口縁部外面にスス付着。 F－152
SI 08 甕	Po347	73	39	310	①17.3※ ② 5.3△ ⑤ 3.5	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は丸い。口縁部下端はゆるやかに屈曲し、頸部へ至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…風化のため調整不明。 内面…口縁部風化のため調整不明。頸部以下に左方向へラケズリ。	密(1㎜大の石英・長石を含む。)	やや不良	外面…淡橙褐色 内面…黄褐色	KR－124
SI 08 甕	Po348	73	39	317	①16.9※ ② 4.5△ ⑤ 2.7	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は丸い。口縁部下端は鈍く屈曲し、頸部へ至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…口縁部～頸部、風化のため調整不明。口縁部は平行沈線か。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部以下に左方向へラケズリ。	やや粗(1～3㎜大の石英・長石を含む。)	やや不良	内外面共に淡褐色	KR－123
SI 08 甕	Po349	73	－	610	①16.2※ ② 3.7△ ⑤ 2.6	口縁部は、やや外反して外傾する複合口縁。端部は丸い。口縁部下端はゆるやかに屈曲する。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…風化しているが、7条の平行沈線が認められる。 内面…ヨコナデ。	密(1㎜大の石英・長石を含む。)	良好	内外面共に黄褐色	F－162
SI 08 甕	Po350	73	－	296	①14.8※ ② 4.1△ ⑤ 2.7	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は丸い。口縁部下端はやや外方へ引き出される。口縁部内面の段はゆるやか。	内外面とも風化のため調整不明。	粗(1～3㎜大の石英・長石を多量に含む。)	良好	内外面共に淡橙褐色	口縁部外面にスス付着。 KR－130
SI 08 甕	Po351	73	－	591	①14.7※ ② 4.2△ ⑤ 2.3	口縁部は、やや外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁。端部は丸い。口縁部下端はゆるやかに屈曲して、頸部へ至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…風化のため調整不明。ナデか。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部以下にヘラケズリ。	やや粗(1～3㎜大の石英・長石を含む。)	良好	内外面共に黄褐色	KR－128
SI 08 壺	Po352	73	40	212	①15.3※ ② 4.9△ ⑤ 2.2	口縁部は、ほぼ直立して立ち上がる複合口縁。端部は内方へ肥厚し、外傾する平坦面をなす。口縁部下端はわずかに突出し、丸味をもって頸部へ至る。	外面…強いヨコナデ。 内面…口縁部～頸部ヨコナデ。頸部以下へラケズリ。	密(1～2㎜大の石英・長石を含む。)	良好	外面…黄褐色 内面…暗褐色	KR－136
SI 08 壺	Po353	73	39	121 211	①13.8※ ②10.2△ ⑤ 2.4	口縁部は、やや内彎気味に内傾する複合口縁。端部は内方へ大きく肥厚し、平坦面をなす。口縁部下端はわずかに外方へ突出し、丸味をもって頸部へ至る。肩部はあまり張らない。	外面…口縁部にヨコナデ。頸部～胴部風化のため調整不明。 内面…風化のため調整不明。	やや粗(1～3㎜大の石英・長石を含む。)	良好	内外面共に明褐色	KR－119
SI 08 甕	Po354	73	40	185 201 202 203 443 489 580 603	①15.2※ ② 9.0△ ⑤ 2.8	口縁部は、ほぼ直立する複合口縁。端部は外方へ肥厚して平坦面をなす。口縁部下端はわずかに外方へ突出するが鈍く、丸味をもって頸部へ至る。口縁部内面の段はゆるやか。胴部、肩部はあまり張らない。	外面…口縁部に強いヨコナデ。頸部～胴部にヨコナデ。 内面…口縁部～頸部ヨコナデ。肩部に指頭圧痕残る。	やや粗(1～2㎜大の石英・長石を含む。)	やや不良	内外面共に淡橙褐色～淡赤褐色	SI 07出土土器(No.580)と接合。外面黒斑有 KR－80
SI 08 甕	Po355	73	40	117	①18.0※ ② 3.7△ ⑤ 2.3	口縁部は、厚手で外傾して立ち上がる複合口縁。端部は外方へ肥厚し、平坦面をなす。口縁部下端はわずかに突出する程度で、丸味をもって頸部へ至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…強いヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	密(1～2㎜大の石英・長石を含む。)	良好	内外面共に淡橙褐色	F－149

挿表20　宇谷第1遺跡出土土器観察表　⑮

出土遺構	土器番号	挿図	図版	取上番号	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成保存	色調	備考
SI 08 甕	Po356	73	−	376	①18.4※ ② 3.4△ ⑤ 2.3	口縁部は外傾して立ち上がる複合口縁。端部は外方へ肥厚し、外傾する平坦面をなし、凹線が巡る。口縁部下端は鈍く突出し、丸味をもつ。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	密(1mm大の石英を含む。)	良好	内外面共に灰黄褐色	F −156
SI 08 甕	Po357	73	40	610	①18.0※ ② 4.1△ ⑤ 2.5	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は外方へ肥厚して外傾する平坦面をなす。口縁部下端はわずかに突出する。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	密(1〜3mm大の石英を含む。)	良好	内外面共に淡褐色	F −158
SI 08 甕	Po358	73	−	211	①18.9※ ② 4.0△ ⑤ 2.4	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は外方へ肥厚して外傾する平坦面をなす。口縁部下端はわずかに丸味をもって突出する。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	密(1〜2mm大の石英・長石を含む。)	良好	内外面共に橙色	F −160
SI 08 甕	Po359	73	40	187 599	①16.3※ ② 5.5△ ⑤ 2.2	口縁部は、厚手でやや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は外方へ肥厚して突出し、平坦面をなすが、凹線が巡る。口縁部下端はわずかに外方へ突出し丸味をもって頸部へ至る。口縁部内面の段はゆるやか。肩部は大きく張る。	外面…口縁部に強いヨコナデ。肩部にヘラ状工具による刺突文あり。 内面…口縁部にヨコナデ。肩部に右方向へラケズリ。	密(1〜4mm大の石英・長石を含む。)	良好	内外面共に淡橙褐色	F −147
SI 08 甕	Po360	73	40	115	①15.6※ ② 4.4△ ⑤ 2.6	口縁部は、やや内彎気味に外傾して立ち上がる複合口縁。端部は外方に肥厚し、外傾する平坦面をなす。口縁部下端はわずかに外方へ突出するが鈍く、丸味をもって頸部へ至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…ヨコナデ。 内面…口縁部にヨコナデ。肩部以下へラケズリか。	やや粗(1〜3mm大の石英・長石を含む。)	良好	外面…黄褐色〜橙褐色 内面…黄褐色	KR −132
SI 08 甕	Po361	74	−	180	①15.3※ ② 3.4△ ⑤ 2.5	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は外方へ肥厚し、外傾する平坦面をなす。口縁部下端は外方へ突出するが鈍い。口縁部内面の段は明瞭。	外面…強いヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	密(1〜2mm大の石英・長石を含む。)	良好	内外面共に褐色	KR −133
SI 08 甕	Po362	74	−	212	①16.7※ ② 3.6△ ⑤ 2.5	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は外方へ肥厚し、外傾する、平坦面をなし、凹線が巡る。口縁部下端は丸く外方へふくらむ。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	密(1〜3mm大の石英・長石を含む。)	良好	内外面共に淡褐色	F −155
SI 08 甕	Po363	74	−	165 213	①17.3※ ② 3.8△ ⑤ 2.4	口縁部は、厚手で外傾して立ち上がる複合口縁。端部は外方へ肥厚し、平坦面をなす。口縁部下端はわずかに丸味をもって突出する。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	密(1mm大の石英・長石を含む。)	良好	外面…灰褐色 内面…橙灰褐色	口縁部外面に黒斑あり。 F −148
SI 08 甕	Po364	74	−	170	①15.6※ ② 3.4△ ⑤ 2.5	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は外方へ肥厚して外傾する平坦面をなし、凹線が巡る。口縁部下端はわずかに突出し、丸味をもって頸部へ至る。口縁部内面の段は不明瞭。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	密(1〜4mm大の石英・長石を含む。)	良好	内外面共に淡黄褐色	F −163
SI 08 甕	Po365	74	−	158	①14.6※ ② 3.6△ ⑤ 2.5	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は外方へ肥厚して突出し、外傾する平坦面をなす。口縁部下端は鈍く突出し、丸味をもって頸部へ至る。口縁部内面の段は明瞭。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	密(1mm大の石英・長石を含む。)	良好	内外面共に淡褐色	KR −135
SI 08 甕	Po366	74	−	215	①13.0※ ② 3.7△ ⑤ 2.1	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は外方へ肥厚して平坦面をなし、凹線が巡る。口縁部下端はやや上方へ突出するが鈍く、丸味をもって頸部へ至る。口縁部内面の段はゆるやか。	内外面共にヨコナデ。	密(1〜2mm大の石英・長石を含む。)	良好	内外面共に橙褐色	KR −142
SI 08 甕	Po367	74	−	198	①13.8※ ② 3.3△ ⑤ 2.3	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は外方へ肥厚し、平坦面をなす。口縁部下端はやや上方に突出するが鈍く、丸味をもって頸部へ至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…強いヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	やや粗(1〜3mm大の石英・長石を含む。)	良好	内外面共に明褐色	KR −141
SI 08 甕	Po368	74	40	203	①14.2※ ② 3.8△ ⑤ 2.6	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は外方へ肥厚して外傾する平坦面をなす。口縁部下端は丸くふくらむ。口縁部内面の段は明瞭。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	やや粗(1mm大の石英・長石を含む。)	良好	内外面共に淡褐色	KR −134
SI 08 甕	Po369	74	−	599	①12.1※ ② 3.3△ ⑤ 1.9	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は外方へ肥厚して平坦面をなし、凹線が巡る。口縁部下端はゆるやかに屈曲し、頸部へ至る。	外面…ヨコナデ。 内面…ヨコナデ。	密(1mm大の石英・長石を含む。)	良好	内外面共に橙褐色	KR −140
SI 08 甕	Po370	74	−	111	①15.9※ ② 4.7△	口縁部は、中位にアクセントをもつ、やや内彎気味に開く「く」の字状口縁。端部は、内方へやや肥厚し、内傾する平坦面をなす。肩部はあまり張らない。	外面…強いヨコナデ。 内面…口縁部にヨコナデ。肩部以下、横方向へラケズリ。	密(1〜2mm大の石英・長石を含む。)	良好	外面…橙褐色 内面…暗灰色〜黄褐色	KR −137
SI 08 甕	Po371	74	−	44 157	② 1.8△	厚手で、肩部が大きく張る甕胴部の破片。	外面…ヨコハケ後ヨコナデ。貝殻腹縁による刺突文あり。 内面…ヨコナデ。	密(1〜2mm大の石英・長石を含む。)	良好	内外面共に淡褐色	F −151
SI 08 甕	Po372	74	−	213	② 7.5△	厚手で、肩があまり張らず、ほぼ球形を呈す胴部の破片。	外面…ヨコナデ。 内面…肩部指頭圧痕残る。肩部以下右方向へラケズリ。	密(1〜5mm大の石英・長石を含む。)	良好	内外面共に灰黄色	胴部に赤変部分あり。 F −150
SI 08 甕	Po373	74	−	259	② 5.9△	甕の胴部である。	外面…肩部、波状文が施される。以下ナデ。 内面…ナデ。	密(1〜2mm大の石英・長石を含む。)	良好	外面…橙〜灰褐色 内面…橙色	KN −57
SI 08 甕	Po374	74	−	208	② 4.0△	肩部が大きく張る傾部〜胴部の破片。	外面…ヨコナデ。 内面…頸部にヨコナデ。肩部以下へラケズリ。	密(1〜2mm大の石英・長石を含む。)	良好	内外面共ににぶい橙色	肩部外面に赤変箇所あり。 F −166
SI 08 甕	Po375	75	−	206	② 3.2△ ④ 5.1※	明瞭に平底を呈す底部。	外面…ナデ。 内面…ヘラケズリ。	やや粗(1〜3mm大の石英・長石を含む。)	良好	外面…橙褐色 内面…黄褐色	KR −118
SI 08 甕	Po376	75	−	600 602	② 2.9△ ④ 4.9※	厚手で、やや上げ底となる底部。胴部はやや外反して開く。	外面…ナデ。 内面…上方へのヘラケズリ。	やや粗(1〜3mm大の石英・長石・砂粒を含む。)	良好	外面…灰色 内面…黄灰褐色	底部に黒斑あり。 KR −112
SI 08 甕	Po377	75	−	260	② 2.9△ ④ 4.3※	平底の底部破片。胴部はやや内彎気味に開く。	外面…ナデ。 内面…風化のため調整不明。	やや粗(1〜3mm大の石英・長石を多く含む。)	良好	外面…淡橙褐色 内面…褐色	KR −113
SI 08 甕	Po378	75	−	298	② 1.5△ ④ 4.3※	平底を呈す底部。	内外面とも風化のため調整不明。	やや粗(1mm大の石英・長石を含む。)	やや不良	外面…淡橙褐色 内面…灰色	KR −115
SI 08 甕	Po379	75	−	238	② 1.3△ ④ 4.5※	やや上げ底気味の底部。	外面…ナデ。 内面…上方へのヘラケズリ。	粗(1〜3mm大の石英・長石を多く含む。)	やや不良	外面…橙褐色 内面…暗褐色	KR −116
SI 08 甕	Po380	75	−	276	② 2.4△ ④ 3.4※	わずかに平底を呈す底部の破片。	外面…ナデ。 内面…ヘラケズリの後ナデ。	密(1mm以下の長石を含む。)	良好	外面…橙色 内面…褐色	F −146
SI 08 甕	Po381	75	−	279	② 1.1△ ④ 3.9※	わずかに平底を呈す底部。	外面…ナデ。 内面…ヘラケズリ。	やや粗(1mm大の石英・長石を含む。)	やや不良	外面…橙褐色 内面…黄褐色	KR −117

挿表21　宇谷第1遺跡出土土器観察表　⑯

出土遺構	土器番号	挿図	図版	取上番号	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成保存	色調	備考
SI 08 台付甕	Po382	75	40	237 281 306	② 2.6△ ④ 7.6※	やや外反して「ハ」字に開く脚台部。端部はやや内傾する。	外面…底部との接合部に横方向のミガキ。他はナデ。 内面…底部斜方向のヘラケズリ。脚台部にヨコナデ。	密(1㎜大の石英・長石を含む。)	良好	内外面とも明褐色	KR－121
SI 08 瓦質土器	Po383	75	－	318	② 1.6△ ④ 3.3※	厚手の平底を呈す、瓦質土器の底部。	外面…ナデ。 内面…不整方向ナデ。	密(微砂を含む。)	良好	内外面とも暗灰色	KR－114
SI 08 高坏	Po384	75	40	195	①16.0※ ② 9.0 ④ 9.0※	坏部は浅い皿状を呈し、端部は丸い。筒部は短く、直線的に開き、裾部で大きく広がる。	外面…風化のため調整不明。 内面…坏部ナデ。筒部シボリ目をケズリ取る。	やや粗(1～3㎜大の石英・長石を含む。)	良好	内外面とも淡橙色	坏部内面に赤色塗彩。KR－82
SI 08 大型高坏	Po385	75	－	193	①22.2※ ② 5.8△	肉厚でやや深めの有段の大型高坏と思われる坏部の破片。端部はやや外反し、丸く収める。	外面…ヨコナデ。 内面…丁寧なヨコナデ。	密(1～3㎜大の石英・長石を含む。)	やや不良	内外面とも淡橙色	F－133
SI 08 高坏	Po386	75	－	159	①20.5※ ② 3.5△	浅い椀状を呈す坏部の破片。端部はわずかに外反し、丸く収める。	内外面ともナデ。	やや粗(1㎜大の石英・長石を含む。)	やや不良	内外面共に淡橙色	F－132
SI 08 高坏	Po387	75	－	157 203	①17.0※ ② 6.4△	深い椀状を呈す坏部の破片。端部は丸く収める。	外面…風化のため調整不明。ナデか。坏底部外面に刺突痕あり。 内面…丁寧なナデ。	密(1～3㎜大の石英・長石を含む。)	やや不良	内外面共ににぶい黄褐色	F－123
SI 08 高坏	Po388	75	40	159 175	② 8.4△	浅い椀状を呈す坏部～筒部の破片。筒部は細くやや外反て開く。	外面…ナデ。 内面…坏部調整不明。筒部シボリ目残る。	密(1～3㎜大の石英・長石を含む。)	良好	内外面共に橙色	F－136
SI 08 高坏	Po389	75	－	211	② 4.0△	浅い椀状を呈す坏底部～筒部の破片。筒部は細く、直線的に開く。	外面…風化のため調整不明。 内面…坏部風化のため調整不明。筒部シボリ目残る。	やや粗(1～3㎜大の石英・長石を含む。)	やや不良	内外面共に淡橙色	F－131
SI 08 高坏	Po390	76	－	44 177 179	② 1.3△	浅い椀状を呈すと思われる坏底部。内面がもり上がる。	外面…脚接合部にハケ目。 内面…ナデ。	密(1～3㎜大の石英を含む。)	良好	内外面共に橙色	F－130
SI 08 高坏	Po391	76	－	116	② 2.5△	高坏の坏底部分である。	内外面共に風化している。	密(1～2㎜大の石英を含む。)	不良	内外面共に淡黄橙色	KN－59
SI 08 高坏	Po392	76	－	592	② 1.4△	浅い皿状を呈すと思われる坏底部。	内外面とも風化のため調整不明。	やや粗(1㎜大の石英・長石を多く含む。)	やや不良	内外面共に淡橙色	F－129
SI 08 高坏	Po393	76	－	183 593	② 2.1△	浅い椀状を呈すと思われる坏底部の破片。	内・外面とも風化が著しい。	密(1～3㎜大の石英・長石を含む。)	不良	内外面共に橙色	F－128
SI 08 高坏	Po394	76	－	599	② 1.6△	高坏底部の破片。浅い皿状を呈すものか。	外面…風化のため調整不明。 内面…丁寧なナデ。	密(1～2㎜大の石英・長石を含む。)	やや不良	内外面共に橙色	F－126
SI 08 高坏	Po395	76	40	176	② 6.0△	筒部はやや短く、直線的に開く。	外面…上半は、タテハケ、下半はナデ。 内面…シボリ目残る。	密(1㎜大の石英・長石を含む。)	良好	外面…橙色 内面…にぶい橙色	F－135
SI 08 高坏	Po396	76	40	610	② 7.0△	直線的に開く筒部の破片。	外面…風化のため調整不明。 内面…シボリ目残る。	やや粗(1～2㎜大の石英・長石を含む。)	良好	内外面共に淡橙色	F－140
SI 08 高坏	Po397	76	40	603	② 6.5△	直線的に開く筒部の破片。	外面…風化のため調整不明。 内面…シボリ目残る。	やや粗(1～3㎜大の石英・長石を含む。)	良好	内外面共に淡橙褐色	F－143
SI 08 高坏	Po398	76	40	109	② 7.2△	筒部は直線的に開き、裾部で大きく広がる。	外面…風化のため調整不明。 内面…上半部シボリ目残る。下半部ヘラケズリ。	密(1～2㎜大の石英・長石を含む。)	やや不良	内外面共に淡橙色	F－141
SI 08 高坏	Po399	76	40	157	② 5.4△	直線的に開く筒部の破片。	外面…風化のため調整不明。 内面…上半部シボリ目残るが、下半部はヘラケズリ。	やや粗(1～2㎜大の石英・長石を含む。)	やや不良	内外面共に橙色	F－142
SI 08 高坏	Po400	76	40	605	② 5.4△	やや外反して開く筒部破片。	外面…縦方向ミガキ。 内面…シボリ目残る。	密(1㎜大の石英・長石・黒ウンモを含む。)	良好	内外面共に橙褐色	F－137
SI 08 高坏	Po401	76	40	200	② 5.9△	筒部～裾部の破片。筒部は直線的に開き、裾部で大きく広がる。	外面…風化のため調整不明。 内面…シボリ目残る。	密(1～3㎜大の石英・長石を含む。)	良好	内外面共に橙褐色	F－139
SI 08 高坏	Po402	76	40	212	② 4.1△	やや外反して開く筒部の破片。	内・外面とも風化が著しい。内面にシボリ目残る。	やや粗(1㎜大の石英・長石を多く含む。)	やや不良	内外面共に淡橙色	F－138
SI 08 高坏	Po403	76	40	196 233 287 593	② 9.3△ ④ 6.9	筒部はやや細く、直線的に開き、裾部で大きく広がる。	外面…風化のため調整不明。 内面…シボリ目残る。裾部ヨコナデ。	密(1㎜大の石英・長石を含む。ウンモ含む。)	良好	内外面とも明褐色	裾部内面にヘラ記号。KR－78
SI 08 高坏	Po404	76	－	158 184	② 6.6△ ④ 8.5※	筒部は直線的に開き、裾部で大きく広がる。	外面…風化のため調整不明。 内面…シボリ目残る。	密(1㎜大の長石を含む。)	やや不良	内外面とも橙褐色	F－144
SI 08 高坏	Po405	76	－	286	② 2.6△ ④17.0※	大きく広がる大型高杯と思われる脚裾部。	内・外面ともナデ。	密(1㎜大の石英・長石を含む。)	やや不良	内外面とも橙褐色	F－134
SI 08 小壺	Po406	76	41	291	② 7.5△ ③ 8.5	脚部は厚手で、ほぼ球形となる小壺。口縁部を欠く。	外面…タテハケ。 内面…指による強いナデ。	密(1～5㎜大の石英・長石を含む。)	良好	外面…橙色 内面…橙褐色	F－145
SI 09 壺	Po408	77	41	912	①14.0※ ② 4.8△ ⑤ 2.7	口縁部は、直立気味に立ち上がる複合口縁。端部は丸い。口縁部下端は、下方に垂れる。口縁部内面の段は不明瞭。頸部は長く、内面は丸味をもって屈曲する。	外面…風化しているが、口縁部に13条以上の平行沈線が施される。頸部にヨコナデ。 内面…口縁部～頸部にヨコナデ。	密(1～2㎜大の石英を含む。)	良好	内外面共に浅黄橙色	KN－55
SI 09 甕	●Po409	77	－	419 420 792	①20.0※ ② 4.3△ ⑤ 3.0	やや外反して外傾する複合口縁。端部は丸い。口縁部下端は、ゆるやかに屈曲する。口縁部内面の段は不明瞭。	外面…10条の平行沈線が施される。 内面…ヨコナデ。	密(1㎜大の長石を含む。)	良好	内外面とも暗橙色	F－177
SI 09 甕	●Po410	77	－	419	①16.2※ ② 3.6△ ⑤ 2.7	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。立ち上がりは短い。端部は丸く収められる。口縁部下端はやや外方へ引き出される。口縁部内面の段は不明瞭。	外面…7条の櫛描平行沈線が施される。 内面…ナデ。	やや粗(1～5㎜大の石英・長石を含む。)	良好	内外面とも赤褐色	F－153
SI 09 甕	Po411	77	－	426	①15.3※ ②23.25△ ⑤ 2.5	口縁部は、ほぼ直立して立ち上がる複合口縁。端部は丸く、口縁部下端は、風化しているが、部分的にごくわずか下垂している。口縁部内面の段は不明瞭。	外面…口縁部に6条以上の平行沈線が施される。 内面…口縁部にヨコナデ。	密(1～2㎜大の石英を含む。)	良好	内面…にぶい黄橙～灰黄橙色 外面…浅黄橙～黒色	外面にスス付着。KN－56
SI 09 甕(底部)	Po412	77	41	99 412	②2.75△ ④ 4.8※	平底の底部。	外面…タテ方向のハケの後、横方向ミガキ。 内面…ナデ。	密(1～8㎜の石英を多く含む。)	良好	内外面共ににぶい橙色	KN－58

挿表22　宇谷第1遺跡出土土器観察表　⑰

出土遺構	土器番号	挿図	図版	取上番号	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成保存	色調	備考
SK03 甕	Po415	78	−	503	①13.6※ ② 3.5△ ⑤ 3.0	口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は丸味をもつ。口縁部下端は、やや外方にのび、丸味をもつ。	外面…平行沈線が施される。 内面…ナデ。	密(1㎜大の石英を含む。)	やや不良	内外面共に淡黄褐色	KR −58
SK03 甕	Po416	78	−	503	①13.1※ ② 3.1△	口縁部は、やや内彎気味に開く「く」字上口縁。端部は内傾する平坦面をなす。	内外面共に、ヨコナデ。	密(ウンモ、1〜2㎜大の石英を含む。)	良好	内外面共に橙褐色	KR −57
SK03 甕	Po417	78	42	52 896 898 900 1116 1329 1330 1331	①14.6※ ② 8.1△ ⑤ 2.3	口縁部は、肉厚で短かく、直立気味に立ち上がる複合口縁。端部は内外に肥厚し、丸味を持つ。口縁部下端は、ごくわずか下垂する。頸部は「く」字状に折れ、肩部はなだらかに胴部に至る。口縁部内面の段は不明瞭。	外面…口縁部ヨコナデで端部付近に凹線巡る。頸部ナデ後横方向ミガキ。以下横方向ミガキ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部横方向ミガキ。以下左方向ケズリ後横方向ミガキ。	密(ウンモ、0.5〜2㎜の石英含む。)	良好	外面…淡橙褐色 内面…明黄褐色	KR −14
SK03 甕 (底部)	Po418	78	42	54 893 894 895 899 1116 1331 1338	② 7.7△ ④ 4.9※	底部は、平底である。	外面…縦方向にミガキ。 内面…左方向にケズリ後横方向にミガキ。	密(ウンモ、0.5〜2㎜大の石英を含む。)	良好	内面…明黄褐色 外面…淡橙褐色	外面に黒斑あり。Po417と同一個体。 KR −15
SK04 甕	Po419	78	42	660	①18.4※ ② 2.8△ ⑤ 2.4	口縁部は上下に肥厚し、内傾して立ち上がる。端部は丸味を持つ。口縁部下端は、かなり肥厚しわずか下垂する。口縁部内面の段は不明瞭。	外面…口縁部は、5条以上の擬凹線が施される。 内面…ヨコナデ。口縁部の断面より、全体に粘土の接合痕あり。	密(0.5〜2㎜大の長石を含む。)	良好	内面…灰黄色 外面…淡黄〜暗褐色	外面にスス付着。 KN −61
SK04 (底部)	Po420	78	42	660	② 2.3△ ④ 6.0※	平底の底部。	内面…風化が著しく、調整不明。 外面…タテ方向のハケ目。	粗(0.5〜2㎜大の石英・長石を含む。)	やや不良	内面…淡黄色 外面…灰褐色	KN −62
SK04 台付鉢	Po421	78	42	839 841 842 843 845	①17.0※ ②14.6 ④ 8.7	深い鉢部をもち、端部はやや外反し、丸くおさめる。脚部は、直線的に開く。脚端部は、丸くおさめる。厚手。	外面…ナデ。脚部指頭圧痕残る。 内面…鉢部上半は、左方向にヘラケズリ。下半部は、斜方向にヘラケズリ。底部は、ナデ。脚部に指頭圧痕残る。	密(1〜3㎜大の石英・長石を含む。)	良好	内外面共に淡黄灰色	外面に黒斑あり。 KR −79
SK06 甕	Po422	78	42	60	①18.2※ ② 3.3△ ⑤ 2.8	口縁部は、ほぼ直立して立ち上がる複合口縁。端部は、先細りし、やや外方に引き出され、丸味を持つ。口縁部下端は、わずか下垂する。口縁部内面の段は不明瞭。	外面…口縁部は、12条の平行沈線。 内面…ヨコナデ。	密(0.5〜2㎜の石英を含む。)	良好	内面…暗黄橙色 外面…淡赤橙色	KN −60
SK07 須恵器 甕	Po423	78	−	1335	② 5.5△	胴部の破片。	外面…平行叩き、一部にヘラ状工具による沈線が一本入る。 内面…同心円文叩き。	緻密。	良好	内外面共に灰色	KN −63
SK07 須恵器 甕	Po424	78	−	1336	② 7.4△	胴部の破片。	外面…格子目叩き。 内面…ハケ目調整。	やや粗(1〜3㎜大の石英・長石を含む。)	不良	外面…浅黄色 内面…黒灰色	KN −64
SK09 甕	Po425	79	−	32 445	①16.7※ ② 4.5△ ⑤ 3.2	口縁部は、わずかに外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、丸味を持つ。口縁部下端は、下垂する。頸部は、「く」字状に屈曲する。口縁部内面の段は不明瞭。	外面…口縁部は、12条の平行沈線が施される。以下ナデ。 内面…口縁部に、ヨコナデ。頸部以下に左方向のケズリ。	密(ウンモ・1㎜大の石英を含む。)	良好	内外面共に明褐色	口縁部外面にスス付着。 KR −38
SK11 甕(底部)	Po426	79	42	856	② 1.7△ ④ 3.6※	底部は、平底である。	外面…ナデ。 内面…ケズリ後ナデ。	密(ウンモ・1〜2㎜大の石英を含む。)	良好	内外面共に赤褐色	底部外面に黒斑あり。 KR −31
SD01 甕	Po427	79	−	667	①14.0※ ② 3.9△ ⑤ 2.3	外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、丸くなっている。口縁部下端は、やや角ばっている。端部から下端部にかけて、肥厚しているが、下端部から頸部に向かって、うすくなっている。	外面…櫛描平行線が見られるが風化が著しい。 内面…ナデ。	やや粗(石英を含む。)	良好	内外面共に橙色	S − 9
SD01 甕	Po428	79	−	730	①17.4 ② 4.5△ ⑤ 2.8	外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、丸くなっている。口縁部下端は、下垂している。口縁部内面の段はゆるやか。頸部は「く」字状に内側へ向かって彎曲しており、中央付近が肥厚している。	外面…口縁部に平行沈線が施されるが、風化が著しい。 内面…ナデ。	密(石英・長石・黒ウンモを含む。)	良好	内外面共ににぶい黄橙色	S − 6
SD01 甕	Po429	79	42	785	①18.0※ ② 6.0△ ⑤ 4.0	口縁部は、肉厚で、やや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外方に肥厚して丸味をもつ。口縁部下端は、大きく下垂する。頸部は「く」字状に屈曲する。	外面…口縁部にヨコナデ。頸部にナデ。 内面…口縁部にヨコナデ。頸部以下に右方向のケズリ。	密(ウンモ・1〜4㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に暗黄褐色	KR −33
SD01 甕	Po430	79	−	764	①18.0※ ② 3.0△	外傾して立ち上がる複合口縁(下部は欠損している)。端部は、丸くおさめられている。口縁は、下端部へ向かって、肥厚している。	外面…櫛描平行線が見られる。風化が著しい。 内面…ナデ。風化している。	やや粗(石英を含む。)	良好	内外面共に橙色	S − 5
SD01 甕	Po431	79	−	665	①19.4※ ② 2.8△	複合口縁下部。外傾して立ち上がると思われる。下端部は、角ばっており、やや下垂している。残存している部分では、下端部付近が、最も肥厚している。	外面…ヨコナデ。 内面…ナデ。風化が著しい。	密(石英・長石を含む)	良好	内外面共に橙色	S −10
SD01 甕	Po432	79	−	1136	①15.0※ ② 3.2△ ⑤ 2.3	外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、稜状になっており、内・外に向かって肥厚している。口縁部下端も、稜状になっており、外へ向かって突出している。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…ナデ。風化している。 内面…ヨコナデ。	やや粗(石英を含む。)	良好	内外面共に橙色	S − 8
SD01 高坏	Po433	79	−	1113	② 3.4△	坏部外面に稜をもつ。稜は斜め下方向へ突出している。坏端部、受部中央部が欠損していて不明であるが、稜から端部方向の方が、中央部方向よりも厚くなっている。	外面…稜の下部にヨコミガキが入っている。 内面…ミガキが見られる。	密(長石・クロウンモを含む。)	良好	内外面共に橙色	S −12
SD01 高坏	Po434	79	−	122 123	①24.2※ ② 3.2△	外反気味に立ち上がる高坏坏部。上端部は、やや外反し、端部は水平方向に向かって屈曲する。	外面…ヨコナデ。風化が著しい。 内面…風化が著しい。	密(長石・石英・黒ウンモを含む。)	良好	内外面共に橙色	S − 7
SD01 底部	Po435	79	−	727	② 3.1△ ④ 7.4※	底面が凹状の底部。底面端部から中央部へ向かって、わずかに底上げされている。	外面…ナデ。 内面…ナデか。風化が著しい。	やや粗(石英・クロウンモを含む。)	良好	内面…黄橙色 外面…橙色	S − 3
SD02 底部	Po436	79	42	627 1117 1120	② 3.8△ ④ 3.6※	平底な底部。	外面…風化が激しい。 内面…ケズリか。風化が激しい。	やや粗(石英を含む。)	やや不良	内面…浅黄橙〜褐色 外面…橙〜浅黄橙色	S − 1
SD01 釜(凸帯部)	Po437	79	−	665	② 1.0△ ③31.4※	釜凸帯部の一部分。凸帯部の中央は、上面、下面ともうすくなっている。端部は、上面の方が、下面よりも、外側へ突出している。	上面、下面とも指でなでたと思われる。	密	良好	灰色〜淡黄色。	S −13

挿表23　宇谷第1遺跡出土土器観察表　⑱

出土遺構	土器番号	挿図	図版	取上番号	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成保存	色調	備考
SD01 坏	Po438	79	42	729	① 6.6 ② 2.4 ④ 4.3	小型の坏(手捏ね)。	外面…底面(静止糸切り、炭化物混入)。 内面…ナデか。	密(石英、クロウンモを含む。)	良好	内外面共に橙色	S－2
SD02 甕	Po440	80	42	622 625	①21.2※ ② 5.6△ ⑤ 2.8	口縁部は、肉厚で直立気味に立ち上がる複合口縁。端部は、丸身をもつ。口縁部下端は、なだらかに屈曲し、頸部に至る。頸部は「く」字状に折れる。口縁部内面の段は不明瞭。	内外面共にヨコナデ。	密(1～3㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に暗赤褐色。	KR－21
SD02 甕	Po441	80	－	500	①17.9※ ② 4.4△ ⑤ 2.3	口縁部は、肉厚でほぼ直立して立ち上がる複合口縁。端部は、丸味をもつ。口縁部下端は、ごくわずか下垂する。口縁部内面の段は不明瞭。	外面…口縁部は平行沈線。以下はナデ。 内面…風化している。	やや粗(1～2㎜の石英を含む。)	やや不良	内外面共に淡黄褐色	KR－28
SD02 甕	Po442	80	－	504	①18.5※ ② 3.2△ ⑤ 2.3	口縁部は、ほぼ直立して立ち上がる複合口縁。端部は、丸味をもつ。口縁部下端は、なだらかに屈曲する。口縁部内面の段は不明瞭。	外面…口縁部は平行沈線がわずかに認められる。以下ナデ。 内面…ナデ。	密(ウンモ、0.5～2㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に暗黄褐色	KR－27
SD02 甕	Po443	80	－	620	①18.2※ ② 4.3△ ⑤ 3.1	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、ゆるやかに内傾した面をもち、やや外反し、丸味をもつ。口縁部下端は、下垂する。口縁部内面の段は不明瞭。	外面…口縁部は平行沈線。以下ナデ。 内面…ヨコナデ。	密(ウンモ、1～2㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に黄褐色	口縁部外面にスス付着。 KR－29
SD02 甕	Po444	80	42	618 731	①16.9※ ② 4.7△ ⑤ 3.3	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、やや外反気味で、丸味をもつ。口縁部下端は、なだらかに屈曲し、頸部に至る。頸部は「く」字状に折れる。口縁部内面の段は不明瞭。	外面…口縁部は4条以上の平行沈線。頸部はナデ。 内面…口縁部はナデ。頸部はケズリ後ナデ。	密(ウンモ、1㎜の石英を含む。)	良好	内面…暗褐色～淡褐色 外面…褐色	外面赤色塗彩スス付着。 KR－19
SD02 甕	Po445	80	42	624	①16.1※ ② 4.2△ ⑤ 2.8	口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、先細りし、やや外反して丸味をもつ。口縁部下端は、なだらかに屈曲し、頸部に至る。頸部は「く」字状に折れる。口縁部内面の段は不明瞭。	外面…口縁部は8条以上の細い平行沈線。頸部はナデ。 内面…口縁部はヨコナデ。頸部は左方向にケズリ。	密(ウンモ、1～3㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に暗黄橙色。	KR－20
SD02 甕	Po446	80	－	500	①14.1※ ② 3.5△ ⑤ 2.7	口縁部は、肉厚で直立して立ち上がる複合口縁。端部は、丸味をもつ。口縁部下端は、わずかに下垂する。	外面…口縁部は4条の平行沈線。 内面…ナデ。	密(ウンモ、0.5～2㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に淡橙褐色	KR－24
SD02 甕	Po447	80	－	504	①14.7※ ② 2.7△ ⑤ 2.2	口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、丸味をもつ。口縁部下端は、鋭い「く」字状に屈曲する。口縁部内面の段は不明瞭。	内外面共に風化している。	やや粗(ウンモ、1㎜の石英を含む。)	やや不良	内外面共に黄褐色	KR－26
SD02 甕	Po448	80	－	500	①13.4※ ② 4.4△ ⑤ 2.5	口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、やや外反して丸味をもつ。口縁部下端は、なだらかに屈曲し、頸部に至る。頸部は「く」字状に折れる。	外面…風化している。 内面…口縁部はナデ。頸部以下は右方向にケズリ。	密(1～3㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に淡黄褐色	KR－23
SD02 甕	Po449	80	－	504	①12.6※ ② 4.2△ ⑤ 3.4	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、やや外反しながら、内側にごくわずか肥厚し、丸味をもつ。口縁部下端は、なだらかに屈曲する。	内外面共にナデ。	密(ウンモ、1㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に淡黄褐色。	KR－25
SD02 甕	Po450	80	－	619	①17.1※ ② 1.1△	甕の口縁部片である。端部は、丸味をもつ。	内外面共に横方向ミガキ。	密(ウンモ、砂粒を含む。)	良好	内外面共に暗灰褐色	KR－22
SD02 甕	Po451	80	－	620	② 2.0△	口縁端部片である。端部は、ゆるやかに内傾した面をもち、やや外反して丸味をもつ。	外面…平行沈線。 内面…ナデ。	密(1㎜の石英を含む。)	良好	内外面共に黄褐色。	KR－30
SD02 高坏	Po452	80	－	501	①14.0※ ② 3.8△ ③14.0	椀形の坏部。3／4以上が欠損している。外面中央には、筒部との接合のためと思われる2つの同心円のくぼみがある。内側のものは約9㎜、外側のものは約4㎜の深さである。外側のくぼみのまわりには、高さ3㎜程度の粘土貼り合せのあとがある。内面中央には、外面のくぼみに対応すると思われる。二重同心円状の溝がある。	内外面共に風化が著しい。	密(長石を含む)	やや不良	内面…浅黄橙色 外面…橙色	S－4
SD03 壺	Po453	80	43	877	①16.8※ ② 4.2△ ⑤ 2.6	外傾して立ち上がる口縁。上端部は、丸くなっている。また、下端部は、やや角ばっている。口縁部内面の段は不明瞭。	外面…口縁部に櫛描平行沈線がある。頸部にかけてヨコナデが見られるが風化が著しい。 内面…ナデ。	密(石英・長石を含む。)	良好	内外面共に橙色	S－14
SD03 甕	Po454	80	43	669	①17.4※ ② 5.2△ ⑤ 3.3	外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、丸みをおびており、下端部は、角ばっている。口縁部内面の段は、不明瞭。頸部は「く」字形に屈曲しており、上部は、やや厚くなっている。	外面…口縁部に櫛描平行沈線。風化が著しい。 内面…ヨコナデ。	やや粗(石英、長石を含む。)	やや不良	内面…淡黄色～黒褐色 外面…淡黄色	S－15
SD03 甕	Po455	80	－	674	①14.0※ ② 2.3△ ⑤ 1.8	外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、丸く、下端部は、やや角ばっている。口縁部内面の段は不明瞭。	外面…口縁部櫛描平行沈線。風化が著しい。 内面…ナデ。風化が著しい。	密	やや不良	内外面共に淡黄橙色。	S－18
SD03 口縁	Po456	80	－	678	①16.4※ ② 3.7△ ⑤ 2.7	外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、やや丸みを帯びている。下端部は、やや角ばっており、わずかに下垂している。口縁部内面の段は不明瞭。	外面…黒斑あり。櫛描波状文。風化が著しい。 内面…ナデか。風化が著しい。	やや粗(石英を含む)	不良	内外面共に淡黄色～暗褐色。	口縁外面に黒斑あり。 スス付着か。 S－17
SD03 甕	Po457	80	－	427	①16.1※ ② 3.8△ ⑤ 2.9	外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、風化が著しいが外傾した面をもつ。下端部は、稜状になっており、外へ突出している。口縁内面の段はゆるやか。	外面…風化が著しい。 内面…ナデ。風化が著しい。	(石英を含む。)	不良	内外面共に橙色	S－19
SD03 甕	Po458	80	－	676	①17.0※ ② 3.5△ ⑤ 2.6	外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁。端部全体が、1つの稜になっており、端部上面は、外傾した平面である。また、端部のふちはやや角ばっている。口縁部下端は丸味をもって頸部に至る。口縁内面の段はゆるやかである。	外面…ナデ。 内面…ヨコナデ。	やや粗(石英を含む)	良好	内外面共に淡黄橙色	S－16
SD03 底部	Po459	80	－	722	② 3.0△ ④ 6.0※	底部は、平底である。	外面…ヨコナデ。 内面…指頭圧痕が残るが、風化が著しい。	密(長石を含む)	良好	内面…淡黄色 外面…橙	S－20
SD03 高坏	Po460	81	43	271 722 752	①17.0※ ② 3.6△	外反気味に外傾して立ち上がっている高坏。坏端部は、外へせり出すように外反している。中央部付近は欠損している。	外面…風化が著しい。 内面…風化が著しい。	密(長石、黒ウンモを含む。)	やや不良	内外面共に橙	S－21
SD03 高坏	Po461	81	43	682	② 2.3△	坏部片。外面中央部には、2重の同心円状の穴がある。また、外側の穴のまわりには粘土が貼り合わされている。	外面…ナデ。 内面…風化が著しい。	密(石英・黒ウンモを含む)	やや不良	内面…黄橙色 外面…橙色～黄橙色	S－22

挿表24　宇谷第1遺跡出土土器観察表　⑲

出土遺構	土器番号	挿図	図版	取上番号	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成保存	色調	備考
SD05 甕	Po462	81	43	785	①15.3※ ② 4.1△ ⑤ 2.7	口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、丸味をもつ。口縁部は、鋭く屈曲する。口縁内面の段は不明瞭。	外面…風化している。 内面…口縁部はナデ。部分的に指頭圧痕残る。頸部以下は右方向にケズリ。	やや粗(ウンモ、1～2㎜の石英を含む)	やや不良	内外面共に淡黄褐色	KR－32
SB03 甕	●Po463	81	43	139	①15.4※ ② 9.8△ ⑤ 2.0	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は丸味をもつ。口縁部下端は、わずかに下垂し、丸味を持って頸部に至る。口縁部内面は、直線的に開く。肩部は、なだらかで、胴部は球形に張る。	外面…風化している。 内面…口縁部はナデ。頸部以下に右方向のケズリ。	やや粗(1～3㎜の長石、石英を含む)	やや不良	内面…灰褐色～淡赤褐色 外面…淡黄褐色～淡赤褐色	ピット94より出土。 KR－59
遺構外 甕	Po464	81	43	1351	①17.0※ ②12.0△ ③24.7△ ⑤ 2.5	外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁をもつ甕。口縁端部は、外へ傾いた平面になっている。口縁下端部は外へせり出した稜になっている。口縁内面の段はゆるやか。頸部は「く」の字状に彎曲。胴部肩部はゆるやか。	外面…口縁部にナデが見られる。胴部には(ほぼ水平方向に)ハケ目が見られる。 内面…口縁部にナデが頸部に指押え、指ナデが見られる。また、胴部にはケズリとハケ状工具痕がある。	やや粗(石英を含む)	良好	内面…赤褐色～にぶい黒褐色 外面…橙色～にぶい橙色	口縁部、胴部にスス付着。 S－25
遺構外 甕(口縁)	Po465	81	43	1359	①16.6 ②10.7△ ③21.7△ ⑤ 3.1	やや外傾して立ち上がる複合口縁をもつ甕。口縁端部は、丸く、下端部は角ばっている。口縁内側の段は明瞭。頸部は「く」の字形に鋭く彎曲している。胴部肩部はゆるやか。	外面…口縁部には櫛描平行線が、胴部には(ほぼ水平方向へ走る)ハケ目が見られる。 内面…口縁部にはヨコナデが、胴部にケズリが見られる。	密(石英を含む)	良好	内外面共ににぶい黄橙色	S－26・S－27
遺構外 甕	Po466	81	－	18	①14.9※ ② 3.8△ ⑤ 2.4	口縁部は、ほぼ直立して立ち上がる複合口縁。端部は、先細りして、鈍くとがる。口縁下端部は、なだらかに頸部に至る。口縁部内面の段は不明瞭。	外面…口縁部に平行沈線。頸部ナデ。 内面…風化している。	密(0.5～2㎜の石英を含む)	良好	内外面共に淡黄褐色。	KR－17
遺構外 甕	Po467	81	－	45	①15.2※ ② 4.1△ ⑤ 2.8	口縁部は、わずかに外反するがほぼ直立する。口唇端部は丸くおさめる。口縁下端部はそのまま屈曲し、頸部に至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…口縁部に6条の平行沈線。口縁部下端から頸部にかけて強いヨコナデ。頸部には粘土の貼り付け痕有。 内面…口縁部から頸部にかけてヨコナデ。頸部以下左方向のヘラケズリ。	密(1～2㎜大の石英、長石を含む)	良好	内外面共に浅黄橙色	口縁部外面にスス付着。 KN－66
遺構外 底部	Po468	81	－	1359	② 1.7△ ③ 9.0 ④ 5.4	底面が平らな底部。	外面…ナデ。風化著しい。 内面…ケズリ。風化著しい。	やや粗(石英を含む)	良	内面…黒褐色 外面…淡赤橙色	S－28
遺構外 甕(底部)	Po469	81	－	742	② 2.6△ ④ 6.9	底部は平底である。	内外面共に風化している。	やや粗(1～6㎜の石英を含む)	やや不良	内外面共に淡赤褐色。	KR－18
遺構外 高坏(底部)	Po470	81	－	82	② 4.6 ③ 6.6△	高坏脚部。	外面…ナデか。 内面…ナデか。	密(石英を含む)	良	内外面共に橙色	S－23
遺構外 坏(底部)	Po471	81	－	1115	② 2.0 ③13.0 ④10.0	(底面が平らな)坏底部。	外面…ナデ。 内面…ナデ。	密(クロウンモを含む)	良好	内外面共に浅黄橙色	S－29
遺構外 高坏(脚)	Po472	81	－	31	② 1.5△ ④10.4※	高坏の裾部片である。	外面…ナデ。 内面…ナデ。指頭圧痕残る。	密(1㎜の石英を含む)	良好	内外面共に暗黄褐色	NA－72
遺構外 須恵器鉢	Po473	81	－	27	①22.0※ ② 2.3△	口縁部は大きく外傾して開く。端部は外方へ引き出し、平坦面をなす。	内・外面ともナデ。	緻密	良好	内外面共に淡灰色	KN－68
遺構外	Po474	81	－	6	② 3.6△	胴部の破片。	内面…同心円文叩き。 外面…平行叩き。	密	良好	内外面共に灰色	KN－67
遺構外 底部	Po475	81	－	733	② 3.4△ ③ 6.2 ④ 4.0	底面の平らな底部。	外面…ナデか。 内面…布を使用し、指で押える。(胴部)	密	良好	内外面共に淡黄橙色	S－24
遺構外 平瓦	Po476	81	－	45		やや内彎する平瓦の破片。	外面…凹線が入る。 内面…布目残る。	密	良好	内外面共に淡灰色	KR－86

挿表25　宇谷第1遺跡出土土器観察表　⑳

出土遺構	土器番号	挿図	図版	取上番号	法量(cm)	重さ(g)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成保存	色調	備考
SI02 土玉	Po 18	47	22	816	径 2.5～2.7 穴径 0.6～0.7	15.8	ややいびつな球形。ほぼ中心に穿孔してある。	手捏ね後ナデ。	密(ウンモを含む)	良好	淡茶褐色	KR－42
SI04 土玉	Po274	67	36	469	径 2.5～2.7 穴径 0.7～1.0	13.4			密(ウンモ・長石を含む)	良好	淡茶褐色～淡灰褐色	KR－3
SI04 土玉	Po275	67	36	471	径 2.6～2.7 穴径 0.6	13.0			密(ウンモ・長石を含む)	良好	明灰褐色	KR－4
SI04 土玉	Po276	67	36	470	径 2.6～2.7 穴径 0.7	12.2			密(ウンモ・長石を含む)	良好	明茶褐色	KR－5
SI04 土玉	Po277	67	36	472	径 2.6～2.8 穴径 0.6～0.7	14.4			密(ウンモ・長石を含む)	良好	明茶褐色	KR－6
SI04 土玉	Po278	67	36	473	径 2.6～2.7 穴径 0.6～0.8	12.2			密(ウンモ・長石を含む)	良好	淡茶褐色	KR－7 黒斑あり
SI04 土玉	Po279	67	36	474	径 2.8 穴径 0.8	14.6			密(ウンモ・長石を含む)	良好	明茶褐色	KR－8 下部に黒斑あり
SI04 土玉	Po280	67	36	482	径 2.7～2.9 穴径 0.6～0.7	14.6			密(ウンモ・長石を含む)	良好	明茶褐色	KR－9
SI04 土玉	Po281	67	36	483	径 2.7 穴径 0.8～1.0	12.4			密(ウンモ・長石を含む)	良好	明茶褐色	KR－10
SI04 土玉	Po282	67	36	484	径 2.7 穴径 0.6～0.7	13.6			密(ウンモ・長石を含む)	良好	明茶褐色	KR－11
SI04 土玉	Po283	67	36	485	径 2.9 穴径 0.7	13.6			密(ウンモ・長石を含む)	良好	明茶褐色	KR－12 黒斑あり
SI07 土玉	Po330	71	38	257	径 2.8～2.9 穴径 0.7	20.2			密(ウンモ・石英・長石を含む)	良好	淡茶褐色	KR－2 右半部にスス付着
SI08 土玉	Po407	76	41	596	径 3.1～3.2 穴径 0.8～0.9	24.2			密(ウンモ・石英・長石を含む)	良好	淡茶褐色	KR－13 右下半部に黒斑あり
SI09 土玉	Po413	77	41	99	径 2.6 穴径 0.5	15.4			密(ウンモ・長石を含む)	良好	橙灰褐色～暗灰色	KR－1
SK02 土玉	Po414	78	－	97	径 2.4※ 穴径 0.7※	－			密(ウンモ・長石を含む)	良好	橙灰褐色～暗灰色	KR－60
SD01 土玉	Po439	79	42	726	径 2.9～3.0 穴径 0.7～0.8	21.8			密(長石を含む)	良好	橙～灰黄褐色	S－11

挿表26　宇谷第1遺跡土製品観察表

出土遺構	遺物番号	挿図	図版	取上番号	種類	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	形態の特徴	備考
SK03	F－3	78	42	1332	刀子	8.1	1.4	0.5	刀部～茎部。茎部から連続的に刀部へ至る。茎部の断面は長方形。	KR－9
SI03	F－2	65	35	1233	刀子	11.3	1.7	0.4	刀身長9.2cm。断面二等辺三角形平造り。切先はやや鈍い。刃側が内彎する。片関。茎部に木質が残る。	KR－7
SI03	F－1	65	35	1192	鉄製方形板耕具刃先	6.4	9.8	0.4	方形鉄板を左右から折り返す。刃部は銹化のため不明瞭。折り返し部分に木質が残る。	KR－8

挿表27　宇谷第1遺跡鉄製品観察表

出土遺構	番　号	挿図	図版	取上番号	種　類	石　材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重　さ(g)	形　態	備　考
SI 02	S 1	47	22	685	敲石	安山岩	12.7	9.6	6.0	1060	断面は凹んだ楕円形を呈す。2ヶ所に敲打痕あり。	KR－61
SI 02	S 2	47	22	429	砥石	アプライト	7.8	3.7	2.5	83	砥面は2つあり、両面ともに良く使われ内彎する。	KR－64
SI 02	S 3	47	22	1095	勾玉	輝蛇紋岩	3.0	1.0	穴径 0.2～0.3	6.1	両側穿孔。黒緑色。	KR－5
SI 03	S 4	65	35	227	勾玉	メノウ	4.2	1.5	穴径 0.15～0.4	17.2	片側穿孔。黒赤褐色。	KR－6
SI 03	S 5	65	35	1062	管玉	軟玉	2.6	0.5	穴径 0.15～0.2	0.7	片側穿孔。淡緑色。	KR－4
SI 03	S 6	65	35	946	管玉	軟玉	2.2	0.4	穴径 0.15～0.2	0.6	片側穿孔。淡緑色。	KR－3
SI 03	S 7	66	35	380	砥石	アプライト	15.1	4.4	4.0	365	砥面は6つある。うち1面は良く使われて内彎する。穿孔具の穴8つある。	KR－66
SI 03	S 8	66	35	1311	砥石	アプライト	11.7	4.9	1.8△	135	残存の砥面は1つあり、良く使われて内彎する。	KR－63
SI 03	S 9	66	35	1302	凹石	角閃石安山岩	11.6	6.6	6.6	735	1つの面に敲打痕あり。	KR－62
SI 05	S 10	67	36	228	管玉	碧玉	1.65	0.3	穴径 0.1～0.15	0.2	片側穿孔。淡緑色。	KR－1
SI 05	S 11	67	36	478	砥石	アプライト	8.2	4.3	2.7△	160	残存する砥面は2つある。うち1面は良く使われて内彎する。	KR－67
SI 05	S 12	67	36	1340	敲石	角閃石安山岩	11.4	6.5	6.1	670	端部に敲打痕あり。	KR－69
SI 05	S 13	67	36	1367	砥石	ロウ石化した凝灰岩	5.7	3.0	1.2	39.6	先端部を欠いているが、全面を使う。1面は良く使われ内彎する。	KR－65
SI 07	S 14	71	38	630	砥石	アプライト	13.2	6.1	5.5	680	残存する砥面は3つある。うち内側の2面は良く使われて内彎する。	KR－70
SI 08	S 15	76	41	633	石鏃	結晶安山岩	2.1	1.7	0.38	1.0	調整はやや粗いが、形状は整っている。抉入は非常に浅い逆U字形である。側縁部はやや膨む。	T－1
SI 08	S 16	77	41	1112	砥石	緑色凝灰岩	7.8	2.6	0.35	10.4	節理が発達した緑色凝灰岩である。薄い石片で砥面は4つある。	KR－71
SI 08	S 17	77	41	309	砥石	細粒花崗岩	8.8	9.0	2.9	330	砥面は2つあり、両面とも良く使われ内彎する。粒が少し粗い。	KR－68
SI 09	S 18	77	41	793	砥石	アプライト	11.0	7.4	3.9	430	両端が欠損しているが、全面に擦った跡がある。よく使いこまれた面は内彎する。	KR－75
SI 09	S 19	77	41	741	砥石	細粒花崗岩	11.4	7.0	5.7	525	砥面は1面で、良く使われて内彎する。粒が少し粗い。	KR－72
遺構外	S 20	81	43	27	不明	石英安山岩	3.7	－	1.2	9.0	平べいな円樂。	KR－73
遺構外	S 21	81	43	265	玉未製品	輝蛇紋岩	1.8	0.8	1.6	1.6	平坦面が残る。部分的に丸く調整されている。	KR－2

挿表28　宇谷第1遺跡石製品観察表

出土遺構	土器番号	挿図	図版	取上番号	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成保存	色調	備考
SI01 甕	●Po1	82	44	42 45 47	①15.4※ ②11.4△ ⑤2.5	口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁。端部は丸い。口縁部下端は丸く、やや下垂し、頸部へ至る。肩部はあまり張らない。口縁部内面の段はゆるやか。	外面…口縁部4条以上の平行沈線が施されるが、端部にナデ消し。頸部ヨコナデ。肩部に刺突文。胴部にミガキが認められる。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部右方向ヘラケズリ。頸部以下左方向ヘラケズリ。	密(1～3mm大の石英、長石を含む)	やや不良	内外面共に橙褐色	口縁部～胴部にスス付着。 KR－8
SI01 甕	Po2	82	44	37	①15.6※ ②5.2△ ⑤2.8	口縁部は、やや外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁。端部は丸い。口縁部下端は鋭く屈曲し、頸部へ至る。口縁部内面の段は不明瞭。	外面…口縁部9条以上の平行沈線。頸部にミガキ。 内面…口縁部横方向ミガキ。頸部以下左方向ヘラケズリ。	密(1～3mm大の石英、長石を含む)	良好	外面…暗褐色 内面…淡褐色	口縁部～頸部外面にスス付着。 KR－5
SI01 甕	Po3	82	44	8 33 34 42	①15.2※ ②3.8△ ⑤2.3	口縁部は、外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁。端部は丸い。口縁部下端は外方へ引き出される。口縁部内面の段は不明瞭。	外面…口縁部に8条以上の平行沈線が施される。 内面…口縁部に丁寧なナデ。頸部以下左方向ヘラケズリ。	密(1～2mm大の石英、長石を含む)	良好	内外面共に淡褐色～明褐色	KR－3
SI01 甕	Po4	82	44	33	①13.3※ ②3.5△ ⑤2.5	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は丸い。口縁部下端は屈曲して頸部へ至る。口縁部内面の段は不明瞭。	外面…口縁部4条の平行沈線を上下に二段施す。 内面…口縁部ナデ。頸部以下ヘラケズリ。	やや粗(1～2mm大の石英、長石、微砂を含む)	やや不良	内外面共に淡赤褐色	KR－2
SI01 甕	●Po5	82	－	33 50	①12.9※ ②3.8△ ⑤1.6	口縁部は、短く、やや外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁。端部は丸い。口縁部下端はわずかに下垂する。口縁部内面の段は不明瞭。	外面…口縁部風化のため調整不明。頸部横方向にミガキ。 内面…口縁部横方向ミガキ。頸部以下右方向ヘラケズリ。	やや粗(1～2mm大の石英、長石を含む)	やや不良	外面…褐色～淡橙褐色 内面…淡橙褐色	KR－1
SI01 甕	Po6	82	－	11	②5.7△ ④5.7※	平底を呈す底部。	外面…剝離している。 内面…ヘラケズリ。	密(1mm大の石英、長石を含む)	良好	外面…褐色 内面…橙褐色	KR－6
SI01 須恵器坏身	Po7	82	－	5 29	①11.1※ ②2.4△ ⑧12.0 ⑨0.9	立ち上がりは内傾する。端部は丸い。受部はやや上方へ延びる。	外面…底部ヘラケズリ。他は回転ナデ。 内面…回転ナデ。	密(微砂を含む)	良好	内外面共に灰色	KR－71
SD02 須恵器坏蓋	Po8	82	－	18 22 27	①13.9※ ②4.0△	口縁部はゆるやかに内彎しながら下方へ下り、端部に至る。端部は丸い。天井部との境は不明瞭。	外面…天井部1／8ヘラケズリ。他は回転ナデ。口縁端部にハケ目。 内面…回転ナデ。	やや粗(1～3mm大の砂粒を含む)	やや不良	内外面共に灰白色	NA－85
SD02 須恵器坏身	Po9	82	－	19	①14.0※ ②3.3△ ⑧14.8 ⑨1.2	立ち上がりは内傾する。端部は薄く引き出される。受部は水平に延びる。	外面…底部ヘラケズリ。他は回転ナデ。 内面…回転ナデ。	やや粗(1mm大の石英、長石を含む)	良好	内外面共に緑灰色	NA－90
SD02 須恵器坏蓋	Po10	82	44	4 19	①14.0※ ②4.2△	口縁部はゆるやかに内彎しながら下方へ下り、端部に至る。端部は丸い。天井部との境は不明瞭。	外面…天井部1／4以下ヘラケズリ。他は回転ナデ。口縁端部に刻み目あり。 内面…天井部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	やや粗(砂粒を含む)	良好	内外面共に淡青灰色	F－170
SD02 須恵器坏蓋	Po11	82	44	3 19	①13.3※ ②3.2△	口縁部はゆるやかに内彎しながら下方へ下り、端部に至る。端部は丸い。天井部との境は不明瞭。	外面…回転ナデ。口縁端部に刻み目。 内面…回転ナデ。	密(微砂を含む)	やや不良	内外面共に灰白色	NA－86
SD02 須恵器瓶	Po12	82	－	19 23 24	②8.0△ ③11.5※	体部は、肩部が張り、扁球形を呈す。肩部に1条の凹線が巡る。	外面…底部付近カキ目。他は回転ナデ。 内面…回転ナデ。	密(2～3mm大の石英、長石を含む)	良好	内外面共に暗青灰色	S－33
遺構外 須恵器坏身	Po13	83	－	4	①14.0※ ②2.1△ ⑧15.6 ⑨0.9	立ち上がりは内傾し、短い。端部は丸い。受部はやや上方へ延びる。	内外面共に回転ナデ。	密(微砂を含む)	良好	内外面共に灰色	F－175
遺構外 須恵器坏身	Po14	83	－	4	①12.8※ ②2.4△ ⑧14.0 ⑨0.7	立ち上がりはやや内傾し、短い。受部は水平に引き出される。	内外面共に回転ナデ。	密(微砂を含む)	良好	内外面共に緑灰色	F－172
遺構外 須恵器坏身	Po15	83	－	27	①15.0※ ②2.7△ ⑧15.6 ⑨1.2	立ち上がりはやや内傾する。端部は薄く引き出される。受部は水平に延びる。	内外面共に回転ナデ。	密	良好	内外面共に淡灰色	NA－89
遺構外 須恵器坏身	Po16	83	－	15	①10.0※ ②3.5△ ⑧11.0 ⑨0.9	立ち上がりは内傾し、短い。端部は薄く引き出される。受部はやや上方へ延びる。	内外面共に回転ナデ。	密(微砂を含む)	良好	内外面共に淡灰色	F－174
遺構外 須恵器坏身	Po17	83	44	1	①12.0※ ②2.6△ ⑧13.0 ⑨0.8	立ち上がりは内傾し、短い。端部は丸い。受部はやや上方に延びる。	内外面共に回転ナデ。	密(微砂を含む)	良好	内外面共に灰黄色	NA－84
遺構外 須恵器坏身	Po18	83	44	12	①9.6※ ②2.5△ ⑧11.0 ⑨1.0	立ち上がりは短く内傾する。端部は丸い。受部はやや上方に延びる。	内外面共に回転ナデ。	密(微砂を含む)	良好	内外面共に淡黄灰色	F－171
遺構外 須恵器高坏	Po19	83	－	4	②2.8△ ④11.5※	外反して大きく開く高坏裾部の破片。三角形透しが施される。	内外面共に回転ナデ。	密	良好	内外面共に暗紫色	NA－88
遺構外 須恵器甕	Po20	83	44	27	①22.8※ ②3.3△	口縁部で「く」の字に大きく開く。	外面…回転ナデ。頸部以下タタキ痕あり。 内面…回転ナデ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	外面…暗灰色 内面…灰色	KN－73
遺構外 須恵器高坏	Po21	83	－	6	②1.5△ ④15.8※	大きく広がる裾端部は、内側に肥厚する。	内外面とも回転ナデ。	密(微砂を含む)	良好	内外面共に淡灰色	F－173
遺構外 須恵器瓶	Po22	83	44	9	②3.3△	ほぼ球形をなす体部。中央部に円形透し孔あり。	外面…回転ヘラケズリ。 内面…回転ナデ。	密(微砂を含む)	良好	外面…暗灰色 内面…灰色	回転方向左 KN－74
遺構外 甕	Po23	83	44	8	①15.7※ ②4.8△ ⑤2.9	口縁部はやや外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁。端部は丸い。口縁部下端は鋭く屈曲し、頸部へ至る。口縁部内面の段は不明瞭。	外面…7条以上の平行沈線。所々をナデ消す。 内面…口縁部横方向ミガキ。頸部以下ヘラケズリ	密(1～2mm大の石英、長石、雲母を含む)	良好	内外面共に暗褐色	頸部外面にスス付着。 KR－4
遺構外 甕	Po24	83	44	4	①16.5※ ②4.1△	大きく「く」の字状に外反する口縁部。端部は丸い。	外面…ナデ。 内面…口縁部ナデ。頸部以下ヘラケズリ。	密(微砂を含む)	良好	内外面共に橙褐色	KR－7

挿表29　南谷大ナル遺跡出土土器観察表

出土遺構	番号	挿図	図版	取上番号	種類	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重さ(g)	形態	備考
SI01	S1	82	－	49	砥石	細粒花崗岩	5.2	4.3	3.5	111	砥面が3つある。下半分欠く。	S－32
遺構外	S2	83	44	3	砥石	雲母安山岩	7.1	4.6	4.7	260	砥面が4つある。先端部欠く。	S－31

挿表30　南谷大ナル遺跡石製品観察表

図　　版

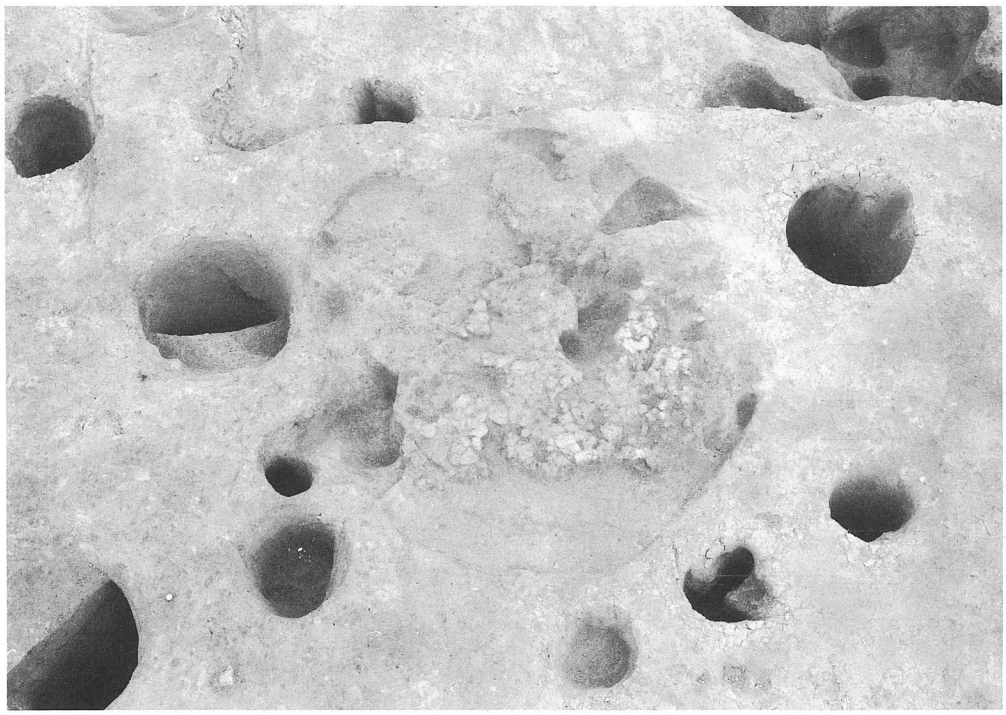
図版１

宇谷第１遺跡調査前全景（西上空より）

宇谷第１遺跡全景（南上空より）

図版 2

宇谷第１遺跡
SI01完掘状況
（西より）

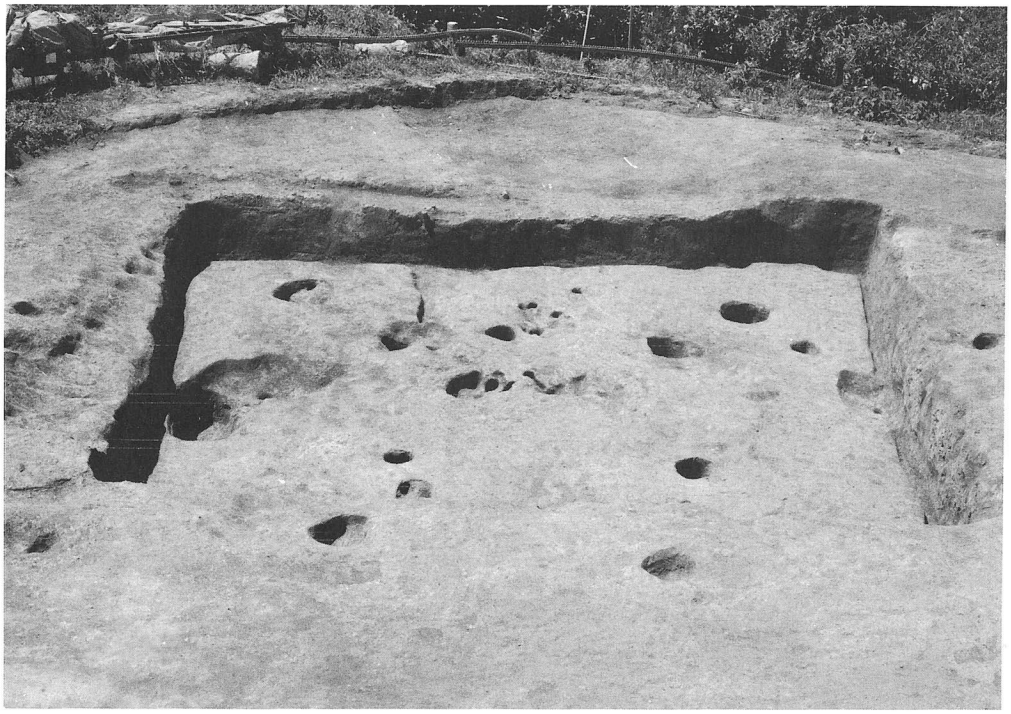


宇谷第１遺跡
SI01焼土検出状況
（北より）

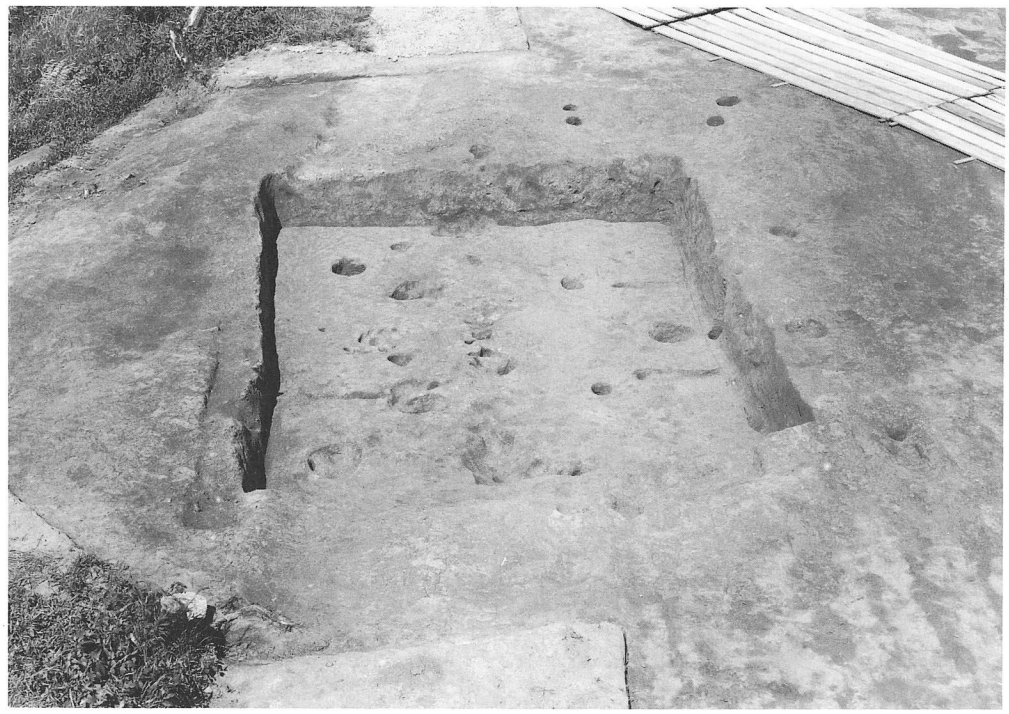
宇谷第１遺跡
SI02･10完掘状況
（北より）

図版 3

宇谷第１遺跡
SI03土器出土状況
（南より）



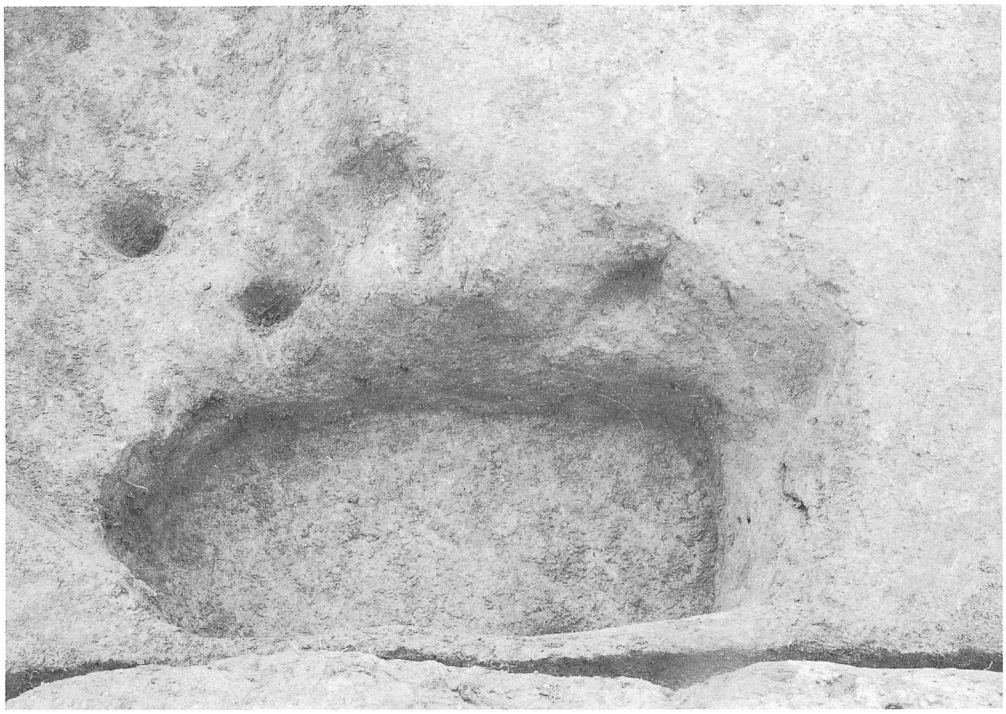
宇谷第１遺跡
SI03完掘状況
（南より）



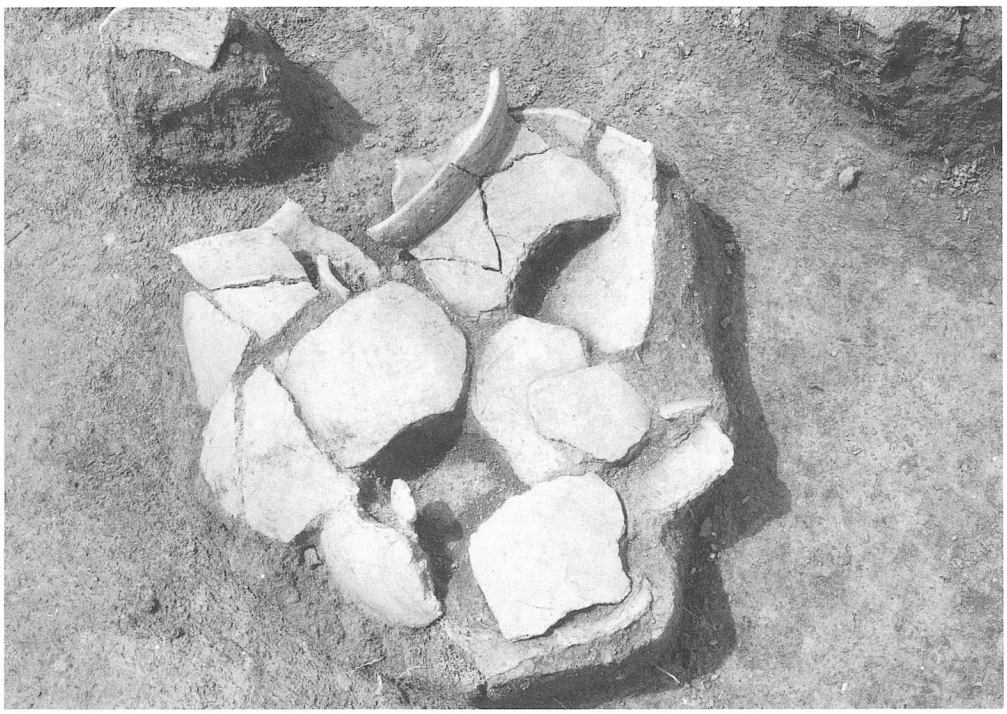
宇谷第１遺跡
SI03完掘状況
（西より）

図版 4

宇谷第１遺跡
S103南側仕切溝完掘状況
（北より）

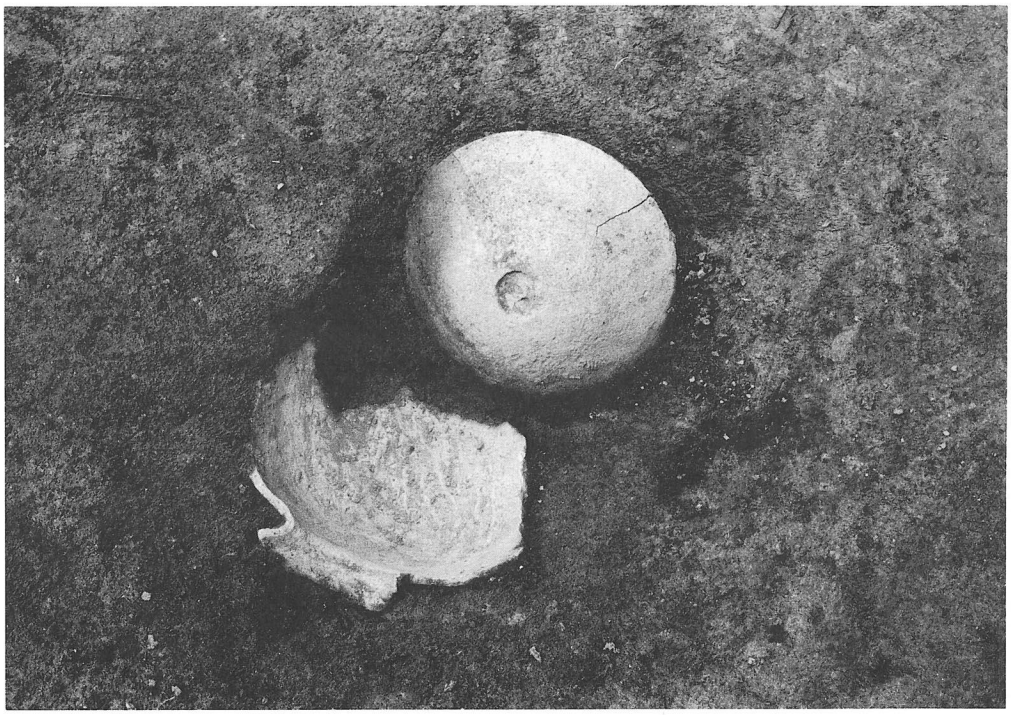


宇谷第１遺跡
S103内SK15・16
完掘状況
（西より）

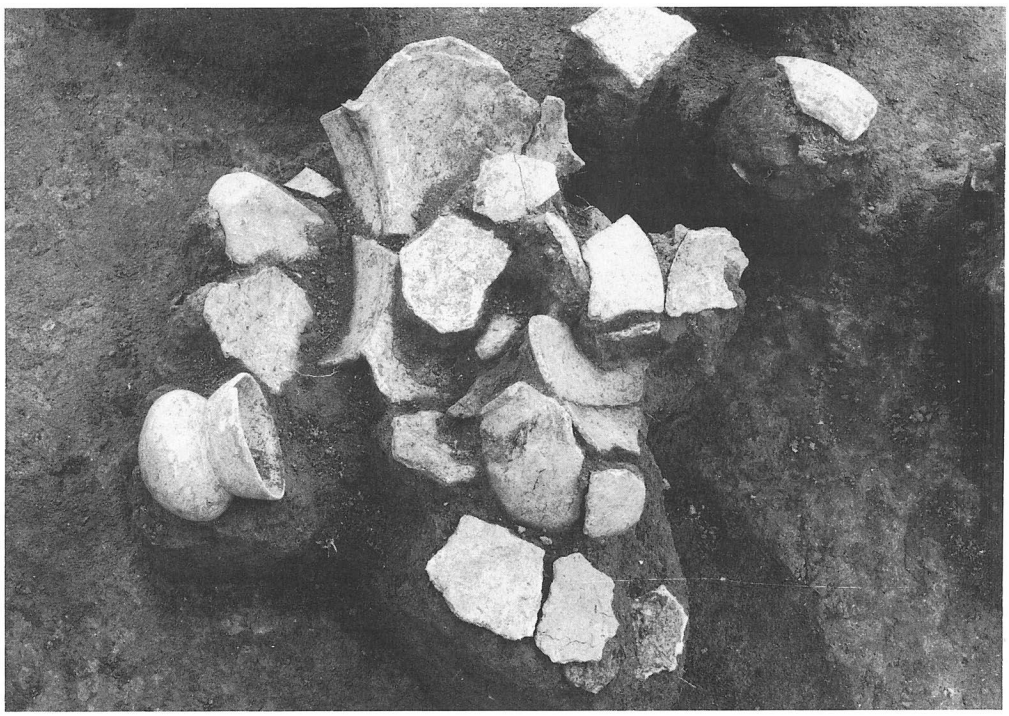


宇谷第１遺跡
S103甕（Po91）出土状況
（南より）

図版 5



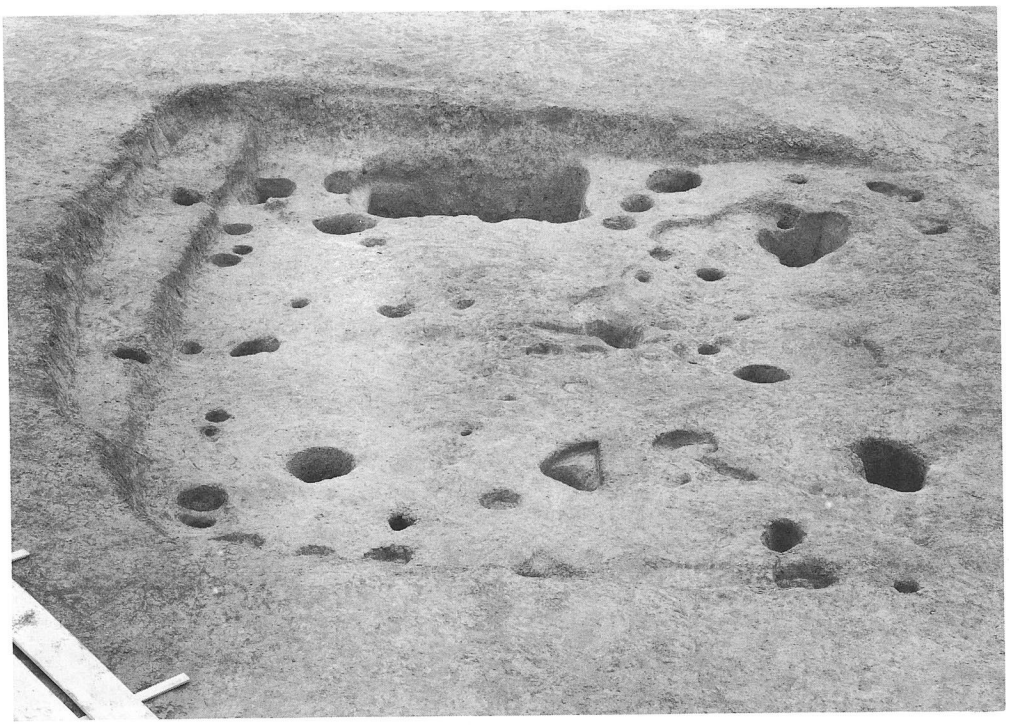
宇谷第１遺跡
SI03高坏(Po190)甕
(Po26)出土状況
(南より)



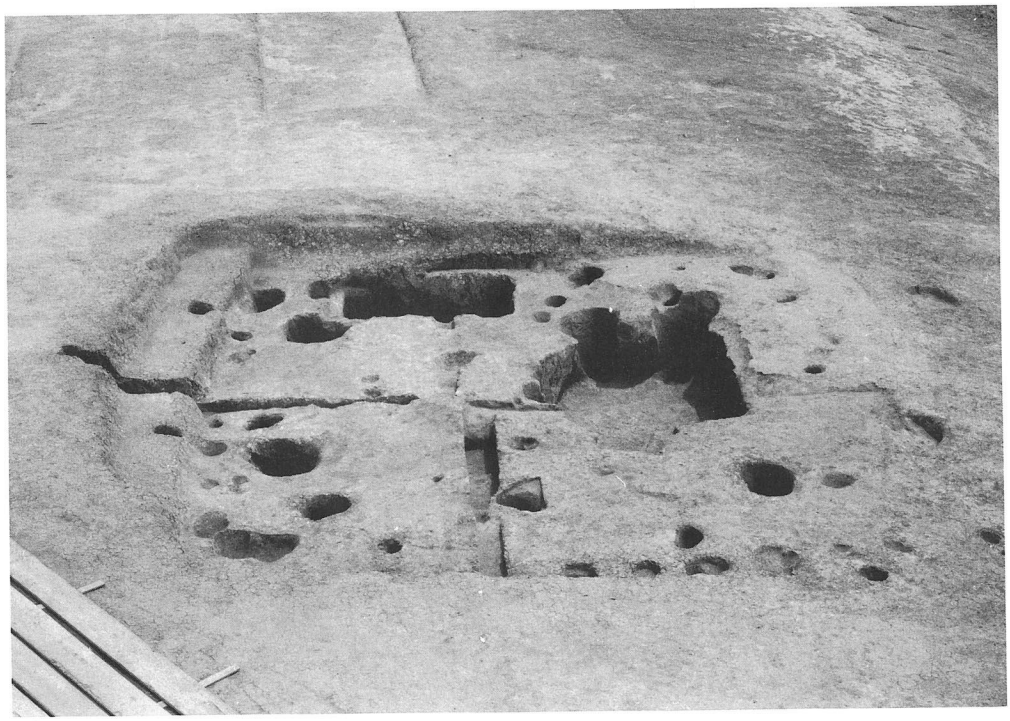
宇谷第１遺跡
SI03甕(Po30)小型丸底
壺(Po241)出土状況
(北東より)

宇谷第１遺跡
SI03刀子(F2)
出土状況
(北より)

宇谷第１遺跡
SI04・05完掘状況
（北より）



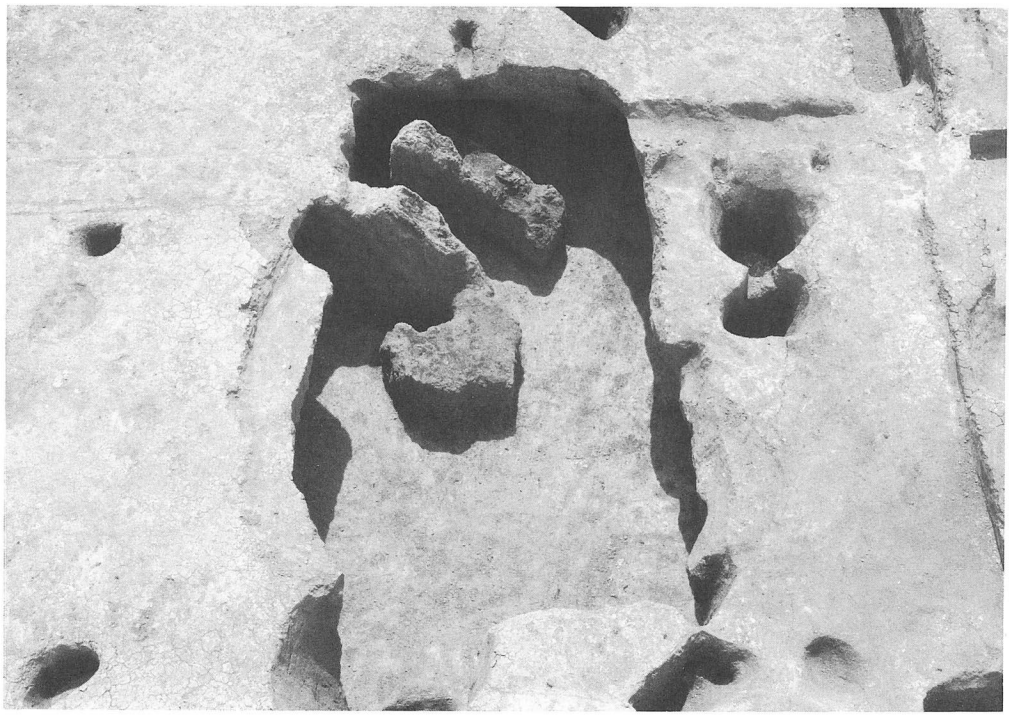
宇谷第１遺跡
SI04・05完掘状況
（西より）



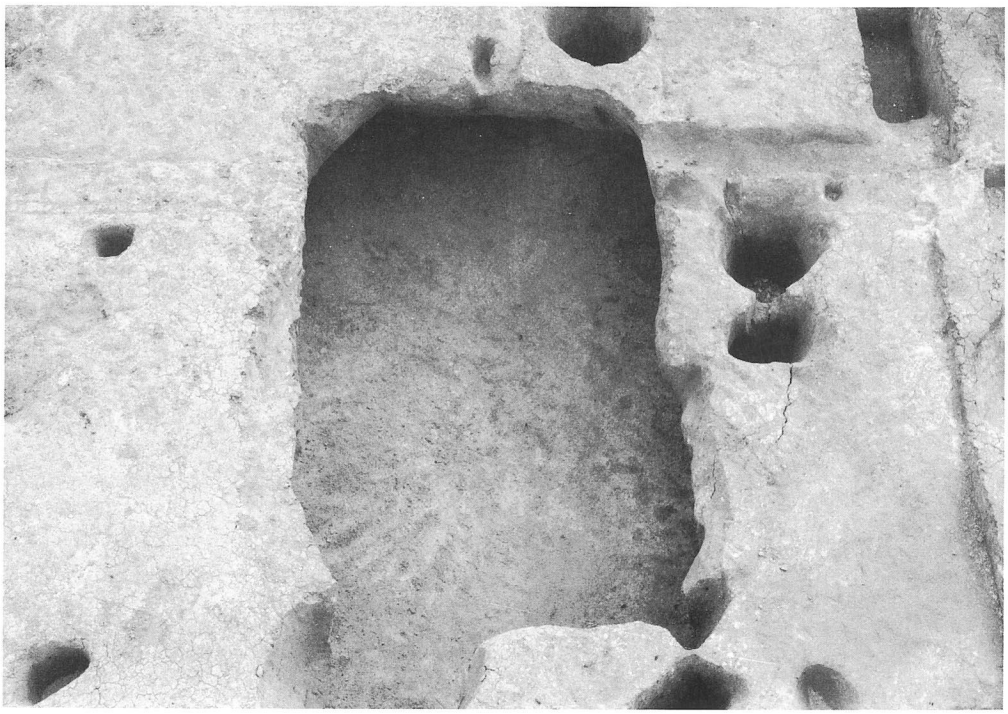
宇谷第１遺跡
SI04・05貼床除去後
完掘状況
（西より）

図版７

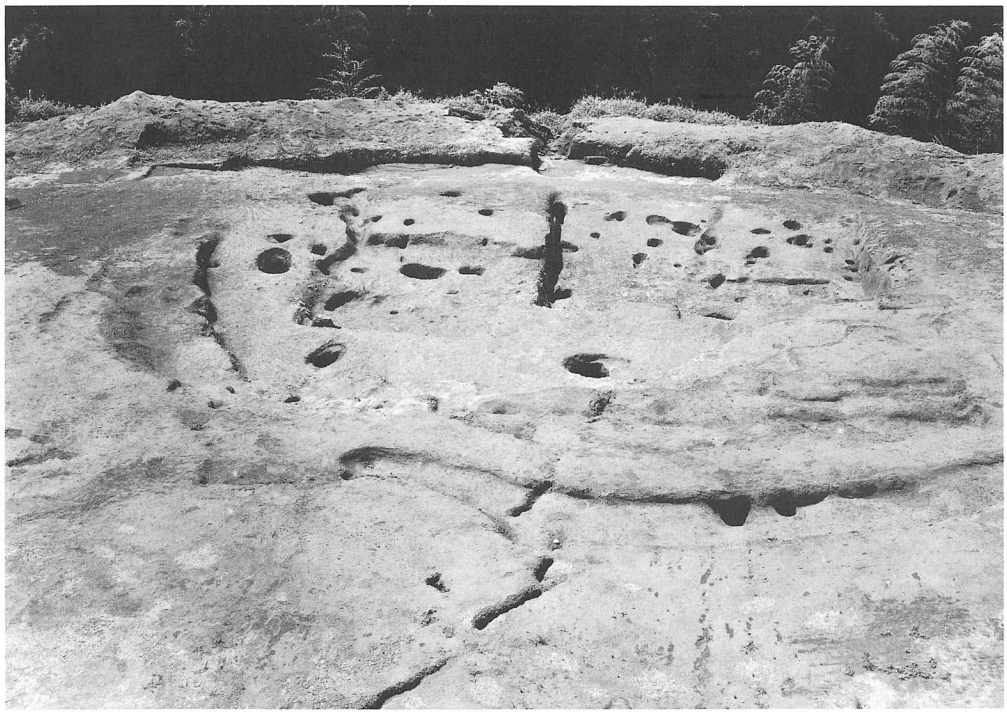
宇谷第１遺跡
SI05内SK12炭化物出土状況
（東より）



宇谷第１遺跡
SI05内SK13炭化物出土状況
（東より）



宇谷第１遺跡
SI05内SK13完掘状況
（東より）



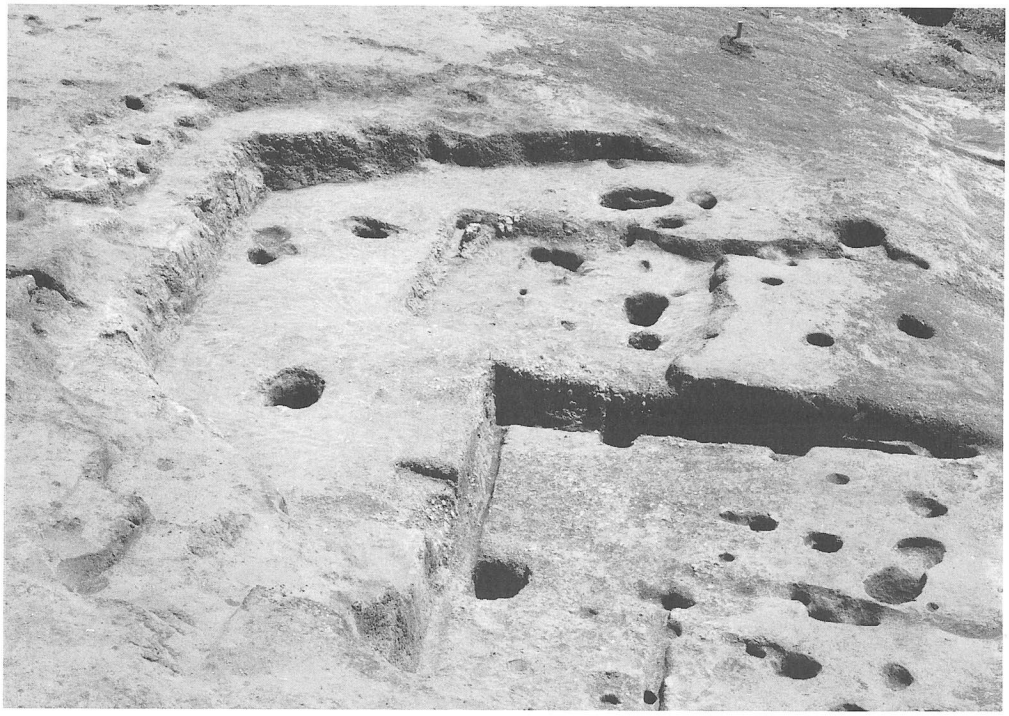
宇谷第１遺跡
SI06･07完掘状況
(北より)

宇谷第１遺跡
SI06ピット検出状況
(北より)

宇谷第１遺跡
SI06甕(Po284)出土状況
(南より)

図版 9

宇谷第１遺跡
SD04完掘状況
（北より）

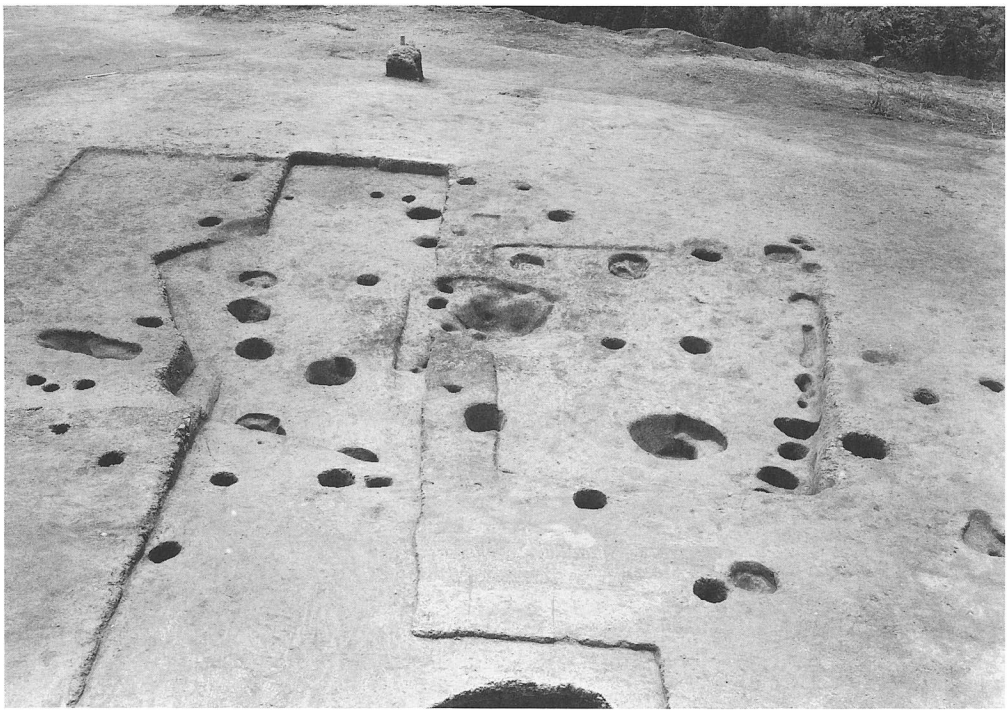


宇谷第１遺跡
SI07完掘状況
（西より）

宇谷第１遺跡
SI07内砥石（S14）出土状況
（北より）

宇谷第１遺跡
S108完掘状況
（北より）

宇谷第１遺跡
S109完掘状況
（南より）



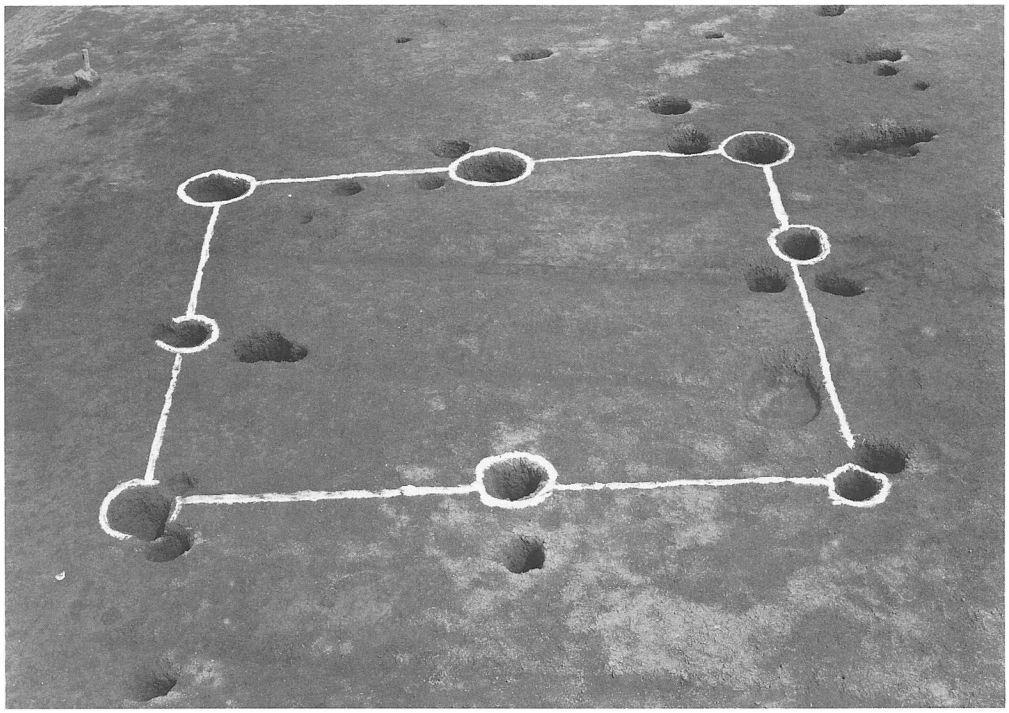
宇谷第１遺跡
S109柱穴位置
（北より）

図版11

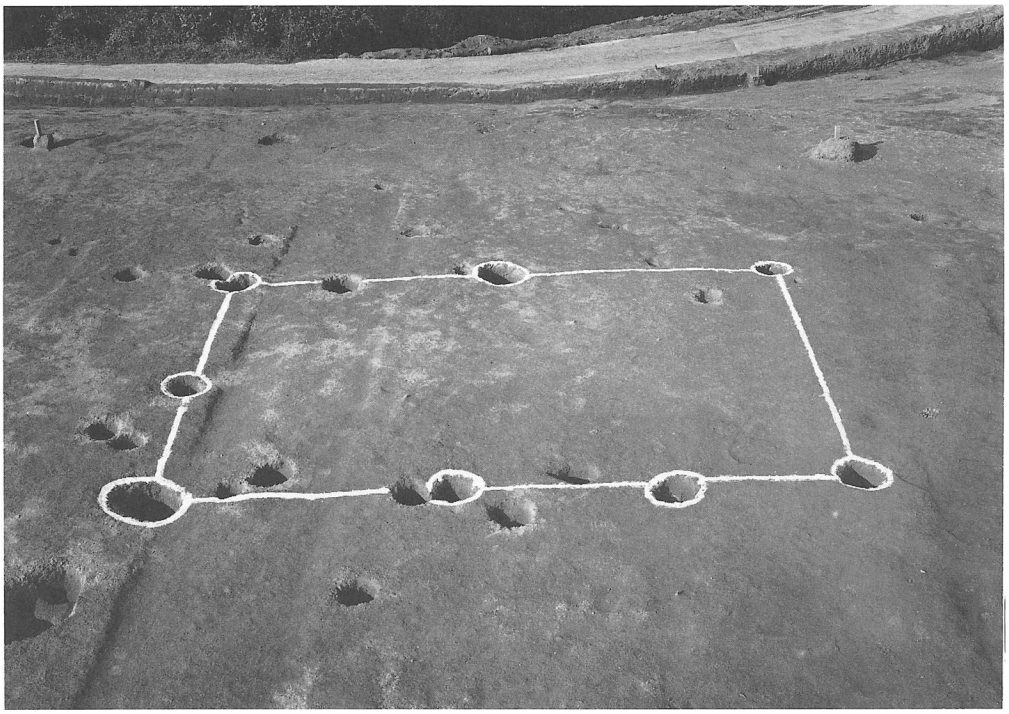
宇谷第１遺跡
SI09柱穴位置
（南より）

宇谷第１遺跡
ピット群完掘状況（その1）
（南より）

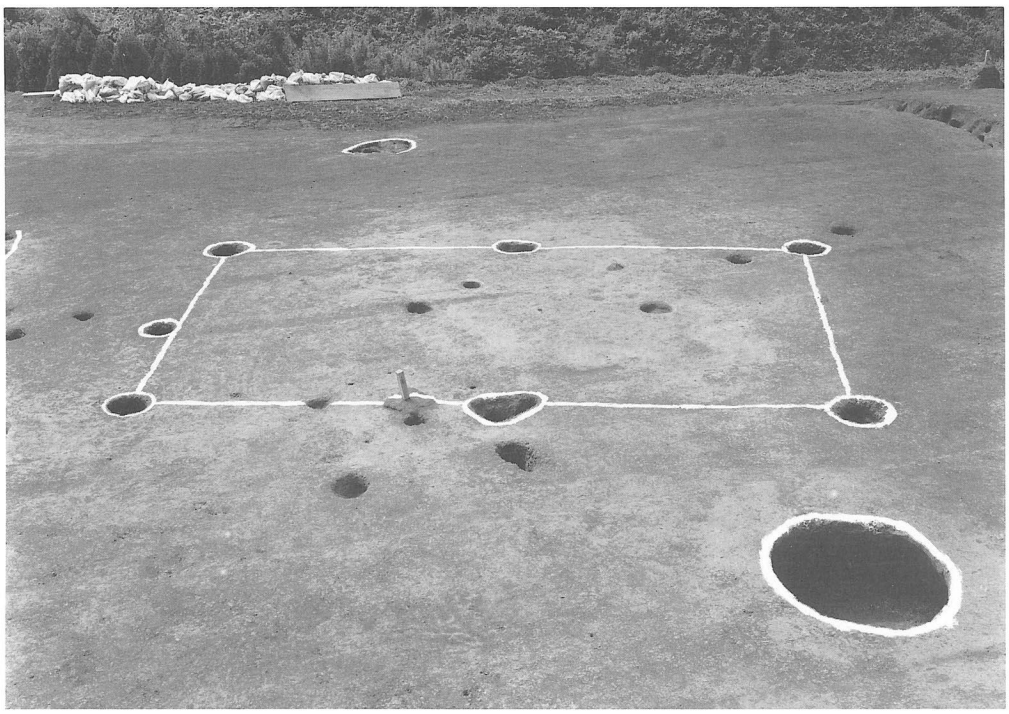
宇谷第１遺跡
ピット群完掘状況（その2）
（東より）



宇谷第１遺跡
SB01完掘状況
（北より）

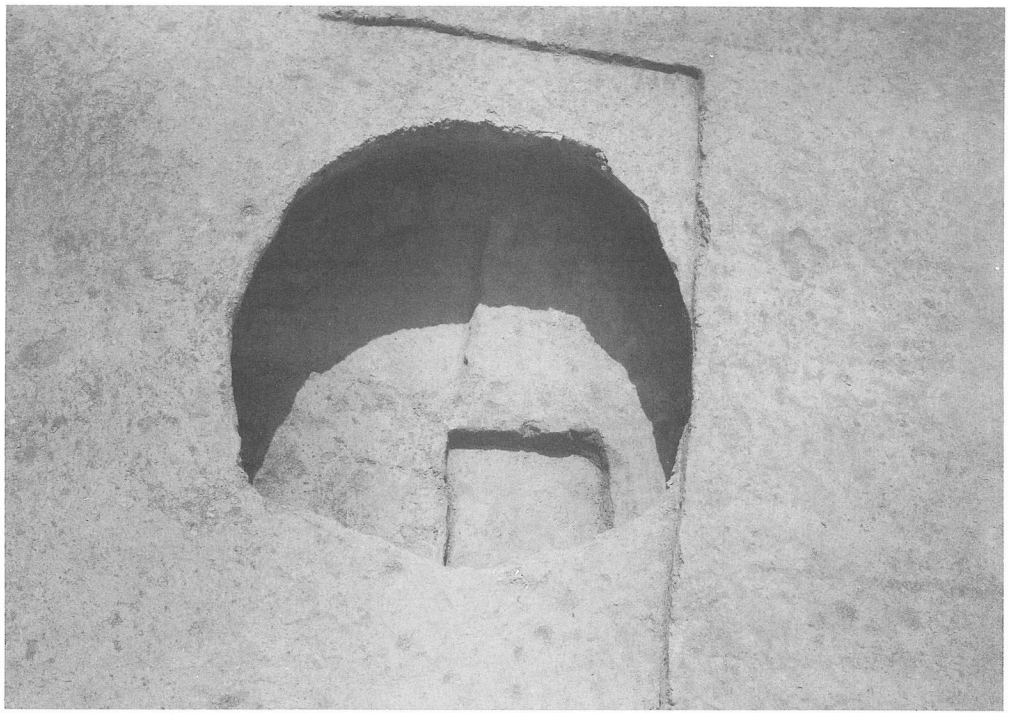


宇谷第１遺跡
SB02完掘状況
（西より）

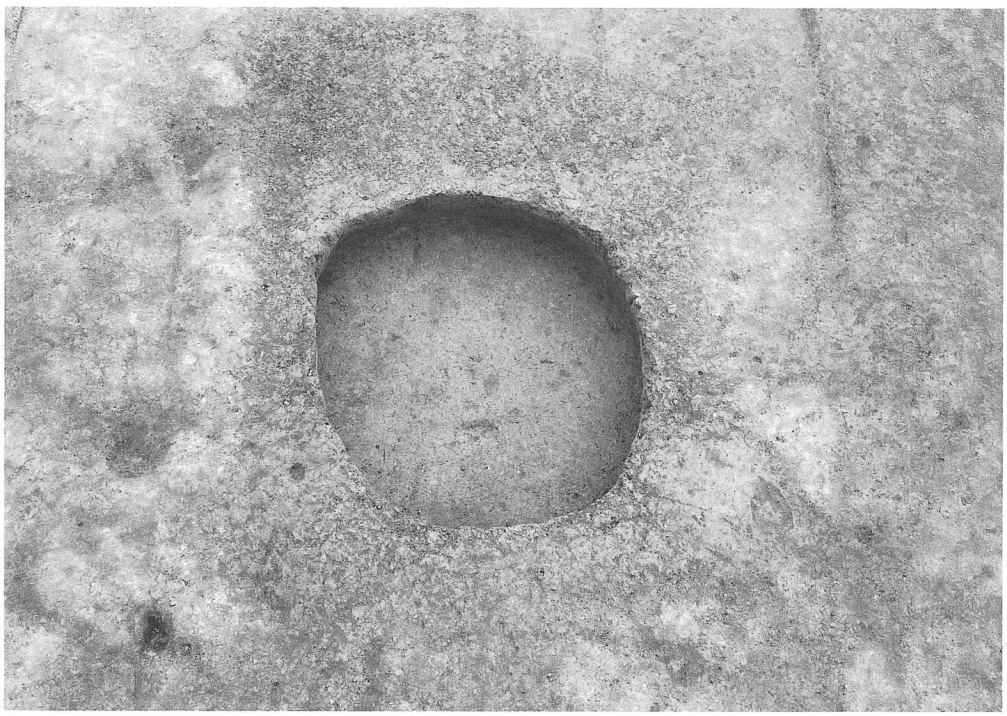


宇谷第１遺跡
SB03完掘状況
（北より）

図版13

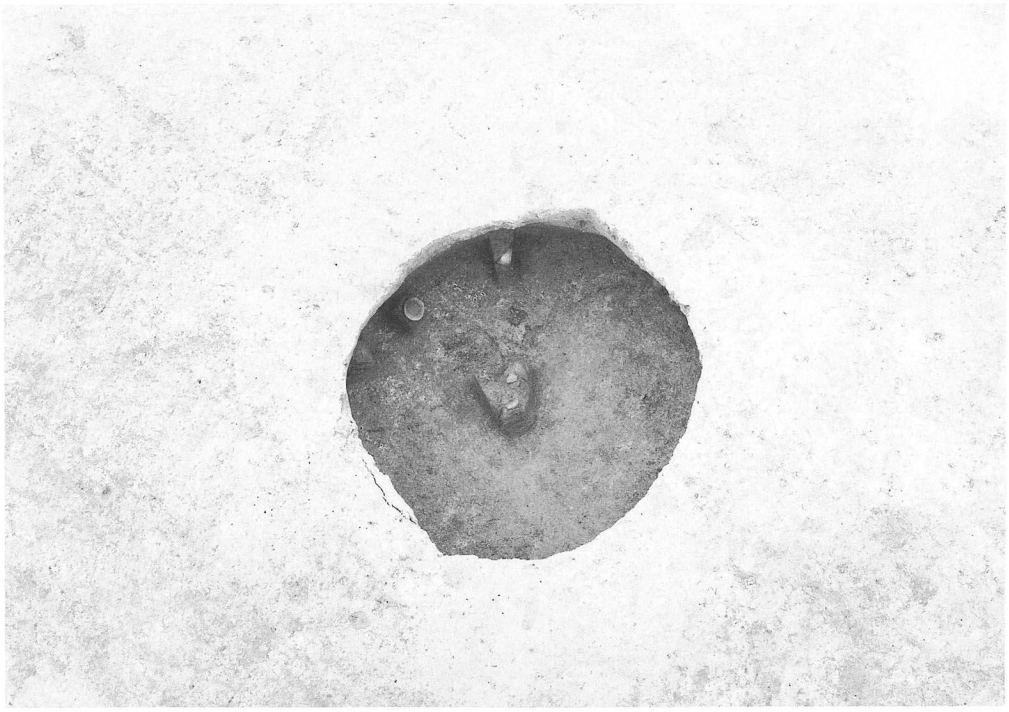


宇谷第１遺跡
SK01完掘状況
（北より）



宇谷第１遺跡
SK02完掘状況
（東より）

宇谷第１遺跡
SK03完掘状況
（西より）



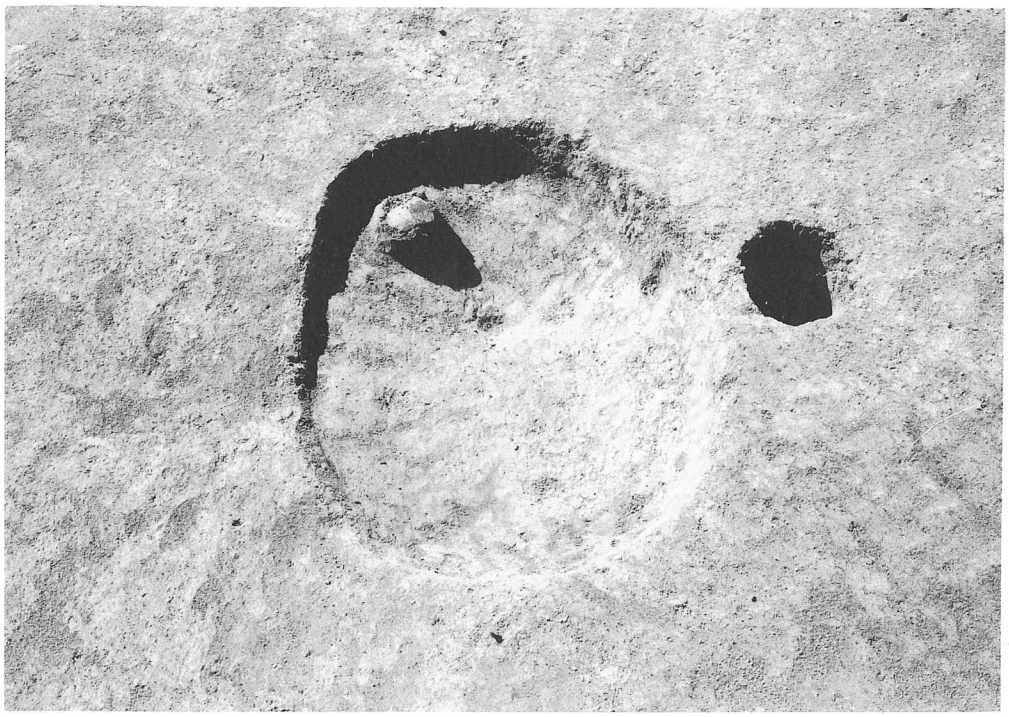
宇谷第１遺跡
SK04遺物出土状況
（東より）

宇谷第１遺跡
SK04内台付鉢（Po421）
出土状況
（東より）

宇谷第１遺跡
SK05（右）・06（左）
完掘状況
（西より）

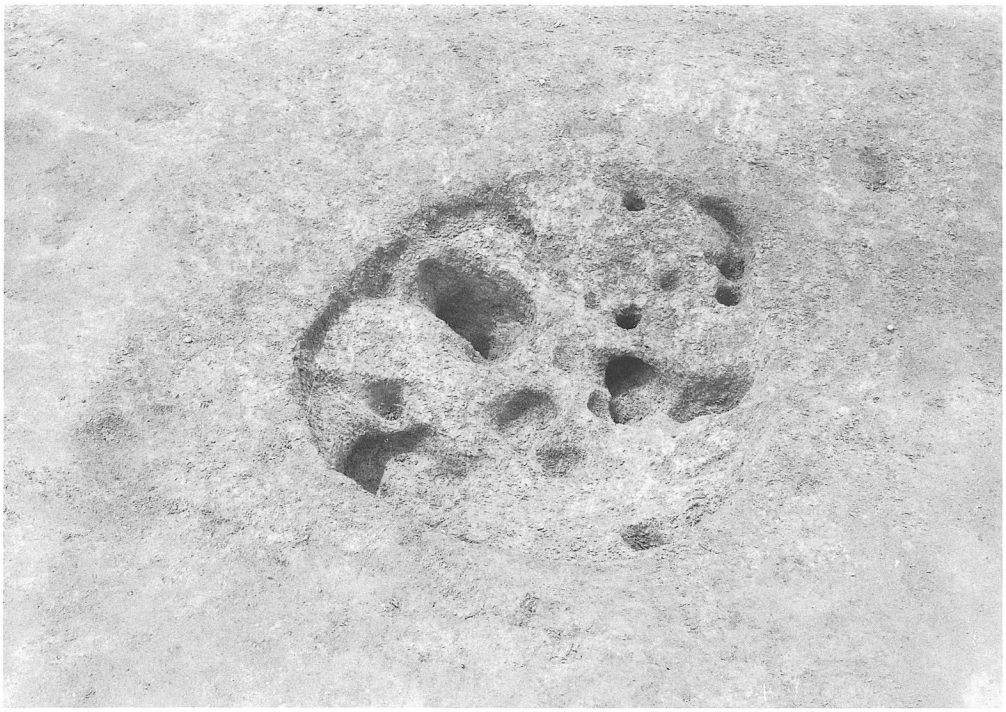
図版15

宇谷第１遺跡
SK07検出状況
（北より）

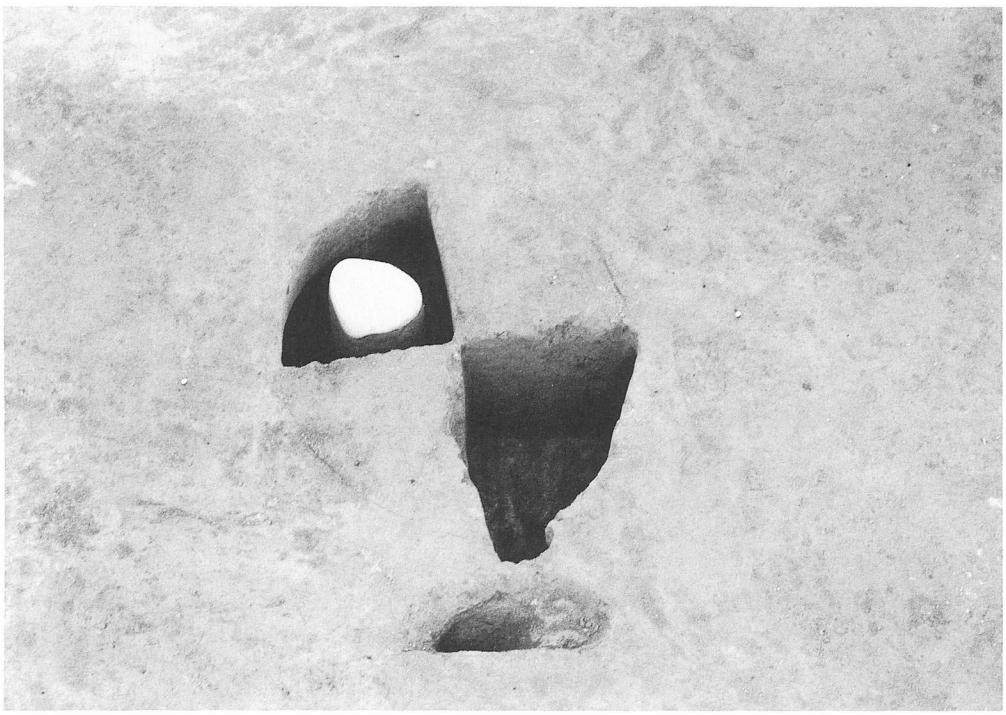


宇谷第１遺跡
SK08遺物出土状況
（南より）

宇谷第１遺跡
SK09完掘状況
（南より）



宇谷第１遺跡
SK10完掘状況
（北より）

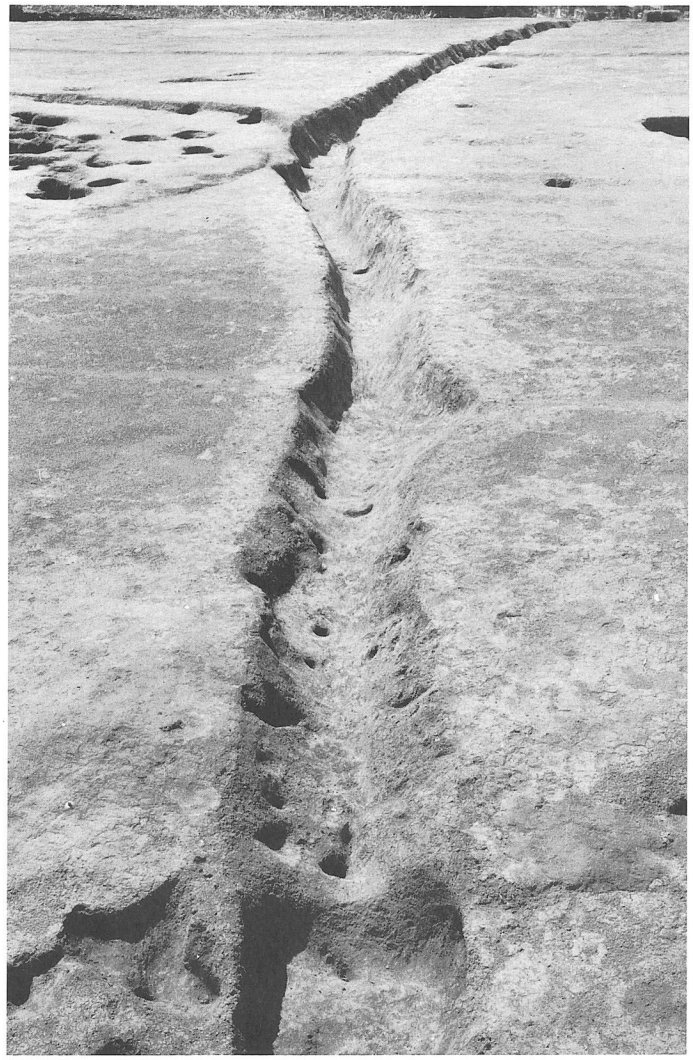


宇谷第１遺跡
SK11検出状況
（南より）

宇谷第１遺跡
SD02検出状況
（南より）

図版17

宇谷第１遺跡SD01検出状況（南より）



宇谷第１遺跡SD01完掘状況（南より）

宇谷第１遺跡SD03検出状況（東より）

宇谷第１遺跡
SD05検出状況
（西より）

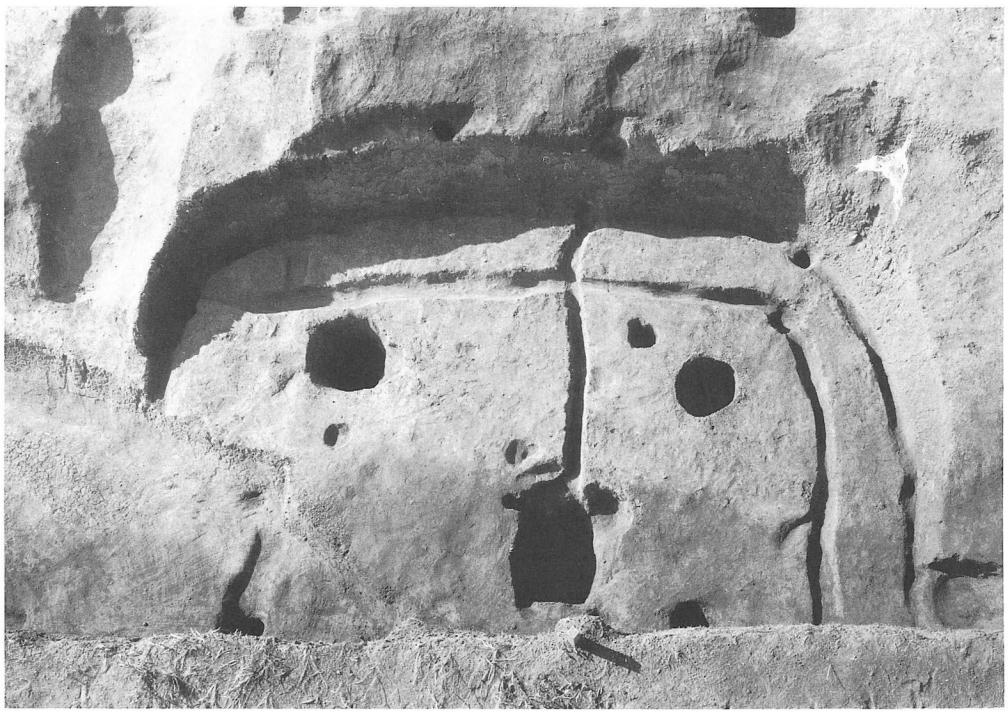
南谷大ナル遺跡
調査前全景
（東より）

南谷大ナル遺跡全景
（北上空より）

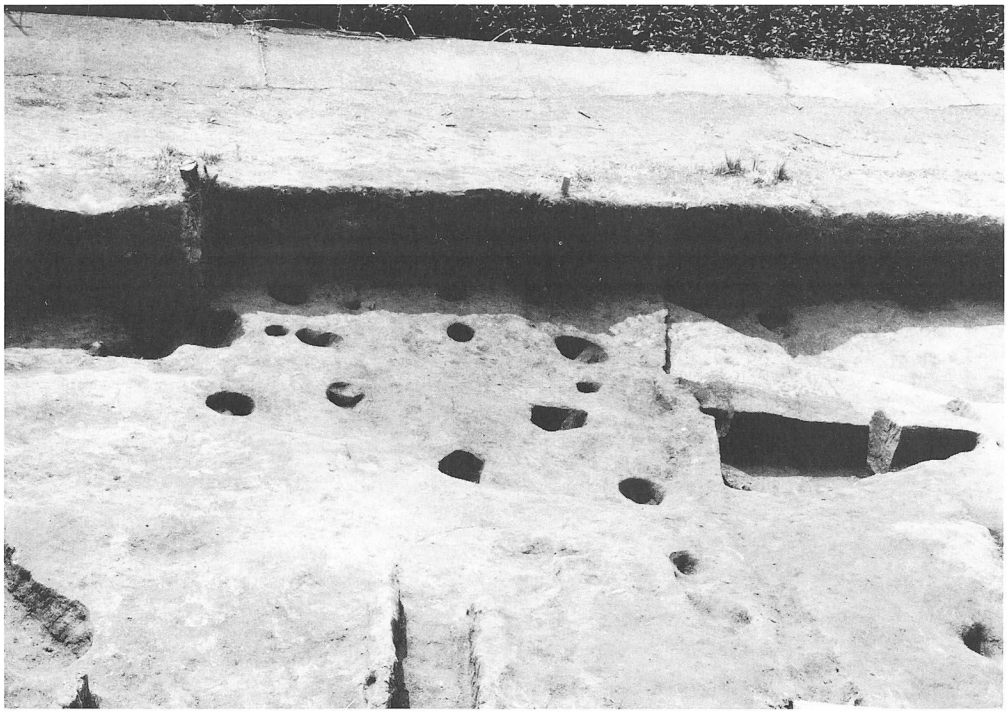
図版19

南谷大ナル遺跡
SI01検出状況
（南より）

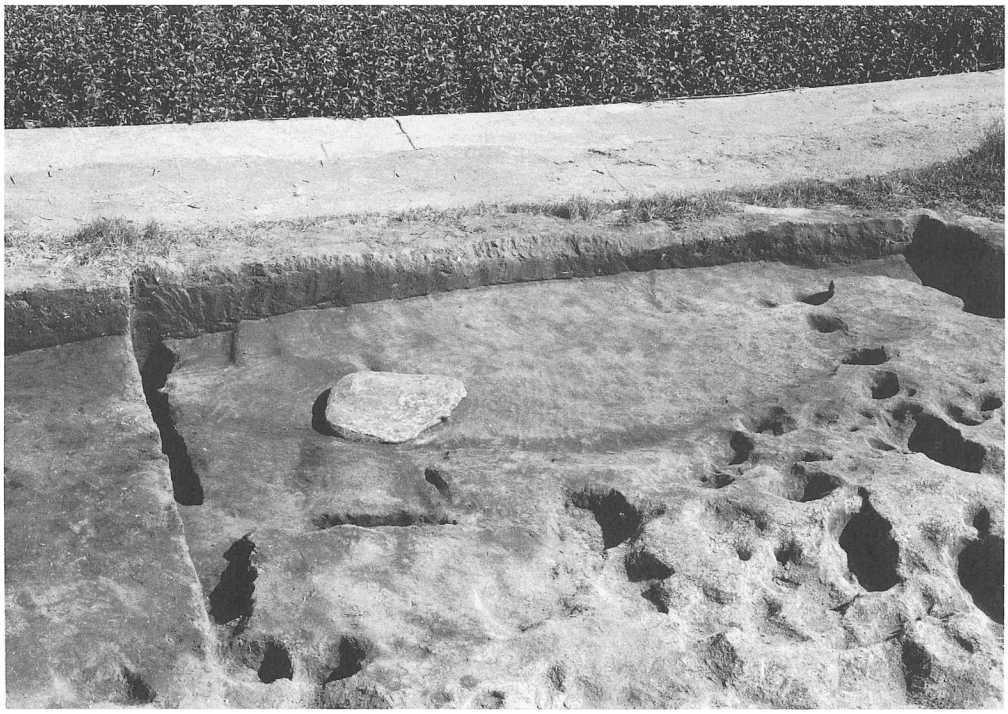
南谷大ナル遺跡
SI01完掘状況
（南より）



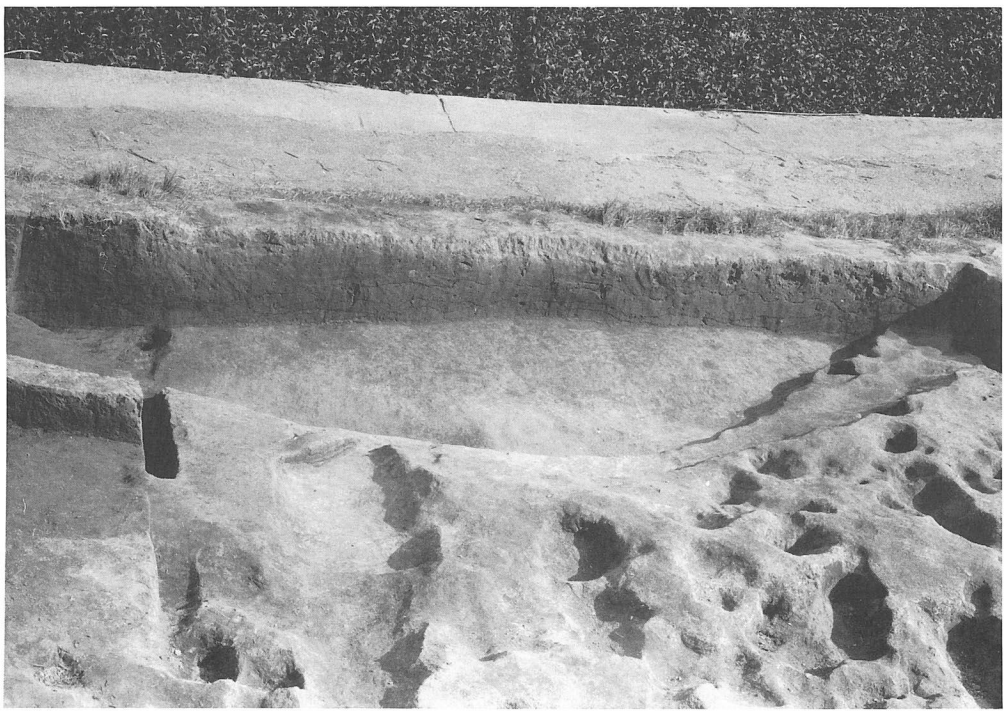
南谷大ナル遺跡
SI01貼床除去後
完掘状況
（南より）



南谷大ナル遺跡
ピット群完掘状況
（北西より）



南谷大ナル遺跡
SS01石検出状況
（北より）



南谷大ナル遺跡
SS01完掘状況
（北より）

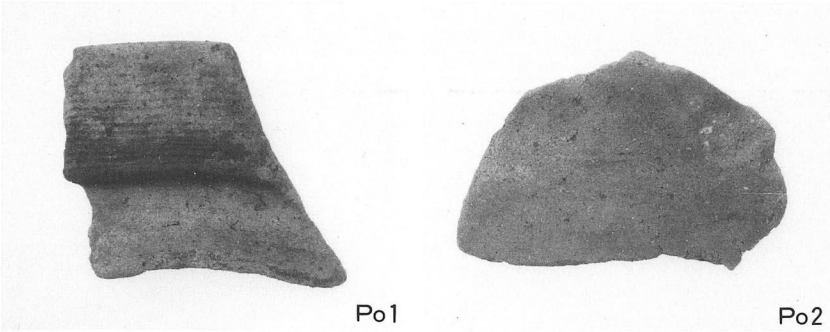
図版21

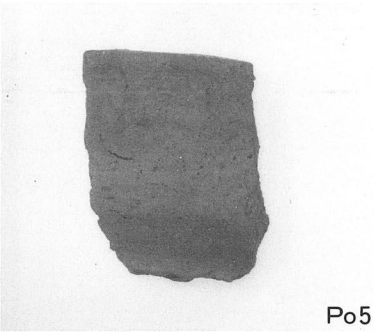
南谷大ナル遺跡
SD01完掘状況
(北より)

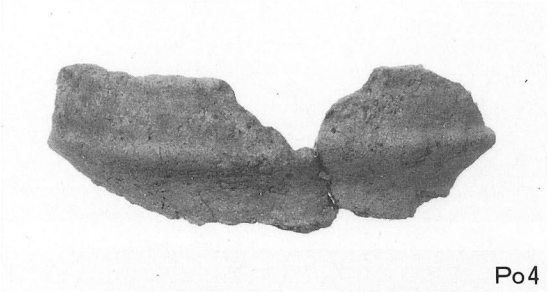
南谷大ナル遺跡
SD02完掘状況
(西より)

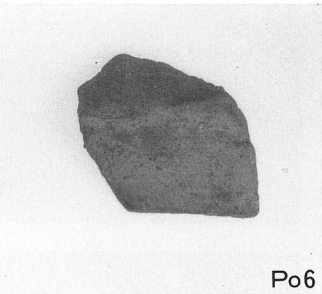
南谷大ナル遺跡
SD03完掘状況
(東より)

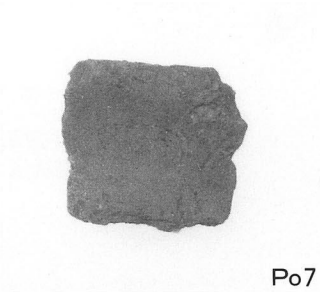
図版22

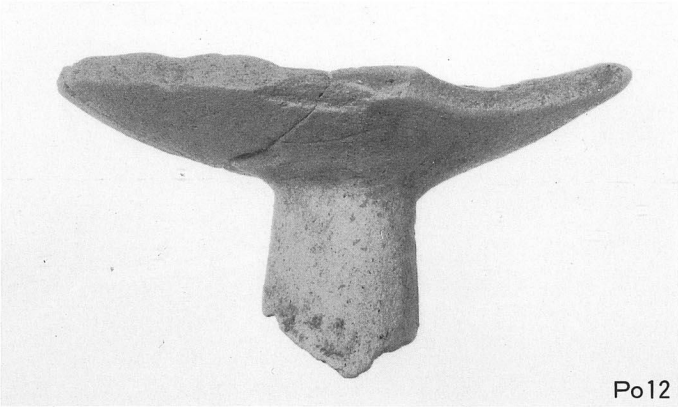


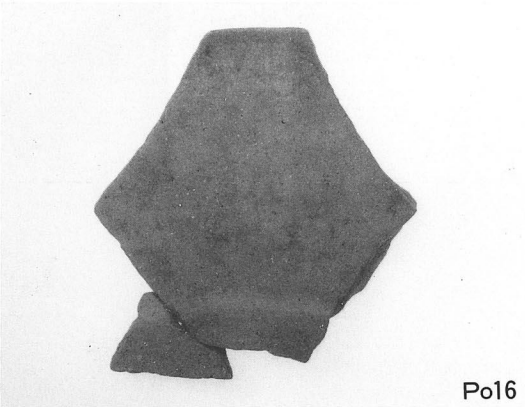


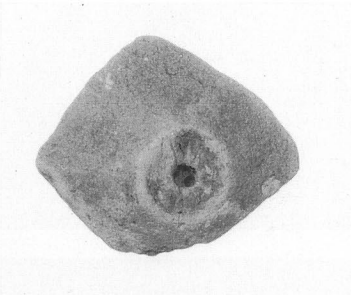


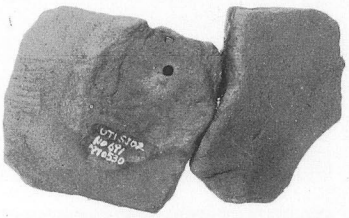








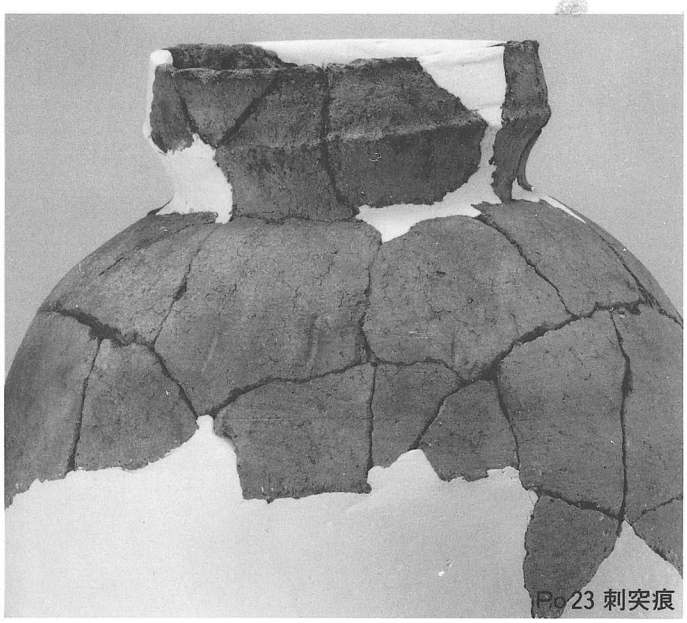




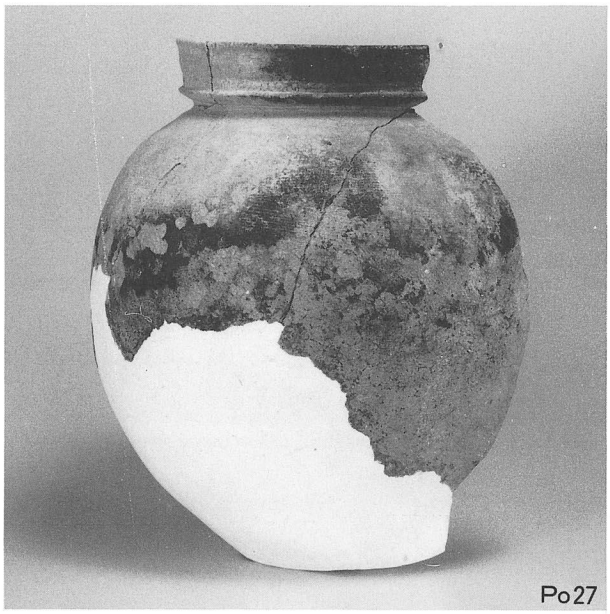
宇谷第１遺跡　S101（Po1、Po2）・S102（Po4～Po7、Po12～Po14、
Po16、Po18、S1～S3）

図版23

Po23



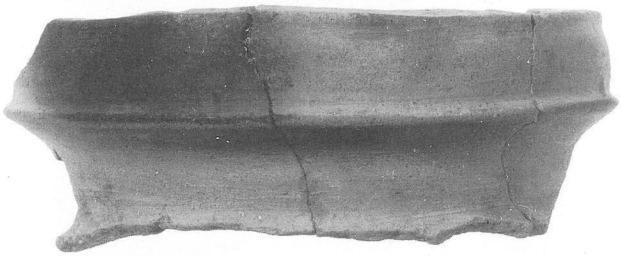
Po23 刺突痕



Po27

Po27 刺突痕

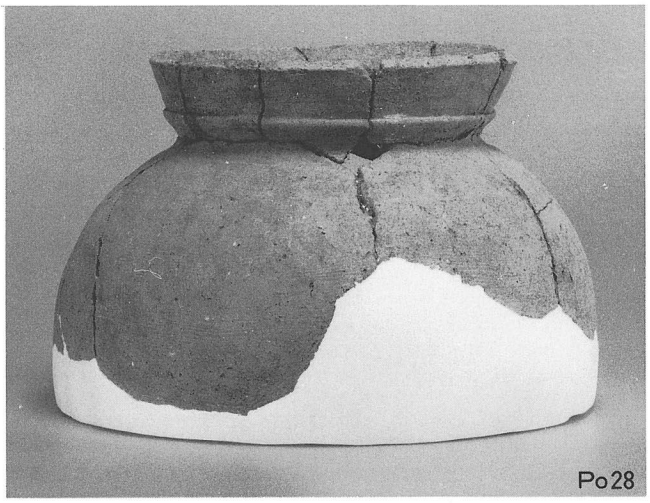
Po26

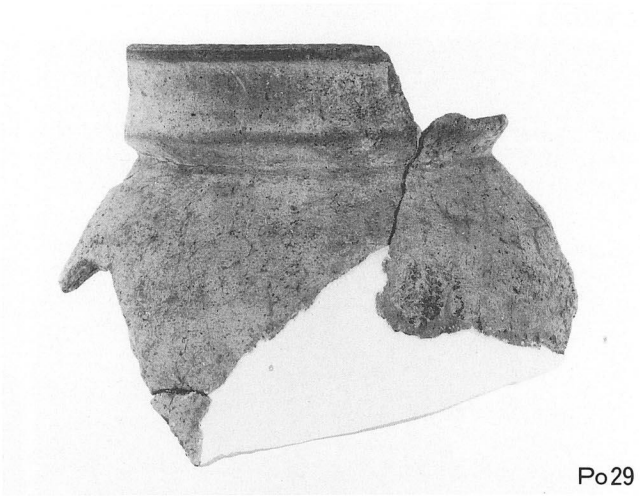


Po24

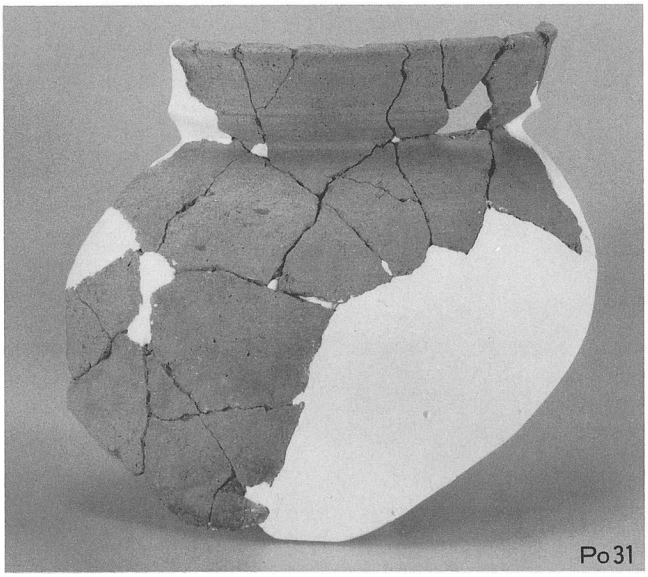
宇谷第１遺跡　S103（Po23、Po24、Po26、Po27）

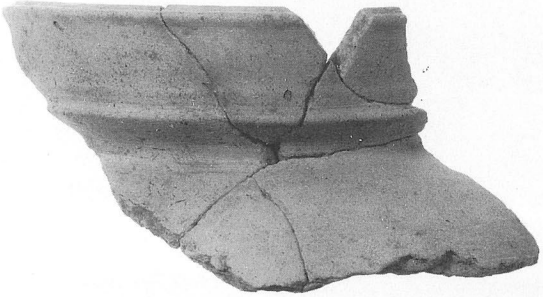
図版24

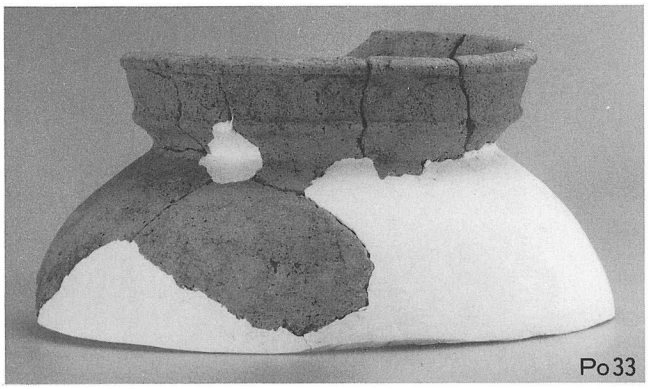

Po28

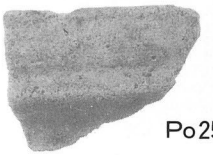

Po29

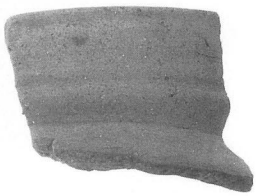
Po30

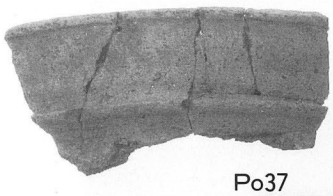

Po31


Po32

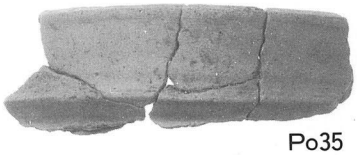

Po33

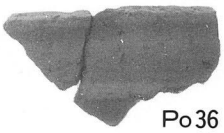

Po25

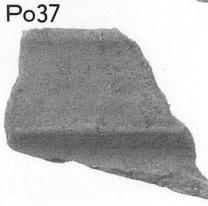

Po34


Po37

Po39

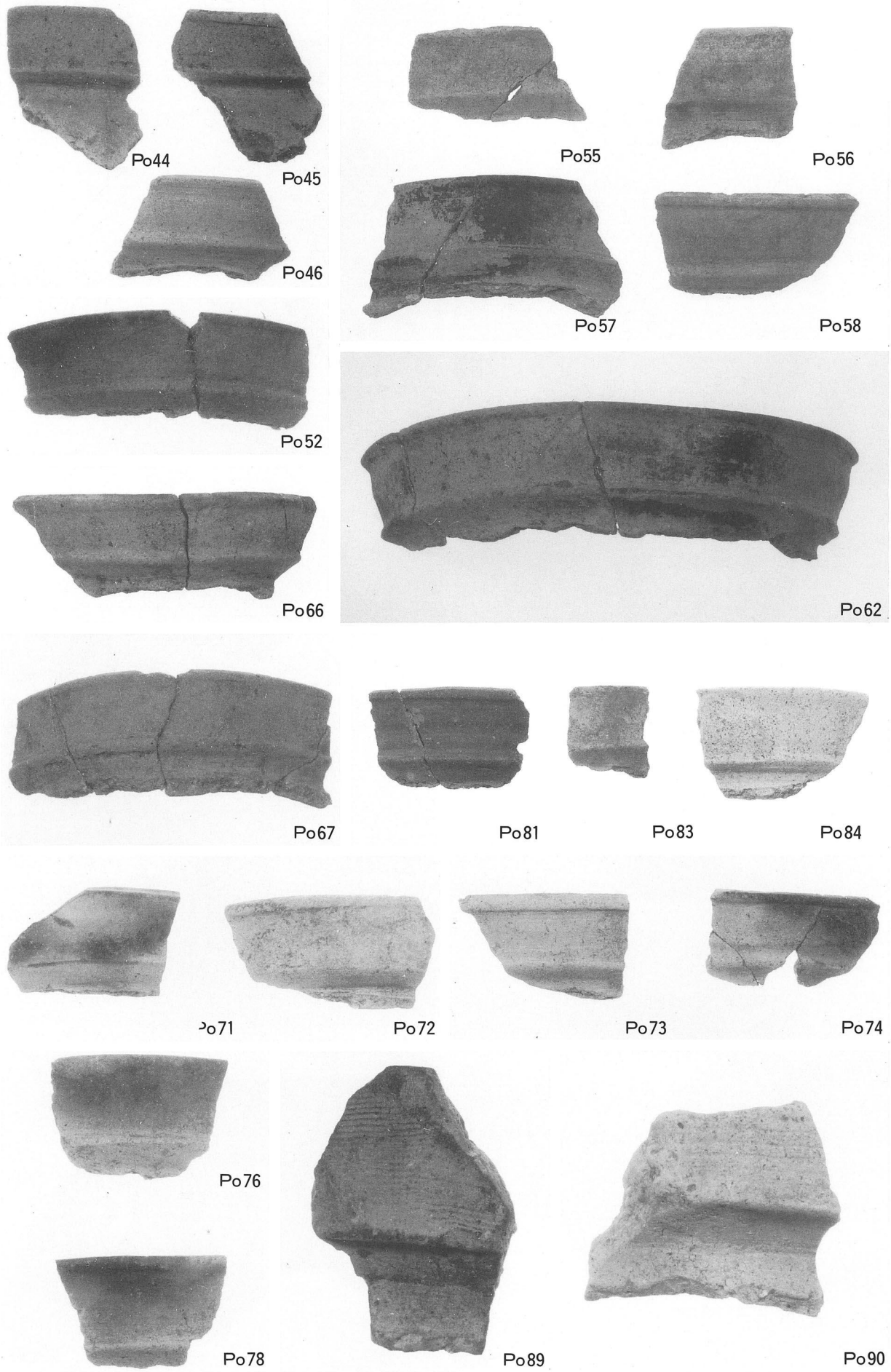

Po35


Po36


Po38

宇谷第１遺跡　SI03（Po25、Po28～Po39）

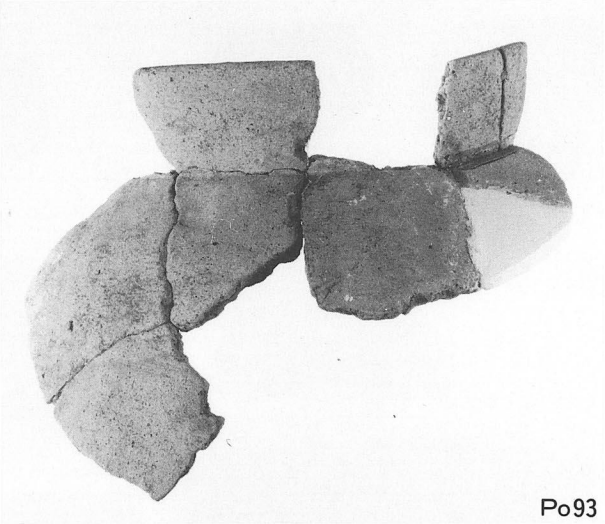
図版25

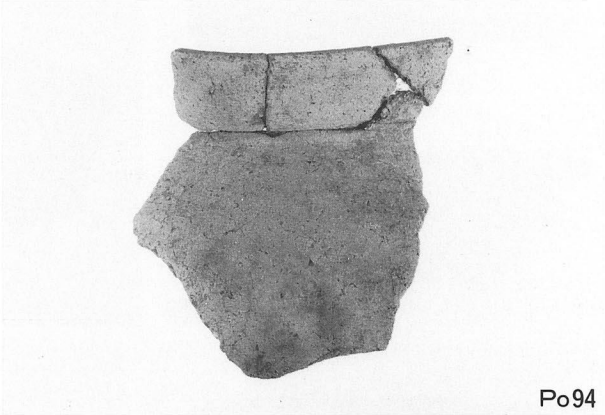


宇谷第１遺跡　S103（Po44～Po46、Po52、Po55～Po58、Po62、Po66、Po67、
Po71～Po74、Po76、Po78、Po81、Po83、Po84、Po89、Po90）

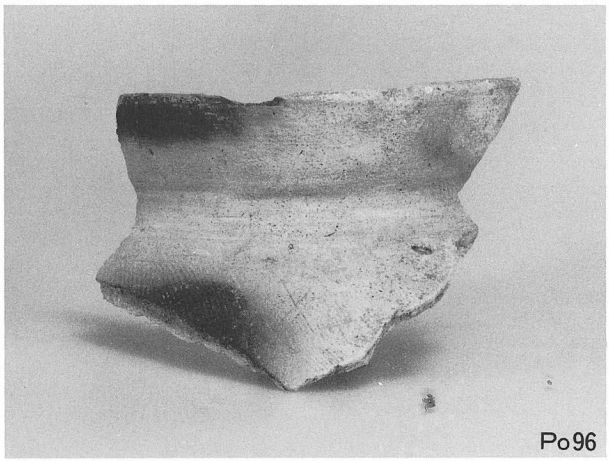
図版26

Po91

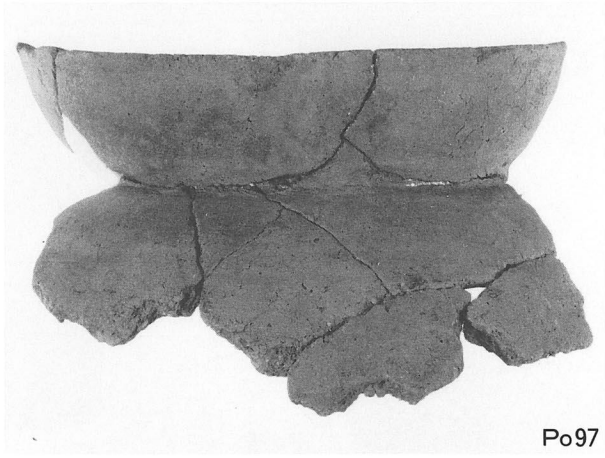

Po93


Po94

Po92


Po96

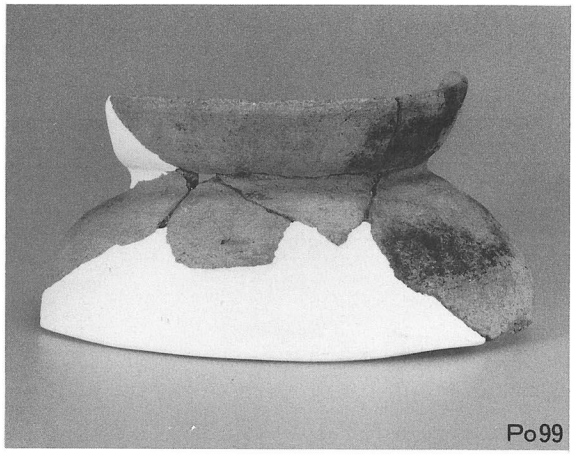
Po95


Po97

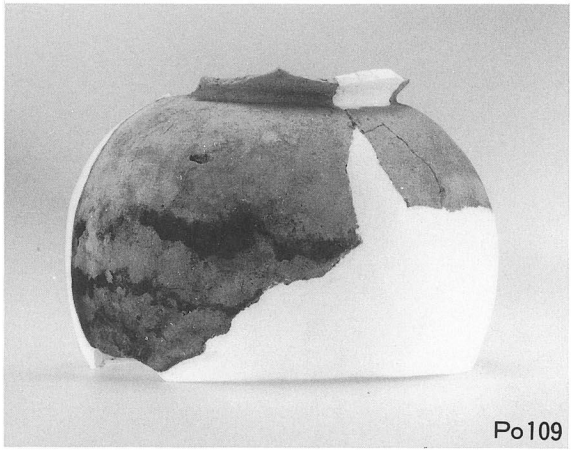
宇谷第１遺跡　S103（Po91～Po97）

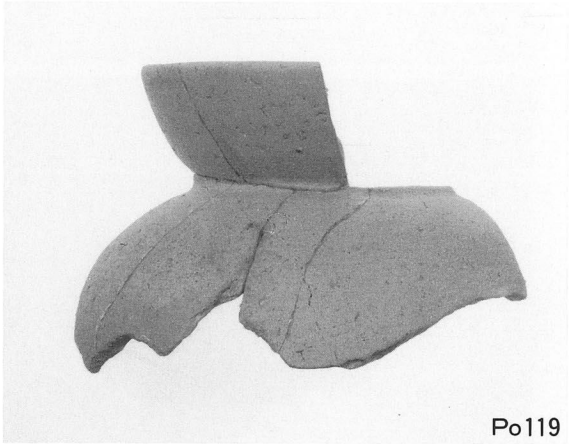
図版27

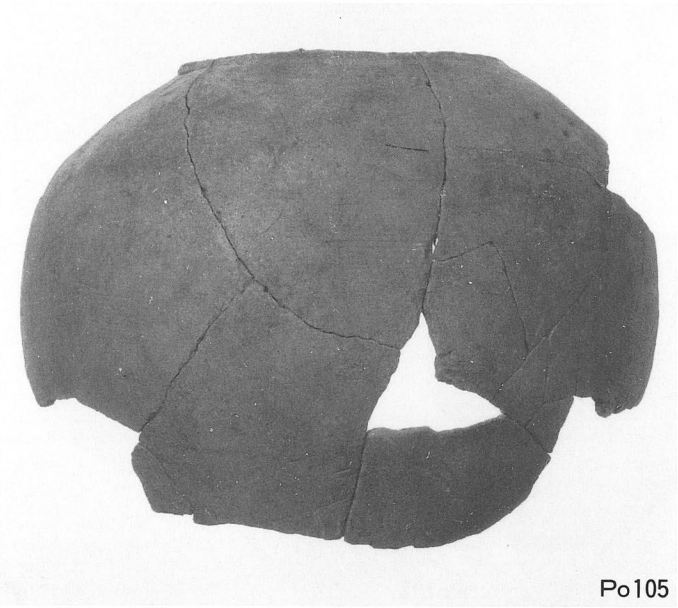
Po98


Po99

Po104


Po109

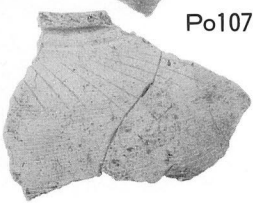

Po119


Po105

Po106

Po107

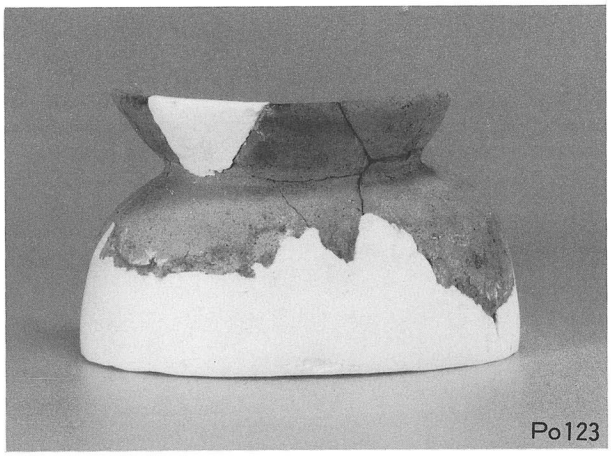
Po108

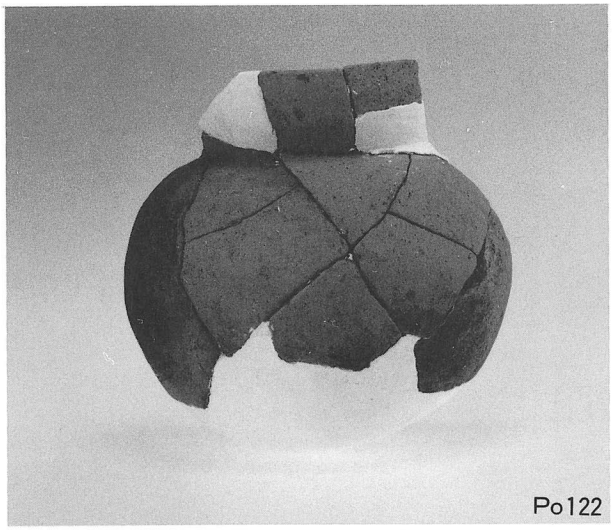

Po110

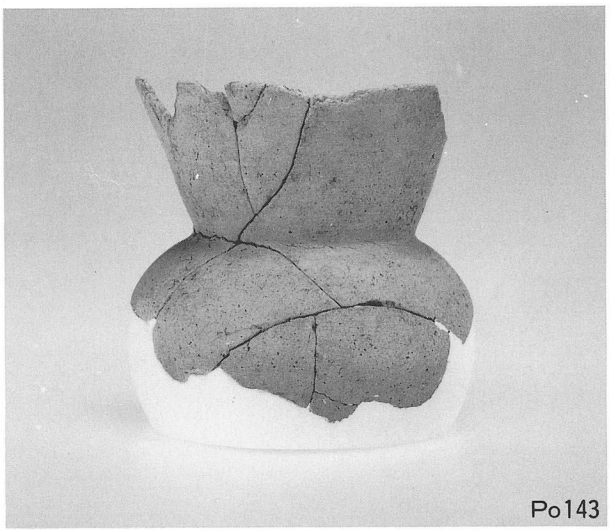
宇谷第１遺跡　S103（Po98、Po99、Po104～Po110、Po119）

図版28

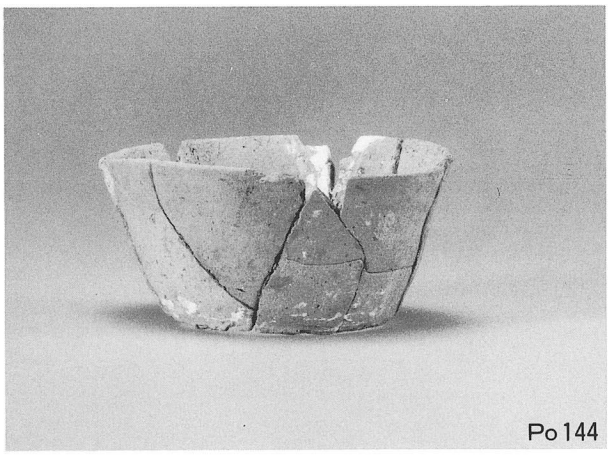
Po121

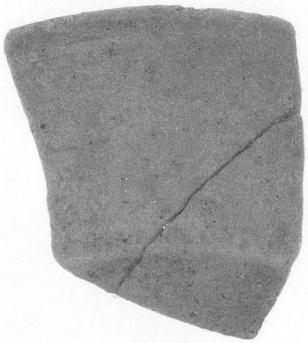

Po123


Po122

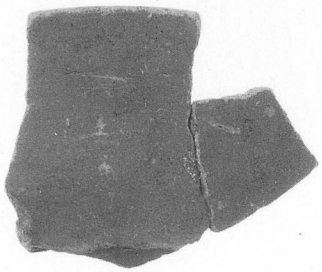

Po143

Po142


Po144


Po151

Po153

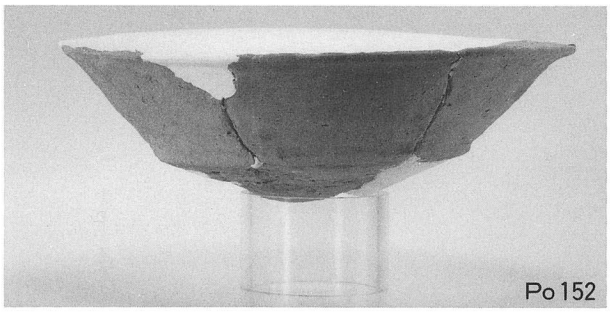

Po157

宇谷第１遺跡　SI03（Po121～Po123、Po142～Po144、Po151、Po153、Po157）

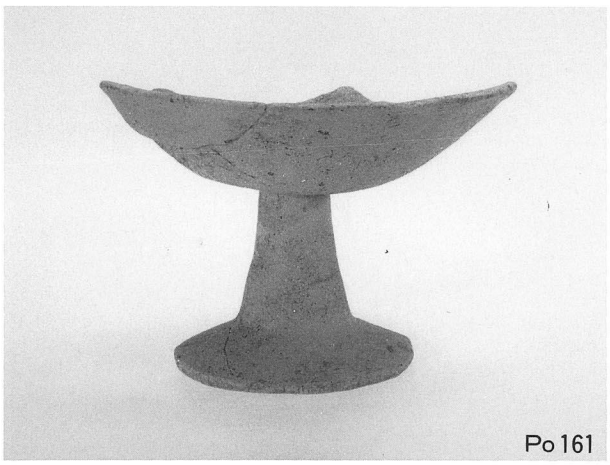
図版29

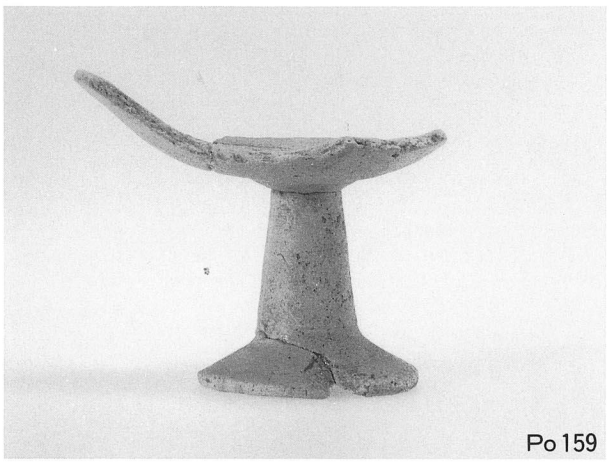
Po148

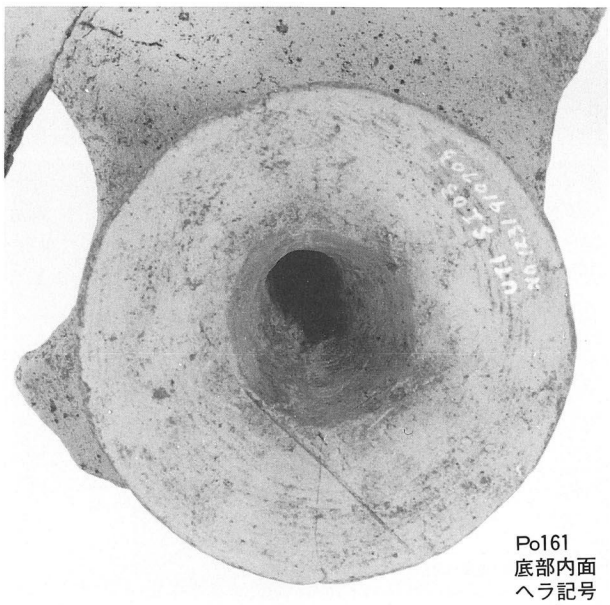
Po150


Po152

Po158


Po161


Po159


Po161
底部内面
ヘラ記号

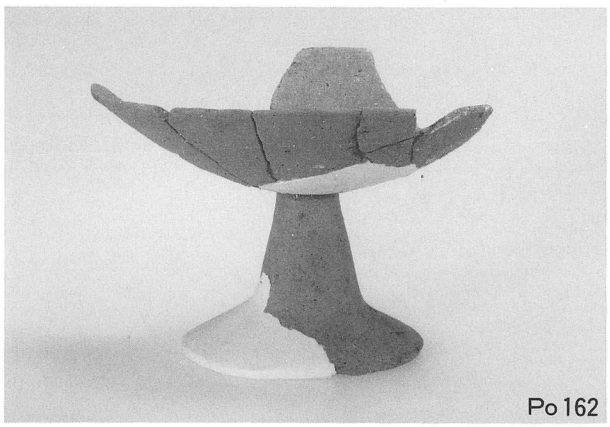
Po160

宇谷第1遺跡　S103（Po148、Po150、Po152、Po158～Po161）

図版30

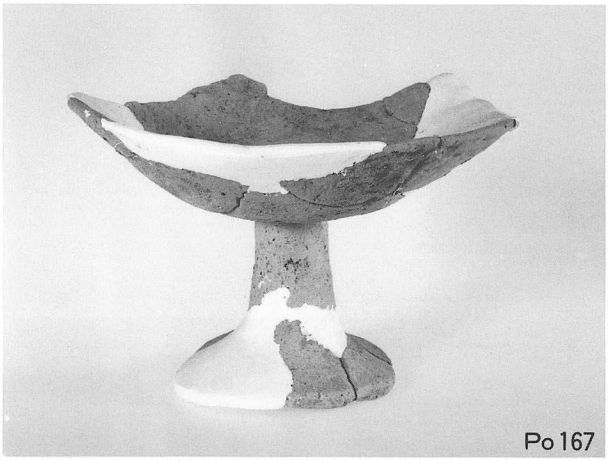
Po163

Po166


Po162

Po165

Po164


Po167

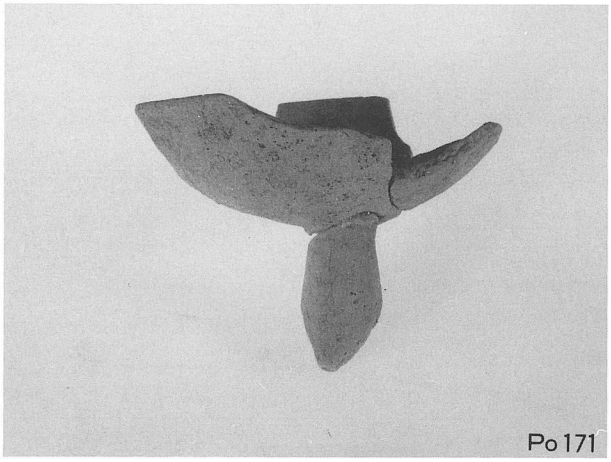
Po168

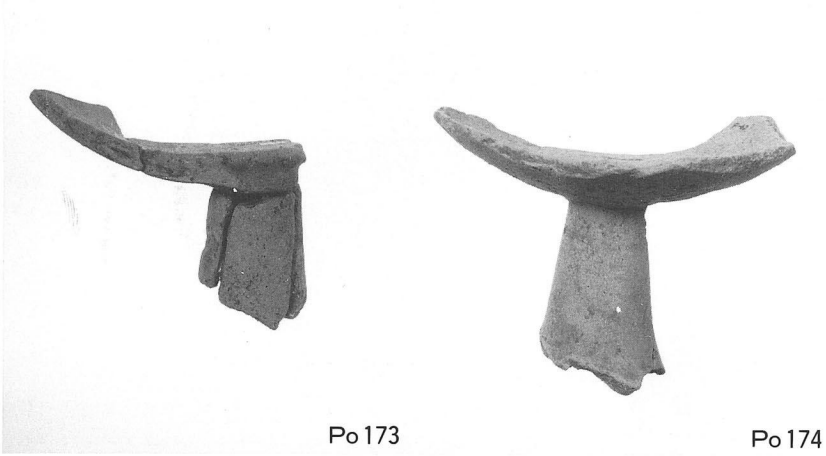
Po169

宇谷第１遺跡　S103（Po162～Po169）

図版31

Po170


Po171

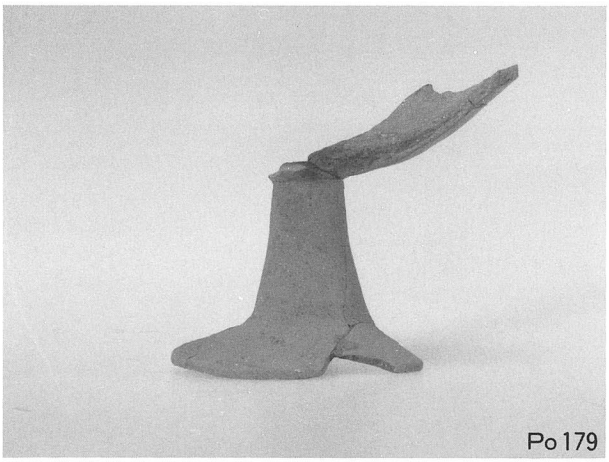

Po173 Po174

Po177

Po175

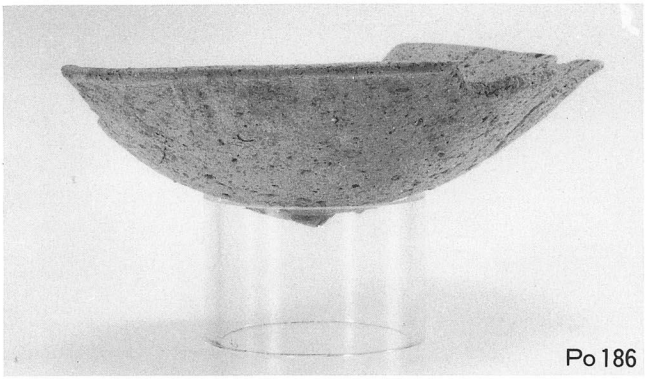
Po176

Po178


Po179

宇谷第１遺跡　S103（Po170、Po171、Po173～Po179）

図版32

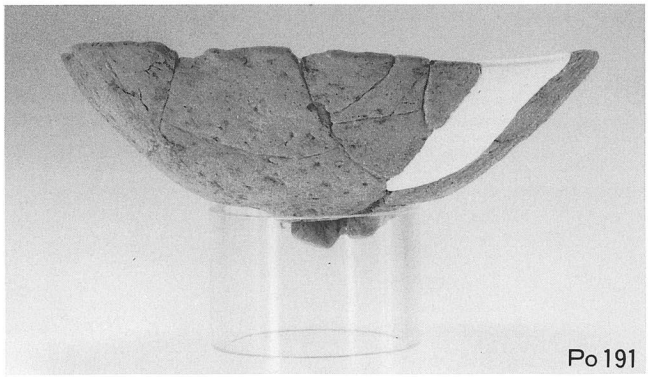

Po186

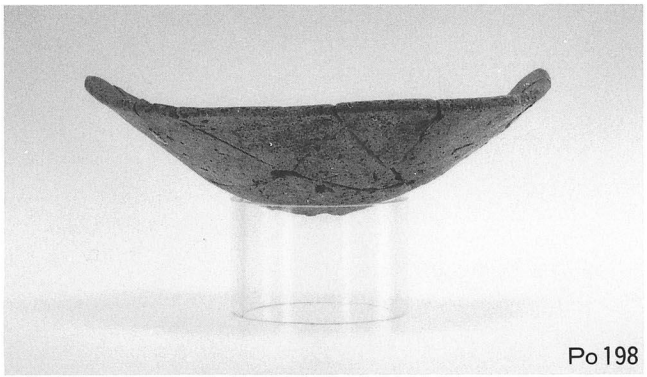
Po182

Po188

Po187

Po190


Po191


Po198

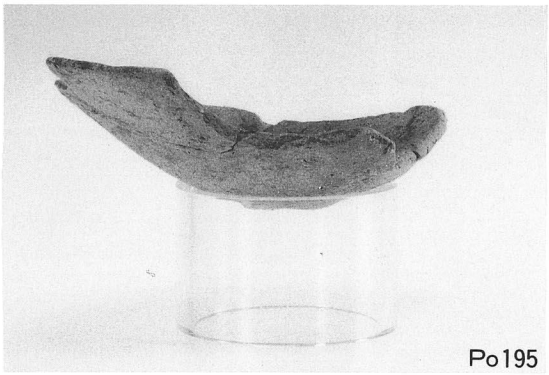
Po194

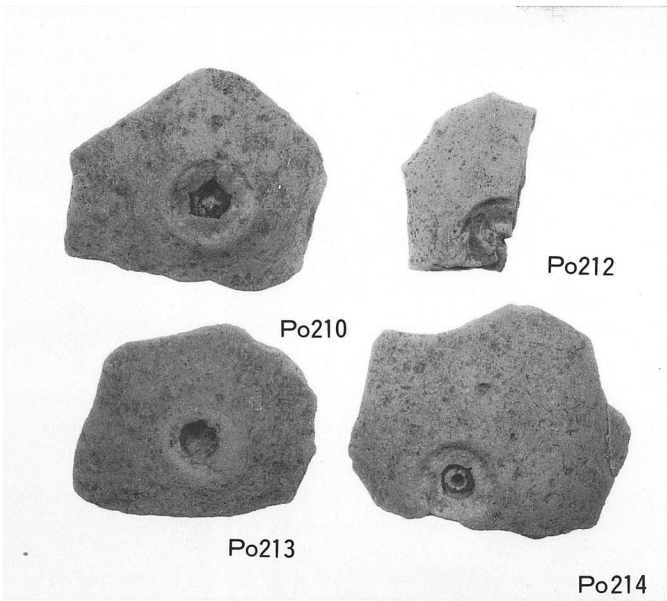
Po193
接合痕

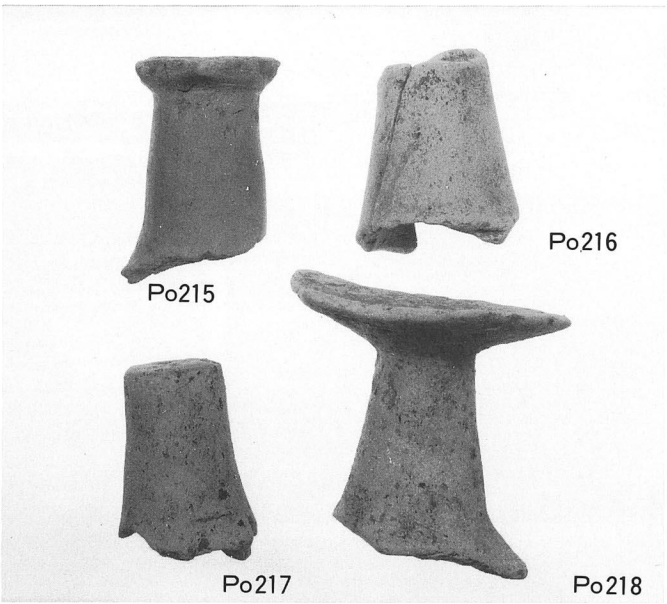
Po193

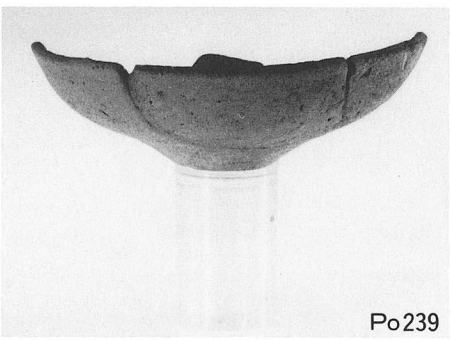
宇谷第１遺跡　S103（Po182、Po186～Po188、Po190、Po191、Po193、Po194、Po198）

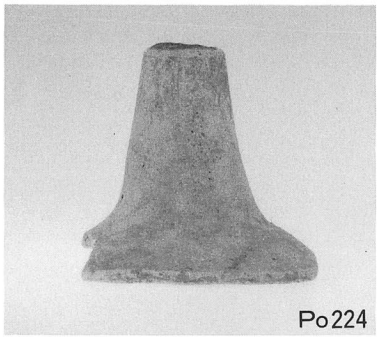
図版33

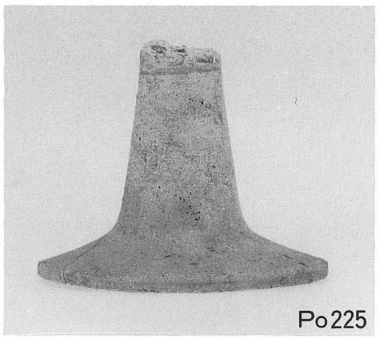


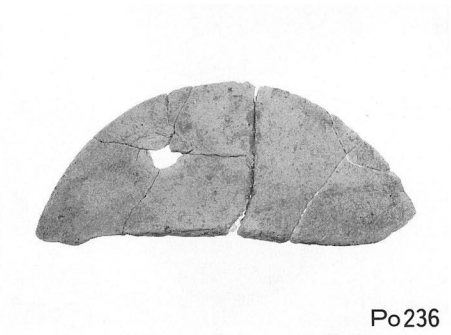


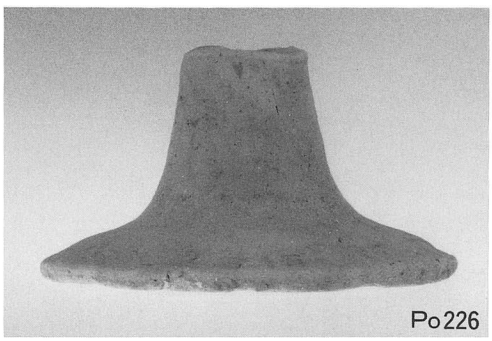


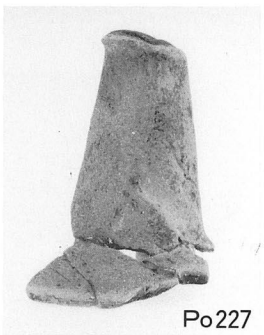






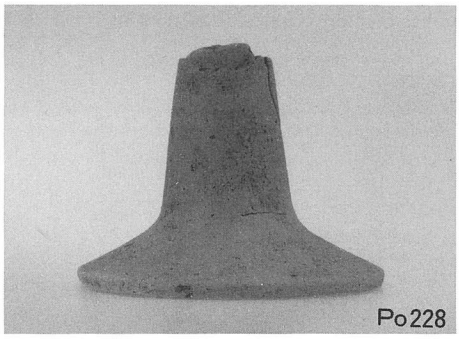






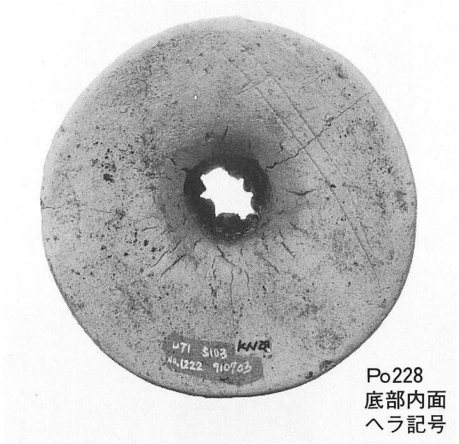
宇谷第１遺跡　S103（Po195、Po197、Po203、Po210、Po212～Po218、Po224～Po227、Po236、Po239）

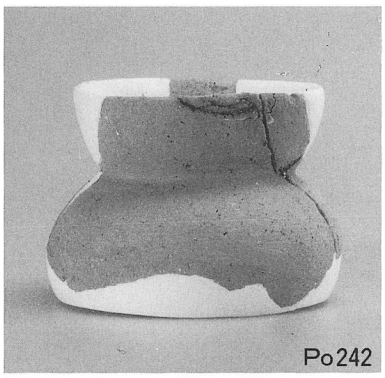
図版34

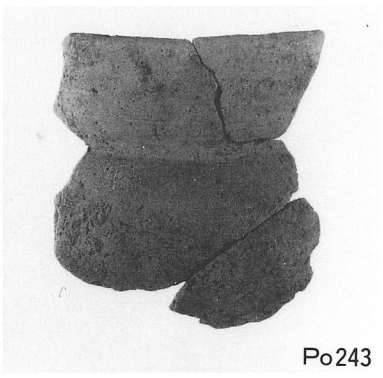

Po228

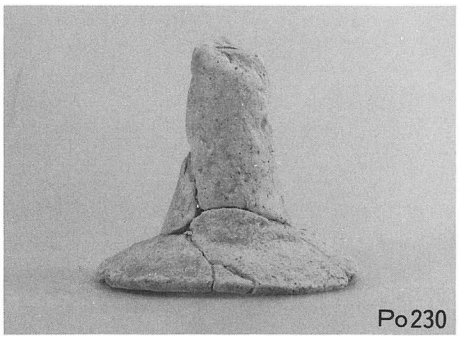
Po240

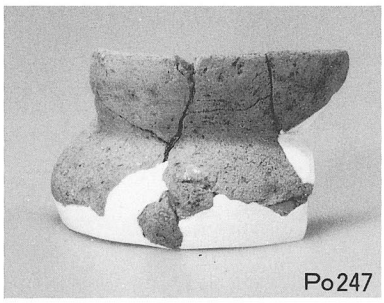
Po241

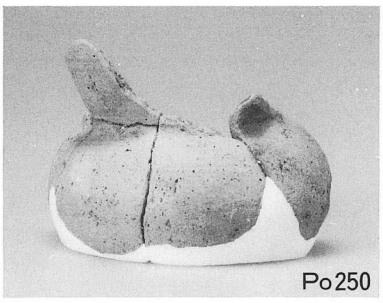

Po228
底部内面
ヘラ記号

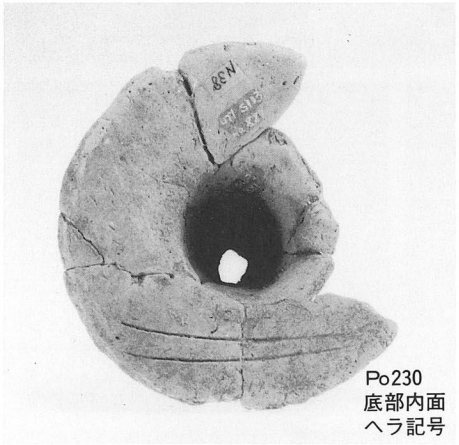

Po242

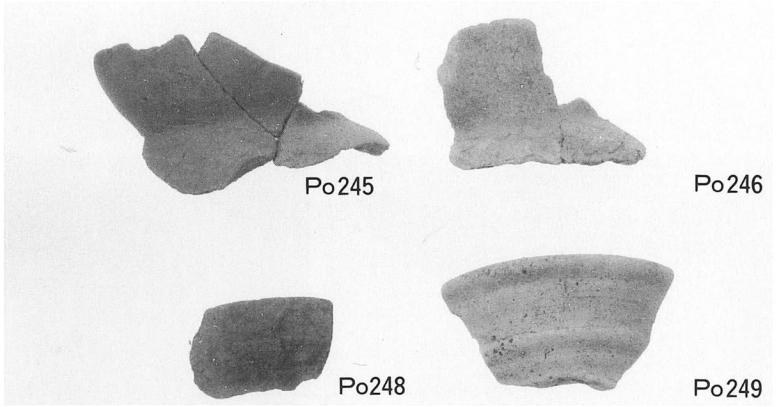

Po243

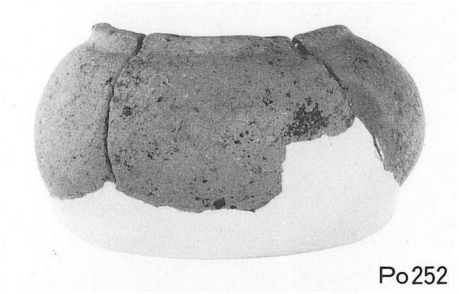

Po230

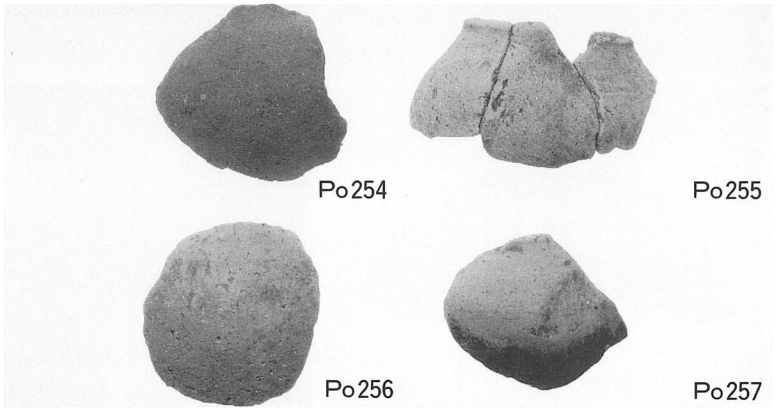

Po247


Po250


Po230
底部内面
ヘラ記号

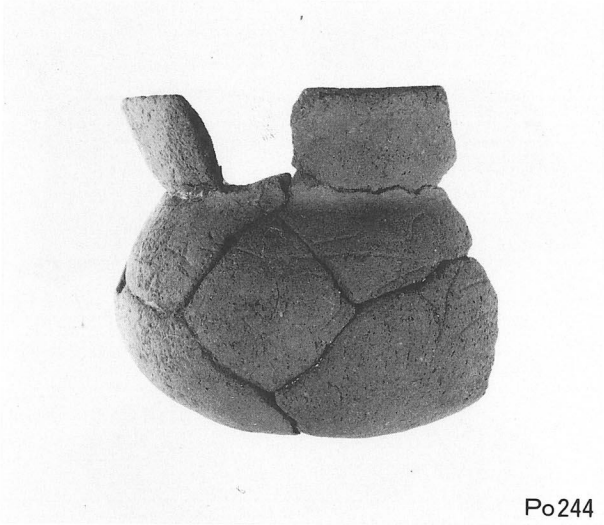

Po245
Po246
Po248
Po249

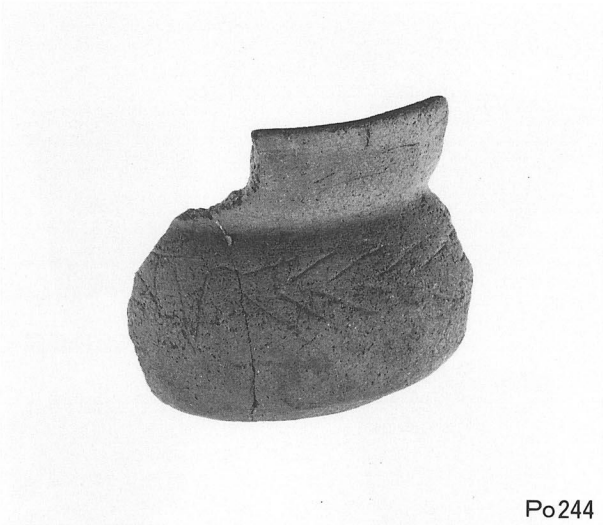

Po252

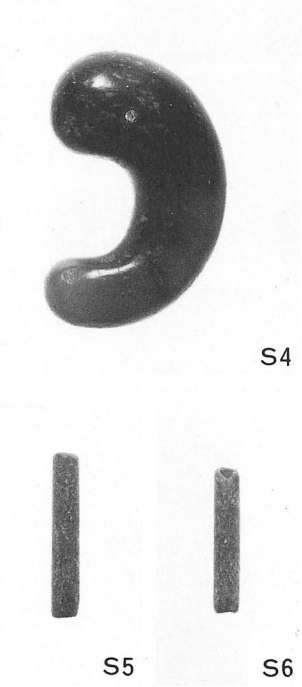

Po254
Po255
Po256
Po257

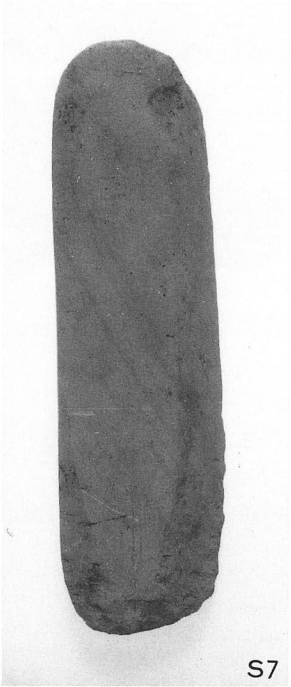
宇谷第１遺跡　S103（Po228、Po230、Po240～Po243、Po245～Po250、
Po252、Po254～Po257）

図版35


Po244

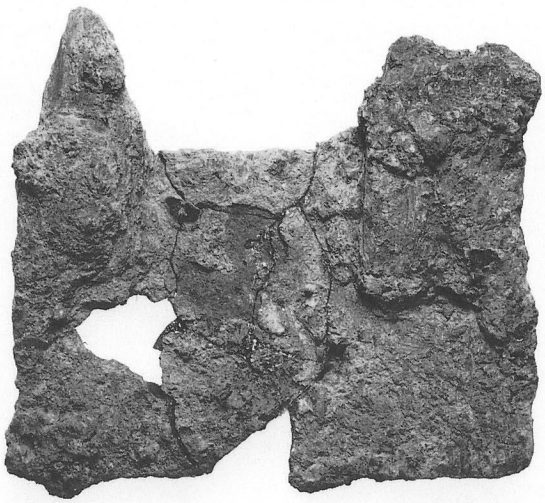

Po244


S4 S5 S6


S7

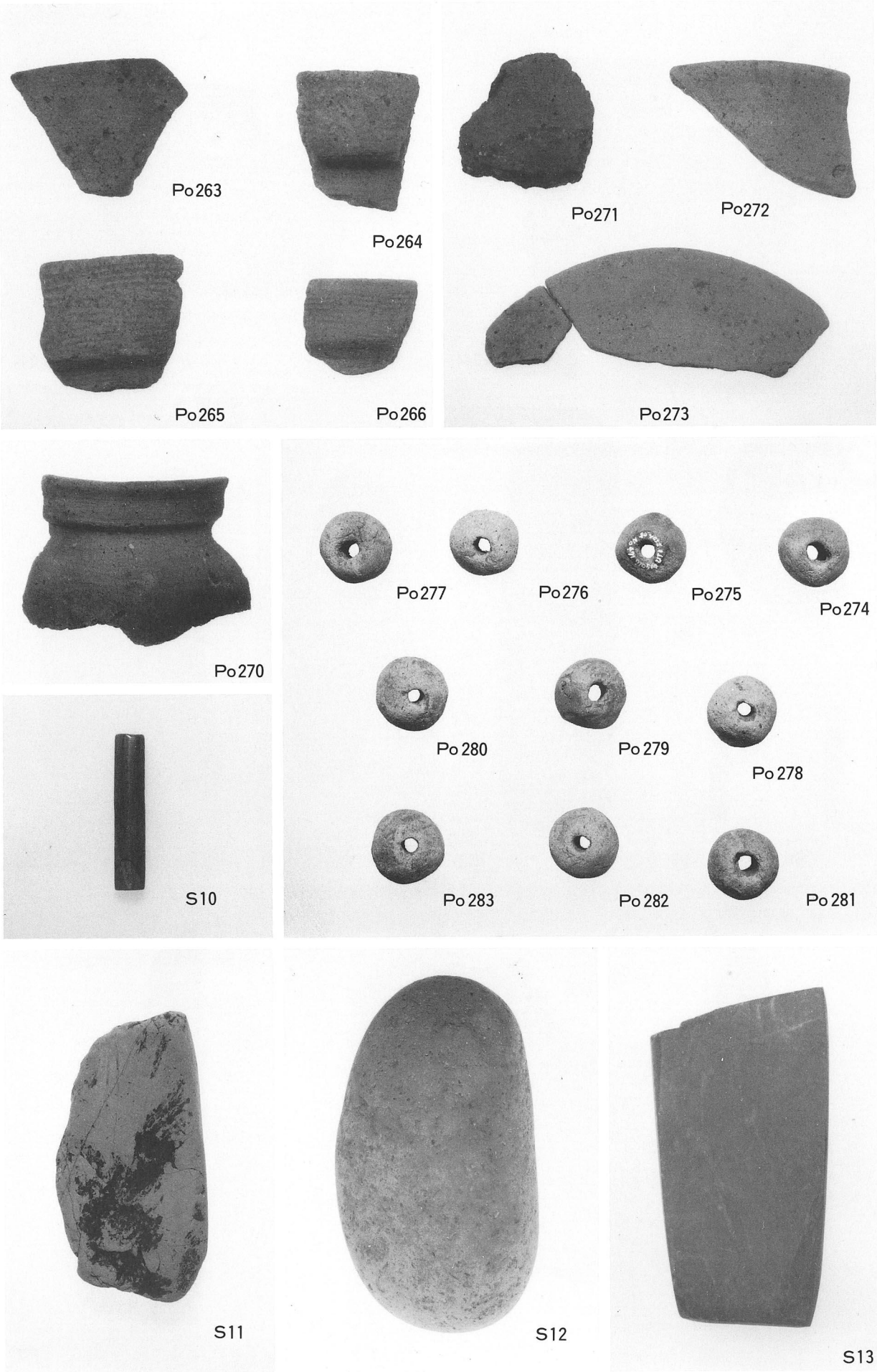
S8

S9


F1

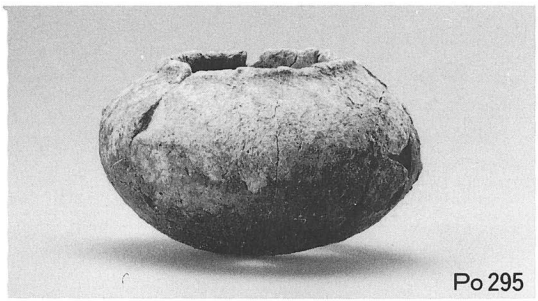
F2

宇谷第１遺跡　S103（Po244、F1、F2、S4～S9）



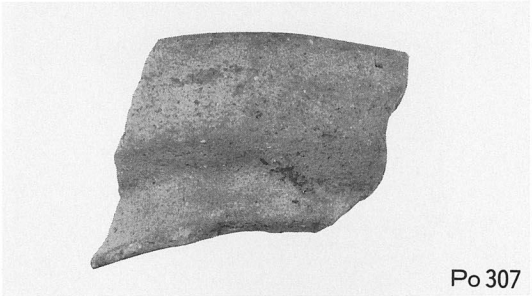
宇谷第１遺跡　SI04・05（Po263～Po266、Po270～Po283、S10～S13）

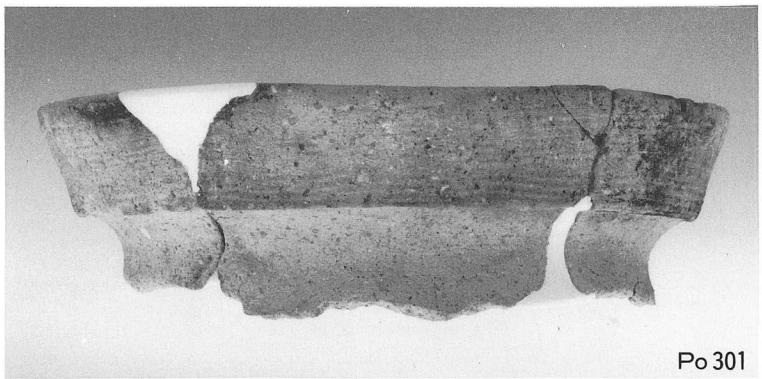
Po 284


Po 295

Po 297

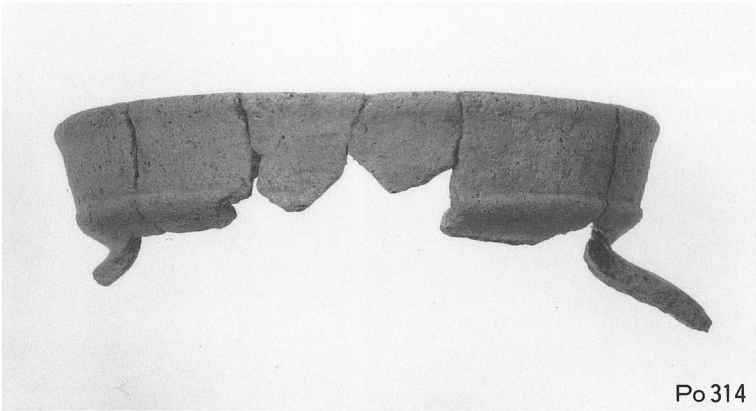
Po 288

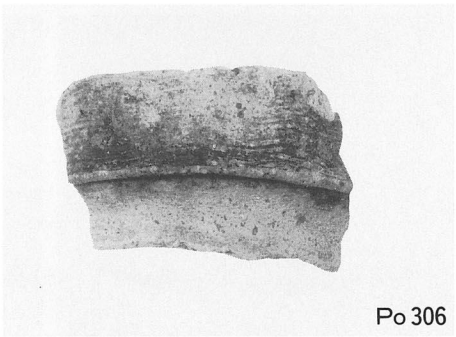

Po 307


Po 301

Po 302

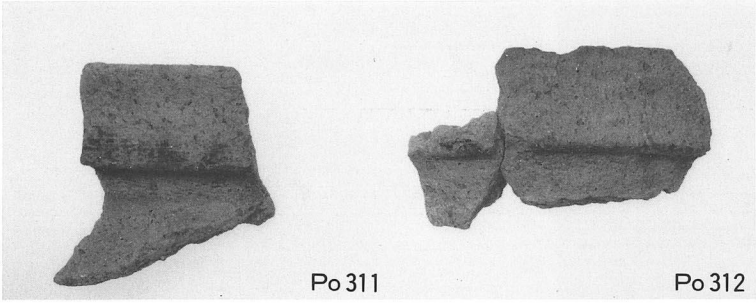
Po 304

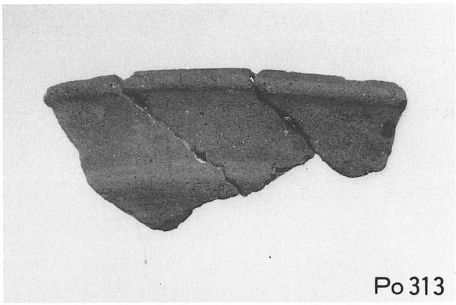

Po 314

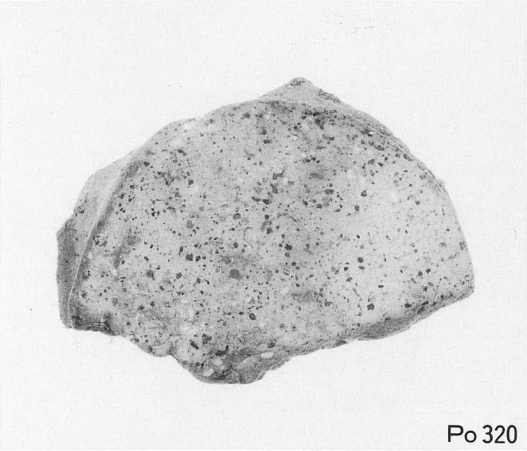

Po 306

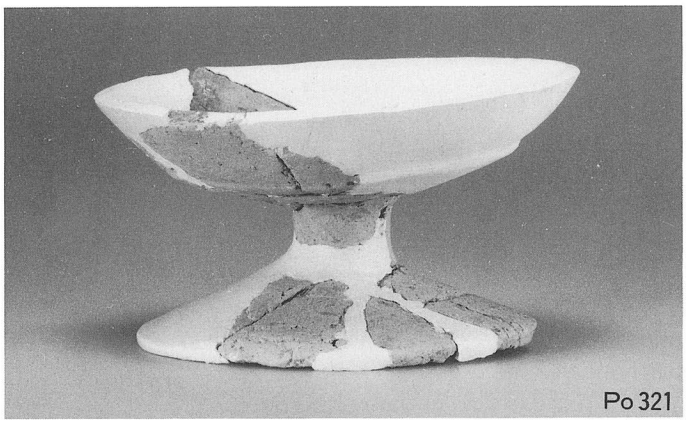
宇谷第１遺跡　S106（Po284、Po288、Po295、Po297、Po301、Po302、Po304、Po306、Po307、Po314）

図版38

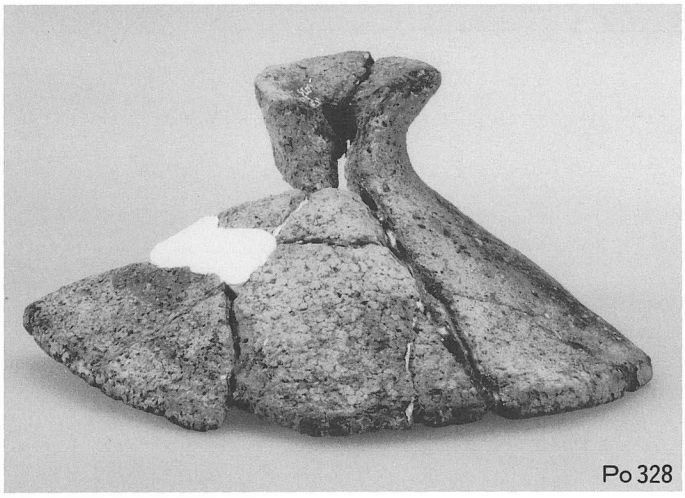

Po 311　Po 312

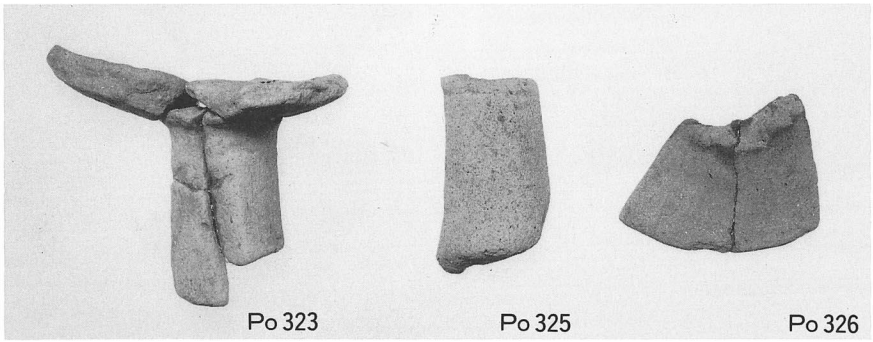

Po 313

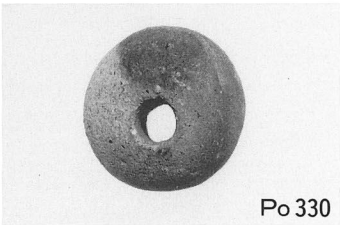

Po 320

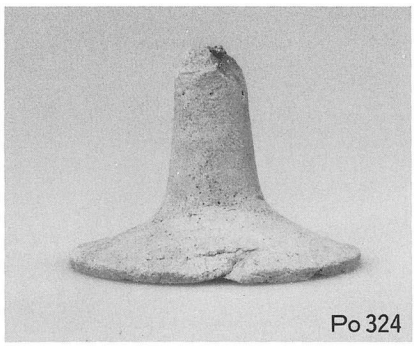

Po 321

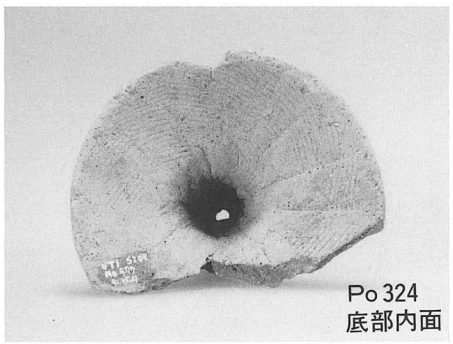
Po 322


Po 328


Po 323　Po 325　Po 326


Po 330

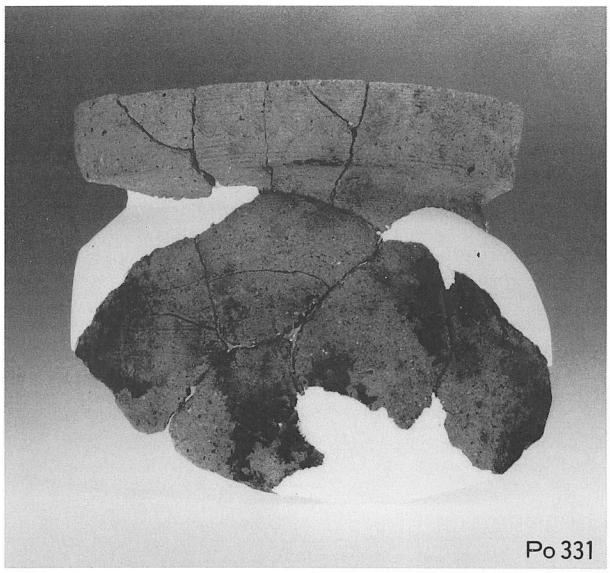

Po 324

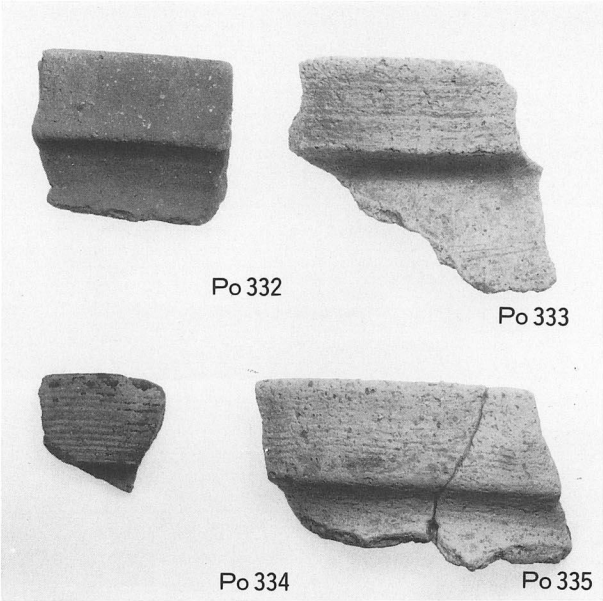

Po 324
底部内面

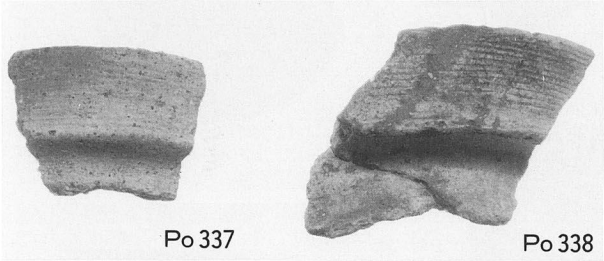
S14

宇谷第１遺跡　S107（Po311～Po313、Po320～Po326、Po328、Po330、S14）

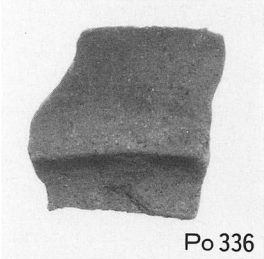
図版39

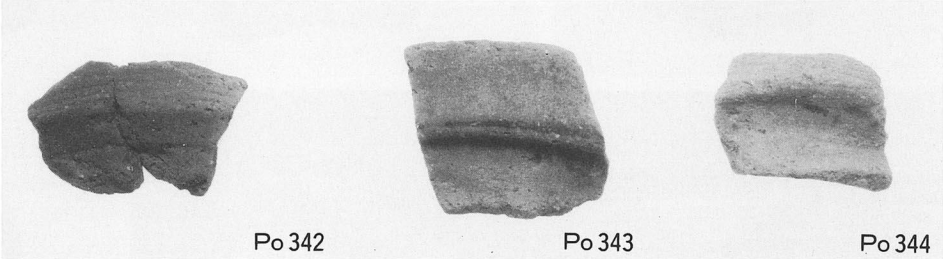

Po 331


Po 332 Po 333 Po 334 Po 335

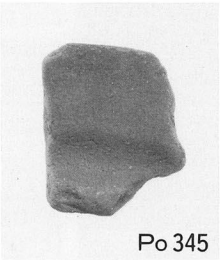

Po 337 Po 338

Po 339 Po 340


Po 336

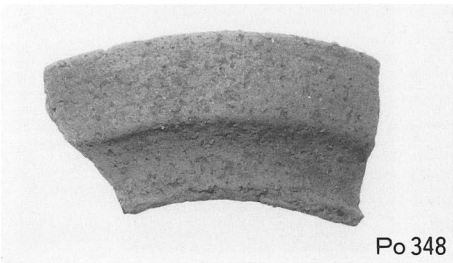

Po 342 Po 343 Po 344

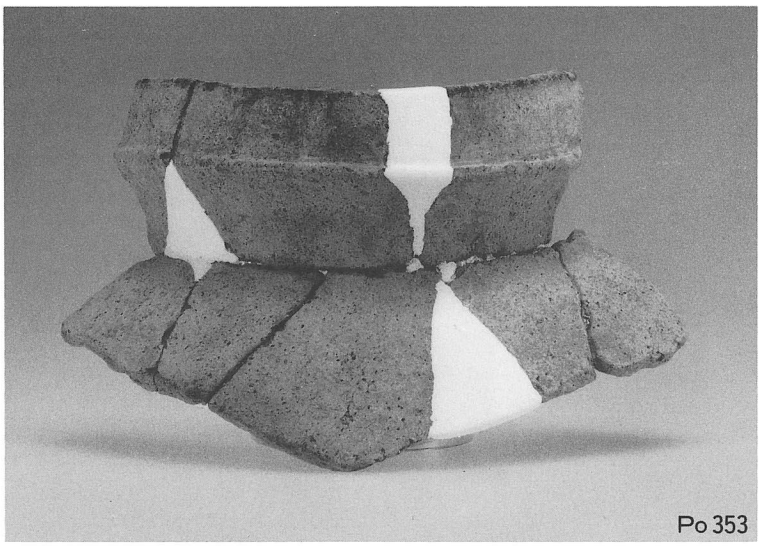
Po 341


Po 345

Po 346

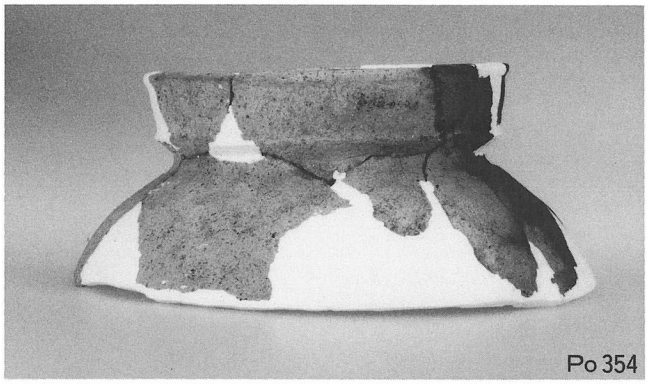
Po 347

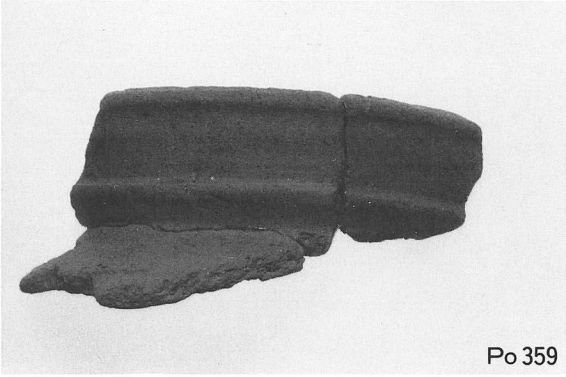

Po 348

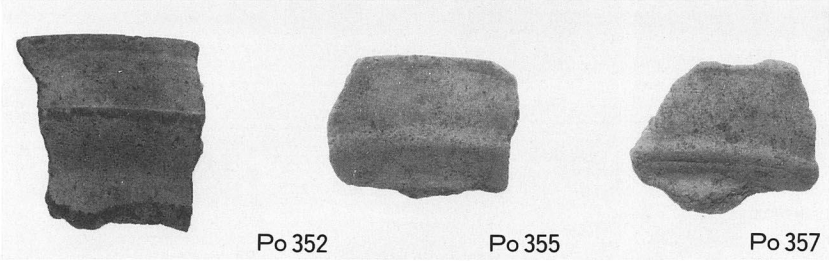

Po 353

宇谷第１遺跡　S108（Po331～Po348、Po353）

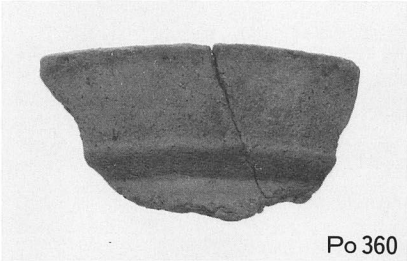
図版40

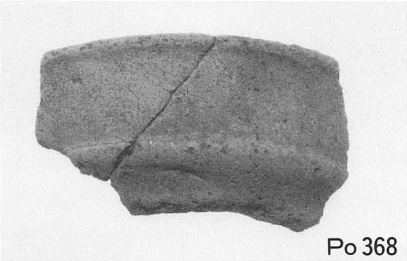

Po 354


Po 359

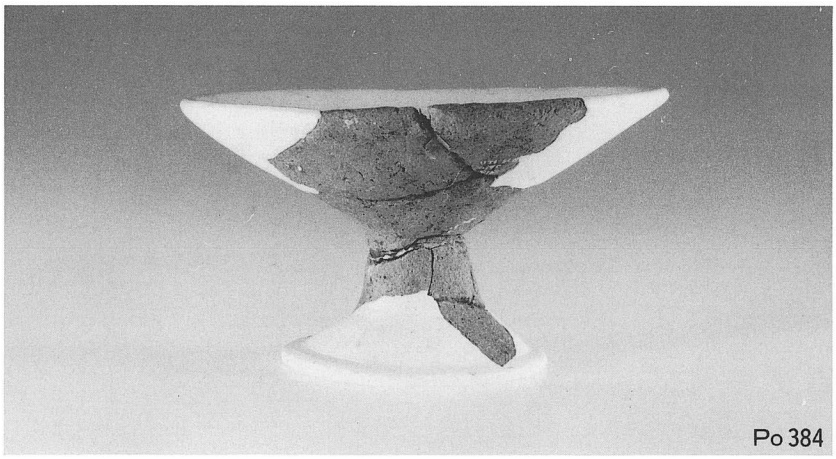

Po 352 Po 355 Po 357

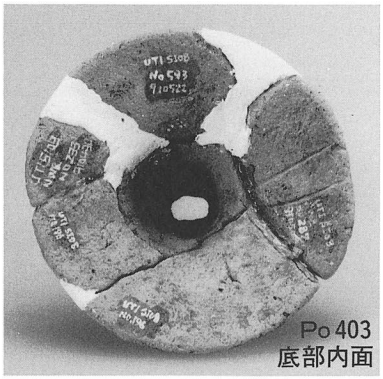
Po 382

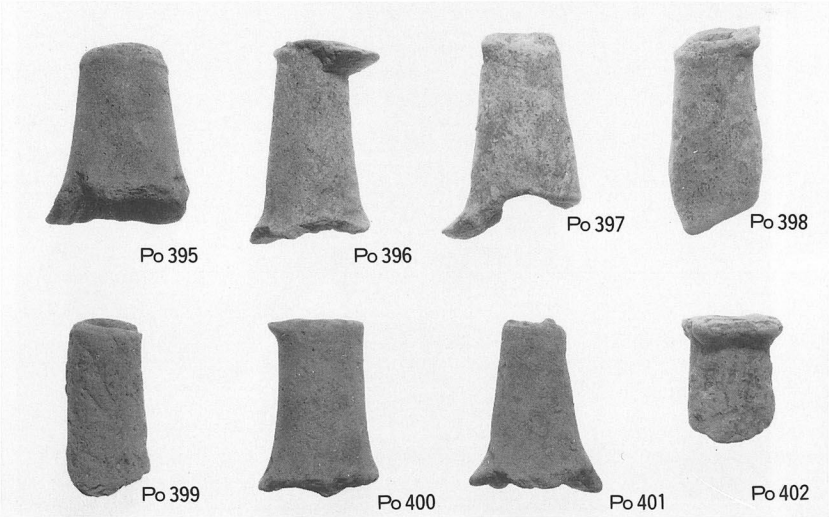

Po 360


Po 368

Po 388


Po 384

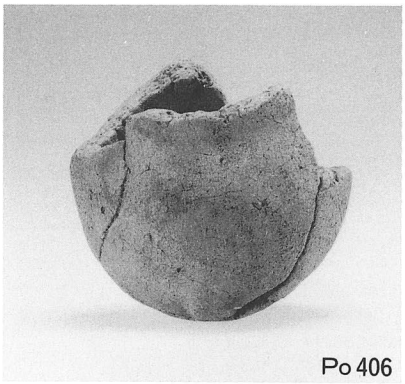

Po 403
底部内面


Po 395 Po 396 Po 397 Po 398
Po 399 Po 400 Po 401 Po 402

Po 403 内面

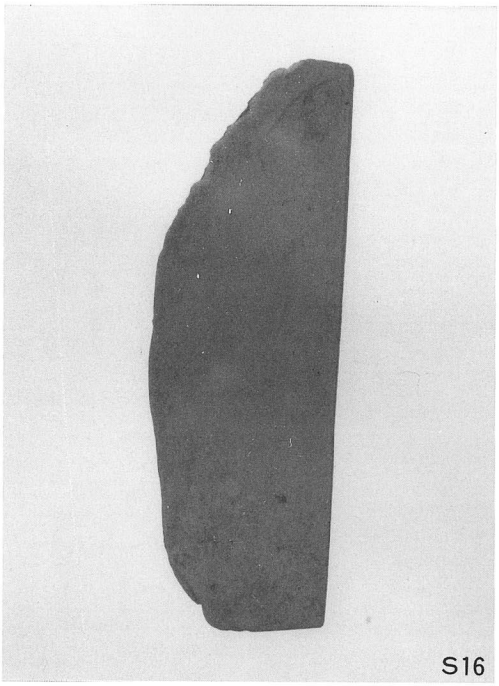
宇谷第１遺跡　S108（Po352、Po354、Po355、Po357、Po359、Po360、Po368、Po382、Po384、Po388、Po395～Po403）

図版41

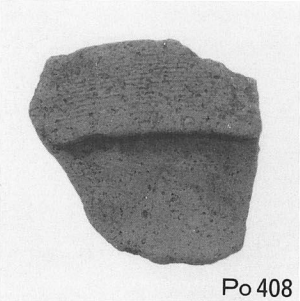

Po 406

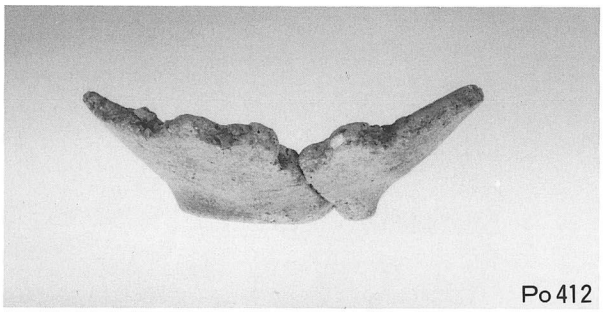
Po 407

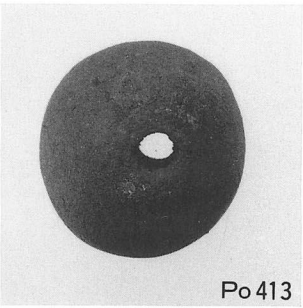
S15


S16

S17


Po 408


Po 412

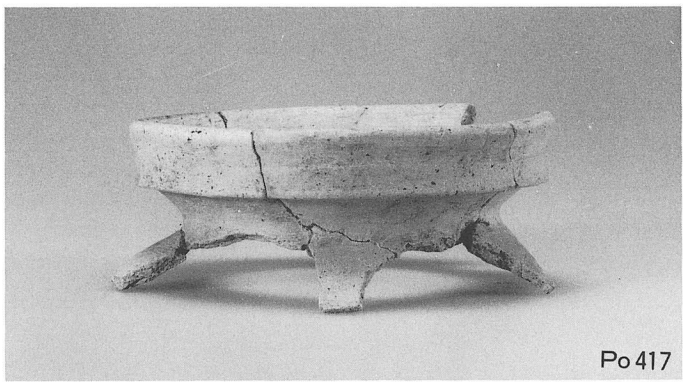

Po 413

S18

S19

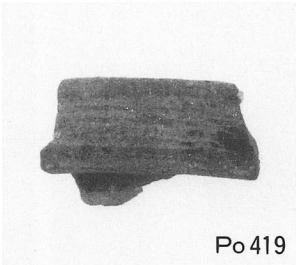
宇谷第１遺跡　S108（Po406、Po407、S15～S17）
S109（Po408、Po412、Po413、S18、S19）

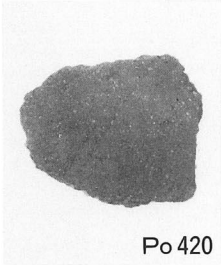
図版42

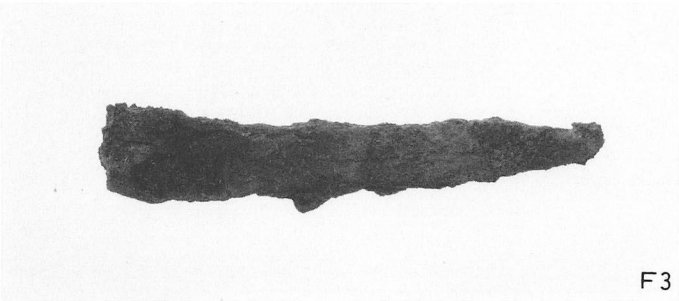

Po 417

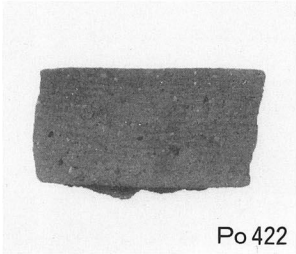
Po 421

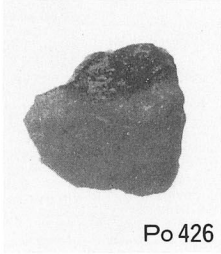
Po 418


Po 419


Po 420

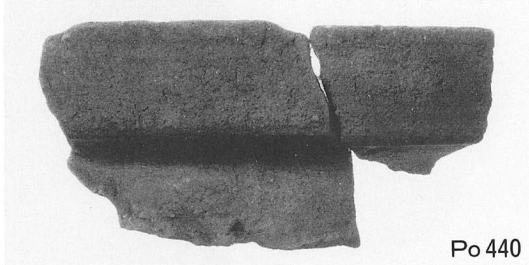

F 3

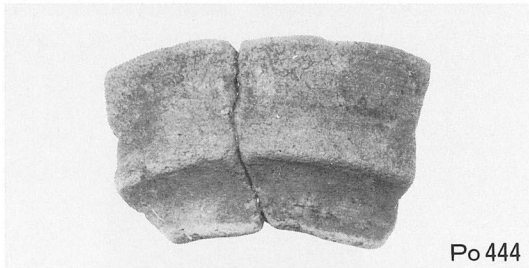

Po 422

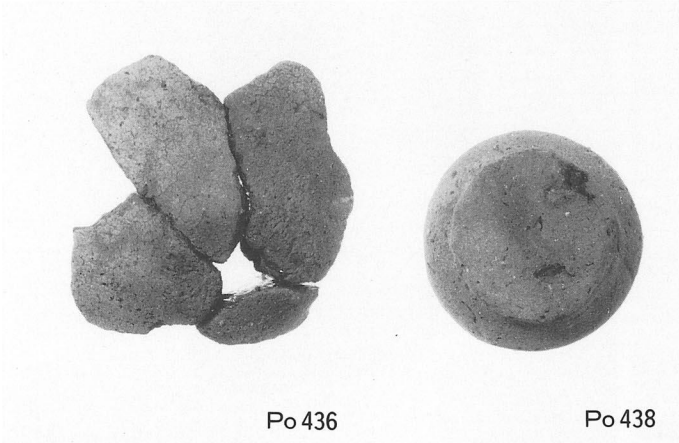

Po 426

Po 439

Po 429


Po 440

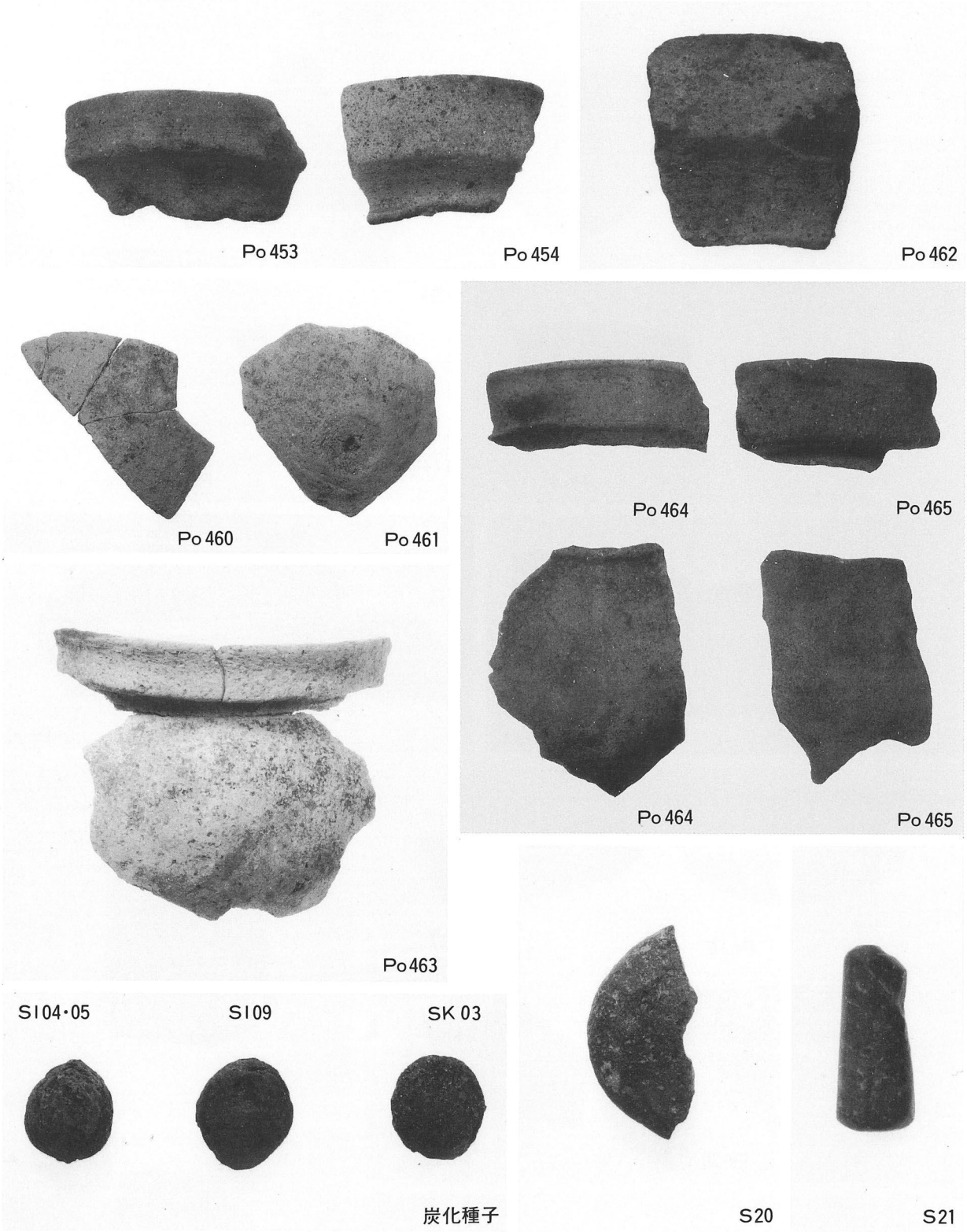

Po 444


Po 436　Po 438

Po 445

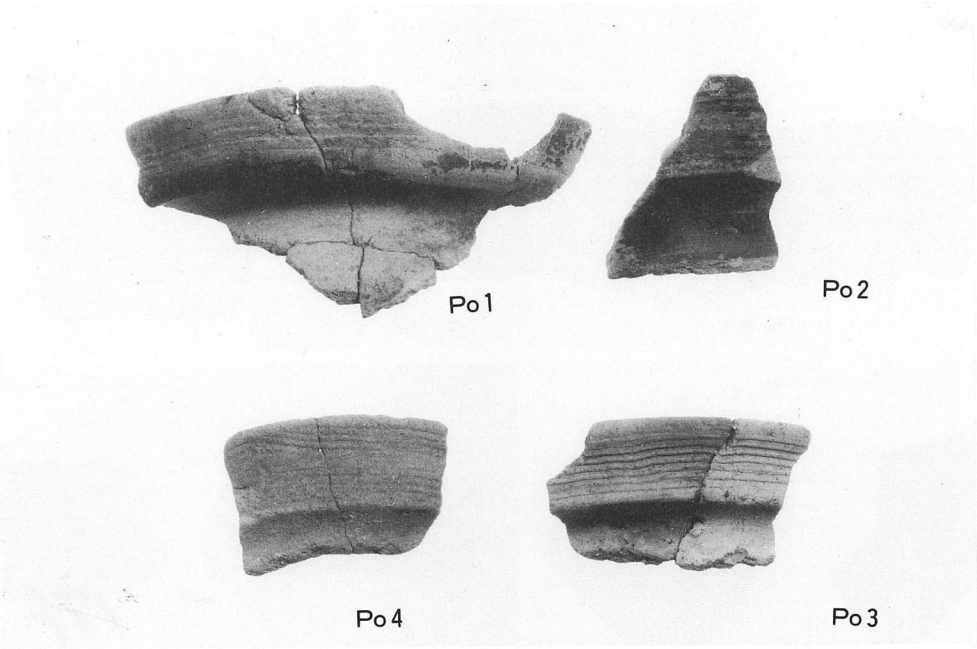
宇谷第１遺跡　SK03（Po417、Po418、F3）・SK04（Po419～Po421）・SK06（Po422）・SK11（Po426）・SD01（Po429、Po436、Po438、Po439）・SD02（Po440、Po444、Po445）

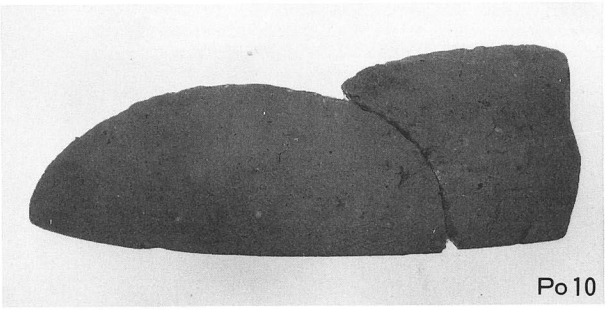
図版43

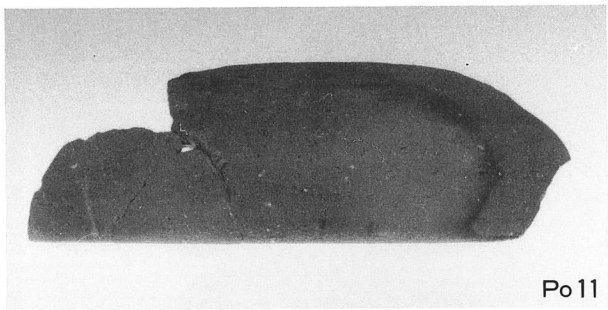


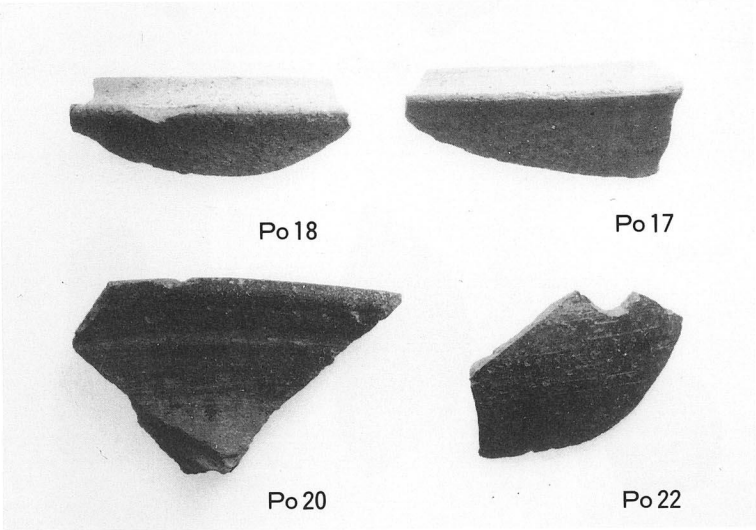
宇谷第１遺跡　SD03（Po453、Po454、Po460、Po461）
SD05（Po462）・SB03（Po463）・
遺構外（Po464、Po465、S20、S21）・炭化種子

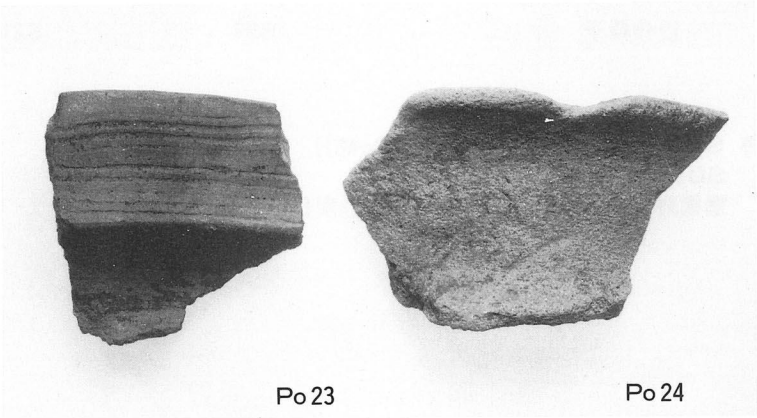
図版44











南谷大ナル遺跡　S101（Po1～Po4、S1）・SD02（Po10、Po11）
遺構外（Po17、Po18、Po20、Po22～Po24、S2）

鳥取県教育文化財団調査報告書28
一般国道９号（羽合道路）改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ
鳥取県東伯郡泊村
宇谷第１遺跡
鳥取県東伯郡羽合町
南谷大ナル遺跡

発　行　１９９２・３・３１
発行者　財団法人　鳥取県教育文化財団
〒680 鳥取市東町１丁目271番地
電話　鳥取(0857)26-8397
印　刷　日ノ丸印刷株式会社
〒680 鳥取市寿町９１５
電話　鳥取(0857)22-2248